2021年度
通信教育部（通信学習）
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【一般教育・語学・保健体育科目】文学［園 明美］1～4 年次 / 4 単位 1
【一般教育・語学・保健体育科目】西洋史［長谷川 岳男］1～4 年次 / 4 単位 1
【一般教育・語学・保健体育科目】日本史［柏木 一朗］1～4 年次 / 4 単位 2
【一般教育・語学・保健体育科目】哲学［大西 正人、菅沢 龍文］1～4 年次 / 4 単位 3
【一般教育・語学・保健体育科目】東洋史［仲山 茂］1～4 年次 / 4 単位 3
【一般教育・語学・保健体育科目】論理学［大貫 義久、計良 隆世］1～4 年次 / 4 単位 4
【一般教育・語学・保健体育科目】法学（日本国憲法）［葉 晶珠］1～4 年次 / 2 単位 5
【一般教育・語学・保健体育科目】法学［葉 晶珠］1～4 年次 / 2 単位 5
【一般教育・語学・保健体育科目】経済学［畠中　貴］1～4 年次 / 4 単位 6
【一般教育・語学・保健体育科目】人文地理学［高木 正］1～4 年次 / 4 単位 7
【一般教育・語学・保健体育科目】自然地理学［吉野 徳康］1～4 年次 / 4 単位 7
【一般教育・語学・保健体育科目】政治学概論［岡﨑 加奈子］1～4 年次 / 4 単位 8
【一般教育・語学・保健体育科目】社会学［栗林 大］1～4 年次 / 4 単位 8
【一般教育・語学・保健体育科目】文化人類学［ベル 裕紀］1～4 年次 / 4 単位 9
【一般教育・語学・保健体育科目】心理学［生田目 光］1～4 年次 / 4 単位 9
【一般教育・語学・保健体育科目】数学１［池田 宏一郎］1～4 年次 / 2 単位 10
【一般教育・語学・保健体育科目】数学２［倉田 俊彦］1～4 年次 / 2 単位 10
【一般教育・語学・保健体育科目】生物学１［島野 智之］1～4 年次 / 2 単位 11
【一般教育・語学・保健体育科目】化学１［渡邉 永治］1～4 年次 / 2 単位 12
【一般教育・語学・保健体育科目】化学２［渡邉 永治］1～4 年次 / 2 単位 12
【一般教育・語学・保健体育科目】物理学１［石川 壮一］1～4 年次 / 2 単位 13
【一般教育・語学・保健体育科目】物理学２［石川 壮一］1～4 年次 / 2 単位 13
【一般教育・語学・保健体育科目】英語２［関口 奈津恵］1～4 年次 / 2 単位 14
【一般教育・語学・保健体育科目】英語３［溝部 敦子、鹿子嶋 由佳］1～4 年次 / 2 単位 15
【一般教育・語学・保健体育科目】独語１［宮城 学］1～4 年次 / 2 単位 16
【一般教育・語学・保健体育科目】仏語１［柴崎 秀穂］1～4 年次 / 2 単位 17
【一般教育・語学・保健体育科目】健康・スポーツ科学概論［伊藤 マモル］1～4 年次 / 2 単位 17
【法学部 法律学科 専門教育科目】民法総則［大久保 慎太郎、大澤 彩］1～4 年次 / 4 単位 18
【法学部 法律学科 専門教育科目】憲法［建石 真公子、土屋 仁美］2～4 年次 / 4 単位 19
【法学部 法律学科 専門教育科目】物権法［川村 洋子、宮島 薫］2～4 年次 / 4 単位 20
【法学部 法律学科 専門教育科目】刑法総論［今井 猛嘉、カロリーヌ・ルブルトン］2～4 年次 / 4 単位 21
【法学部 法律学科 専門教育科目】債権総論［比嘉 正］3～4 年次 / 4 単位 21
【法学部 法律学科 専門教育科目】債権各論［足利 沙緒理、川村 洋子］3～4 年次 / 4 単位 22
【法学部 法律学科 専門教育科目】商法総則・商行為法［松谷 秀祐］3～4 年次 / 4 単位 23
【法学部 法律学科 専門教育科目】会社法［笹久保 徹］3～4 年次 / 4 単位 24
【法学部 法律学科 専門教育科目】刑法各論［今井 猛嘉、カロリーヌ・ルブルトン］3～4 年次 / 4 単位 25
【法学部 法律学科 専門教育科目】国際法総論［田中 佐代子、開出 雄介］3～4 年次 / 4 単位 25
【法学部 法律学科 専門教育科目】行政法［氏家 裕順、西田 幸介］3～4 年次 / 4 単位 26
【法学部 法律学科 専門教育科目】行政救済法［氏家 裕順、西田 幸介］3～4 年次 / 4 単位 27
【法学部 法律学科 専門教育科目】労働法［沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子］3～4 年次 / 4 単位 28
【法学部 法律学科 専門教育科目】民事訴訟法［倉部 真由美］4 年次 / 4 単位 29
【法学部 法律学科 専門教育科目】刑事訴訟法［田中 開］4 年次 / 4 単位 30
【法学部 法律学科 専門教育科目】国際法各論［田中 佐代子、角 奈都子］4 年次 / 4 単位 31
【法学部 法律学科 専門教育科目】刑事政策［田内 清香］2～4 年次 / 4 単位 31
【法学部 法律学科 専門教育科目】教育法［村元 宏行］3～4 年次 / 4 単位 32
【法学部 法律学科 専門教育科目】親族法・相続法［足利 沙緒理、和田 幹彦］3～4 年次 / 4 単位 33
【法学部 法律学科 専門教育科目】手形法・小切手法［金尾 悠香、清水 真人］3～4 年次 / 4 単位 34
【法学部 法律学科 専門教育科目】保険法・海商法［遠山 聡］3～4 年次 / 4 単位 34
【法学部 法律学科 専門教育科目】日本法制史［宇野 文重］3～4 年次 / 4 単位 35
【法学部 法律学科 専門教育科目】西洋法制史［梁田 史郎］3～4 年次 / 4 単位 36
【法学部 法律学科 専門教育科目】労使関係論［大原 利夫］3～4 年次 / 4 単位 36
【法学部 法律学科 専門教育科目】民事執行法［廣尾 勝彰］4 年次 / 4 単位 37
【法学部 法律学科 専門教育科目】社会経済学 A［相沢 裕紀、原 伸子］4 年次 / 2 単位 37

【法学部 法律学科 専門教育科目】社会経済学Ｂ［相沢 裕紀、原 伸子］4 年次 / 2 単位 38
【法学部 法律学科 専門教育科目】経済政策論Ａ［小黒 一正、持元 江津子］4 年次 / 2 単位 38
【法学部 法律学科 専門教育科目】経済政策論Ｂ［濱秋 純哉、持元 江津子］4 年次 / 2 単位 39
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸学概論［岡野 幸江］1～4 年次 / 4 単位 39
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本言語学概論［古牧 久典］1～4 年次 / 4 単位 40
【文学部 日本文学科 専門教育科目】文学概論［細沼　祐介］2～4 年次 / 4 単位 41
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸史Ⅰ［谷口 卓久］2～4 年次 / 4 単位 42
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸史Ⅱ［山田 稔］2～4 年次 / 4 単位 43
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・上代［萩野 了子］1～4 年次 / 4 単位 44
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・中古［中西 智子］1～4 年次 / 4 単位 45
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・中世［中司 由起子］1～4 年次 / 4 単位 45
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・近世［山口 恭子］1～4 年次 / 4 単位 46
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・近代［永岡 杜人］1～4 年次 / 4 単位 47
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・漢文［大西 陽子］1～4 年次 / 4 単位 48
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・現代［沼田 真里］2～4 年次 / 4 単位 49
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・言語［阿部 美菜子］2～4 年次 / 4 単位 50
【文学部 日本文学科 専門教育科目】中国文芸史［大西 陽子］2～4 年次 / 4 単位 50
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本言語史［松永 明］2～4 年次 / 4 単位 51
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本文法論［村島 祥子］2～4 年次 / 4 単位 52
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本芸能史［本塚 亘］2～4 年次 / 4 単位 52
【文学部 日本文学科 専門教育科目】日本美術史［萩原 哉］2～4 年次 / 4 単位 53
【文学部 日本文学科 専門教育科目】西洋美術史［濱西 雅子］3～4 年次 / 4 単位 54
【文学部 日本文学科 専門教育科目】社会思想史［伊藤 直樹］3～4 年次 / 4 単位 55
【文学部 日本文学科 専門教育科目】世界文芸思潮［伊海 孝充］3～4 年次 / 4 単位 56
【文学部 日本文学科 専門教育科目】比較文学［吉井 涼子］3～4 年次 / 4 単位 56
【文学部 日本文学科 専門教育科目】書道史［山口 恭子］3～4 年次 / 2 単位 57
【文学部 日本文学科 専門教育科目】書道実技［井澤 秀彦］3～4 年次 / 2 単位 58
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史概説［川上 真理］1～4 年次 / 4 単位 58
【文学部 史学科 専門教育科目】史学概論［秋山 千恵］2～4 年次 / 4 単位 59
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史概説［赤松 道子］2～4 年次 / 4 単位 59
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史概説［宇都宮 美生］2～4 年次 / 4 単位 60
【文学部 史学科 専門教育科目】日本美術史［萩原 哉］3～4 年次 / 4 単位 60
【文学部 史学科 専門教育科目】日本近代史［柏木 一朗、狩野 雄一、長井 純市］3～4 年次 / 4 単位 61
【文学部 史学科 専門教育科目】日本近世史［安田 寛子］3～4 年次 / 4 単位 62
【文学部 史学科 専門教育科目】日本古代史［菊地 照夫］3～4 年次 / 4 単位 62
【文学部 史学科 専門教育科目】日本中世史［仁平 義孝］3～4 年次 / 4 単位 63
【文学部 史学科 専門教育科目】日本法制史［宇野 文重］3～4 年次 / 4 単位 63
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（地方史学）［中山 学］3～4 年次 / 4 単位 64
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（地域社会史）［中山 学］3～4 年次 / 4 単位 65
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（日本思想史）［岡野 浩二］3～4 年次 / 4 単位 66
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（日本仏教史）［岡野 浩二］3～4 年次 / 4 単位 67
【文学部 史学科 専門教育科目】日本古文書学［大塚 紀弘、和氣 俊行］3～4 年次 / 4 単位 67
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（日本科学史）［長井 純市 ］3～4 年次 / 4 単位 68
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋美術史［蘇 哲、高瀬 奈津子］3～4 年次 / 4 単位 69
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史特講（中国経済史）［塩沢裕仁、江川 式部］3～4 年次 / 4 単位 70
【文学部 史学科 専門教育科目】日本文芸研究特講・漢文［大西 陽子］3～4 年次 / 4 単位 70
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史特講（中国思想史）［小寺 敦］3～4 年次 / 4 単位 71
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史特講（中国近世史）［芦沢 知絵］3～4 年次 / 4 単位 72
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史特講（東南アジア史）［澁谷 由紀］3～4 年次 / 4 単位 72
【文学部 史学科 専門教育科目】東洋史特講（中国現代史）［竹茂 敦］3～4 年次 / 4 単位 73
【文学部 史学科 専門教育科目】経済史Ａ［杉浦 未樹］3～4 年次 / 2 単位 74
【文学部 史学科 専門教育科目】経済史Ｂ［牧野 文夫］3～4 年次 / 2 単位 75
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史特講（西洋哲学史）［白根 裕里枝］3～4 年次 / 4 単位 75
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋美術史［濱西 雅子］3～4 年次 / 4 単位 76
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史特講（キリスト教史）［山野 貴彦］3～4 年次 / 4 単位 77
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史特講（ロシア史Ⅰ）［草野 佳矢子］3～4 年次 / 2 単位 78
【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史特講（ロシア史Ⅱ）［草野 佳矢子］3～4 年次 / 2 単位 79

【文学部 史学科 専門教育科目】西洋史特講（アメリカ史）［岩﨑 佳孝］3～4 年次 / 4 単位 79
【文学部 史学科 専門教育科目】日本考古学［板倉 歓之、小倉 淳一］2～4 年次 / 4 単位 80
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（対外関係史）［宇都宮 美生］3～4 年次 / 4 単位 81
【文学部 史学科 専門教育科目】日本史特講（海外交渉史）［松本 剣志郎 ］3～4 年次 / 4 単位 82
【文学部 史学科 専門教育科目】文化地理学［中俣 均］3～4 年次 / 4 単位 83
【文学部 史学科 専門教育科目】経済地理学［伊藤 達也、南 春英］3～4 年次 / 4 単位 83
【文学部 地理学科 専門教育科目】人文地理学概論⑴［中俣 均］1～4 年次 / 2 単位 84
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学概論⑴［小寺 浩二］1～4 年次 / 2 単位 84
【文学部 地理学科 専門教育科目】地理調査法（人文編）［片岡 義晴、前畑 明美］1～4 年次 / 4 単位 85
【文学部 地理学科 専門教育科目】地理調査法（自然編）［狩野 真規、山口 隆子 ］1～4 年次 / 4 単位 85
【文学部 地理学科 専門教育科目】人文地理学概論⑵［中俣 均］1～4 年次 / 2 単位 86
【文学部 地理学科 専門教育科目】経済地理学［伊藤 達也、南 春英］3～4 年次 / 4 単位 86
【文学部 地理学科 専門教育科目】人文地理学（都市）［小原 丈明］3～4 年次 / 4 単位 87
【文学部 地理学科 専門教育科目】人文地理学（農業）［片岡 義晴］3～4 年次 / 4 単位 88
【文学部 地理学科 専門教育科目】人文地理学特講（地域・産業・生活）［高木 正］3～4 年次 / 4 単位 88
【文学部 地理学科 専門教育科目】文化地理学［中俣 均］3～4 年次 / 4 単位 89
【文学部 地理学科 専門教育科目】歴史地理学［米家 志乃布］3～4 年次 / 4 単位 89
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学概論⑵［小寺 浩二、永保 敏伸］1～4 年次 / 2 単位 90
【文学部 地理学科 専門教育科目】地学概論［越後 智雄］2～4 年次 / 4 単位 90
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学（地形）［前杢 英明］3～4 年次 / 4 単位 91
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学（生物・土壌）［三浦 英樹］3～4 年次 / 4 単位 91
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学（気候・気象）［山口 隆子］3～4 年次 / 4 単位 92
【文学部 地理学科 専門教育科目】自然地理学（海洋・陸水）［小寺 浩二］3～4 年次 / 4 単位 92
【文学部 地理学科 専門教育科目】地誌学概論［川元 豊和］2～4 年次 / 4 単位 93
【文学部 地理学科 専門教育科目】日本地誌⑴（自然編）［内藤 次郎、前杢 英明、中山 秀晃、山口 隆子］2～4 年次 / 4 単位 94
【文学部 地理学科 専門教育科目】日本地誌⑵（人文編）［前畑 明美］2～4 年次 / 4 単位 94
【文学部 地理学科 専門教育科目】世界地誌⑴（アジア）［大八木 英夫、小寺 浩二］3～4 年次 / 4 単位 95
【文学部 地理学科 専門教育科目】世界地誌⑵（アメリカ・大洋州）［小原 丈明］3～4 年次 / 4 単位 96
【文学部 地理学科 専門教育科目】世界地誌⑶（欧・アフリカ）［米家 志乃布］3～4 年次 / 4 単位 97
【文学部 地理学科 専門教育科目】地図学［羽佐田 紘大］3～4 年次 / 4 単位 97
【文学部 地理学科 専門教育科目】史学概論［秋山 千恵］3～4 年次 / 4 単位 98
【文学部 地理学科 専門教育科目】日本史概説［川上 真理］3～4 年次 / 4 単位 98
【文学部 地理学科 専門教育科目】東洋史概説［宇都宮 美生］3～4 年次 / 4 単位 99
【文学部 地理学科 専門教育科目】西洋史概説［赤松 道子］3～4 年次 / 4 単位 99
【文学部 地理学科 専門教育科目】社会経済学 A［相沢 裕紀、原 伸子］3～4 年次 / 2 単位 100
【文学部 地理学科 専門教育科目】社会経済学 B［相沢 裕紀、原 伸子］3～4 年次 / 2 単位 100
【文学部 地理学科 専門教育科目】日本史特講（日本仏教史）［岡野 浩二］3～4 年次 / 4 単位 101
【文学部 地理学科 専門教育科目】日本史特講（日本思想史）［岡野 浩二］3～4 年次 / 4 単位 101
【文学部 地理学科 専門教育科目】東洋史特講（中国現代史）［竹茂 敦］3～4 年次 / 4 単位 102
【文学部 地理学科 専門教育科目】西洋史特講（西洋哲学史）［白根 裕里枝］3～4 年次 / 4 単位 103
【文学部 地理学科 専門教育科目】西洋史特講（キリスト教史）［山野 貴彦］3～4 年次 / 4 単位 104
【文学部 地理学科 専門教育科目】西洋史特講（ロシア史Ⅱ）［草野 佳矢子］3～4 年次 / 2 単位 105
【経済学部 経済学科 専門教育科目】社会経済学 A［相沢 裕紀、原 伸子］1～4 年次 / 2 単位 106
【経済学部 経済学科 専門教育科目】社会経済学 B［相沢 裕紀、原 伸子］1～4 年次 / 2 単位 106
【経済学部 経済学科 専門教育科目】統計学 A［菅 幹雄］1～4 年次 / 2 単位 107
【経済学部 経済学科 専門教育科目】統計学 B［菅 幹雄］1～4 年次 / 2 単位 107
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経済史 A［杉浦 未樹］1～4 年次 / 2 単位 108
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経済史 B［牧野 文夫］1～4 年次 / 2 単位 108
【経済学部 経済学科 専門教育科目】簿記Ⅰ［筒井 知彦］1～4 年次 / 2 単位 109
【経済学部 経済学科 専門教育科目】簿記Ⅱ［筒井 知彦］1～4 年次 / 2 単位 109
【経済学部 経済学科 専門教育科目】財政学 A［島澤 諭、廣川 みどり］2～4 年次 / 2 単位 110
【経済学部 経済学科 専門教育科目】財政学 B［島澤 諭、廣川 みどり］2～4 年次 / 2 単位 111
【経済学部 経済学科 専門教育科目】金融論 A［横内 正雄］2～4 年次 / 2 単位 112
【経済学部 経済学科 専門教育科目】金融論 B［横内 正雄］2～4 年次 / 2 単位 112
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経済政策論 A［小黒 一正、持元 江津子］3～4 年次 / 2 単位 113
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経済政策論 B［濱秋 純哉、持元 江津子］3～4 年次 / 2 単位 113
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経営学総論Ⅰ［佐野 哲］1～4 年次 / 2 単位 114

【経済学部 経済学科 専門教育科目】経営学総論Ⅱ［佐野 哲］1～4 年次 / 2 単位 114
【経済学部 経済学科 専門教育科目】簿記Ⅲ［神谷 健司］2～4 年次 / 2 単位 115
【経済学部 経済学科 専門教育科目】簿記Ⅳ［市川 佳功、神谷 健司］2～4 年次 / 2 単位 115
【経済学部 経済学科 専門教育科目】日本経済論 A［長原 豊］3～4 年次 / 2 単位 116
【経済学部 経済学科 専門教育科目】日本経済論 B［長原 豊］3～4 年次 / 2 単位 116
【経済学部 経済学科 専門教育科目】財務会計論Ⅰ［川島 健司］3～4 年次 / 2 単位 117
【経済学部 経済学科 専門教育科目】財務会計論Ⅱ［川島 健司］3～4 年次 / 2 単位 117
【経済学部 経済学科 専門教育科目】原価計算論Ⅰ［福田 淳児］3～4 年次 / 2 単位 118
【経済学部 経済学科 専門教育科目】原価計算論Ⅱ［福田 淳児］3～4 年次 / 2 単位 119
【経済学部 経済学科 専門教育科目】管理会計論Ⅰ［北田 智久］3～4 年次 / 2 単位 120
【経済学部 経済学科 専門教育科目】管理会計論Ⅱ［北田 智久］3～4 年次 / 2 単位 120
【経済学部 経済学科 専門教育科目】国際金融論Ⅰ［横内 正雄］3～4 年次 / 2 単位 121
【経済学部 経済学科 専門教育科目】国際金融論Ⅱ［横内 正雄］3～4 年次 / 2 単位 121
【経済学部 経済学科 専門教育科目】憲法［建石 真公子、土屋 仁美］3～4 年次 / 4 単位 122
【経済学部 経済学科 専門教育科目】民法一部（総則・物権法）［大久保 慎太郎、大澤 彩］3～4 年次 / 4 単位 123
【経済学部 経済学科 専門教育科目】民法二部（債権法）［明石 真昭、大澤 彩］3～4 年次 / 4 単位 124
【経済学部 経済学科 専門教育科目】商法総則・商行為法［松谷 秀祐］3～4 年次 / 4 単位 125
【経済学部 経済学科 専門教育科目】会社法［笹久保 徹］3～4 年次 / 4 単位 126
【経済学部 経済学科 専門教育科目】手形法・小切手法［金尾 悠香、清水 真人］3～4 年次 / 4 単位 127
【経済学部 経済学科 専門教育科目】労働法［沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子］3～4 年次 / 4 単位 128
【経済学部 経済学科 専門教育科目】社会経済思想史［伊藤 直樹、 後藤 浩子 ］3～4 年次 / 4 単位 129
【経済学部 経済学科 専門教育科目】経済地理［伊藤 達也、南 春英］3～4 年次 / 4 単位 130
【経済学部 商業学科 専門教育科目】簿記Ⅰ［筒井 知彦］1～4 年次 / 2 単位 130
【経済学部 商業学科 専門教育科目】簿記Ⅱ［筒井 知彦］1～4 年次 / 2 単位 131
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営学総論Ⅰ［佐野 哲］1～4 年次 / 2 単位 131
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営学総論Ⅱ［佐野 哲］1～4 年次 / 2 単位 132
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営管理論Ⅰ［稲垣 保弘］2～4 年次 / 2 単位 132
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営管理論Ⅱ［稲垣 保弘］2～4 年次 / 2 単位 133
【経済学部 商業学科 専門教育科目】金融論Ⅰ［横内 正雄］2～4 年次 / 2 単位 133
【経済学部 商業学科 専門教育科目】金融論Ⅱ［横内 正雄］2～4 年次 / 2 単位 134
【経済学部 商業学科 専門教育科目】簿記Ⅲ［神谷 健司］2～4 年次 / 2 単位 134
【経済学部 商業学科 専門教育科目】簿記Ⅳ［市川 佳功、神谷 健司］2～4 年次 / 2 単位 135
【経済学部 商業学科 専門教育科目】人的資源管理論Ⅰ［山口 塁］3～4 年次 / 2 単位 135
【経済学部 商業学科 専門教育科目】人的資源管理論Ⅱ［山口 塁］3～4 年次 / 2 単位 136
【経済学部 商業学科 専門教育科目】財務会計論Ⅰ［川島 健司］3～4 年次 / 2 単位 136
【経済学部 商業学科 専門教育科目】財務会計論Ⅱ［川島 健司］3～4 年次 / 2 単位 137
【経済学部 商業学科 専門教育科目】原価計算論Ⅰ［福田 淳児］3～4 年次 / 2 単位 137
【経済学部 商業学科 専門教育科目】原価計算論Ⅱ［福田 淳児］3～4 年次 / 2 単位 138
【経済学部 商業学科 専門教育科目】管理会計論Ⅰ［北田 智久］3～4 年次 / 2 単位 139
【経済学部 商業学科 専門教育科目】管理会計論Ⅱ［北田 智久］3～4 年次 / 2 単位 140
【経済学部 商業学科 専門教育科目】監査論Ⅰ［坂上 学］3～4 年次 / 2 単位 140
【経済学部 商業学科 専門教育科目】監査論Ⅱ［坂上 学］3～4 年次 / 2 単位 141
【経済学部 商業学科 専門教育科目】税務会計Ⅰ［大下 勇二］3～4 年次 / 2 単位 142
【経済学部 商業学科 専門教育科目】税務会計Ⅱ［大下 勇二］3～4 年次 / 2 単位 143
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営分析論Ⅰ［福多 裕志］3～4 年次 / 2 単位 143
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経営分析論Ⅱ［福多 裕志］3～4 年次 / 2 単位 144
【経済学部 商業学科 専門教育科目】国際金融論Ⅰ［横内 正雄］3～4 年次 / 2 単位 144
【経済学部 商業学科 専門教育科目】国際金融論Ⅱ［横内 正雄］3～4 年次 / 2 単位 145
【経済学部 商業学科 専門教育科目】社会経済学Ⅰ［相沢 裕紀、原 伸子］3～4 年次 / 2 単位 146
【経済学部 商業学科 専門教育科目】社会経済学Ⅱ［相沢 裕紀、原 伸子］3～4 年次 / 2 単位 146
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経済史Ⅰ［杉浦 未樹］3～4 年次 / 2 単位 147
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経済史Ⅱ［牧野 文夫］3～4 年次 / 2 単位 147
【経済学部 商業学科 専門教育科目】統計学Ⅰ［菅 幹雄］3～4 年次 / 2 単位 148
【経済学部 商業学科 専門教育科目】統計学Ⅱ［菅 幹雄］3～4 年次 / 2 単位 148
【経済学部 商業学科 専門教育科目】財政学Ⅰ［島澤 諭、廣川 みどり］3～4 年次 / 2 単位 149
【経済学部 商業学科 専門教育科目】財政学Ⅱ［島澤 諭、廣川 みどり］3～4 年次 / 2 単位 150
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経済政策論Ⅰ［小黒 一正、持元 江津子］3～4 年次 / 2 単位 151

【経済学部 商業学科 専門教育科目】経済政策論Ⅱ［濱秋 純哉、持元 江津子］3～4 年次 / 2 単位 151
【経済学部 商業学科 専門教育科目】日本経済論Ⅰ［長原 豊］3～4 年次 / 2 単位 152
【経済学部 商業学科 専門教育科目】日本経済論Ⅱ［長原 豊］3～4 年次 / 2 単位 152
【経済学部 商業学科 専門教育科目】憲法［建石 真公子、土屋 仁美］3～4 年次 / 4 単位 153
【経済学部 商業学科 専門教育科目】民法一部（総則・物権法）［大久保 慎太郎、大澤 彩］3～4 年次 / 4 単位 154
【経済学部 商業学科 専門教育科目】民法二部（債権法）［明石 真昭、大澤 彩］3～4 年次 / 4 単位 155
【経済学部 商業学科 専門教育科目】商法総則・商行為法［松谷 秀祐］3～4 年次 / 4 単位 156
【経済学部 商業学科 専門教育科目】会社法［笹久保 徹］3～4 年次 / 4 単位 157
【経済学部 商業学科 専門教育科目】手形法・小切手法［金尾 悠香、清水 真人］3～4 年次 / 4 単位 158
【経済学部 商業学科 専門教育科目】労働法［沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子］3～4 年次 / 4 単位 158
【経済学部 商業学科 専門教育科目】社会思想史［伊藤 直樹］3～4 年次 / 4 単位 159
【経済学部 商業学科 専門教育科目】経済地理［伊藤 達也、南 春英］3～4 年次 / 4 単位 160
【教職に関する科目】教職入門［遠藤 野ゆり］/ 2 単位 161
【教職に関する科目】教育原理［遠藤 野ゆり］/ 2 単位 162
【教職に関する科目】教育の制度・経営［新井 秀明］/ 2 単位 162
【教職に関する科目】教育心理学［田澤 実］/ 2 単位 163
【教職に関する科目】特別な教育的ニーズの理解と支援［遠藤 野ゆり］/ 2 単位 164
【教職に関する科目】教育課程論［飯窪 真也］/ 2 単位 165
【教職に関する科目】国語科教育法Ⅰ［都築 則幸］/ 4 単位 166
【教職に関する科目】国語科教育法Ⅱ［都築 則幸］/ 4 単位 167
【教職に関する科目】社会・地歴科教育法［三堀 潔貴、丸山 理］/ 4 単位 168
【教職に関する科目】社会・公民科教育法［八木橋 正之］/ 4 単位 169
【教職に関する科目】商業科教育法［木村 良成］/ 4 単位 170
【教職に関する科目】道徳教育指導論［廣瀬 仁郎］/ 2 単位 171
【教職に関する科目】総合的な学習の時間の指導法［窪 和広］/ 2 単位 172
【教職に関する科目】教育方法論［中園 有希］/ 2 単位 172
【教職に関する科目】教育相談［池田 華子］/ 2 単位 173
【教職に関する科目】生徒・進路指導論［岩本 俊一］/ 2 単位 174
【教職に関する科目】特別活動論［吉田 昌弘］/ 2 単位 175
【教職に関する科目】倫理学［相原 博］/ 4 単位 176
【教職に関する科目】職業指導［森本 紀子］/ 4 単位 177

LIT100TA

文学

教科担当責任者：**阿部　真弓**

担当者：**園 明美**
単位数：**4 単位**
※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可
※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更・スタディガイド刊行

1　学習の到達目標　本科目では、大学生なら知っておくべき古典和歌の基礎的な知識について学習します。テキストを熟読し、適宜、参考文献を読むことを通じ、以下の２点に到達することを目標とします。

（1）古典和歌を的確に鑑賞できる読解力を養う。
（2）和歌の諸相について理解する。

2　科目の概要　古典和歌を初めて学習する人、興味はあるけれどどのように勉強すればわからない人に配慮されたテキストを用い、和歌の表現・レトリックの特質、和歌の種類、文化と和歌の関わりといった和歌の基本を学習します。

和歌は、日本の文学史において、その根幹に存在し続けてきました。和歌を学習することによって、日本の古典文学、そして文化の基礎を理解することができるようになります。テキストをよく読み、古典和歌に関する知識を習得するとともに、種々の優れた作品を鑑賞し、和歌の美しさ、楽しさをぜひ味わってください。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験ともに、学習の到達目標の２点について、どの程度達しているかによって評価します。リポートについては、「設題総覧」に書かれた注意事項等が守られているか、リポートとして適切な表現・書式で書かれているかという点も、評価の基準となります。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『和歌とは何か』渡部泰明、岩波書店、2009 年、￥840+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
「学習の到達目標」の（1）については「1　和歌のレトリック」、（2）については「2　行為としての和歌」をしっかり読み、主要な歌人の活動、歴史的な問題にも注意しながら、学習を進めるようにしてください。

なお、リポート執筆の際には、「設題総覧」に書かれていることを注意深く読んでください。まず、与えられた設題をしっかり「理解」すること。リポートとしてどのような内容が求められているのか、テキストを熟読した上でよく考えてください。そして、リポートの体裁や提出に関する特記事項・注意等をよく確認し、それらに従って提出するようにしてください。それが守られていないリポートは採点しませんので、注意してください。また、剽窃行為は処分の対象となります。他の文献を引用する場合は、自分の書いた文章と引用部分を明確に区別して示すとともに、その出典を記載するようにしてください。

Outline and objectives　This course deals with basic knowledge about Waka(和歌, classical Japanese poetry).
The goals of this course are to
(1) Acquire skills of properly comprehending Waka.
(2) Understand various aspects of Waka.

HIS100TA

西洋史

教科担当責任者：**大澤　広晃**

担当者：**長谷川 岳男**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　１．西洋史の重要な問題を、多くの文献を参照しながら自ら掘り下げて取り組むことにより、歴史的事象を多面的に分析できるようになる。
２．テキストを自学して、社会人として必要な一般教養としての西洋史の基礎知識を習得することにより、現代の日本社会に多大な影響を与えている西洋文明を深く理解できるようになる。

2　科目の概要　日本は幕末から明治維新の時期に西洋文明を大幅に取り入れて近代化を進めた結果、現在の日本社会は西洋文明に多大な影響を受けていることは自明のことであろう。そして我が国で西洋文明と接触したのは、16 世紀にいくぶんあるものの、本格的には 19 世紀半ば以降のことであり、それゆえ近代のそれを、特に実益を中心に表面的に受け入れたこともまた否定できないと言える。しかし西洋文明はあくまで西洋古代からの長い歴史的な経験の産物であるのであるから、我が国の受容のプロセスは、外面的には西洋的な装いをしながらも本質的な性質を理解できない問題を生じさせていると思われる。そこで西洋の歴史を学ぶ必要があるわけで、この科目ではそのような問題意識から、広く西洋の歴史的経緯をテキストの講読で学び、重要と思われるテーマに関していくつかの文献も参考にしながらリポートを作成することで西洋世界の特性の理解を目的としている。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

リポートでは与えられた課題に対して、テキストで得た基礎知識をもとに、さらに様々な見解を挙げられた参考文献から学ぶことで、自分なりに消化して説明できているかで成績評価し、テストに関してはテキスト内容を正しく理解しているかで成績評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『西洋世界の歴史』近藤和彦編、山川出版社、1999 年、￥3,200 ＋税
上記テキストが入手できない場合は、以下の本を代替テキストとする。
指定市販本『教養のための西洋史入門』中井義明他、ミネルヴァ書房、2007 年、￥2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートに関しては、まずテキストの設題に関する時代地域を熟読することで、基礎的な理解を行う必要があろう。なぜなら、その理解をしないことには参考文献で述べられる様々な見解を理解することは不可能であると思われるからである。そして参考文献として挙げられている文献を少なくとも１冊は講読することで、テキストで述べられる内容をより深く知り、さらに一つの歴史事象にもさまざまな見方があることを理解して欲しい。その上で与えられた課題に対して、学んだことを自分なりに消化して自分の言葉で説明するようにすること。テキストの抜き書きや課題と無関係の説明は評価の対象とならないことを肝に銘じて欲しい。加えて挙げられた参考文献以外のものを参考にする際には、高校の教科書や参考書、あるいは塩野氏などの俗書の類いは叙述内容がただ歴史事象の羅列だけであったり、見解自体に根拠がなく怪しいものが多いために課題の求めることに応えることは困難であろう。

テストに関しては歴史的な基本事項を理解しているかを問うの

で、指定範囲の部分を正確に理解して臨むことが必要となろう。

HIS100TA

日本史

教科担当責任者：**小口　雅史**

担当者：**柏木 一朗**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　日本の歴史の大きな流れを把握し、日本の伝統と文化の特色について認識を深め、過去を知り未来を考える力を養うことを目標とする。

2　科目の概要　日本の歴史時代区分を原始古代・中世・近世・近現代とし、原始古代を日本列島への人類の渡来から摂関政治まで、中世を院政から豊臣秀吉の天下統一まで、近世を江戸幕府の開創から終焉まで、近現代を明治政府の成立から今日に至るまでとする。
日本の歴史を学ぶためには、現在という視点が必要なため近現代史を重視する。時代から時代への移行期に焦点をあて日本の歴史を政治、経済、社会、文化など様々な分野から多角的に考察する。

3　成績評価基準　最終成績は単位取得試験により評価する。
リポートについて
指定したテキストの内容を十分理解し論述しているか、史実の羅列をしていないか、
インターネットの情報を安易に引用していないか、歴史を考察する視点を有しているかを評価の基準とする。
リポートは 2,000 字前後にまとめ提出すること。
単位修得試験について
テキストの内容をよく理解し論述しているか。
誤字脱字、史実や人名、年号に誤りがないか。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　木村茂光ほか編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016 年、￥1,900+税
大学で学ぶ上で不可欠なテーマを選び最新の研究成果をふまえわかりやすく叙述した通史のテキスト。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。高等学校「日本史」の教科書の内容を理解した上で指定したテキストを熟読すること。テキストをよく読み要点をノートにまとめ内容を理解する。ノートはリポート作成や単位修得試験の際に役立つので必ず作成すること。参考文献はテキスト P254「より深くまなぶための文献案内」を参照のこと。

PHL100TA

哲学

教科担当責任者：**菅沢　龍文**

担当者：**大西 正人、菅沢 龍文**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　哲学にもさまざまな分野があるが、ここではラッセルの『哲学入門』を読んで考えることによって、日頃なにげなく知っていると思っていることについて哲学的な反省を加える。自分が知っていると思っている事柄を吟味して、知識について考え、真の知識を拡張していくことにより、自我の殻を破っていくことが目指される。これは、他人と共通の知識の地盤に立ってコミュニケーションを成功させるための前提である。したがって、知識について深い見識を得ることが到達目標となる。

2　科目の概要　自分が持っていると信じる知識について、次の順序で哲学的反省を加えていく。1．なぜテーブルが存在すると考えるのか。2．なぜ外界が存在すると考えるのか。3．なぜ科学が扱う空間は私的ではないのか。4．なぜ私秘的でない観念があるのか。5．なぜ記述によって私的経験を超えていけるのか。6．なぜ帰納的な知識に限界があるのか。7．なぜ経験によらない知識があるのか。8．なぜ、矛盾律はただの思考の法則ではない、といえるのか。9．なぜ普遍はたんなる心的なものではないのか。10．なぜ直観的知識が必要なのか。11．なぜ真の知識は事実と対応しなければならないのか。12．なぜ哲学と科学は区別されるのか。13．なぜ自我ならざるものの拡大は満足感をもたらすのか。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　バートランド・ラッセル著『哲学入門』高村夏輝訳　筑摩書房（ちくま学芸文庫）2005年、￥1,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートについては、テキストあるいは参考文献等の他人の文章をそのまま引き写しにしたものは、リポートとして認めません。設題の趣旨に沿うように自分の思考力でよくこなして、自分の文章で組み立て、理路を整えて書くように心がけてください。他の文献を利用したときは、リポートの末尾にその文献の著者名、書名、必要に応じて訳者名、そして出版社名および出版年を記載すること。引用が必要なときは、引用符（カギ括弧）で括って本文（自分の文章）と区別し、その出典および参照ページが分かるようにすること。

リポートの参考書については、テキストをよく読んで基本的な事柄を理解し、それを自らの問題として考察するための設題がなされているので、とくに必要としません。ただし、哲学の問題を考えるためには哲学史の知識も役立つので、哲学や哲学史の入門書および哲学事典なども参考にしてください。

Outline and objectives　Here we read Bertrand Russell's "The Problems of Philosophy" and we reflect philosophically on the knowledges which appear to be true. We examine our knowledges about the things of which we believe the reality. Through our examinations we enlarge our true knowledges and make our self bigger than ever. This is an important condition for the communication with others on the basis of our common knowledges. Therefor, through our examinations we must get deep insight on our knowledges.

HIS100TA

東洋史

教科担当責任者：**齋藤　勝**

担当者：**仲山 茂**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　他国史として中国史に関する十分な知識と認識を得ることを通じて、歴史を学ぶことの意義、他者を知ることで自らを相対化することの重要性を学ぶことができる。また概説書を正確に読み、内容を適切にまとめる能力を培うことができる。

2　科目の概要　指定市販教科書により、古代から現代に至るまでの中国の歴史を学んでいく。リポート・筆記試験の課題をこなしながら、各時代の特徴、時代間の連環性への理解を深めていきたい。

特に留意したいポイントは以下の通りである。
①中国という世界とその歴史・文化が如何に多様な要素から構成されているか。
②中国の人々が、時代に応じて何を築き上げ、何を感じて生きてきたか。
③世界史の中で中国がどういう位置を占めてきたか。
④中国の歴史は現代とどのように繋がっているのか。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

リポート・筆記試験ともに、与えられた課題を正確に理解していること、教科書に基づいて適切且つ過不足の無い説明を行っていることを評価の基準とする。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『中国史』（世界各国史３）新版、山川出版社、尾形勇・岸本美緒編、1998年、￥3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート・筆記試験については、指定教科書に基づくことが大前提となるが、他の文献によって補うことがあっても構わない。ただしその場合には、参照した文献を明示することが条件となる。また、あくまでも評価基準が指定教科書にあることは忘れないでもらいたい。

知識を得るとともに、読解力、要点整理力、文章力を培っていくことも目的の一つである。よって大切なのは、教科書としっかり向き合い、自分の力で成果を残すことである。他人やインターネットに頼ることがあってはならない。また、きちんとした文章で書くことを求めるので、箇条書きによる整理などはできるだけ避けてもらいたい。

Outline and objectives　Outline:Surveying the history of China
Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

PHL100TA

論理学

教科担当責任者：**計良　隆世**

担当者：**大貫 義久、計良 隆世**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　論理学の基礎を学び、正しい論理的思考または正しい推論を行うのに必要とされる基礎的な知識と技術を習得することが、本科目の到達目標です。この学習を通して、自分が行う思考や推論のみならず、他者が述べる意見や論証が論理的に正しく行われているかどうか、批判する能力を身につけることも可能となります。

2　科目の概要　論理学は、思考の内容、即ち、何を考えるべきかを問題とする学問ではなく、正しく考えるためには**どのように**考えるべきかという**思考の形式および法則**を研究する学問です。

本科目では、西洋論理学を学び、それ以外の論理学（例えば、古代インドの論理学等）は学びません。西洋論理学は、古代ギリシャのアリストテレス以来受け継がれてきた伝統的論理学と、19 世紀後半から 20 世紀にかけて、それが修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）とに分かれます。本科目では、伝統的論理学の学習からスタートし、現代論理学の領域に少し入って、その最も基本的な事柄の学習までを行います。

伝統的論理学の学習では、テキストの構成に従い、概念論、判断（命題）論、推理論と順々に学んで行きます。

現代論理学については、否定・連言・選言・条件・等値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、主に、命題論理学の基礎を学びます。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮します。

リポートと試験の採点基準は、テキストで説明されている規則や解答法に従い、またそこで採用されている記号等を用いてリポートや試験答案を作成し、論理的に正しい答えを導くことができているかどうかによります。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、￥ 2,000+税
上記テキストが入手できない場合は、Amazon POD（プリント・オン・デマンド）からの購入となります。販売価格等の詳細は Amazon web サイトにて確認してください。
（Amazon Web サイト）
https://www.amazon.co.jp/

本書は、「論理学」という学問を初めて学ぶ大学初年級の学生のために書かれた論理学の教科書です。

もともとは、“授業で使う教科書” として著されたものですが、例題や練習問題も比較的充実しており、独習者の手引き書ともなるように配慮されています。

本書の構成は以下のとおり：

第１部　伝統的形式論理学の基礎
　第１章　思考の根本原理
　第２章　概念
　第３章　命題
　第４章　推理 (1)　演繹推理（直接推理）
　第５章　推理 (2)　演繹推理（間接推理）
　第６章　伝統的論理学にベン図を適用する方法

第２部　近代以降の論理学
　第１章　帰納法の論理学
　第２章　命題論理学
　第３章　述語論理学

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まず何よりも、テキストを熟読して下さい。「論理学」で使われることば（専門用語）は、堅苦しい漢字熟語が多いですが、それほど理解困難なものではありません。テキストの説明を読み、例題を理解し、練習問題を解いてみる、という流れで学習を進めて下さい。練習問題の大半は、説明・例題を見れば、解けるはずです。

＜学習のポイント＞

１．伝統的論理学

①概念論：　概念の内包と外延とは何か。また内包と外延はどのような関係にあるのか。
②命題論：
a. 四種の定言命題において、どの主語概念（Ｓ）とどの述語概念（Ｐ）が周延され、どのＳ・Ｐが不周延であるのか。
b. 四種の定言命題それぞれについて、主語概念（Ｓ）と述語概念（Ｐ）との外延的包摂関係をオイラー図で表すとどのようになるか。オイラー図を書けるようにする。
c. 定言命題への標準形式化の方法とはどのようなものか。標準形式化を実際に自分で行えるようにする。
③直接推理：
a. 四種の対当関係それぞれにおいて、命題間の真偽関係はどのようになっているか。真偽の判定をできるようにする。
b. 換質法・換位法・換質換位法によっては、それぞれ、どの種類の定言命題をどの種類の定言命題に変形することができるのか。実際に自分で変形をできるようにする。
④間接推理：　定言三段論法・仮言三段論法・選言三段論法のそれぞれついて、どのような形式をもつ推理が妥当であり、どのような推理が妥当でないのか。それを理解した上で、実際に、三段論法による推理の妥当・非妥当を判定できるようにする。

２．現代論理学（命題論理学）

①命題論理学は、否定と接続詞の論理学と言われるが、否定・接続詞（連言・選言・条件・等値）という論理的結合子の働きはどのように定義されているのか。５種の論理的結合子の真理値表を書けるようにする。
②条件命題の逆・裏・対偶とは何か、ある条件命題とそれと逆・裏・対偶の関係にある命題との真偽の関係はどのようになっているかを理解し、逆・裏・対偶の関係にある命題を作れるようにする。
③命題論理学における総合命題・恒偽命題・トートロジーとは何か。推理が妥当であるのは、どのような場合であるのか。真理値表を作成することにより、推理の妥当・非妥当を判定できるようにする。

＜参考文献＞
近藤洋逸・好並英司共著『論理学入門』岩波全書
野矢茂樹著『論理学』東京大学出版会
坂本百大・坂井秀寿共著『新版　現代論理学』東海大学出版会

Outline and objectives　This is mainly a course to learn Western traditional logic. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid immediate and mediate (syllogistic) inferences.
This course also gives students a simple introduction to modern propositional logic through learning the meaning of logical connectives, truth-value analysis, the forms of tautologies and so forth.

LAW100TA

法学（日本国憲法）

教科担当責任者：**金子　匡良**

担当者：**葉 晶珠**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日本国憲法を中心に、法学の基本概念と原則を判例なども交えて学び、自分で説明できるようになることを目的とする。

2　科目の概要　法は、社会の中で、どのような役割を果たしているか。また、どのような概念や原則に基づいて法は成り立っているか。これらの問いを、日本国憲法の理解を通じて考えると同時に、条文や判例を素材に、法的な思考方法を身につけられるようにする。取り上げるテーマは、指定のテキスト『判例法学』の以下の章の中から適宜選ぶことにする。
第 1 章「基本的人権と法」
第 6 章「国家と法」

3　成績評価基準　単位修得試験による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　西村健一郎・西井正弘・初宿正典『判例法学』（第 5 版）有斐閣、2012 年、￥ 2,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・基本的に、指定テキスト『判例法学』に沿って、関係する条文と判例と解説を熟読しておくことが大切となる。
・指定テキスト『判例法学』のすべてを扱うのではないので注意すること。具体的には、上記の「科目の概要」を参照。『判例法学』は第 5 版を用いる。

Outline and objectives　This course deals with the role of law in society, the basic concepts and principles of law, by focusing on the Constitution of Japan. We also introduce important provisions and major judicial precedents to help students to develop a legal mind during the course of their studies.
The course content will rely on the textbook, mainly 2 chapters as follows:
Chapter1. Fundamental human rights and law
Chapter6. Nation and law

LAW100TA

法学

教科担当責任者：**金子　匡良**

担当者：**葉 晶珠**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　現代日本法を中心に、法学の基本概念と原則を判例なども交えて学び、自分で説明できるようになることを目的とする。

2　科目の概要　法は、社会の中で、どのような役割を果たしているか。そして、どのような概念や原則に基づいて法は成り立っているか。これらの問いを、条文や判例などの学習を通じて考えると同時に、法的な思考方法を身につけられるようにする。取り上げるテーマは、指定のテキスト『判例法学』の以下の章の中から適宜選ぶことにする。
第 2 章「家族関係と法」
第 3 章「財産関係と法」
第 4 章「労働関係と法」
第 5 章「犯罪と法」
第 7 章「国際関係と法」

3　成績評価基準　単位修得試験による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　西村健一郎・西井正弘・初宿正典『判例法学』（第 5 版）有斐閣、2012 年、￥ 2,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・基本的に、指定テキスト『判例法学』に沿って、関係する条文と判例と解説を熟読しておくことが大切となる。
・指定テキスト『判例法学』のすべてを扱うのではないので注意すること。具体的には、上記の「科目の概要」を参照。『判例法学』は、第 5 版を用いる。

Outline and objectives　The aim of this course is to acquire an understanding of the role of law in society, the basic concepts and principles of law. We also introduce important provisions and major judicial precedents to help students to develop a legal mind during the course of their studies.
The course content will rely on the textbook, mainly 5 chapters as follows:
Chapter2. Family relations and law
Chapter3. Property relations and law
Chapter4. Labor relations and law
Chapter5. Crime and law
Chapter7. International relations and law

ECN100TA

経済学

教科担当責任者：**水野　和夫**

担当者：**畠中　貴**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　経済学の理論はミクロ経済学とマクロ経済学という２本柱によって成り立っている。ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩的な知識を習得した上で、経済がどのように成り立っているのかを大まかに理解することが目標である。

2　科目の概要　経済学では、経済には家計、企業、政府という３種類の主体がいて、各々が経済活動を行うことによって、一国あるいは世界全体の経済が成り立っていると考える。３種類の主体がどのような経済活動を行い、それらが市場における取り引きを通じて、どのように影響を及ぼしあっているのかを明らかにする。そして、国内でどれだけの生産が行われたかを表す指標である国内総生産（ＧＤＰ）について説明し、ＧＤＰや物価水準の大きさがどのように決まるのか、不況や好況とはどのようなものなのか、インフレーションやデフレーションがどのようなものなのかを明らかにする。

3　成績評価基準　リポートも単位修得試験も、自分がテキストの内容をきちんと理解できていることを採点者に示せるかどうかがポイントである。採点者なら詳しく説明しなくても分かってくれるだろうという独りよがりな文章は評価しない。求められていることを示すのに必要な説明はすべて入れ、論理の飛躍がない分かりやすい文章を書くこと。誤字脱字があったり、言葉の使い方を間違えたりしている場合は、大きく減点する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳、『マンキュー入門経済学』［第３版］、東洋経済新報社、2019 年、￥3,200+税

5　学習指導、注意点等　国語辞典を見てみれば分かるように、言葉は多くの場合、複数の意味を持っている。どの意味でその言葉が用いられているかは、文脈によって判断する。日常生活においては、あまり意識しなくても、言葉の意味の使い分けがスムーズに行われることが多いが、時には人によって言葉の解釈が異なっているために、議論に混乱が生じることがある。学問では、議論の混乱を避けるために、きちんと定義された専門用語が用いられる。定義とは、議論を行うにあたって、言葉の解釈の相違が生じないように行う、この言葉はこういう意味で用いますという約束事である。経済学を学ぶにあたっては、まず経済学で用いられる専門用語を正確に理解する必要がある。専門用語の定義は、最初に登場したページの脚注に書いてあるし、巻末にも書いてある。言葉は１回定義を聞いただけで、すぐに使いこなせるようになるものではないので、何度も参照すること。

分かると分からないの間には長い道のりがある。ドアを開けて、隣の部屋に行くような簡単なものではない。分かったつもりになっていても、理解が進むにつれて、自分がよく分かっていなかった部分があったことに気付くことがあるし、何回か読んで分からなかったものが、ふとした拍子に、ああそういうことか、と納得いくことがある。皆さんには、このテキストを根気よく読み返すことで、そうした経験を積み重ねていってほしい。

テキストは扱っている内容が多く、すべての内容を理解しようとすると時間がかかり過ぎるので、第６章 消費者、生産者、市場の効率性、第６章付論 税と効率・公平、第７章 外部性、第１１章付論２ 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論、第１３章 開放マクロ経済学：基本的概念 については、読み飛ばして構わない。

Outline and objectives　Our goal is to understand how the economy as a whole works. Economic theory has two basic frameworks, which are microeconomics and macroeconomics. We study elementary microeconomics and macroeconomics from the beginning. We analyze economic activities of three kinds of agents (households, firms, government) and how those agents interact with each other through trades in various markets. Then, we analyze the fluctuations in GDP (Gross Domestic Product) such as recession and boom. We also analyze inflation and deflation.

HUG100TA

人文地理学

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**高木 正**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　教養科目なので、地理学そのものを学ぶというよりも、地理学的な視点を通じて現代世界の理解を深めていくという勉強を目指したい。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構わない。学生諸君の世界観がより確かなものに高められるような設題を設定する。そして理解力をしっかりつけたうえで自分の意見がはっきり述べられるようなトレーニングを積んでもらう。

2　科目の概要　社会科学としての人文地理学から現代世界が捉えられるようなテーマで勉強していくことになる。世界的テーマとしては、例えば地球環境問題、国際経済、領土紛争、南北問題、人種・民族問題などがあげられる。国内的には過密・過疎問題、高齢化社会問題、国内農業、都市問題、地域開発、立地論といった分野になる。これらのなかから毎年出される設題のリポートを作成するが、これは論文執筆の基礎的トレーニングにもなるのでしっかり取り組んで欲しい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

リポートについては、内容の前に、作成のルールを守っているかどうかでチェックする。その上で設題に対する理解ができているかどうか、論旨の展開（論文構成）がしっかりできているかどうか、文章表現が適切かどうかなどといった点から評価する。試験問題は当該年の設題および過去２年の試験問題（※）に関連させて出題する。

※過去の単位修得試験問題について（補足）

通信教育部では、過去の単位修得試験問題を原則公開していません。単位修得試験を受験すると、受験月の試験問題冊子（簿記以外の問題が印刷されています。）を持ち帰ることができます。ただし、簿記Ⅰ～Ⅳのみを受験する場合は、試験冊子は持ち帰りできません。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『ジオグラフィー入門』改訂新版、古今書院、高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫・杉谷隆編、2008 年、￥ 2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポートの作成はあくまで自分自身の文章で書くのが基本である。論文や文献を参考・引用する際は、かならずルールを守って欲しい。どこかのサイトから文章をコピーして貼り付けるのがリポートを作ることと錯覚している学生さんが多いのはとても残念である。

Outline and objectives　Main subjects ： Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100TA

自然地理学

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**吉野 徳康**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　本科目は、身近な風景の観察を通してその地域の自然地理学的特徴を見出し、風景のもつ意味を理解することを目標としています。また、地球温暖化が与える影響について、自然地理学の立場から習得します。

2　科目の概要　テキストの構成は、①火山、②山と川、③森林、④台地・丘陵、⑤平野、⑥湖、⑦海岸、⑧雨と風、全８章からなります。地形の成り立ちをベースにして学習します。

風景は、多くの情報が目に見える形で現れます。テキストで学んだ内容と実際の風景観察に基づき、風景にみられる特徴を見出すことを学びます。次に、なぜ、そのような立地になっているのか、地形の高低差や地質、水（川）、緑（田畑、草木）、構造物との関係など、その理由を自然地理学から習得します。

3　成績評価基準　リポート 8 割、単位修得試験 2 割で評価します。リポートが合格していないと単位修得試験は合格でません。

リポートは、設題の内容を理解し、趣旨に沿ってまとめ、考察がしっかりできているかを確認します。

試験は、テキストにある基本的な事柄の理解度を確認します。また、自分の考えを整理し自分の言葉で考察が書けるかどうかを確認します。

4　テキスト名および詳細　『風景のなかの自然地理　改訂版』杉谷隆・平井幸弘・松本淳著（古今書院）、2005 年、￥2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習の基本はテキストと図書です。インターネットを活用する場合は、リポートへの引用を最小限とすること。ウィキペディアからの引用は認めません。

風景において、地上のベースとなるのは地形であり、その上に森林、草木、田畑、道路やビルなどの構造物、住居が広がっています。風景観察する際は、風景がその地域の生い立ち（地形形成を含む自然環境の地史や人間社会の歴史）の上に成り立っており、現在も変化し続けているという意識を持って下さい。

地球温暖化の問題は、つい目先の諸問題に関心が集まりがちですが、時間軸を変え、地球の歴史（第四紀）で繰り返されてきた寒冷・温暖化を学習し、その視点で考えて下さい。

リポートは、引用したものを自分の意見と混同せず、必ず区別し、何を引用したのか明記するようにして下さい。なお、考察は思ったことをただ書くのではなく、文献や資料などでその根拠を示すようにして下さい。

Outline and objectives　The aim of this course is to find natural geographic features of the area through observation of the landscape.　It also deals with the impact of global warming from the standpoint of natural geography.
This course will be in Japanese.

POL100TA

政治学概論

教科担当責任者：**木村　正俊**

担当者：**岡崎 加奈子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　政治学の基本的な知識の習得と、政治的な概念についての思考する力を深めていくことを目指す。
テキストにもとづく学習の中で、現代社会において顕在化する政治的な問題について理解を深める。さらに、リポート作成作業を通して、課題にそった論述を作成をする力を養うことも目標として掲げる。

2　科目の概要　本教科は、政治学についての幅広い知識を習得し、さらには政治的な概念について理解を深めていくものである。テキストや参考文献を通じて、政治的な概念、政治体制、政治制度、政治過程などについて幅広く学ぶ。さらに、こうした学習を積み重ねるなかで、現代社会において政治はどのような問題を抱えているのか読み取っていく。政治的領域における自らの思考を深め、考察する力を養う。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、先に提出されたリポートの内容も考慮する。

・設問に沿った答案の作成。
・テキストおよび参考文献についての理解。
・基本的な用語に対する理解と適切な使用。
・論理的な文章の作成と表現能力。
・政治学に対する基本的な理解と概念整理の習得。

以上の要素を考慮し、総合的に成績を評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『政治学』、東京大学出版会、川出良枝・谷口将紀、2012 年、￥ 2,200+税
政治学について、幅広く学ぶことができ、知識と理解を深めることができるテキストである。政治理論や制度のほか、地方自治や国際関係、市民参加など様々な政治的領域を網羅している。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずは、テキストをしっかりと読み進めてください。このときかならず、自分なりに内容を整理し、ノートなどにまとめる作業をおこなってください。リポートについては、テキストや参考文献の内容について十分に理解したうえで、課題に沿って作成してください。社会における政治的事象について関心をもち、考察する機会を設けることは政治学を学ぶうえで重要です。ぜひ、日常の中で取り組んでください。

Outline and objectives　政治学における基礎的な知識を取得するなかで、多角的な視野と論理的な思考力を身に付ける。文章を構築し、自らの言葉で表現し他者に論理的に伝える能力を養う。

SOC100TA

社会学

教科担当責任者：**山本　卓**

担当者：**栗林 大**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　1）社会学の基本的見方を習得する。
2）社会学分野の基礎理論、基礎概念を学習する。
3）上記の見方等を身近な事柄や現在的な社会現象にあてはめて考察できるようになる。

2　科目の概要　「現代日本を社会学で診る」ことを通して現代社会学の基礎を学習することを狙いとする『Do ！ソシオロジー』をテキストとする。社会学の成り立ち（さらにその背景にあった「社会」の生成）を理解することから始まり、社会理論、教育社会学、若者文化論、地域社会学、階層研究、ジェンダー論、福祉社会学、国際社会学、の視点を、理論と具体例の考察の双方を通して学ぶ。また、そうして学習する社会学の基本的な視点を実践・応用する力を養うため、リポートにおいては受講生自身の関心にもとづいた調査、考察をおこなう機会も設ける。

3　成績評価基準　単位修得試験と提出リポートにより評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　友枝敏雄・山田真茂留編『Do ！ ソシオロジー：現代日本を社会学で診る』、有斐閣アルマ、 2013 年、￥ 1,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート作成法、文章作成法に関して自身で学習を進める際に参考になる著書として、たとえば下記を挙げられる。
・小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』（講談社新書）
・中村明『悪文　-　裏返し文章読本』（筑摩書房）
これら以外にも優れた書籍が存在するので、自分に合うものを探し、この科目に限定されない基礎的なスキルに磨きをかけるよう心がけてほしい。

Outline and objectives　This course introduces elementary sociology. The aim of this course is to help students acquire basic views, theories, and concepts of sociology through studying sociological explanations of modern Japanese society.

CUA100TA

文化人類学

教科担当責任者：**石森　大知**

担当者：**ベル 裕紀**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　1、贈与、親族、政治／権力、身体／世界観、エスニシティや国民国家に関する文化人類学な議論を学習する。
2、上を通じて、「文化」とは何か？「文化」を記述することに内在する問題に関する理解を深める。
3、文化人類学的な視点を身に付け、それによって社会を理解、分析することができるようになる。

2　科目の概要　グローバル化が進行する現代社会における文化人類学的な議論の理解を目的とする。1960 年代まで優勢であった文化相対主義的な「文化」概念―境界を有し、一枚岩的な「文化」観―を問い直し、（ポスト）植民地主義や世界システムの中の「文化」の理解を目指す。

3　成績評価基準　単位取得試験と提出リポートによって評価する。
言うまでもないことだが、剽窃は厳禁とする。引用する際は、【学習指導、注意点】に記載したことに十分留意して行うこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グローバリゼーションのなかの人類学案内』第 7 刷、明石書店、中島成久編著、2016 年、2500 円＋税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートは、教科書の内容の単純な要約をするのではなく、教科書を熟読し、基本的な理解を得た上で関連する文献や学術論文を参照し、引用しながらきちんと論述してください。「自主学習の手引き」および「法政大学学習支援ハンドブック」をよく読み、引用の仕方や議論の組み立て方を学び、実践することが求められます。
なお、引用・参照する際には、筆者や出版元を確認し、剽窃された文章や間違った情報を根拠とした文章を引用しないように注意するとともに、引用元の主張の学術的な根拠は十分か、論理展開に無理がないかなど、十分な吟味を行ってください。

Outline and objectives　This course provides an introduction to anthropology in globalization era.
Students who take this course will:
1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, body/cosmology, ethnicity and nation-states.
2, gain better understanding about culture and difficulties inherent in writing culture.
3, gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.

PSY100TA

心理学

教科担当責任者：**浅川　希洋志**

担当者：**生田目 光**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　心理学の対象である「こころ」は、私たちにとって身近です。誰もが専門的知識なしに、心について語ったり、分析したりすることができるからです。しかし反面、心についての熟知感（分かったつもり）は、思い込み、偏見、といった独断も生み出すことにもなります。そこで学習の姿勢として、私たちがもっている心についての常識を相対化する心理学の方法－ものの見方・考え方－について注目することが必要であり、それらを通して、日常生活における自らの経験を、考え・捉えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えています。

2　科目の概要　心理学の基礎について，学習心理学や社会心理学，発達心理学，臨床心理学など，様々な研究領域の知見を満遍なく学べるような構成になっています。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します（ただし、リポート学習もしっかり行うこと）。設題にそくしたテキストの理解、資料・文献の利用、それらを手掛かりにした文章の構成力を総合的に判断して、評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『ゼロからはじめる心理学・入門 - 人の心を知る科学』、有斐閣ストゥディア、金沢創・市川寛子・作田由衣子 (著)、2015 年、￥1,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
心理学は初学である人が多いと思いますので，テキスト、資料、文献を引き写すことから学習が始まります。ただし，リポートや答案を作成する際には、指定本を写すだけにならないよう，他の文献も参照して，理解を深めるよう努めてください。その際、引用は明記してください。

Outline and objectives　This is an introductory course in psychology, where students will learn the basic theories, research methods, and important findings from various sub-fields of psychology, and will build an overall understanding of how people think, feel, and act. One of the most important objectives of this course is that students will have a better understanding of how the knowledge and concepts they have learned through this course are applicable in their daily lives.

MAT100TA

数学１

教科担当責任者：**池田　宏一郎**

担当者：**池田 宏一郎**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。ここでは問題の例（教科書 37 頁）をひとつあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、教科書第１章で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

2　科目の概要　扱う項目は、①整数の理論、②代数系、③線形代数。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で学習を進めていくことができるよう、教科書には演習問題を多く取り入れてある。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。なお、リポート・試験ともに、結果の数値等を表すだけでなく、それに至る過程について十分に説明することが求められる。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『数学』第１版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008 年（第１～３章）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

Outline and objectives　This course deals with fundamental Mathematics, especially elementary algebra.

MAT100TA

数学２

教科担当責任者：**倉田　俊彦**

担当者：**倉田 俊彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。ここでは問題の例（教科書 210 頁）をひとつあげてみよう。

問題（友人の友人は…） 市谷くん、四谷さん、麹町くん、神田さん、秋葉くんの計５人について、「市谷くんと四谷さん」「四谷さんと麹町くん」「麹町くんと神田さん」「市谷くんと神田さん」「市谷くんと秋葉くん」「四谷さんと秋葉くん」「神田さんと秋葉くん」が友人の関係にあることが分かっている。市谷くんが「私の友人の友人はある人の友人の友人であり、私とその人とのそのような関係は 18 通りある」といったとき、市谷くんのいう「ある人」とは誰のことか？

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。しかし、教科書第４章で扱う「グラフ理論」の手法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

2　科目の概要　扱う項目は、①グラフ理論、②組み合わせ数学、③微分法と近似計算。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で学習を進めていくことができるよう、教科書には演習問題を多く取り入れてある。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。なお、リポート・試験ともに、結果の数値等を表すだけでなく、それに至る過程について十分に説明することが求められる。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『数学』第１版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008 年（第４～６章）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

Outline and objectives　This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

BIO100TA

生物学 1

教科担当責任者：**島野　智之**

担当者：**島野 智之**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　生物学の目的は、生命現象とは何かを明らかにするものですが、その範疇は多岐にわたり、遺伝学、分子生物学　のように医学に近いものも生物学の範疇に含まれるようになってきており、マスコミなどでも注目されることが多くなってきています。同時に、情報量が増えることにより、健康に関する関心も増してきています。その中には、科学的なものから似非（えせ）科学といわれるようなものまで含まれています。自分の身体のことを考え、生物とはなにかを考えることが重要になってきます。あふれる程の情報の中で、正しく科学的な眼を持って、理解できるようになることが望まれます。

2　科目の概要　生物の持っている最も基本的な特性、つまり生命現象の一つである、代謝について理解するように努めていただきたい。代謝とは食物を摂取、分解しエネルギーを作り出し、生命活動を営むことです。最も生物らしい現象です。最近は健康志向の高まりもあり、さまざまな健康食品やサプリメントなどの広告や記事を眼にします。これらの食品などがどのような仕組みで身体に有効なものとなるのかを正しく理解する必用があります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。もちろんリポート学習もしっかりと行わなければなりません。リポート設題に関しては、百科事典や生物学辞典などの他に「インターネット」などを利用してもよいのですが、とくに「インターネット」ではいくつかの記述を調べた方がよいです。必ずしもすべてが正しいとは限りません。いずれの場合も、書き写すのではなく、理解したことを自分の言葉で記述する必用があります。いわゆる「コピペ」は決してするべきではありません。使用した文に関しては、文末に出典を明記する必要があります。出典を明記せずに、他者の文章をそのまま書き写した場合は、剽窃（盗作）となることもあるので、くれぐれも注意すること。

単位修得試験については、1）過去の試験問題などを利用して、出題の傾向をつかむことが解答の一助となることがある。2）おなじ通信教育で学ぶ仲間たちの情報も役に立つことがある。3）答案に少なくともキーワードが書かれているか否かが、評価の重要な目安となる。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グラフィックライフサイエンス』増補版、相川書房、堀上英紀・月井雄二・矢崎和盛・小山　力著、2010 年、￥ 1,900+税
※【スタディガイド（学習指導書)】あり
生物学のテキスト「グラフィックライフサイエンス」は理解を容易にするため、図版が主体の教科書であり、字数の制約のため説明がかなり簡略化されている。そのためこのテキストだけですべての項目を理解することは困難かも知れない。とくに「代謝」に関しては下記の参考文献を読まれることを勧めます。
【参考文献】
『岩波 生物学辞典 第 5 版』　岩波書店; 第 5 版　￥ 14,040
『代謝ガイドブック』　技術評論社　霜田幸雄著　￥2,480+税
2014 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　通信教育は、一人で勉強する部分が多いため、勉強がはかどらないことが多いと思われる。その様な場合、スクーリングや支部活動などを通じて知り合った、先輩、同輩、後輩などの仲間たちから学ぶことも大切である。

リポートに関して、注意しておきたいことは、剽窃（盗作）などの行為は決してしないように。また、生物学のような自然科学の分野のリポートは文学的な表現は必用ありません。自分の考えを正しく相手（読者）に伝えることが一番重要です。

Outline and objectives　Basic Biology course, the categories of basic biology are diverse and expanded, and genetics, molecular biology, and medicine are also included in the category of biology.This objective of this course is understanding such basic Biology.

CHM100TA

化学１

教科担当責任者：**中田　和秀**

担当者：**渡邉 永治**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出合う化学物質の性質を題材とする。化学物質の物性、構造、反応などを理論的に考察できるように、さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できるようにする。

2　科目の概要　第１章　周期表
第２章　錬金術師の夢
第３章　化学結合
第４章　ニュース性のある分子
第５章　化学反応性

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、その際先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グレイ 化学− 物質と人間− 』、東京化学同人、H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler 著、1997 年、￥ 2,200+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストの目次、索引などに載っているキーワードについて、まとめておくこと。また、テキストの本文中で、使用頻度の高い専門用語についても、説明できるようにしておくと良い。

Outline and objectives　The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can become to discuss properties and reactions of chemical species theoretically as well as to understand chemical background of cutting-edge topics in modern society.

CHM100TA

化学２

教科担当責任者：**中田　和秀**

担当者：**渡邉 永治**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出合う化学物質の性質を題材とする。合成材料、あるいは生命に関する化学について、物性や反応のメカニズムを理解できるようにする。また、地球温暖化、オゾンホール、環境ホルモンなどの環境問題についても、分子レベルで理解することを目的とする。

2　科目の概要　第６章　化学と工業
第７章　合成材料
第８章　生化学
第９章　光化学
第 10 章　大気の化学
第 11 章　化学とがん

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、その際先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グレイ　化学− 物質と人間− 』、東京化学同人、H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler 著、1997 年、￥ 2,200+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストの目次、索引などに載っているキーワードについて、まとめておくこと。また、テキストの本文中で、使用頻度の高い専門用語についても、説明できるようにしておくと良い。

Outline and objectives　The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can understand properties and reaction mechanisms of synthetic materials as well as those of chemical species related to life sciences. In addition, environmental issues such as global warming, destruction of the ozone layer, and endocrine disruptor will be discussed to understand them in the viewpoint of chemistry.

PHY100TA

物理学１

教科担当責任者：**石川　壮一**

担当者：**石川 壮一**
単位数：**2 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　ニュートン物理学のあらましを理解する。

2　科目の概要　近代社会の柱となる自然科学は 17 世紀にはじまり、そしてその土台がニュートン物理学である。ガリレオによる地上の運動の研究、ケプラーによる惑星の運動の研究、この二つを統一したニュートンによる物理学体系の構築は、17 世紀科学革命と呼ばれる。本科目では、このニュートン物理学のあらましを理解する。

3　成績評価基準　単位修得試験で評価する。
設題の内容を正しく理解して、論理的な記述ができているかを判断する。

4　テキスト名および詳細　『グラフィック講義　力学の基礎』（ライブラリ物理学グラフィック講義 2）和田純夫著、サイエンス社、2011 年、￥1,700 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。物理学で取り扱う現象は時間、距離など数値で表されるものがほとんどで、それらの間の関連性を数式で表現することが、その現象の本質を知るためによく行われる。結果として、数学の知識、計算が学習内容にたくさん含まれている。数式を見ただけで、やる気をなくす人もいるかもしれないが、物理学での数式は、物事の状況を効率よく説明するための、“言語” だと思って取り組んでほしい。
タイトルに「グラフィック講義」とあるように、教科書には図がたくさん出てくるが、それらをただ眺めるだけではなく、フリーハンドでよいので実際に自分で描くことによって理解が深まることも多い。
また、具体的な問題を考えることによって理解を深めるために、教科書には課題がたくさん出てくるが、答えも書いてあるので、自分で納得しながら学習を進めること。

Outline and objectives　This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course.

PHY100TA

物理学２

教科担当責任者：**石川　壮一**

担当者：**石川 壮一**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　エネルギーの概念を修得する。またエネルギー消費の実態を学習する。エネルギーの正しい理解と、エネルギー消費の実態把握により、地域での省エネを考えることができる。特に交通機関でのエネルギー消費を正しく理解することが重要である。

2　科目の概要　エネルギーの基礎知識を、身近なところから出発して学ぶ。生命体である人のエネルギー消費、家庭でのエネルギー消費、そしてそれをもとにして、資料によるエネルギー消費の実態をつかむ。また、交通のエネルギー、熱のエネルギーは特に重要なものであるから、詳しく学ぶことになる。

3　成績評価基準　単位修得試験で評価する。
設題の内容を正しく理解して、論理的な記述ができているかを判断する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『文系人のためのエネルギー入門』、勁草書房、小池康郎著、2011 年、￥ 2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。「エネルギー」は、日常生活の中でも普通に使われている言葉であるが、その意味を正しく理解してもらうという試みは、残念ながらあまり行われてない。エネルギーを部分的に見るのではなく、俯瞰的にトータルに見る、そのような視点が必要である。教科書はそのような目的を持った数少ない本である。ぜひとも精読していただきたい。インターネットなどの安易な記述に頼らず、ぜひ自分で考える姿勢をもっていただきたい。
【参考文献】
『グラフィック講義力学の基礎』（ライブラリ物理学グラフィック講義 2）和田純夫著、サイエンス社、2011 年、￥1,700 ＋税
『物理学入門』大西直毅著、東京大学出版会、1996 年、￥2,400+税

Outline and objectives　This course introduces the basic concept of the energy and the present situation of energy consumption, from which students will consider about energy saving for each region.
It is also important to understand energy saving in transportation systems.

LANe100TA

英語２

教科担当責任者：**宇治谷　義英**

担当者：**関口 奈津恵**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．使える語彙を増やす。
2．基礎的な文法と学んだ語彙を文章の読解に応用できる。
3．ストーリーの展開を理解できる。
4．読んだ内容について英語の質問に答えることができる。

2　科目の概要　20 世紀のアメリカ文学の７作品（抜粋）を読む。基礎的な文法の知識と新たに学ぶ語彙を使って小説を読み、読んだ内容を英語で確認する力をつける。
テキストの各章は “Check the Vocabulary” 、“Reading”、“Exercises” の３セクションで構成されている。“Check the Vocabulary” で、その作品に出てくる重要単語の定義を英語で確認した後、中心となる “Reading” で作品の抜粋を読む。各章の冒頭にある「作家を知ろう！」「作品紹介」にあらかじめ目を通すことで、抜粋部分だけでも読めるようになっている。
“Exercises” のセクションには 4 種類の問題が用意され、“True or False” と “Questions and Answers” で読んだ内容を英語で確認し、“Grammar” で本文中に使われたイディオムやコロケーションを確認し、“Agree or Disagree?” で作品の内容に一歩踏み込んだ議論ができるようになっている。

3　成績評価基準　文法 40 %（基本文型、品詞、動詞の活用、代名詞の指す内容、関係詞と先行詞、並べ替え、穴埋め、など）
内容理解 60 %（タイトル確認*、日本語訳、内容の要約、語彙、英語または日本語での質問、小説の内容についての論述、など）
　*作品の抜粋からタイトルがわかるようにしておくこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『Let’s Learn English from American Literature II（アメリカ文学から英語を学ぼう II）』、早瀬博範、江頭理江編注、英宝社、2015 年、1,900 円+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。“Check the Vocabulary”
作品中で使われる単語の定義が英語で書いてある。知っている単語であれば、定義を選ぶだけでよいが、知らない単語は英英辞典または英和辞典で調べること。ここで単語の意味をしっかり把握しておくことで、小説が理解しやすくなる。
“Reading”
各章に掲載された小説は、長編や中編作品の抜粋ながら、書き直しなどはしていない原作のままの英文で、この部分が各章の中心となる。「作家を知ろう！」「作品紹介」に目を通し、どのような作品のどの部分を読むのかをあらかじめ理解しておくと読みやすい。音声をダウンロードし、朗読を聞くことから始めるものよい。スタディガイドに文法的な解説を載せてあるので、必要に応じて参考にしつつ、しっかりと読んでほしい。
どの程度読めれば読めたと言えるのかは難しい問題で、テキスト編者は訳読をしなくても英語の質問に答えられれば理解できたとみなせると言っている。けれども英語の読解にあまり慣れていない学習者の場合、やはり間に訳読の作業を入れた方が確実かと思われる。訳せるほどに読めていればその後の練習問題も楽にこなせるはず。ご自分の力に応じて学習法を工夫してほしい。仕上げに音読をしてみるとさらによい。
“Exercises”
読んだ内容を英語で確認する。まずは質問の意味をしっかりと理解し、該当する箇所を本文中に探す。言い換えなどにも対応できる柔軟性が求められる。

Outline and objectives　In this course, students will read seven passages extracted from the 20th century American literature, using basic English grammar knowledge and the newly learned vocabulary.

LANe100TA

英語３

教科担当責任者：**中和　彩子**

担当者：**溝部 敦子、鹿子嶋 由佳**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　１．文法 (grammar) の基礎を身につける。
２．使える語彙 (vocabulary) を増やす。
３．学んだ文法や語彙を応用する力をつける。
４．学んだ文法をもとに、文章を正確に読む力をつける。

2　科目の概要　基礎的な英文法をひととおり復習し、基礎をしっかりと身につけながら、読解力を向上させることをめざす。ここで学ぶことは、さらには総合的な英語力の向上につながるはずである。
使用するテキストは 22 のユニットで構成され、各ユニットにはポイントとなる文法事項が１つずつ配されている。はじめのページで文法の説明を読んだ後、英文を読み、練習問題を解きながら、文法の理解を深め、語彙を増やし、読解力をつけていく。また、文法的なテーマの他に、睡眠、人工知能、学生生活といった内容別のテーマも設けられており、長さの違う３つのパッセージを関連付けながら、楽しく読み進めることができる。

3　成績評価基準　単位修得試験の内容の内訳は次の通り。
語彙 20%　（Putting Meaning to Words に挙げられている単語及び熟語。動詞の活用。）
文（語彙、文法を含む）40%　（空欄を埋めて英文を完成させる、指示に従って英文を書き換える、など）
文章（語彙、文法、内容理解を含む）40%（パッセージの抜粋からの出題。空欄を埋めて文章を完成させる、代名詞の指す内容を説明する、日本語訳、など）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『Get Reading! 大学生のための読解演習と基本文法』　金星堂、Robert Hickling、市川泰弘 著、2009 年、￥1,950+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。（１）各ユニットの流れ
　はじめのページに文法の説明がまとめられているので、まずはここをしっかり理解すること。ノートに要点をまとめてみるとよい。テキストやスタディガイドを読んでもよく分からない、あるいはもっと詳しく知りたい場合は、文法の参考書を使って調べてみよう。
　ポイントとなる文法事項を身につけるためにさまざまな練習問題が用意されており、その中心に３つのパッセージ（文）がある。自然な文章には当然いくつかの文法事項が含まれるため、少し難しく感じられるかもしれないが、スタディガイドの「文章読解の解説」を参考にじっくり読んでほしい。分からない単語はとにかく辞書で調べてみること。せっかく出会った単語はノートに記録しておこう。英文を日本語に訳すのもよい学習方法である。仕上げに CD を聞いて、音読してみよう。
　スタディガイド巻末には練習問題の解答例を掲載してあるが、まずは自分の力で答えを出してみること。間違えた箇所は、なぜ違うのかしっかり調べよう。そうした作業を繰り返すことで着実に力がついていく。
（２）テキスト全体の流れ
より基本的な文法事項から段階的に学べるよう構成されているので、ユニット順に勉強すると効率がよいが、目次を見ていただければ分かるように、Unit 1 と 2 は、時制を扱っているという点で後半のユニットと関連がある。ときどき戻って確認するとよい。
（３）リポートに取り組む際の注意
リポートノートの１ページはテキスト２～３ユニット分の内容に対応しているので、テキストの進度に合わせてリポート作成を進めてもよいし、テキストの学習が一通り終わってからリポートに取り組んでもよい。分からない箇所や不確かな箇所は、テキスト、スタディガイド、辞書、参考書などを使って調べ、納得のいくリポートを仕上げよう。

Outline and objectives　English 3 focuses on developing reading skills, with an emphasis on acquiring English grammar and building vocabulary. Using a textbook that consists of brief passages on a variety of topics and related exercises, students will practice reading comprehension skills and grammar rules effectively in combination.

LANd100TA

独語 1

教科担当責任者：**上田　知夫**

担当者：**宮城 学**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象です。文字・発音についての最も基本的な学習から始め、語・文章へと順に学んでいき、基本表現が理解できるようになることが目標です。

具体的には、主に次の事項について理解し修得できるように学習を進めます。

1．ドイツ語の基本的な単語の発音ができる。
2．動詞の現在人称変化を理解し、適切な形に活用できる。
3．名詞の文法上の性と格を理解し、適切な形で運用できる。
4．不規則変化動詞を理解し、重要な動詞に関しては迷わず活用できる。
5．様々な冠詞類について理解し、適切な形で運用できる。
6．前置詞の格支配について理解し、適切に表現できる。
7．主文と副文の構造、定動詞の位置について理解し、英語と異なる語順に慣れる。
8．助動詞構文における不定形とその位置、完了形における過去分詞の形とその位置を理解する。

2　科目の概要　どんな言語でも、上達するには「習うより慣れろ」と言われます。では、慣れるには？ 一番は “声に出して自分の耳に聞かせてやる” ことです。幸いドイツ語の発音はローマ字読みが原則ですから、英語やフランス語に比べれば、比較的シンプルです。大きな声で少し気取って発音してみてください。

単語も単独の語として覚えるのではなく、やさしくシンプルな句や文にして、それを暗誦してみてください…テキストにはそんな句や文がたくさん載っています。リズムよく発音できれば気持ちもよくなって、気持ちよく発音したものは、しっかりと記憶に留まるものなのです。これが上達への王道です。

文法は、覚えることがたくさんあって大変だと思いますが、ポイントをしぼれば学ぶのがずいぶん楽になります。例えば格変化などは、定冠詞と不定冠詞の変化を確実に覚えておけば、あとはその応用で済みます。

覚えた文法は、作文をして確認してみるのがよいでしょう。テキストにある文の名詞を変えてみたり、冠詞類を変えてみたりして練習してください。

テキストにある長文を、暗記するくらい何度も声に出して読んでみましょう。そうすれば自然に意味が理解できるようになります。それが初級後期から中級へのステップにつながるでしょう。

3　成績評価基準　試験には学習範囲についての総合的な理解が問われる問題が出されます。一つ一つの文法事項を学びながらも、何かを伝えようとする言葉としてドイツ語に接し、常に文章の意味を理解しようと心がけてください。

最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本　高田　博行『素朴なぎもんからわかるドイツ文法』郁文堂、2010 年、￥1,800+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。動詞の人称変化は、文法項目としてはさほど問題はないのですが、作文では、例えば Er hast einen Wagen. のようなミスが散見されます。これは、和訳や作文の際に〈主語―動詞〉がしっかりと意識されていないことが原因の一つと思われます。「何が〔誰が〕どうした」ということを常に意識するようにしてください。

初級者にとっての最大の難関は、やはり格変化のようです。定冠詞と不定冠詞の格変化は、絶対に確実に覚えてください。ここが不確実のままだと、その後の学習のすべてが砂上の楼閣になってしまいます。

格変化については、２格の用法に問題を抱える人が多いようですが、克服の仕方は簡単です。基本的で単純な用例を確実に記憶しておくこと、これに尽きます…（他の場合も同様ですが）…。例えば Das ist das Buch des Vaters. の形と意味がしっかり記憶されていれば、Das ist das Buch *meines* Vaters. とか Das ist das Buch *dieses* Mannes. の斜字体部分の形も容易に理解されるでしょう。やさしく単純なものから難しく複雑なものへ、という手順を踏んでいけばよいのです。

作文する時の悩みは語順でしょう。作文で厳守しなければならないのは定動詞の位置です。定動詞は常に文章の二番目の位置に置かねばなりません…（副文は例外）…。でも、それ以外の文の構成要素の位置は驚くほど日本語に似ています。テキストの少し長めの文で確認してみてください。みなさんは英語の語順が頭にあるようですが、独作文では英語の語順は忘れましょう。

Übung macht den Meister.（練習次第で名人に）という諺があります。みなさんも効果的な練習でドイツ語マイスターへの道を歩みましょう。

Outline and objectives　In learning any foreign language, “Practice makes perfect.” is often said to be the best way.
What is “practice” in this class?
It is to pronounce German with a loud voice in order to get familiarized with it.
Fortunately, German pronunciation is almost all based on that of Roman alphabet.
So it is easier and simpler than those of English and French.
When you learn words, it is important to learn by heart simple and easy phrases and sentences instead of learning word by word.
Our text book is full of such kind of phrases and sentences.
Rhythmical and lively pronunciation will make you feel good, and feeling good will make your remembrance better.
This is the royal road.
As to the German grammar, there are so many things to understand and remember that you may feel it very troublesome and difficult.
However, focusing on the most important points, you will find it easier.
Let’s pronounce the sample sentences in our text book over and over again until you learn them by heart.
Then you will be able to get the meaning of each sentence, too.
And this will lead you from the elementary class to the intermediate one.

LANf100TA

仏語 1

教科担当責任者：**竹本　研史**

担当者：**柴崎 秀穂**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　フランス語を初めて学ぶ人を対象とする講座です。フランス語に親しむと同時に、基礎的な語彙と文法を習得し、実生活で用いられる簡単なフランス語を読んだり、書いたり、話したりできるようになることを目指します。関係代名詞・条件法・接続法を含む基本文法を網羅的に学習し、フランス語技能検定試験の４級に合格できるレベルです。

2　科目の概要　すべて自習による学習となります。教科書の内容を整理・補足したものが、担当講師作成の「スタディガイド (学習指導書)」です。指示された練習問題を解き、それについて記述報告するのがリポートです。まず教科書と「スタディガイド」を熟読し、教科書の練習問題を解き、リポートを作成してください。

3　成績評価基準　リポートも単位修得試験も 100 点満点で問題が構成されています。リポートは、S ： 95 ～ 100 点、A ： 90 ～ 94 点、B ： 85 ～ 89 点、C ： 80 ～ 84 点とし、80 点未満は「再提出」です。単位修得試験は、S ： 90～100 点、A ： 80～89 点、B ： 70～79 点、C ： 60～69 点、D ： 59 点以下です。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　『ゼロから始めるフランス語』猪狩廣志著（2000 年、三修社）、￥1,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックします。語学は、単語の暗記にも文法事項の習得にも音読が有効です。教科書付属のＣＤを十分に活用し、音読の練習に努めて下さい。またリポートで合格しても、単位修得試験でつまづくケースが多々見うけられます。単位修得試験の問題構成はリポートの問題構成とほぼ一致しますので、それを考えて試験の対策と準備をしてください。

Outline and objectives　Students taking this course will learn French grammar, including relative pronouns and the subjunctive mood. They will be able to read, write and speak simple French used in everyday life.

HSS100TA

健康・スポーツ科学概論

教科担当責任者：**伊藤　マモル**

担当者：**伊藤 マモル**
単位数：**2 単位**

※ 2021 年 4 月よりスタディガイド刊行

1　学習の到達目標　健康は「失って初めてその大切さがわかる」と良く言われる。これは健康に問題を感じていない人々が、健康を害している人あるいは害した経験がある人に比べて、健康への関心が総じて薄いからだと思う。

多くの人にとって、健康は人生を支える基盤だという見方ができる。仕事、趣味、日常生活において、自分の目標を成し遂げようとするとき、心身がより健康な状態である時の方が、その達成度は高いと言えよう。自分が持つ最高のパフォーマンスを発揮しようと思うなら、少なからず健康である方が良いということだ。他方、近い将来、日本では不健康であることが経済的にも社会的にも不利になる時代が到来する可能性が高い。

そこで本科目では自宅で実施可能な体力測定を通じて、より豊かな人生を築くための健康と体力の保持増進の今後の在り方を考えてもらう。その過程で達成してほしい目標を以下に示す。

【到達目標】
１）身体の構造や働きを説明できる
２）体力測定を実施できる
３）体力測定の結果を図表に整理して示すことができる
４）体力測定の結果から自らの健康の保持増進に資する改善点を指摘できる
５）今後の健康の保持増進に資するトレーニング種目を列挙できる
６）今後の健康の保持増進に資する栄養・食事の必要性を説明できる
７）心理学的な視点から今後の健康の保持増進に関する意見を述べられる

2　科目の概要　この科目の学習は**課題解決型**である。

すなわち、履修者自身の健康を管理（コンディショニング）するために、自らの**体力測定結果**を教材として、**生活の質を高める態度**を見直すことが本科目の目的である。

なお、リポート作成によって取り組んだ自己学習の成果は、リポート及び筆記試験（または試験リポート）によって評価される。

3　成績評価基準　【リポート評価基準】

以下に示した**三つのステージ**の順で評価を行う。

※評価基準に満たないステージがあれば、その時点で再提出とする。

第一ステージ＞設題総覧にある**課題 1** の１）～５）に関するリポートが適切であること。

第二ステージ＞リポートの**書式や構成**（頁を付ける、見出しを付けるなど）が読み手の立場に立って適切に整えられていること。具体的には次の１～８）に不備がないこと。

１）頁が付けられ、適切な段落分けがされている
２）適切な小見出しがあり、記述の流れに違和感がない
３）漢字や言葉の使い方が誤っていない
４）解答のための文字数に過不足がない
５）健康の保持増進に取組んだ前後の測定結果を図表で明確に示している
６）設題に対して適切な解答を述べている
７）参考文献の引用や記載方法が正しい
８）再提出の場合は、前回リポート講評を元に加筆修正され

ている

第三ステージ＞設題総覧にある課題２の各測定結果の**客観的な分析**および**考察の内容**（随筆的にしない）などが設題からずれていないかを以下の１）～５）に沿って確認する。

１）設問の趣旨に沿った論点整理や解答・解説ができている（論旨や展開が明確である）

２）本科目で学習した専門用語を適切に使用している（テキスト・参考文献の理解や利用）

３）根拠や理由を踏まえた客観性のある明確な説明ができている（テキスト・参考文献の読解力・引用）

４）問題意識をもった独自の意見、反対論、創造的な発想が述べられている（柔軟性のある批判や考察）

５）建設的な意見や実感のこもった自分の言葉が読みやすく書いてあるか（光るポイントがある）

※　１）～５）に当てはまらない内容が３割以上の場合は再提出とする

【試験の評価基準】

試験は５つの設問で構成され、配点は各 10 点で合計 50 点として採点する。

【単位認定】

リポートの評価（50 点満点）及び試験の評価（50 点満点）の合計点から成績を判定し単位認定する。

４　テキスト名および詳細　伊藤マモル監修『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論（増補改訂版）』、2017 年、（日本文芸社）、￥1,800+税

５　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　スタディガイドの「リポート作成の手順」を参考にしてください。

試験では、指定テキストならびにリポート作成において学習したことが出題されます。筆記試験の場合は、適切な語句の解説や実技に関する注意事項など、幅広い視点から学修した専門用語などを問う問題が出されるため、指定テキストを全般的に読みこんで試験にのぞんでください。

Outline and objectives　The purpose of this subject is to learn to manage health by ajusting attitudes that improve the quality of life.

For that purpose, students have to measure physical strength measurements yourselves. And students prepare a report on the tasks presented as the main teaching materials based on the physical fitness measurement results.

Also, the learning outcome you gained during the process of reporting is evaluated by written exam.

LAW100TB

民法総則

教科担当責任者：**大澤　彩**

担当者：**大久保 慎太郎、大澤 彩**
単位数：**4 単位**

１　学習の到達目標　通則、人、法律行為、時効制度など、民法総則の基本知識・考え方を理解するとともに、高齢化社会、契約トラブルなど現代社会における法的問題について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につける。

２　科目の概要　民法は、市民社会における市民相互の関係を規律する私法の基礎である。その中でも、民法総則には、市民社会の主体である人に関するルールから、契約を中心とする法律行為に関するルール、時効制度など、民法全体を把握する上で不可欠である基本ルールが定められている。本科目ではこれらの民法の基本ルールについて、判例の状況や学説の動向を理解し、民法の基本的な考え方を身につけることを目的とする。

３　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

４　テキスト名および詳細　指定市販本『民法の基礎１・総則』第 5 版、有斐閣、佐久間毅、2020 年、￥ 3,100+税
※第 4 版（2018 年）も使用可。

５　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。もっとも、民法総則の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（総則・物権）』、『民法判例百選』等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。そのためには判例の原文（最高裁判所ＨＰや本学図書館ＨＰに掲載されている法律情報データベースで閲覧可能である）にもあたること。

さらに、総則の一部については法改正がなされた。審議経過や改正法等は法務省の HP で確認すること。また、法改正に関する主な書籍として以下のものがある（いずれも改訂がありうることから 4 月の時点での最新版を参考にすること）。

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017 年、￥ 3,200 ＋税

山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017 年、￥ 1,200 ＋税

大村敦志・道垣内弘人編『解説　民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017 年、￥ 3,200 ＋税

潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正』弘文堂、2017 年、￥ 3,300 ＋税

潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018 年、￥ 6,500 ＋税

Outline and objectives　We learn Civil law, especially this general rule.

LAW200TB

憲法

教科担当責任者：**建石　真公子**

担当者：**建石 真公子、土屋 仁美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特色を理解する
日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する
日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する

2　科目の概要　この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約 190 カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　・指定市販本『現代日本の憲法［第 2 版］』、法律文化社、元山　健・建石真公子編、2016 年、￥2,800+税
※初版（2009 年）も使用可
【参考文献】
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第 7 版』有斐閣、2019 年
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第 7 版』有斐閣、2019 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解する、というのが基本である。

まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。
憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives　Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution.
Understand the definition of human rights protected by the Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection.
Understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution

LAW200TB

物権法

教科担当責任者：**川村　洋子**

担当者：**川村 洋子、宮島 薫**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　①　物権・担保物権法に関する民法上の制度の基本を正確に理解できること
②　その知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること

2　科目の概要　「物権法」は、物権と担保物権を学習する分野で、民法の条文としては、「第２編　物権」に含まれる 175 条から 398 条の 22 までを扱う。

民法上の権利は、財産上の利益を内容とする財産権と身分上の利益を内容とする身分権に大別され、財産権は物権と債権とに分かれる。債権とは特定人に対して特定人が一定の給付を求めることを内容とする権利であるのに対して、物権は、物を直接的・排他的に支配する権利を指す。物権の中心は、物の使用価値と交換価値に及ぶ完全な支配力を内容とする権利（使用・収益・処分権原）である所有権である。民法には、合意による所有権の移転プロセスを主に対象とする、物権変動に関する重要な規定がある。

この所有権のもつ価値支配権のいずれかのみを行使できるにとどまるものを制限物権、或いは他人の所有物上に成立するという意味において他物権と呼ぶ。制限物権には、他人の土地の利用を内容とする用益物権（地上権、永小作権、地役権）と、（直接または間接的に）交換価値支配を主たる内容とする担保物権（留置権、先取特権、質権、抵当権）がある。

上記物権のほか、物を事実上支配していることに基づいて認められる占有権がある。物権としては沿革を引きずった特殊な権利であるが、占有に関する規定はとりわけ動産の所有権取得との関係で重要である。

全体としては、体系的に整った学習しやすい分野と言えるが、民法に規定がなくもっぱら取引社会の要請から判例法により定着した担保形態（譲渡担保に代表される非典型担保）があるなど、判例により形成された法理の学習が不可欠である。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『新・マルシェ民法シリーズⅡ　新・マルシェ物権法・担保物権法』嵯峨野書院、宮本健蔵編著他、2020 年、￥3,700 ＋税
※【スタディガイド（学習指導書）】なし

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。①　物権法に限らず、およそ民法を学ぶに際しては、条文を必ず参照する習慣をつけること。条文を使いこなす能力を身につけていることが法学部生の強みである。
②　物権法・担保物権法上の基本的な概念を正確に理解すること。例えば、「所有権」とは、或いは「抵当権」とはいかなる権利か、「占有」と「占有権」の概念に違いはあるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストを各概念の定義から丁寧に読みおこすことが必要である。
③　同時に、上記基本概念は、訴訟において原告・被告が具体的な法的主張を行う根拠として機能する。例えば、「所有権」は所有権に基づく返還請求権を行使する局面で、また「留置権」は返還を拒絶する反論において、それぞれの攻撃・防御の主張を支える「道具」となる。このような実践的な展開を意識しながら、要件・効果を学習していくことが望まれる。
④　民法は、各部分が他の部分と関連し合い、全体として有機的一体をなしている。物権法・担保物権法を学習するに際しても、民法総則、債権総論、債権各論、親族法に関わる説明がなされているときは、できるだけ該当分野のテキスト・参考書を参照していただきたい。とりわけ担保物権法は、債権総論の責任財産保全制度や人的保証とともに、債権回収手段として活用されている分野であるから、債権法の知識を身につけていないと理解が難しい。さらに、担保物権のなかでも抵当権については、民事執行法の基礎的な知識があると、一層、理解を深めることができる。また、物権・担保物権に関するテキスト・参考書は当該権利そのものの説明が中心となるが、物権変動にせよ、用益物権・担保物権の設定にせよ、それを媒介するのは当事者間の契約であり（売買契約、抵当権設定契約など。法定の制限物権を除く）、契約法理を考慮すべき場面が多いことに留意していただきたい。

Outline and objectives　This course addresses laws of property and security interests, the principles of which are provided in Chapter 2 of the Japanese Civil Code. Property law introduces students to the basic forms of establishing entitlements, the rules on transfer of ownership in general, conveyancing and private control of land use. Security interest refers to the property rights of a creditor whose right to collect a debt is secured by property (‘collateral’) and this course covers the rules on several types of security interests: mortgages, charges, pledges and liens.
Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major property-related issues which may arise in a particular factual situation.

LAW200TB

刑法総論

教科担当責任者：**今井　猛嘉**

担当者：**今井 猛嘉、カロリーヌ・ルブルトン**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　犯罪論について、基本的な理解を得ることを目的とする。
犯罪論とは、犯罪の一般的成立要件を検討する分野である。
例えば、殺人罪、窃盗罪が、どのような要件の下で成立するのかに関する一般論を、判例、学説を踏まえて検討する。

2　科目の概要　犯罪論では、犯罪の定義（構成要件に該当する行為であって、違法、かつ有責なもの）の意義を、具体的な事例を通じて学習する。
その際には、関連する、判例、学説を十分に考慮する。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『刑法総論』今井猛嘉、第 1 版、2019 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストをよく読み、具体的な事例の解決方法を、条文を見ながら考えてください。

LAW300TB

債権総論

教科担当責任者：**宮本　健蔵**

担当者：**比嘉 正**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　債権総論を学習するにあたっては、テキストに掲げられた事柄を中心として、財産法の基本的な構造と条文の規定内容および判例法理などの法的な基礎知識を修得することが先ず第一に求められる。その上で、現実の取引関係から生ずる具体的な法律問題について、多角的な観点から分析し、これらを比較検討して妥当な解決を見出すという柔軟な思考力を養うことが重要となる。

2　科目の概要　債権法は、物権法と並んで現代自由主義経済社会を法的側面から支える基礎法である。民法典は第３編で債権について規定するが、これは第１章総則、第２章契約、第３章事務管理、第４章不当利得、第５章不法行為の５つの章で構成される。

第２章以下は債権の発生原因ごとに規定したものであるが、第１章はこのような債権の発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定める。具体的には、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権および債務、債権の譲渡、債務の引受け、債権の消滅、有価証券である。債権総論はこれらを対象とするものである。

なお、民法 (債権関係) の改正法が 2020 年 4 月 1 日から施行された。改正法の学修に際しては、旧法からの変更点にも注意する必要がある。

3　成績評価基準　成績評価にあたっては、①基本的な法的知識が身についているかどうか、②問題点の把握が十分になされているか、③判例や学説を踏まえた上で、論理的に論旨が展開されているかなどを考慮して行う。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『新・マルシェ債権総論』嵯峨野書院、宮本健蔵編著、2019 年、￥ 3,850+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　学習するに際しては、テキスト以外に次の参考文献を活用して下さい。

①「民法判例百選Ⅱ－債権」（第 8 版）　有斐閣
　これは重要な判例を選んで解説したものです。これによって、具体的な事実関係と判旨、および当該判例の意義とこれに関する学説を理解することができます。

②「改正債権法コンメンタール」(2020 年)　法律文化社
　これは条文毎にその意味と内容を解説したものです。各条文の意味が知りたいときは、これを参照して下さい。

③「法律学小辞典」有斐閣
　法律の専門用語が分からないときにこれを使用します。すべての法律科目に共通して役立ちますので、是非これを手元において学習して下さい。

Outline and objectives　Claims arise based on contracts or the provisions of laws such as torts. In this lecture, we deal with matters common to these claims.

LAW300TB

債権各論

教科担当責任者：**川村　洋子**

担当者：**足利 沙緒理、川村 洋子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①　契約の概念及び双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅に関わるルールを説明することができること
②　民法に規定された契約類型についてその権利義務の発生・関係・終了に関わるルールを説明することができること
③　基本型不法行為の類型並びに要件・効果、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果、及びその他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができること
④　①から③の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること

2　科目の概要　「債権各論」は、民法第三編「債権」の第二章から第五章までの各種の債権発生原因を扱う。条文としては 521 条から 724 条の２にわたる、相当に広範な領域を対象とする。

債権は、その発生原因を基準にするとき、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）の二つに大別される。契約的債権に関する法は、さらに、契約総則（契約の成立、基本的効力、解除）と、13 の契約類型（売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等）別に規定が置かれている契約各則に分かれる。法定債権を発生させる原因には、先に挙げた不法行為の他、不当利得と事務管理が含まれる。

いずれも、今日的な課題に直面している。契約法理を、契約当事者が私的自治としてつくりだす新しい契約現象を国による保障の結びつく契約関係として法的構成していく道具と捉えたとき（契約関係の構成システム）、どのような構成システムが有効であり得るか、を主体的に問わなければならない。

また、産業革命以降の社会が生み出した現代的な過失（間接加害型）不法行為は、単純な過失行為から、危殆責任、医療過誤、広域被害までの広い振幅をもつ。明治期につくられた民法の不法行為の条文とのくい違いに対して判例がどのように対応し、また学説がどのような理論をもってそのくい違いを埋めようと試みているか、を学習することが不可欠な分野である。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『新ハイブリッド民法４ 債権各論』新版、法律文化社、滝沢昌彦他、2018 年、￥3,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。①　債権各論に限らず、およそ民法を学ぶに際しては、条文を必ず参照する習慣をつけること。条文を使いこなす能力を身につけていることが法学部生の強みである。
②　契約制度及び不法行為制度に関わる基本的な概念を正確に理解すること（不法行為における「過失」とは、或いは「不法原因給付」とは何か）。そのためには、まず各概念について説明している箇所を丁寧に読み、整理することが必要である。
③　さらに、契約法も不法行為法も古くから存在する法制度であり、時代の変遷とともにその役割を変容させつつ時代的適応を図ってきた。したがって、基本概念や制度の歴史的生い立ち、社会的背景、それを問題処理基準とする紛争類型についての理解に努めるとともに、判例の展開とその意義や射程についての学習に力を注いでいただきたい。とりわけ、時代を画した判例（特に破棄判例）については、判決内容はもとより、その事実関係、原判決、上告理由まで押さえていくと、理解が深まる。
④　上記基本概念は、訴訟において原告・被告が具体的な法的主張を行う根拠として機能する。例えば、「過失」は被告の不法行為を理由とする損害賠償請求権を行使する局面で、また「責任能力」は不法行為責任を免れるための反論において、それぞれの攻撃・防御の主張を支える「道具」の一つとなる。このような実践的な展開を意識しながら、要件・効果を学習していくことが望まれる。
⑤　民法は、各部分が他の部分と関連し合い、全体として有機的一体をなしている。債権各論を学習するに際しても、民法総則、物権・担保物権、債権総論、親族法に関わる記述が出てくるときは、できるだけ該当分野のテキスト・参考書を参照していただきたい。とりわけ契約法は、民法総則（人、意思表示など）や債権総論（債権の目的、受領遅滞、債務不履行、弁済など）と密接に関わることが多く、不法行為（債権侵害など）や不当利得（給付利得類型）においても契約法理との交渉が問題になる。
⑥　法定債権を除く債権法分野については民法改正法が 2017 年 5 月に成立、2020 年 4 月 1 日から施行されている。改正法の内容は、確立された判例法理の明文化を中心とするが、多数説をとりいれた領域などもあり、改正法を深く理解するためにも現行の成果を十分に学習するとともに、改正法に対応した参考書等を活用していただきたい。

Outline and objectives　This course introduces students to the basic concepts of contract law and tort law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts and torts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, and those of tort law in Chapter 5. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code. Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract and tort issues which may arise in a particular factual situation.

LAW300TB

商法総則・商行為法

教科担当責任者：**樣川　泰史**

担当者：**松谷 秀祐**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　企業組織・企業取引に関してわが国ではどのようなルール・仕組みが用意されているかについて基本的な知識を修得しており、それらルール・仕組みの概要を説明することができる。

2　科目の概要　本科目は、商法（明治 32 年法律 48 号）のうち、第 1 編総則（第 1 条から第 31 条）、第 2 編商行為（第 501 条から第 617 条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成 17 年法律第 86 号）第 1 編総則（第 1 条から第 24 条）のうち、商法第 1 編と同様の規定が置かれている部分についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記 3 編における重要な規定、および関連する重要判例について出題を行います。

3　成績評価基準　リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019 年、￥1900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　本科目の学習に際しては、以下の５点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

⑴　概念や法技術の「つながり」を意識しながら学習を進める。

商法は他の法分野と比較して、なじみが浅く興味が持ちにくいと考えられがちです。確かに、商法の中には、特有な意味を有する特殊な概念や法技術が多く用いられています。しかし、それらの概念や法技術は、当然、一定の目的を達成するために、商法の中に用いられているのです。そこで、テキストを通読する際には、商法上の概念や法技術はそれぞれどのような目的や狙いを持っているのか、それぞれの概念や法技術は相互にどのような関連性を有しているのかという点に留意しながら読み進めていってください。そうすれば学習を進めていくにつれて、理解も深まり、商法の学習に興味が持てるようになるでしょう。

⑵　テキストを自分だけの本に加工する。

ただ、漫然とテキストを読んでいるだけでは、情報が右から入って左から出ていくだけです。そこで、テキストを通読する際には、必ずペンなど筆記用具を持ちながら、読み進めていってください。

その際、たとえば、条文の内容など、重要そうな概念を説明した箇所には赤のアンダーラインを引く、条文の文言が曖昧なために、判例・学説上争いがある箇所（このような箇所を「論点」とも言います。）には青のアンダーラインを引く、一読して意味がよくわからなかった箇所には「？」マークを余白に鉛筆で書く、というように、テキストを自分だけの本に加工していってください。最初は「？」マークだらけ、あるいは１ページ読み進めるのに１日かかることもあるでしょうが（私も法律の勉強を始めたころにはそうでした。）、着実に一歩一歩、歩みを進めていってください。

⑶　常に傍らに六法、法律学小事典などを置いてテキストを通読する。

テキストを読み進める際に、条文が出てきたら六法で該当条文を調べる、また、意味がわからない用語が出てきたら、『法律学小辞典』（有斐閣）などの法律学辞典を調べるというくせをつけるようにして下さい。ごくまれに、テキストに書いてある文章を丸写しして、該当条文も調べていない、自身で意味がよくわかっていない用語も調べていないリポートに出会いますが、そのような「手抜き」リポートは見た瞬間にわかります。一語一語、調べながら読み進めることは一見すると遠回りのようですが、実は、リポート合格、単位修得試験合格への一番の近道であるのです。

⑷　当事者の関係図などをメモにとりながらテキストを読み進める。

テキストを読んでいると、多数の当事者が出てくる事例にも遭遇します。たとえば、次のような事例があります。「X は A 会社に対する貸金債権の担保のため A 会社からアンゴラ毛糸を譲渡担保にとっていた。A 会社の倒産後、X はこれを換価処分しようとしたが、X は金融業者であり、自ら買主を探すことはできなかったので、A 会社の代表に毛糸の売却を依頼し、B はこれを Y に売却した。B は毛糸の売買の際、X のためにすることを示さず、また、Y 会社はその毛糸が A 会社より X に譲渡担保に供されていたことを知らなかった。X が Y 会社に代金を請求したところ、Y 会社は A 会社に対する反対債権と売買代金債務を相殺したと主張した（指定市販本 111 ページ以下）。」どうでしょうか。一読して、当事者関係および事案の流れを明確に把握できたでしょうか。テキストではこのような複雑な事例が多く出てきますので、そのような事例に遭遇した際には、頭の中だけで悩むのではなく、実際に当事者関係の図（例： X→A 会社代表 B→Y）や、時系列の図（例：譲渡担保 → 倒産 → 代理行為）を付箋やノートに書きながら読みすすめていってください。

⑸　商法総則・商行為法はそれ自体で完結した科目ではないことに注意する。

シラバス冒頭で商法総則・商行為法は企業の組織及および取引に関する科目であると説明しましたが、企業の組織および取引に関する規定の全てが商法・会社法に定められているわけではありません。

そのため、テキストを読み進める際、また、リポート作成の際、あるいは単位修得試験の対策の際には、他分野、特に、私人間の関係について広く一般的に規定した民法に関する知識が必要不可欠になります。

通学部あるいは通信教育部を問わず、受講生から、商法総則・商行為法の内容が難しい、理解できないという質問をよく受けるのですが、実はその悩みの主たる原因は、基本となる民法の知識及び思考方法が身についていないことである場合が多いと感じています。ですから、遠回りのように感じるかもしれませんが、まずは民法各科目のテキストあるいは、たとえば、野村豊弘『民事法入門〔第 8 版〕』（有斐閣、2019 年）などを通読し、民法の規定についてひととおり学習（復習）した上で、本科目の学習を始めると理解度が全く異なったものになるでしょう。

Outline and objectives　１．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生
２．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TB

会社法

教科担当責任者：**柴田　和史**

担当者：**笹久保 徹**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。
①　株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。
②　上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2　科目の概要　株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005 年（平成 17 年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899 年（明治 32 年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法○○条ではなく、商法○○条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行なわなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るところの金銭を「配当」という。わが国には、約 250 万社の株式会社が存在し、その中の約 4000 社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律ということができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

3　成績評価基準　最終評価は単位修得試験で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『会社法詳解〔第 3 版〕』柴田和史、商事法務、2021 年（予定）
※第 2 版（2015 年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史著『会社法詳解』（商事法務））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法 (日経文庫)』（日本経済新聞出版社）を見てほしい。
①　会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶに際しては、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。
②　会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。
③　会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で 979 条もあり、そのうえ、各条文が長いため、六法のページ数を比較すれば、民法典の約 2.5 倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。
④　会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することよりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト (柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021 年）以外にも以下の図書が参考となる。
1. 柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法〔第 2 版〕(日経文庫)』（日本経済新聞出版社、2021 年）、￥1,000（税抜）
2. 柴田和史著『類型別　中小企業のための会社法〔第 2 版〕』（三省堂、2015 年）、￥2,800（税抜）
3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第 4 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥2,900（税抜）
4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第 2 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥3,800（税抜）
5. 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』(別冊ジュリスト 229 号)（有斐閣、2016 年）、￥2,400（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives　The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TB

刑法各論

教科担当責任者：**今井　猛嘉**

担当者：**今井 猛嘉、カロリーヌ・ルブルトン**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月より通教テキスト改訂

1　学習の到達目標　刑法とは何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを検討する学問領域であり、刑法典に沿った学習がなされる。刑法各論では刑法典各則（77 条～264 条）、その他の刑罰法規における個別的成立要件を具体的に検討する。
学習の中心は個人的法益に対する罪になるが社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪等も適宜、学習が指示されることになる。
各犯罪について、どのような判例が存在し、どのような解釈がなされ、犯罪の成立が肯定、あるいは否定されてきたかを学習することで、同様の、あるいは類似の事例において、法的に適切な結論を導くことができる能力を習得することが目標である。

2　科目の概要　刑法各論では刑法典各則（77 条～264 条）の条文に基づき、その具体的意義の解釈を通じて、犯罪（例えば、殺人罪、窃盗罪）が如何なる場合に成立するのか、これを犯した者にはどのような刑罰が予定されているのかを学習する。総論の学習と同様に、条文、判例、学説についての学習が要請されることになる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『刑法各論』（第 3 版）今井猛嘉、2021 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。刑法各論の学習では、具体的な犯罪（例えば、殺人罪、窃盗罪）が、どのような場合に成立するのかを、判例を通じて具体的に理解することが重要である。そこで、学習に際しては、総論の学習と同様に、条文を読み、関連する判例を確認し、その上で教科書を熟読して確認するという作業を続けてもらいたい。

LAW300TB

国際法総論

教科担当責任者：**田中　佐代子**

担当者：**田中 佐代子、開出 雄介**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　現代国際法の総論分野について基本的な法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。
これに加えて、各法制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会のあり方をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

2　科目の概要　国際法は国際社会の法であり、主として主権国家相互の関係を規律する。このうち、国際法総論では、現代国際法の特徴（国内法との比較、近代国際法との比較）、法源、条約法、国際法と国内法の関係、国家、外交関係法、国家管轄権、裁判権免除、国際組織法の概要、国家責任法、国家領域などを扱う。
詳細は、スタディガイド（学習指導書）参照。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『講義国際法』第 2 版、有斐閣、小寺　彰・岩沢雄司・森田章夫、2010 年、¥ 4,300+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり（スタディガイドは、2016 年 3 月一部補訂しました。）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。国際法総論で扱われる内容には理論的色彩の強い問題も多いが、それについて論じる実際的な意義がどこにあるのかを常に意識しながら学習することがきわめて重要である。そのための一つのポイントとして、判例については『国際法判例百選〔第 2 版〕』（有斐閣、2011 年）（改訂の可能性に注意）をはじめとする判例集で事実の概要と判旨を確認し、当該事件の位置づけを理解しなければならない。
また、ある主題について学説対立があるような場合には、単に、学説の内容を知るだけではなく、それぞれの主張の背景にどういった問題意識があるのかまで学ばなければならない。（つまり、「A 説と B 説があり、現在では後者が一般的である」といったことを知るだけの平面的な理解では不十分である。その学説は、どのような時代状況において、あるいはどのような利害対立の中で、何のために提示されたものだったのか、学説の相互関係はどのようになっているのか、などに注意しなければならない。例えば「B 説は A 説のどのような問題を克服しようとするものなのか」とか「B 説が一般的になった今でも A 説をとる論者がいるのはなぜか」といったことまで考えてみる必要がある。そのようにして学説対立を立体的に把握する努力をすることで、国際法総論の学習は格段に面白くなる。）
学習の際には、テキストに出てきた条文を必ず条約集で確認しなければならない。複数の種類の条約集が出版されており、いずれを使用してもよいが、『国際条約集』（有斐閣）または『ベーシック条約集』（東信堂）を推奨する。
その他の詳細は、スタディガイド（学習指導書）参照。

Outline and objectives　This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited

to: historical development of contemporary international legal system, sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, diplomatic and consular relations, jurisdiction and immunity, international responsibility of States, and international organizations.

LAW300TB

行政法

教科担当責任者：**西田　幸介**

担当者：**氏家 裕順、西田 幸介**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(1) 行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
(2) 行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
(3) 行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
(4) 行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
(5) 行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
(6) 行政法の基本原理、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

2　科目の概要　行政法とは、行政に関する、それに特有の法をいう。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律が存在していないこと、言い換えれば、一般法典を欠くところにある。この科目では、このような行政法について、その基礎的な事項を学ぶ。そこで取り上げられるのが、個別の行政領域に見られる各種の法律問題ではなく、行政の全領域にわたって通用する一般的な法理であることに注意が必要である。

行政法は、行政法総論、行政組織法、行政作用法および行政救済法に分けて、検討されるのが一般的である。この科目では、行政と行政法の意義、行政法の基本原理、行政組織法の基本概念、各種の行政の行為とその法的規制について学ぶ。これらは、上の行政法の諸領域のうち、行政法総論、行政組織法および行政作用法に属する。行政救済法については、別に同名の科目が開設されている。

行政作用とは、行政主体の活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

行政の行為とは、行政主体ないし行政機関が行政作用として行う行為のことをいう。従来から行政法学が考察の対象としてきた行政の各種の行為として、行政による規範制定（法規命令と行政規則）、行政計画、行政行為、行政契約、実力行使（即時強制と強制執行行為）および行政指導がある。これら行政の行為が恣意的に行われてはならないことはいうまでもない。そこで、行政の行為に対しては、実体・手続の両面から各種の法的規制が行われている。これら行政の行為のうち、行政行為は、これまで行政法学において最も重要なものと考えられてきた。このため、行政行為の法理について、より詳細に検討する必要があろう。その具体的内容は、①行政行為の効力、②行政行為の瑕疵、③行政行為の手続、④行政行為の職権取消しと撤回、⑤行政裁量である。伝統的に行政法学では、行政作用ないし行政の行為の議論のほとんどは行政行為論に当てられてきた。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。評価に際しては、提出されたリポートの内容も考慮する。単位修得試験は、論述式により、出題される各論点に関する正確

な知識とともに、適確に行政法総論、行政組織法および行政作用法を理解することができているか否かを問うものとする。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『行政法』第1版、西田幸介著、2016年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

一般的な注意点として、学習に当たっては、まず指定されたテキストおよび参考書を通読することが必要である。また、教科書の各項目を学ぶに当たっては、関連する法律の条文や判例（の原文）を必ず通読すること。

行政法を学ぶに当たっては、やや抽象的な法概念を理解する必要がある。抽象的なものを抽象的に考えいていても、普通は理解できないので、具体的な問題と関連づけながら学ぶのがいいだろう。行政法で登場する概念の多くは、食品衛生法、都市計画法、建築基準法などの個別行政分野の諸法律を解釈するための道具である。このため、これらの法律を参考にすることなく、行政法を理解することはほぼ困難である。行政法の学習には、判例を読むことといった実定法のどの法分野でも必要なことに加えて、行政法学が作り出した道具概念を具体例としての個別法を参照しつつ理解することが不可欠といえる。

Outline and objectives　In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.

LAW300TB

行政救済法

教科担当責任者：**西田　幸介**

担当者：**氏家 裕順、西田 幸介**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(1) 行政救済に関する主要法律（行政事件訴訟法、行政不服審査法、国家賠償法）について、その概要を正確に説明することができる。
(2) 行政活動をめぐる紛争について、その具体的事案に応じて、紛争解決にとって適切と考えられる法的手段を選択し、その適否を論じることができる。
(3) 行政事件訴訟について、抗告訴訟と当事者訴訟の区別を理解し、抗告訴訟のうち取消訴訟について、その訴訟要件や判決について、正確に説明することができる。
(4) 行政上の不服申立てについて、その類型、申立要件、裁断行為（裁決・決定）、抗告訴訟との違いについて、正確に説明することができる。
(5) 国家賠償について、国家賠償責任の類型、類型ごとの成立要件、民法が定める不法行為責任との違いについて、正確に説明することができる。
(6) 損失補償について、その要否と内容、国家賠償との違いについて、正確に説明することができる。

2　科目の概要　「行政救済法」では、別に開講されている「行政法」の内容を前提に、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政作用をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

行政事件訴訟は、行政作用について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。行政上の不服申立ては、行政をめぐる紛争につき私人が行政機関に不服を申し立てて、行政機関の裁断により紛争を解決するものである。

国家賠償とは、国家賠償法に基づいて、国家が私人に対し違法に損害を与えた場合にそれを填補することをいう。不法行為に基づく損害賠償の一種である。国家賠償責任には公権力行使責任と営造物管理責任が含まれる。損失補償とは、国家が私人に対してした適法な行為により加えられた財産上の損失を填補することをいう。これは、個人の財産の収用が行われたときに、それを原則として金銭で填補するものである。その典型例として、土地収用の場合の補償を挙げることができる。

行政救済の主要な手段は行政事件訴訟であるといえるが、行政上の不服申立てや国家賠償・損失補償が果たす役割は必ずしも小さいものではない。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。評価に際しては、提出されたリポートの内容も考慮する。単位修得試験は、論述式により、出題される各論点に関する正確な知識とともに、適確に行政救済法を理解することができているか否かを問うものとする。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『判例から考える行政救済法』榊原秀訓・岡田正則・本多滝夫（編著）日本評論社、2019年、第2版、2,500円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　一般的な注意点として、学習に当たっては、まず指定されたテキストおよび参考書を通読することが必要である。また、教科書の各項目を学ぶに当たっては、関連する法律の条文や判例（の原文）を必ず通読すること。

行政救済法の学習に当たっては、判例を欠かすことができない。というのも、法律学の学習において判例法理を知ることが大切であるのと同時に、行政救済法は、行政活動をめぐる紛争を解決し、被害者を救済するためのものであって、その学習において、現実に被害者がどのような救済されたのか（あるいは救済されなかったのか）を具体的に考えながら学ぶことが大切であるからである。

Outline and objectives　In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to :

- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.
- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.
- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.
- Explain type of the responsibilities in State Redress Act, these requirements for establishment, and differences from the responsibilities of damages of torts prescribed by the Civil Code.
- Explain the just compensations for losses and understand its difference with compensations based on responsibilities in State Redress Act.

LAW300TB

労働法

教科担当責任者：**沼田　雅之**

担当者：**沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　**（労働法総論・労働契約法）**労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。
（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。
（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2　科目の概要　労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。

なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることがのぞましい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020 年、￥2,300 ＋税
※上記が入手できない場合の代替テキスト（2 冊使用します）
①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第 4 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦・高野　敏春著、エイデル研究所、2018 年、￥2,381 ＋税
②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集団的労働関係法・社会保障法』（第 2 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦編、エイデル研究所、2016 年、￥2,300 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　労働法は憲法 25 条の生存権保障理念の実現を労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27 条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28 条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法 27 条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法 28 条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。

そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、「特定の労働者に向けたルール」として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、リポートを作成してほしい。

Outline and objectives "General Labor Law and Labor Contracts Law"
The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.
"Labor Standards Law"
The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.
"Labor Union Act"
The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

LAW400TB

民事訴訟法

教科担当責任者：**倉部　真由美**

担当者：**倉部 真由美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(1) 民事訴訟手続の全体の流れを理解する。
(2) 民事訴訟手続を支える基本理念を理解する。
(3) 民事訴訟手続における個別の問題について、これまでに展開されてきた学説の議論および判例の考え方を理解する。
(4) 民事訴訟手続に関する具体的な事例に、適切な条文を適用し、上記の到達目標に掲げた内容を踏まえて、基本的な解釈論を自ら展開する。

2　科目の概要　広い意味で用いられる民事訴訟法には、六法に載っている民事訴訟法、民事保全法、民事執行法、破産法などが含まれ、この意味での民事訴訟法は民事手続法と呼ばれることもある。この科目が学習の対象とするのは、このなかに含まれる狭い意味での民事訴訟法であり、基本的に民事訴訟法と民事訴訟規則を扱う。民事訴訟法は、私人の間で民事上の紛争が生じた場合に、裁判所の判決による解決を図ることを目的とした民事訴訟手続（判決手続ということもある）について定めている。

例えば、あなたが友人にお金を貸していたところ、約束の弁済期日にお金を返してくれないという場合を考えてみよう。あなたはその友人を相手にお金を返せ！ と訴えようと思うかもしれない。このような場合に、どこの裁判所に訴えるのか、どういう請求をするのか、証拠とは何を意味するのか、裁判官はどのように審理するのか、判決はどのような効力をもつのか、判決に不服の場合さらにどのような手続をとればよいのかなど民事訴訟手続を進める上で必要なことが山ほどあるのである。

この科目では、各論として、まず最初に民事訴訟手続の開始から終了までの基本的な手続を学ぶ（第一審手続）。次に、応用編として、複雑な訴訟形態、不服申立手続、および、簡略な手続について学ぶ。

さらに総論として、民事紛争の解決制度、司法制度の中での民事訴訟、および、民事訴訟制度の現代的課題について学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかり行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『民事訴訟法』第 7 版（有斐閣Ｓシリーズ）、有斐閣、上原敏夫・池田辰夫・山本和彦、2017 年、￥ 1,700+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　民事訴訟法に限らず、法律学の学習は、教科書や体系書を 1 回通読して全体を十分に理解することは難しい。このことを覚悟の上で、辛抱して、繰り返し教科書等を読み返してほしい。まずは、細かい点、わからない点にこだわらずに、ざっと全体を読んで、民事訴訟手続の全体的な流れを大まかにつかもう。その際には、テキストの第 1 章はあとまわしにして、第 2 章から読んでもよい。なぜなら、総論は、民事訴訟手続の全体を学習した後のほうが、理解しやすいからである。

なお，テキストを通読する前に，福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟』（有斐閣，補訂版，2016 年）や山本和彦『よくわかる民事裁判ー平凡吉訴訟日記』（有斐閣，第 3 版，2018 年）を一読することを強くお薦めする。いずれも民事訴訟手続の具体的な流れを小説風に解説する本であり，いずれか一冊を読めば，民事訴訟の第 1 審手続

の概要を具体的に把握することができるであろう。

次に、手続の段階ごとに、発展的な学習に挑戦してもらいたい。この段階では、指定するテキストだけではなく、必要に応じて、より詳しい教科書や参考文献を読むことが望ましい。教科書は、実際に図書館や書店などで手にとって選ぶことをおすすめする。参考文献として、判例については、高橋宏志＝高田裕成＝畑瑞穂編『民事訴訟法判例百選〔第 5 版〕』（有斐閣、2015 年）、個別の論点については、伊藤眞＝山本和彦編『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009 年）を挙げておく。

学習に際して、丁寧に条文を参照し、条文を起点として理解する習慣を身につけることが必須であることは，民事訴訟法の学習に限られない。

Outline and objectives　この講義では，判決手続に関する民事訴訟法を学修する。民事訴訟法に限らず，およそ手続法と呼ばれる法分野の学習にあたっては，その具体的な時系列上の手続の流れと手続全体に通底する審理構造や基本原理の双方を把握する必要がある。加えて，手続法は，手続の運営に関して技術的な規律を多く含むが，これらの規律は常に上記の手続全体の流れと審理構造との関係において理解し習得しなければならない。その上で，具体的な民事紛争を念頭に置きながら，民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか，また，具体的にはどのような手続として運営されているのかについて理解するとともに，民事訴訟における概念や訴訟の審理構造について基本的な理解と知識を修得することを目的とする。

LAW400TB

刑事訴訟法

教科担当責任者：**田中　開**

担当者：**田中 開**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　刑事訴訟法について、判例・実務を中心としつつ、主要な学説も含め、基本的な理解を得ることを目的とする。

2　科目の概要　まず捜査では、逮捕・勾留、捜索・押収の学習が基本となる。その学習を基礎に、捜査上の諸問題にアプローチするのがオーソドックスな学習方法である。その上で、（被疑者の）取調べの学習に進めば、分かりにくいこの問題の理解も容易となろう。公訴の提起については、「審判の対象」論がポイントとなるが、それは「裁判の効力」論と有機的に関連していることを意識しながら学習する必要がある。次いで公判については、証拠法の学習が中心となる。もっとも、証拠法の学習には事実認定論が前提となるので、ここでは幅広い常識が要求されることを忘れてはならない。というのも、事実認定とは、経験則に基づく推論を本質とするものだからである。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『刑事訴訟法』第２版、福井　厚、2008 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
最新の判例等は以下の参考文献で確認すること。
【参考文献】
1　井上正仁・大澤裕・川出敏裕編（別冊ジュリスト）「刑事訴訟法判例百選」（第 10 版）(2017) 有斐閣
2　井上正仁・酒巻匡編（ジュリスト増刊）「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ 6）（2013）有斐閣
3　長沼範良・田中開・寺崎嘉博著「刑事訴訟法」（第 6 版）(2020) 有斐閣

Outline and objectives　Lecture of Law of Criminal Procedure.
The objective is to get basic understandeng of law of criminal procedure.

LAW400TB

国際法各論

教科担当責任者：**田中　佐代子**

担当者：**田中 佐代子、角 奈都子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　現代国際法の各論分野について基本的な法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。
これに加えて、各法制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会のあり方をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

2　科目の概要　国際法は国際社会の法であり、主として主権国家相互の関係を規律する。このうち、国際法各論では、海洋・空域・宇宙といった国家領土以外の空間、個人の地位、人権、国際紛争の平和的解決、武力行使・武力紛争の規律などを扱う。
詳細は、スタディガイド（学習指導書）参照。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『講義国際法』第２版、有斐閣、小寺　彰・岩沢雄司・森田章夫、2010 年、￥ 4,300+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり（スタディガイドは 2016 年 3 月一部補訂しました。）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習の際には、テキストに出てきた条文を必ず条約集で確認しなければならない。複数の種類の条約集が出版されており、いずれを使用してもよいが、『国際条約集』（有斐閣）または『ベーシック条約集』（東信堂）を推奨する。
判例については『国際法判例百選〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）（改訂の可能性に注意）をはじめとする判例集で事実の概要と判旨を確認し、当該事件の位置づけを理解する必要がある。
本科目の学習には、国際法総論で扱われる内容についての理解が前提となる。テキスト第１章－第９章を参照しながら学習を進めることが重要である。
その他の詳細は、スタディガイド（学習指導書）参照。

Outline and objectives　This course provides students with an advanced understanding of public international law with reference to particular topics such as: law of the sea, air and space law, status of individuals and human rights, international dispute settlement, and the regulation of use of force and armed conflict.

LAW200TB

刑事政策

教科担当責任者：**須藤　純正**

担当者：**田内 清香**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①近時の刑事政策に関する「犯罪を予防・鎮圧するための方策」、「犯罪者及び非行少年の処遇」、「犯罪被害者の支援施策」等の国際及び国内社会の動向を理解すること。②その理解を深めることにより、人生における「自分で考え、意見を表明する力」を養うこと。

2　科目の概要　「刑事政策」には、実際の犯罪対策のためになされる政策活動自体を意味する「事実としての刑事政策」と、事実としての刑事政策を研究対象とする科学という意味での「学問としての刑事政策」との２つの意味がある。
「学問としての刑事政策」を取り上げるこの科目のテーマは、犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の強制措置、または多機関連携による支援施策を講ずることが最も合理的であるかなどを研究することである。具体的には、刑罰論、犯罪者及び非行少年の処遇などを扱う。
また、「犯罪学」とも呼ばれる研究領域が含まれることとなり、犯罪原因論、犯罪被害者の救済、ホワイトカラー犯罪をはじめとする各種犯罪の特徴及びこれらへの対策についても検討する。この科目のテーマは「刑法」、「刑事訴訟法」とは異なって法解釈学ではなく、手法として法学のほか、社会学、経済学、心理学、生物学といった種々の科学が関連している。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価するが、評価の際には先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　川出敏裕・金光旭著『刑事政策 (第 2 版)』2018 年、成文堂、￥3,500+税
※初版（2012 年）も使用可

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　ここでのテーマは、事実としての刑事政策を研究対象とするため、例えば、犯罪白書を参考とするなどして、わが国における犯罪情勢、犯罪者の処遇（警察段階、検察段階、裁判段階、刑務所段階）の動向等についての統計的なデータを踏まえることが必要となる。また、死刑存廃論、自由刑の単一化、成人年齢の引下げと少年法の改正、司法取引、刑の一部執行猶予制度の導入、犯罪に対処するための刑法の一部改正等のアップ・ ツー・デートな社会問題とも大きく関わっているため、近時の新聞、ニュースで取り上げられている時事的な論点についても広く関心を持って、現代の社会事象を広く洞察することが有益である。そうした意味からも図書館、インターネットを大いに活用し、テキストのみならず、紹介されている参考文献を積極的に数多く読むなど幅広く情報収集に努めることが大いに望まれる。

Outline and objectives　The key issue of this course is to understand the functions and operations of the criminal justice system which seek to prevent crimes in our society. You examine about the current state of crime and the nature of criminal justice policy in Japan today.
You learn about Japanese characteristics of prisoners'correctional treatment, in which rehabilitation and education are very important, seeking to prevent prisoner reentry.　Also, you learn about recent trends in the treatment of juvenile offenders, various theories of crime,

services provided to the crime victim. rehabilitative focus of the family court.

LAW300TB

教育法

教科担当責任者：**沼田　雅之**

担当者：**村元 宏行**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　2006 年に教育基本法が全部改正され、2007 年には学校教育法、教員職員免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（いわゆる教育三法）の大幅な改正があり、日本の教育法制は大きく転換されてきている。その結果、教育法の意義や対象も従来のままでよいのか、抜本的に検討されなければならず、教育法学者の間でも再検討が必要とされてきている。他方、今日の学校では、いじめ問題をはじめとしたさまざまな現実的問題も生じてきており、教育法理論の重要性がいまほど必要とされることはない。こうした転換期の教育法について時代状況を把握したうえで学び取ることが教育法の目標である。

2　科目の概要　教育法は、憲法 26 条で規定された「教育基本権」「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域である。

教育法は、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった視点からの研究が深められてきたが、近年では、このような伝統的な教育法学説に加え、学校現場での、いじめ、体罰やその他の学校事故などの多発化のなかで、これらの事件の原因と対策の究明などが広く求められてきている。

こうした状況を踏まえて、教育法では、教育法の理念と構造（教育法の定義）、近年における教育法の動向などを踏まえ、まず、教育法制度のしくみと内容を学ぶことが必要である。その上で、いじめ、体罰などの具体的事例を用いて学ぶことが肝要となる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。問題の的確なとらえ方とその法的処理が確実にできているかどうかが問われる。

なお、単位修得試験は、指定テキストが出題範囲となるので、リポート作成に最低限必要な範囲でテキストを読んでいるだけでは合格できない。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『ガイドブック教育法〔新訂版〕』、三省堂、金子征史ほか編、2015 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストは、Ｑ＆Ａ形式で書かれている部分が多いが、教育基本権、教育人権の視点から体系的に教育法を考えることを試みることが必要となる。

また、今日的な具体的教育事件について、その事実関係の正確な把握をしたうえで、それが教育法的にどのような問題があるのか、各具体的事案ごとに考察しなければならない。テキストは、こうした問題にかなり広範囲にわたって検討する手法をとっているので、よくテキストを読むことから始めて欲しい。

Outline and objectives　It is the goal of the Education Law to learn about the Educational Law at the turning point grasping the era situation.

LAW300TB

親族法・相続法

教科担当責任者：**和田　幹彦**

担当者：**足利 沙緒理、和田 幹彦**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　（親族法）学説や判例を覚えるだけではなく、「答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。（相続法）学説や判例を覚えるだけではなく、「答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。

2　科目の概要　民法典の「第四編　親族」「第五編　相続」の法解釈（と、一部は望ましい法改正案）を取り上げる。
履修内容：1. 導入：親族法・相続法の民法典における位置付け
2. 親族法
・親族：親族の意義と範囲
・婚姻：婚姻の成立 婚姻の効力（夫婦同氏／夫婦別氏） 夫婦財産制 法律婚と事実婚
・離婚：協議離婚 裁判離婚（破綻主義離婚） 離婚給付 離婚と子
・親子：実子（嫡出子・非嫡出子と認知・準正・人工生殖）
・養子：普通養子 特別養子
・親権と後見 （任意後見・成年後見を含む）
・扶養：扶養と社会保障 扶養義務の二類型 扶養当事者 扶養の順位
・氏と戸籍
3. 相続法
・相続の意義と根拠
・法定相続人・相続分
・相続の効果
・相続の過程：相続の開始 遺言の有無 相続の承認・放棄 遺産分割
・遺言と遺留分

3　成績評価基準　最終成績は，単位習得試験により評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　犬伏由子ほか著『親族・相続法』第 2 版 (弘文堂 NOMIKA シリーズ 5)、￥4,100+税
上記テキストの他に以下の本の使用も許可する。
『家族法』〔第 5 版〕（新法学ライブラリ９）二宮周平著、新世社、2019 年、￥ 3,400+税
※ 2019 年度以前の入学者は第 4 版（2013 年、￥3,250+税）も使用可。
※経済的に可能ならば、上記の二宮教授の新著を入手することを、強く勧める。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
(1) 民法典「第四編　親族」と「第五編　相続」は「家族法」と呼ばれ、親族法・相続法とも言われます。家族法は、結婚・相続などよく聞く身近な話題についての規定です。結婚する人もしない人も、知れば役に立つ。相続は誰もが体験します。「限定承認・放棄」を知ると、親の借金を子が負担しなくても良い方法もわかります。家族法は身近な法律なのです。だからおもしろい。そして、役に立ちます。
(2) 2015 年 12 月 16 日に、現在の民法の「（強制的）夫婦同氏」（「選択的夫婦別氏」が無いこと）は合憲であり、「女性の待婚禁止期間（6 か月）」は「100 日を超える部分は違憲である」という趣旨を、最高裁大法廷が判決を出しました。その後、国会は、速やかに民法を改正しました。女性の再婚禁止期間を離婚後 6 カ月間とする規定を 100 日に短縮し、離婚時に妊娠していないことなどを証明できれば禁止期間内でも再婚を認めるとする改正民法が 2016 年 6 月 1 日に国会を通過しています。しっかり学んでおくようにして下さい。
さらに、2021 年度中に、最高裁は現在の民法の「（強制的）夫婦同氏」は合憲か否か、再度の判断を下すことになっています。この最高裁の判断も、新聞・その他のメディアなどでしっかり把握し、学ぶ努力をして下さい。

Outline and objectives　For both Family Law and Laws of Inheritance:
Learn that there is no "one and the only correct answer" for interpretation of the Civil Code

LAW300TB

手形法・小切手法

教科担当責任者：**椽川　泰史**

担当者：**金尾 悠香、清水 真人**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきている道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2　科目の概要　手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。

手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第５版（有斐閣Ｓシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林竧・福瀧博之著、2018 年、￥ 2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives　１．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生
２．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TB

保険法・海商法

教科担当責任者：**神谷　高保**

担当者：**遠山 聡**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　商法第３編海商の規定および平成 22 年に施行された保険法、国際海上物品運送法などの規定のみならず、各種約款や標準契約書式などを含めた実務的な内容を含めた契約ルールを正確に理解したうえで、従来の判例や学説における議論の状況を踏まえて、保険・海商分野における紛争解決を目的とした法の解釈適用を適切に行えるようになることを目標とします。

2　科目の概要　保険法では、①損害保険契約、②生命保険契約、③傷害保険や疾病保険などの生命保険以外の人に関する保険契約（損害保険としての性格を有するものも、生命保険のような定額保険としての性格を有するものもあります）について、(a)　保険契約成立の際の告知義務などが問題となる段階から、(b)　保険契約が締結された後の契約の変動（通知義務や広く危険の変動など）、(c)　保険事故が発生したときの保険金の支払い、そして、(d)　保険契約の終了、といった各段階に適用される各種のルール（準則・規制）について、そのようなルールが用意されている目的、そのようなルールの問題点や限界といったものを理解していただきたいと考えています。最近の最高裁判所の判決の中に占める保険関係の判例の重要度も高まってきています。

また、海商法は、大別して、海上企業の組織（船舶などの物的組織、船主や船長といった人的組織）に関するルール、取引や活動（海上運送取引と船荷証券、海上売買取引など）に関するルール、海上危険（共同海損、海難救助、船舶衝突など）との関係者の利害調整（海上保険）ルールなどがあり、とくに、この科目では、海上運送に関係する様々なルールを理解していただきたいと考えていますので、国際海上物品運送法など、統一条約に基づいた国際ルールの内容も重要です。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験により評価します。ただし、リポート学習もしっかり行うこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『商取引法』第８版、弘文堂、江頭憲治郎著、2018 年、￥ 4,500+税
（第 7 版（2013 年）、第 6 版（2010 年）も使用可）
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。上記テキストは内容が実務的で難解な箇所が少なくないため、スタディガイドを参考にしつつ、他の参考書等も利用しながら、一つ一つ丁寧に理解を深めてください。

Outline and objectives　ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」に関連

LAW300TB

日本法制史

教科担当責任者：**川口　由彦**

担当者：**宇野 文重**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数が異なることはよくあるからである。

なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの科目の目標である。

2　科目の概要　人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。

法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにいたった社会である。

しかし、そうはいっても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。

この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。

この科目では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。

現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治 29 年（1896 年）となっていて 19 世紀の産物であることがわかる。商法も明治 32 年（1899 年）と 19 世紀の産物である。刑法は、明治 40 年（1907 年）制定だから、何とか 20 世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治 13 年（1880 年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。

このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領主支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。

この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。

しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」とのみは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。

この科目では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

3　成績評価基準　論述式筆記試験によって単位を認定する。その際、テキストで触れられた重要法令の特徴を正確に理解しているかいないかを重視する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　川口由彦『日本近代法制史』第２版、2014 年、新世社、￥3,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書、参考書（「設題総覧」に記載）を読んで学習すること。

Outline and objectives　The aim of this course is to analyze the structure of modern Japanese law using method of the legal history study.

LAW300TB

西洋法制史

教科担当責任者：**高　友希子**

担当者：**梁田 史郎**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　・日本が、明治以来受け入れてきた西洋の法制度や法システムを、歴史的視点から理解する。
・西洋中世・近代法を中心に考察することにより、西洋近現代法の形成・発展過程を理解する。
・法理や法システム形成・発展の背景となった社会や文化についても、併せて理解する。

2　科目の概要　西洋法制史は、西洋における法の歴史を、法理や法制度、法システムだけでなく、それらが形成・発展する背景となった社会や文化を踏まえて理解していく科目である。日本が明治以来、西洋の法制度や法システムを導入してきたことを踏まえると、西洋における法の歴史を知ることは、日本近現代法を理解していくうえで大きな助けとなるはずである。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかり行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本　『概説西洋法制史』、ミネルヴァ書房、勝田有恒・森征一・山内進編著、2004 年、￥3,200＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたっては、指定されたテキストを通読することが必要である。更に理解を深めたい場合、各章の末尾にある「もっと学びたい人のために」に記載されている各種文献を参照するとより学習効果があがるであろう。
ただし、指定されたテキストは世界史の知識があることが前提となっているので、世界史に自信のない場合には、予め西洋史のテキストを通読しておくことを薦める。西洋史のテキストについては、気に入ったものでよいと思われるが、参考までに『教養のための西洋史入門』、『大学で学ぶ西洋史』を挙げておきたい。

Outline and objectives　In this course, the students will learn about the history of legal development in Europe, from the fall of the Roman Empire to the modern times.

SOC300TB

労使関係論

教科担当責任者：**沼田　雅之**

担当者：**大原 利夫**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　かつてわが国の労使関係は、終身雇用制で年功加俸式賃金制度をとることが一般的で、なおかつ企業別労働組合を特徴としていた。それが日本の戦後経済復興を実現してきた支えでもあった。しかし、こうした日本的雇用慣行は、高度経済成長の終焉とともに徐々に崩れ始めてきたといわれてから久しい。今日では、労働人口の３分の１強を非正規労働者が占めるに至り、労使関係のありようが様変わりしてきた。労使関係論では、こうした労使関係の構造的変化を直視して、その現実と問題点、将来的展望を学ぶことを到達目標とする。

2　科目の概要　近年、日本的雇用慣行が緩やかに崩壊し、労使関係のあり方も様変わりしつつある。経済のグローバル化や産業構造の変容等により、労働者の働き方や処遇のあり方も大きく変化している。本講義では、こうした状況を踏まえて雇用関係や労使関係に関する主要テーマを取り上げながら、労使関係において急速に進んでいる変化を追っていくことにしたい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。テキストをよく読み、正確に労使関係の課題を把握し、考えてほしい。

4　テキスト名および詳細
①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第4版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦・高野　敏春著、エイデル研究所、2018 年、￥2,619
②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集団的労働関係法・社会保障法』（第2版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦編、エイデル研究所、2016 年、￥2,530
上記 2 冊のテキストが入手できない場合は、以下の本を代替テキストとする。
『仕事の社会学変貌する働き方 [改訂版]』佐藤博樹・佐藤篤編著、有斐閣、2012 年、￥2,100

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　労使関係のありようは、今日はきわめてダイナミックな動きのなかにある。したがって、我々は現実の動向に眼を奪われがちになるが、それでもこの問題も基本的には歴史的展開を顧みるなかで考えなくてはならない。そうすることによって、将来を展望することもできるようになるからである。その意味では、やはりテキストに忠実に取り組む勉強をする必要がある。
　ただ、労使関係論は社会の様々な問題と深くかかわっているので、テーマごとに経済、経営、国の政策、国際関係、法的構造など多面的に勉強しなければならないものでもある。したがって、日常的に新聞などを通じた社会全体の動きを綿密にチェックするよう心掛けてほしい。

Outline and objectives　At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LAW400TB

民事執行法

教科担当責任者：**廣尾　勝彰**

担当者：**廣尾 勝彰**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①民事執行手続及び民事保全手続の概要を説明できる。
②民事執行手続及び民事保全手続に関する基本概念及び規律について理解する。
③民事執行手続及び民事保全手続に関する個別の問題について展開されてきた従来の学説および判例をふまえた上で、具体的事案を解決するための基本的な解釈論を自ら展開できる。

2　科目の概要　本授業で学ぶのは民事執行法と民事保全法である。民事執行法は、判決手続等により確定された権利を具体的に実現する強制執行手続と抵当権等の担保権を実行するための手続について定めている。また、民事保全法は、将来の強制執行に備えて強制執行の対象となる物を確保したり、直ちに対処しなければ権利が侵害されるおそれがある場合のように緊急性がある場合に権利者を救済する手続を定めている。
本授業では、民事執行法の定める民事執行の手続について、執行手続の主体（執行当事者と執行機関、執行機関の処分に対する不服申立て）、強制執行手続の開始と進行（強制執行の要件、債務名義、執行文、執行の対象、執行関係訴訟、執行手続の進行）、金銭執行、非金銭執行、担保権実行手続を扱い、民事保全法が定める民事保全の手続について、保全命令の発令手続、不服申立手続、保全執行を扱う。

3　成績評価基準　単位修得試験により評価する。

4　テキスト名および詳細　上原敏夫=長谷部由紀子=山本和彦『民事執行・保全法〔第 6 版〕』有斐閣、2020 年、￥ 2,100+税
※第 5 版（2017 年）も使用可。ただし、大幅に法改正されているので注意。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。法律学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。まずは、六法を引いてこまめに条文を確認しながら、テキストを通読し、つぎに、分からない部分を繰り返し何度も読むことにより、少しずつでも理解を深めていってほしい。なお、テキストに載っている判例については、上原敏夫＝長谷部由紀子＝山本和彦編『民事執行・保全判例百選〔第３版〕』（有斐閣、2020 年）、テキストの理解を深めるためには、和田吉弘『基礎からわかる民事執行法・民事保全法〔第２版〕』（弘文堂、2010 年）、山本和彦＝小林昭彦＝浜秀樹＝白石哲編『新基本法コンメンタール民事執行法（日本評論社、2014 年）も読んでみるとよい。

Outline and objectives　① Explain the outline of compulsory execution, provisional attachment, provisional disposition.
② Understand the basic concepts and disciplines related to compulsory execution, provisional attachment, provisional disposition.
③ Based on the existing theories and precedents that have been developed for individual issues related to compulsory execution, provisional attachment, provisional disposition, students will be able to develop basic interpretations to solve specific cases themselves.

ECN400TB

社会経済学 A

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって歴史的視点が重要です。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立した資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションのもとでの変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ａでは、価値・商品（市場システム）、資本の生産の基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学』〔新版〕、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに試される場です。日頃から現実に対する問題関心を持ちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識との関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN400TB

社会経済学 B

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって社会経済学の内容を理解するためには歴史的視点が重要になってきます。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立する資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションと福祉国家の変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ｂでは、資本蓄積 (雇用・失業・成長)、社会的再生産、競争と価格、信用、農業、産業循環、福祉国家の危機（新保守主義の登場）などを理解するための基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学〔新版〕』、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識とその関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN400TB

経済政策論 A

教科担当責任者：**小黒　一正**

担当者：**小黒 一正、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアンの理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論Ａ」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房、麻生良文著、2009 年、￥ 3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色彩を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
マンキュー 『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社（入門用）
マンキュー『マクロ経済学　I・II』東洋経済新報社（中級）
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ
スティグリッツ『スティグリッツ　マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives　The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.
This will also help you to predict the effects of economic policy at a much deeper level.

ECN400TB

経済政策論 B

教科担当責任者：**濱秋　純哉**

担当者：**濱秋 純哉、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論Ｂ」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林　正義・小川　光・別所俊一郎、2010 年、¥ 2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）
麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）
井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）
井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives　① Understanding the role of government and the role of the market mechanism. ② Understanding the public goods provision and how to solve externalities. ③ Understanding the burden of taxation and public bonds as well as the effect of fiscal policy.

LIT100TC

日本文芸学概論

教科担当責任者：**藤村　耕治**

担当者：**岡野 幸江**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　1．文学鑑賞とはどういうことか、また、その鑑賞の方法について理解する。
2．文学研究とはどういうことか理解する。
3．文学のさまざまな研究方法について学ぶ。
4．以上のことをふまえ、実際に文学研究を実践し、論文を書く。

2　科目の概要　本講座では、まず「文学とは何か」について考え、「文学を学ぶとはどういうことか」ということ、つまり文学鑑賞と文学研究についての認識を深めていく。その過程で、多くの古典といわれる名作や現代の作品も読んでほしいと思う。また、研究の方法について、特にきわめて基本となる在り方や作品分析の方法について、具体的な作品に即して学んでいく。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により以下の点から評価する（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。
1．指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義―文学作品が書かれるまで』などを使って、文学鑑賞や文学研究について理解している。
2．課題の作品について、きちんとした作品研究を行っている。
3．作品について、論理と実証を心がけて論文としてまとめられている。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義―文学作品が書かれるまで』菁柿堂、2016 年、¥2,000+税
【参考文献】『別冊国文学№ 51　近代文学現代文学　論文・レポート作成必携』學燈社、1998 年、『新研究資料　現代日本文学』①～⑦明治書院、2000 年、日本近代文学会編『日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016 年、¥2600 ＋税
※ その他、学会誌『日本文学』日本文学協会、『日本近代文学』日本近代文学会、『昭和文学研究』昭和文学会、『社会文学』日本社会文学会はじめ、雑誌『文学』岩波書店、『国文学　解釈と教材の研究』學燈社、『国文学　解釈と鑑賞』至文堂等のバックナンバーなどに、各作家・作品の研究論文が多数あります。また、それぞれの作家・作品の研究書・論文集も多数出版されています。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
1．指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義―文学作品が書かれるまで』などを使って、文学鑑賞や文学研究について、まず学習する。
2．課題作品を丁寧に読み込む。その際の疑問点や問題だと思う点についてメモしておく。
3．作品について研究する。その際、先行の研究論文を一つ以上読み、比較検討する。また、論文の書き方の参考にもする。
4．論理と実証を旨に、論文として研究をまとめる。字数制限を守って縦書きでまとめ、よく推敲して提出する。
5．参考文献・引用の出典を明示する。
※ まず、予備知識無しに作品を読み込み、自身の論のテーマを設定し、その後、先行の研究を読み、それを手本にしつつ、具体的な作品自体に当たって分析考察することが大切です。

Outline and objectives　This course introduces the basic knowledge of literature and its appreciation by reading many specific literary works to students taking this course. The goals of this course are to understand literary

appreciation, literary study, research methods of literature, and be able to write a paper.

LIN100TC

日本言語学概論

教科担当責任者：**尾谷　昌則**

担当者：**古牧 久典**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　言語学の基本的な概念と考え方を理解し、音声音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学などの言語学分野の基礎事項を学ぶ。

2　科目の概要　日本語ということばから言語に対する考え方を学ぶ。言語学は言語の本質とは何かを考えるための科目（学問分野）である。言語の性質や特徴を知るためには、様々な切り口が考えられる。

本科目は、テキスト（『言語学入門　これから始める人のための入門書』）に沿って進める。テキストでは大きく分けて七つのテーマから言語に迫っている。七つのそれぞれのテーマに下位項目が設けられ、全体で 26 講（１講平均５ページ程度）から成る。七つのテーマには、[1] 言語の特性や諸側面をまとめた言語学の概説（第 1-4 講）、[2] ことばの音の側面に注目した音声学・音韻論（第 5-9 講）、[3] 単語の構造を対象とした形態論（第 10-13 講）、[4] 文という単位の構造に焦点を当てた統語論（第 14-17 講）、[5] ことばの意味を考える意味論（第 18-21 講）、[6] ことばのコミュニケーションの側面を理解する語用論（第 22-23 講）、[7] 言語の変種・変化・種類に着眼する社会言語学や歴史言語学など（第 24-26 講）がある。

こうしたテーマを学ぶことで、日本語に限らず、様々な言語の特性に迫るための考察技法を学習する。

3　成績評価基準　各講ごとに設定されているキーワードを正確に理解している。
当該テーマに対して、適切な例を挙げて説明できている。
言語学に基づく視点から、日本語などの言語を独力で鳥瞰することが出来ている。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『言語学入門　これから始める人のための入門書』
佐久間純一・加藤重広・町田健著、2004 年、研究社、1,800 円+税
本書は、はじめて言語学に触れる人へ向けた入門書であり、七つの言語学分野（言語学の概説／音声学・音韻論／形態論／統語論／意味論／語用論／社会言語学・歴史言語学）が紹介されている。各講の最後には練習問題が用意されており、解答例が巻末に用意されている。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキスト各講冒頭のキーワードに対して意識することを心がけ、自分で一講ごと概括しながら、読み進めて下さい。また、それぞれの講が終わったら練習問題にも挑戦し、自身でテキスト付属の解答を確認して下さい。練習問題の解答例も付録程度と考えずに、併せて読むことで理解を深めましょう。

Outline and objectives　This course is a general introduction to linguistics, the study of language, concentrating not only on Japanese but also on other languages. It aims at acquainting the students with the nature of human language and its characteristics. The course examines the language sounds and their patterns (phonetics and phonology), the structures of words and sentences (morphology and syntax), and context-independent/dependent

meanings (semantics and pragmatics). It also explores how linguistic knowledge is applied in social situations (sociolinguistics) and how languages change over time (historical linguistics). At the end of the course, students are expected to understand and explain any language including Japanese by using the methodology of linguistics.

LIT200TC

文学概論

教科担当責任者：**中丸　宣明**

担当者：**細沼　祐介**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　日本近代文学の歴史を概観し、すでに一定の評価を得ている文学作品を様々な角度から検討し、理解することを目指します。
近代の作家たちが描いた人間像を当時の歴史、経済、政治、社会、文化との関係にも注意を払いながら読解することによって近代文学の特徴を把握することが学習の到達目標です。
最終的には既存の知識を得るだけでなく、必要な情報の調査能力、自身の独自の意見の確立法などを包括的に身につけることを目的とします。

2　科目の概要　文学の領域といえば、詩歌、説話、物語、随筆、小説、戯曲、評論などのジャンルがすぐに思い浮かぶように非常に広大です。
本教科は主に日本の近代に限定し、その時代のみならず、現代においても強い影響力をもち、今なおその文学的生命力を喪失していない文学作品（小説、評論）を分析・検討します。その際、文学作品（小説、評論）を研究する方法についても理解を深めることを目指します。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は提出されたリポートの内容も考慮します。リポートに限らず、文章は他者に読まれ、理解されて初めて、書き手の考え方が読み手に伝わるものです。
したがって、リポートの分量はもちろんのこと、その内容、たとえば、設問の内容を正しく理解し、矛盾のない論理によってリポートを作成しているか否かが評価の主な基準となります。
その前提として、リポートの形式、たとえば、段落の区切り方や句読点の付け方、誤字脱字がないように心がけることも要求されます。リポートを作成する上での基本事項を守ることが大切です。

4　テキスト名および詳細　テキストは指定市販本『日本近代小説史』（新装版）〔中公選書〕（安藤宏、中央公論新社、2020 年、￥1,700+税）を使用します。
※初版（2015 年）も使用可とします。
この著作は明治時代から現代に至る主要な文学作品を概観しているので、文学作品を読む際に、有益なヒントを得ることができるでしょう。
また、参考図書として『入門 日本近現代文芸史』〔平凡社新書〕（鈴木貞美、平凡社、2013・1、￥940+税）も押さえておくと、これまで行われてきた文学史確立のための様々な試みを鳥瞰でき、相対的な理解ができるかと思います。
同様に現在絶版となっているため入手が難しいかもしれませんが、図書館等を利用し、『文学概論』（小田切秀雄、勁草書房、1972・12）なども参考にして下さい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートの内容は先行論文・批評をきちんと踏まえ、他者の意見と自分の意見を明確に区分し、そのことが分かるように作成して下さい。
単なる思い込みや感想ではなく、また参考文献からの引用の羅列ではないリポートを作成して下さい。そのためには設問の内

容を正しく理解し、なにが、どのように描かれた作品なのか、そのことに留意することが重要です。
また、リポートの最後に「参考文献一覧」（著者名、書名、出版社名、刊行年月）を記載して下さい。[例:礒崎純一『龍彦親王航海記　澁澤龍彦伝』白水社、2019 年 11 月]
リポートは必ず縦書きで、手書きの際は原稿用紙を使用し、パソコンで作成する場合は末尾に字数を明記して下さい。添削・返却されたリポートを再読し、自分自身のリポートの内容や表現に不備や不足があれば、それらを的確に把握・理解し、その後のリポートを作成するために活用して下さい。

Outline and objectives The aim of this course is learnig the history of modern Japanese literature and examining and understanding literary works that have already received a certain level of evaluation from various angles.

LIT200TC

日本文芸史Ⅰ

教科担当責任者：**坂本　勝**

担当者：**谷口 卓久**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　リポート作成と単位修得試験の設題には、総論的なものと各論的なものとを併せて掲げている。その意図は、日本文芸史の史的展開について個々の作品のよせ集めとしてではなく、相互の繋がりについて丁寧に考察しつつ全体として理解することを目標としているからである。リポート作成は、研究報告にとどまらず、文学研究・人間史研究についての自らの問題意識の切実さをも問う営為であり、文学研究の「方法」について広く学び、自分で考え、自分のことばで表現できる人材の教育を目標としている。

2　科目の概要　日本文芸史は、日本文芸の史的展開について考究する科目であり、人間の学としての文学の視座に立ち、諸ジャンルがそれぞれ異なる時期に生成する過程と意義を分析・研究する。広く表現史において、文学のジャンルが、歴史の内部でどのようにはたらき、歴史とともに動いているかについて考察する。リポートと単位修得試験の設題は、総論と各論とで出題している。
　文学史を個々の作品のよせ集めとしてではなく、書くということはどういうことか、個々の作品が時代の文法の中で、何を言おうとしていたのか、全体として理解する必要がある。ミクロとマクロの両眼をもって、ことばの始原を探究し、古人が求めたものについて考察する。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。
　既成の研究の狭隘なジャンル意識にとらわれることなく、ジャンルの本質を意味づけし直すくらいの意識で臨むことを学生には期待している。時代区分・ジャンル・作品の生成過程の研究について、自分の頭で考えているかどうかを成績判定の評価基準にしている。
・リポートの主な評価基準
　①設題が求めている内容を正しく理解し、リポートの内容が与えられた課題に対して論理的・実証的な内容となるように取り組んでいるか。
　②設題総覧の参考文献を参照し、先学の研究をふまえつつ独自な視点により考察・論述がなされているか。
　③誤字・脱字はないか、文学史的常識を欠く記述はないか。
・単位修得試験の主な評価基準
　①設題が求めている内容を正しく理解し、正確な知識を修得できているか。
　②限られた時間内での「求め」に応じた答案作成が的確にすすめられたか。
　③誤字・脱字・作品名の過ちはないか。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本文芸史Ⅰ』第1版、近藤忠義、1980 年
（※ 前・通教テキスト『日本文芸史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　学生には、科目の主要課題と目標について理解してほしい。問うことは教えられないが、学ぶことと問うこととは相い半ばの関係にあり、リポートの添削を通して学生の文学研究に対する意識を挑発してゆきたい。教師が学生を挑発し、学生自身が奮い起つ学習環境であってほしい。
　リポート作成上の注意点としては、①必要な文献は、必ず原文

で読み、注や参考文献は、リポートの本文の後に著者（編者）・刊行年・出版社名を記すこと。②作品や研究書・注釈書からの引用には、引用符（「 」）を用い、典拠を明示し、自分の意見と引用部分とをはっきり分けること。③提出前に繰り返し読み返し誤字・脱字がないようにすることの三点を特に心懸けてほしい。

文学が探究する始原とは、創造的精神を挑発する根拠・本性の謂であり、先学の研究を批判的に継承しようとする新奇性・独自性・当事者性を尊重したい。リポート作成にあたって、傍らにある研究書・一般書をもって足れりとせず、広く調査・研究する姿勢を指導したい。学ぶ者としての精神を忘れずに、高い志と誇りをもって日々の学習生活に臨んでほしい。

Outline and objectives *The History of Japanese Literature* is a course the purpose of which is to study the historical development of Japanese literature. Every genre of literature has come into existence during its own specific period of the times. Students are expected to analyze and inquire into the process of it and the significance in it from a viewpoint of literature as human science, to consider what kind of roles genre of literature has played in history, how genre of literature has moved so far with history, when seen in the general history of expression. There are subjects for essays and examinations for credits in both general argument and each detailed argument.

It is important not to take the history of literature as a mere medley of literary works, but to look into it as a whole and understand what it is for one to write, what each work possibly meant to say through grammar of the times. Students will be required to search into the origins of words and consider what men of old pursued, with microscopic and macroscopic eyes.

LIT200TC

日本文芸史Ⅱ

教科担当責任者：**藤村　耕治**

担当者：**山田 稔**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　戦後以降の日本文芸史への認識を深め、その多様な特質について学ぶ。その上で、問題とされた作品によって、人・思想・時代・表現方法への理解を及ぼし、究極において、自らの一定の見解を打ち建てることを目標とする。

2　科目の概要　近・現代の日本文芸史において画期的な意味を持った第二次世界大戦後の文学の代表者と、その文学精神の継承者について、個々の存在性と表現の独自性を探り出す。戦後文学とは、政治と文学の関係についての鋭い問題意識、実存主義的傾向、在来の日本的リアリズムと私小説の揚棄、文学的視野の拡大などを指す。これを出発点として、無頼派、戦後派、第三の新人という文芸史的流れを、それらを代表する、石川淳、埴谷雄高、武田泰淳、庄野潤三、大江健三郎、小田切秀雄など、テキストで論じられている作家・評論家たちを中心に、また、同派のその他の作家（大岡昇平、安部公房、島尾敏雄、安岡章太郎、遠藤周作など）についても参照し、その作品世界を通して個々の作家を理解し、文学史の流れについて考察する。

3　成績評価基準　設問の要求をきちんと満たしていること。この科目の通教テキストとそこで扱われている作品を読了し、それをふまえて論じられていること。問題となる作家や作品については、具体的に作品に即して論じられていること。最低一つは先行研究を読み、その上で自身の見解がそれとわかるように述べられていること。さらに、必要な参考文献には目をとおしていることがわかるように記述することが望ましい。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本文芸史Ⅱ』第1版、立石　伯、2009年
※【申告制】テキスト
（※前・通教テキスト『日本文学特講２』）
【必読文献】
テキストで語られている作家の作品とそれぞれの派の代表的作品。特に石川淳（無頼派）、埴谷雄高・武田泰淳（戦後派）、庄野潤三（第三の新人）、大江健三郎（第三の新人以後）の諸作品、それ以外では、大岡昇平、安部公房、島尾敏雄、安岡章太郎、遠藤周作の諸作品
【参考文献】
『埴谷雄高文学論集』講談社文芸文庫他
江藤　淳『成熟と喪失』講談社文芸文庫他
大江健三郎『同時代としての戦後』講談社文芸文庫他
磯田光一『戦後史の空間』新潮文庫・新潮選書他
加藤典洋『敗戦後論』ちくま学芸文庫他

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・戦後派、無頼派、第三の新人の文学的立場について理解すること。
・二作品以上について、十分に具体的な論述がなされていること。
・縦書きとし、関連する作品論、作家論（解説なども含む）に目を通し、それらをリポートの末尾に必ず参考文献として明記すること。
・引用と自説とは、はっきり区別すること。
・必読文献は読了しておくこと。参考文献は関係するところを中心に読み、文芸史的認識を深めておくこと。
・手書きでなく、印字原稿の場合は総字数を明記すること。
・分量不足とならないこと。

Outline and objectives In this course, we will explore the identity of individual existence and expressions about the literary after World War II and the successor of its literary spirit, which has epoch-making significance in the history of Japanese literary art since modern times.

LIT100TC

日本文芸研究特講・上代

教科担当責任者：**坂本　勝**

担当者：**萩野 了子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標 上代文学作品の成立の背景や表現方法などといった基本的知識を学び、当時の社会状況、人々の考え方などに対する理解を深めることを目指す。

2　科目の概要 『古事記』では、神話に登場する神々について学び、神話の構造について理解を深める。また歌謡の表現について学び、その特質を理解する。『日本書紀』、『風土記』では、歴史や民間伝承の表現について学びつつ、『古事記』神話との違いを考察する。『万葉集』においては、口誦から書誦の歌へ、共同体から個別の歌へと変遷していく和歌の歴史を概観しながら、各歌の表現の特徴を掴んでいく。

3　成績評価基準 リポート試験を元に、最終的には単位習得試験によって判断する。
リポート試験・単位修得試験共に、指定のテキストを熟読することを前提とし、与えられた課題が的確に論じられているかどうかを評価基準とする。その際、参考となる文献を積極的に探し、よく調べるようにすること。参考文献の書名、引用の出典などはそれを明記し、自説と混同させないよう注意すること。

4　テキスト名および詳細 通教テキスト『日本文芸研究特講・上代』第 1 版、西郷信綱、1968 年
【参考文献】『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』の本文は、新編日本古典文学全集（小学館）、新日本古典文学大系（岩波書店）、新潮日本古典文学集成（新潮社）などのテキストを適宜用いること。

5　学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。上記テキストの熟読と、文学史を通覧すること。
リポート作成においては、設題に即し、作品本文及び現代語訳を必ず読むこと（その際、どのテキストを用いたか必ず明示する）。関連の雑誌や論文を検索し、考察を深めること（国文学研究資料館や CiNii などの論文データベースを使用する）。参考文献を引用する際には、その旨を必ず明示し、読み手が引用元を確認出来るようにすること。

Outline and objectives The goals of this class are to
(1)acquire the basic knowledge about Early Japanese Literature
(2)understand the social situation and people's way of thinking at that time.

LIT100TC

日本文芸研究特講・中古

教科担当責任者：**加藤　昌嘉**

担当者：**中西 智子**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　◆A．中古（平安時代）に成った歌集・日記・物語など、個々の作品の概要（成立・作者・構成・表現・影響）を学ぶ。
◆B．中古（平安時代）に成った主要な歌集・日記・物語が、どのように研究され、どこまで明らかにされているのかを学ぶ。
◆C．中古文学（平安文学）全体を、歴史的な流れとして見渡せる目を養う。

2　科目の概要　◆中古（平安時代）には、平仮名・片仮名が発明され、勅撰和歌集・私家集、仮名日記、歌物語・作り物語・歴史物語・説話集など、さまざまな種類の文芸作品が生まれた。
◆本科目では、主要な作品の成立・作者・構成・表現などを学びつつ、それらが日本文学史の中でどのような位置を占めるのか、ジャンルごとに習得してゆく。

3　成績評価基準　◆最終成績は、単位修得試験により評価するが、評価の際は、先に提出されたリポートの内容を考慮する。
◆中古（平安時代）に成った文芸作品の概要を把握できているか。
◆８世紀から１３世紀までの文学史の流れを把握できているか。

4　テキスト名および詳細　◎指定市販本：山口仲美『日本語の古典』岩波書店《岩波新書》、2011 年、￥840 ＋税
◎指定市販本：鈴木健一『知ってる古文の知らない魅力』講談社《講談社現代新書》、2006 年、￥740 ＋税

5　学習指導、注意点等　◆通信学習のリポートに、添削・講評でフィードバックする。
◆上記テキストを熟読し、個々の作品の概要と文学史の流れを学習すること。
◆見やすい手引き書として、以下の本を推薦しておく。
◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）、2017 年、￥900 ＋税
◆小学館の《新編日本古典文学全集》シリーズ、新潮社の《新潮日本古典集成》シリーズ、角川学芸出版の《角川ソフィア文庫》シリーズ、講談社の《講談社学術文庫》シリーズなどには、『古今和歌集』『伊勢物語』『枕草子』『源氏物語』『大鏡』などの原文・現代語訳が収められている。各作品を実際に読んでみることを推奨する。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history of Japanese classical literature（8C-13C）.

LIT100TC

日本文芸研究特講・中世

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**中司 由起子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　中世に成立した文学作品の作者・成立時期・特徴などの基本的な知識を獲得するとともに、個々の作品の時代背景や影響関係を通して、中世の文学の特質を考えることを目標とする。

2　科目の概要　中世に成立した著名な文学作品をとりあげ、作品の作者・成立時期・内容等の基本的事項を整理し、作品の解釈をおこなう。作品本文をていねいに読むことを大切にしたい。テキストの脚注だけでなく、辞書・注釈書を参照し、正確な解釈をする。そのうえで先行研究もふまえて自分なりの論を展開する。

3　成績評価基準　・リポート評価
課題が的確に論じられているかという点を評価したい。作品の梗概や参考文献の論をそのまま記すのではなく、作品を精読したかどうかに注目する。基本的な作文技術、形式（引用や注の仕方等）についても評価に入れる。
・筆記試験
中世の著名な文学の基礎的事項や特徴と中世文学の特質を問う。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『編年中世の文学』、新典社、浅見和彦・天野文雄・小島孝之・田村柳壹著、1990 年、￥ 2,000+税
本テキストは、作品を和歌、説話、軍記物語といったジャンルごとにまとめて扱うのではなく、編年の方法によって構成され、中世文学史を体系的にとらえることを目的としている。時代、歴史の流れに沿って、各ジャンルの変遷の実態を的確におさえてほしい。
本書の構成は、50 年ごとに年代を区切り、その各期で作品の年表と解説がまとめられ、続いて各期を代表する作品本文を掲載するというかたちをとっている。また掲載作品に関連する文学歴史作品も載っている場合があり、巻末に「中世文学小事典」を付す。
本書の各期で示された解説は簡略であるので、必ず以下の方法で学習にとりくんでほしい。
①　解説にとり上げられている作品名を、巻末の「中世文学小事典」や文学辞典などで調べ、その内容、作者、成立等の作品の基本的事項を整理し把握する。
②　下記にあげた参考文献の概説書を参照して、テキストに本文が掲載された作品の特質を、本文とつき合わせる。
③　本文を解釈するには、本文の脚注、辞書類のほか、新日本古典文学大系（岩波書店）・新編日本古典文学全集（小学館）・新潮日本古典集成（新潮社）等の注釈書を参照する。
概説書で指摘されている文学作品の特質を、本文から読みとり、中世文学史への理解を深めていくことを期待する。
なお単位修得試験では、作品本文の口語訳を出題することはない。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポート作成にあたっては、作文の基本的な事項（誤字脱字・文法・段落等）に加え、論の構成や注の付け方、引用の仕方、参考文献のあげ方などにも注意する。作品のあらすじは長々と記すのではなく、論の展開上必要な場合において簡潔にまとめる。課題は感想文やエッセイではないので、客観的、論理的な視点で取り組むことが必要である。

上記のテキストの詳細を読んでから、作品本文をじっくりと読み、諸注釈書や辞書類を活用しながら解釈をし、理解したうえで課題にのぞんでほしい。本文を読まずに、はじめから注釈書や先行研究論文等の論に従って課題にとりくむのではなく、まずは作品本文を精読すること。

Outline and objectives This course deals with the medieval Japanese literature. We organize basic matters such as author, creation time, contents of the text of the work, and interpret the work.

LIT100TC

日本文芸研究特講・近世

教科担当責任者：**小林　ふみ子**

担当者：**山口 恭子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　この科目では、近世文学（つまりおもに江戸時代の文学）を構成する諸ジャンルを知り、その主要な作品に触れることによって、近世文学の素材や内容、表現の多様性を知ることを目指します。大衆性ばかりが強調されがちな近世文学ですが、そうした面はもちろんのこと、高尚で雅な表現もあり、高度に機知的な技法を活かした笑いもあり、挿絵から見えてくる読みを求める作品もあり、流麗な文体の本格的な読み物もあり。そうした多様性の中から、等身大の江戸の人々の姿を捉えてみましょう。

2　科目の概要　20 の巻から成るテキストに「問題」がありますので、それを解き、「現代語訳」や「解説」を読んで、その要点や論点、疑問点をまとめるところから学習を進めてください。

テキストは比較的薄いものですので、むしろそれを第一の手がかりとして、興味を持った項目についてそれぞれの巻の「もっと読みたい人への読書案内」などを参考にして、学習を深めていただきます。

3　成績評価基準　単位修得試験では、テキストの内容を把握しているかどうかを評価基準とします。テキストに取り上げられているジャンル、作品、その作家や内容、史的意義等についての理解を重視します。

リポートでは、近世文学について学習を深めることができているかどうかを評価基準とします。各自の考察のありようを重視しますので、テキストに書かれていることを単になぞるのではなく、「もっと読みたい人への読書案内」に示された参考文献などをも用いた、検討・研究を行うようにしてください。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『江戸の詩歌と小説を知る本』初版、笠間書院、鈴木健一編、2006 年、￥ 1,700+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストは非常に基礎的なもので、取り上げている部分も各作品やそのジャンル全体のごく一部に限られます。

むしろこれはさらに広く深い近世文学への入り口として捉え、基本的な内容を調べ直し、理解したうえで、興味を持った作品やジャンルについて、疑問や考えたい、考えるべきテーマを見つけて掘り下げていこうという姿勢で臨んでください。

Outline and objectives This course deals with the early modern Japanese literature(mainly Edo-period literature). The aim of this course is to understand the contents and expressions of early modern Japanese literature.

LIT100TC

日本文芸研究特講・近代

教科担当責任者：**田中　和生**

担当者：**永岡 杜人**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　「日本近現代文学」の主軸を為す作家、作品について理解を深めるとともに、「近代」・「日本」・「文学」それぞれが抱えた（あるいは抱えている）諸問題の意味について、具体的に論じられる学力を醸成する。

2　科目の概要　「近代」とは、ひとことで言えば、人々に「自由」な「個人」になり得る、という夢を与えた時間のはじまりのことだが、同時にその「自由な個人」なるものの内実とそれを成り立たしめる困難とに彼らを絶えず向かいあわせた。本授業では、四迷、鴎外、漱石の明治作家から、志賀直哉、中島敦、小林秀雄、川端康成、梶井基次郎ら大正・昭和の作家、批評家、そして戦後の梅崎春生、小島信夫、安岡正太郎など多数の作家たちの作品を読み解くことを通じて、各時代にそれぞれの主人公たちが深く潜り抜けようとした問題の核心を考察する。

3　成績評価基準　・リポート評価
　参考文献（文学史・先行論文など）を「調べる」ことによって得られた「知識」はむろん大切だが、それ以上にいかに自分が「作品」自体と「向き合った」、「読んだ」かが読み手にしっかりと伝わるような内容を心がけること。「文学研究」もまた、「文学」であることが目指されなければならない。すなわちリポート作成にあたっては、「先行研究」をしっかりと包み込みながら、オリジナリティ溢れる場所へと出る「論文」の手続きと文体とを徐々に獲得していくことが望ましい。
・単位修得試験
　テキスト精読とリポート作成によって培われた「近現代文学」への知識量、理解力とをあらためて総合的に問い直すのが目的である。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本文芸研究特講・近代』第２版、勝又　浩、2009 年
（※ 前・通教テキスト『日本文芸作品作家研究（近代）』）
【参考文献】『言葉が見る夢』永岡壮人、同時代社、2020 年、￥3,300 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポート及び論文作成の基礎的事項については確認しておくこと。また学習者自体が、テキストで論じられている作家、作品はもとより、つねに良質の「文学」「文学研究」「文芸評論」に触れていることが大切である。

Outline and objectives　The purpose of this course is to understand the core writers and works of contemporary Japanese literature and to concretely discuss the meanings of the problems that each of "modern", "Japan", and "literature" has It is to be able to do.
This course introduces the Modern Japanese literature, for example, Natsume Soseki “Kokoro”,“Sorekara”,“Sanshiro”, Mori Ogai “Maihime”,Kawabata Yasunari“ Izu no Odoriko”,“ Yukiguni”,Kojima Nobuo“ Hoyokazoku”,Yasuoka Shotaro“ Kaihen no Kokei”,Nakajima Atsushi“ Sangetsuki”,“ Richou”,Kajii Motojiro“ Lemon”,Shiga Naoya“ Annyakouro”,Ibuse Masuji,Kobayashi Hideo,etc.
At the end of the cource,participants are expected to ability to read literary works and criticize.Grade evaluation is done by report and test.

LIT300TC

日本文芸研究特講・漢文

教科担当責任者：**遠藤　星希**

担当者：**大西 陽子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　漢文（本科目では中国古典文学を指す）についての基礎知識および評論する能力を習得目標とします。本科目における学習の到達目標は以下の通りです。
①漢文を読むための基礎的な読解能力を習得する。
②漢文における基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景）などについて理解し説明できる。
③作品分析を通して、中国古典文学の特徴や独自性などについて的確な解釈や論理的分析をすることができる。

2　科目の概要　本科目では漢文全般にわたる基本的な知識、および具体的作品を読解する基礎的能力を習得することを主眼とします。学習するにあたって中国古典文学の流れを時系列的に把握するだけではなく、中国特有の文学ジャンルや表現方法がどのような時代背景の下でどのような経過によって発展・盛行したのかという点にも着目しながら幅広い視野の下で多くの作品に接してもらいたいと考えています。そのためにも、各時代を代表する文学ジャンルや作者についての理解を深め、実際に作品を数多く読む必要があります。中国文学史関連の書籍を最低でも１冊は通読して文学史の流れを把握し、その上で原文（原文が掲載してある翻訳でも可）で具体的に作品にふれ、中国文学の奥深さ面白さを自分なりに発見していただきたいと考えています。リポート執筆にあたっては指定テキストだけでは不充分ですので、設題に附記する参考文献などを参照してテーマに沿った考察をしてください。

3　成績評価基準　[リポートの主な評価基準]
・リポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自な観点により考察・評論がなされているか。
・リポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章で論述されているか。
[単位修得試験の主な評価基準]
・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・明確で論理的な文章で論述されているか。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　松原朗 佐藤浩一 児島 弘一郎 著『教養のための中国古典文学史』研文出版、2009年、￥1,600+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり
本テキストは中国文学あるいは文芸を理解するうえで重要だと考えられる人物、作品、ジャンルなどを、テーマごとに各項目が全て２ページの見開きで収まるように書かれた解説書の形式になっています。それぞれの項目が簡潔で読みやすい文章なので、自分の興味のある箇所から読み始めることができます。また全体を通読することによって中国古典文学の流れを通史的に理解できるような構成になっています。
文末には詳細な参考文献目録、中国文学関連年表、索引などが付録されており、テキストだけでは不充分な項目や更に発展的に学びたい人への手引きとしての便を図っています。是非熟読して大いに活用してください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート課題および単位修得試験の設題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視野で考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不充分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にリポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについて各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。
またリポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。
①　リポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のリポート独自の題をつけて提出してください。
②　リポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
③　参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
④ Web や他人の論文などから文章の引き写しはしないでください。
⑤　作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかがわかるように、必要に応じて訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
⑥　孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and basic knowledge about Chinese classic literature.

LIT200TC

日本文芸研究特講・現代

教科担当責任者：**田中　和生**

担当者：**沼田 真里**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年 4 月より通教テキスト改訂
※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　日本現代文学を時代の流れとともに学び、作品読解を通じて、各作家や作品への理解を深めます。また、日本現代文学を研究するにあたり、従来から重要視され、広く議論されてきた諸問題や主要な言説をふまえつつ、具体的に論じられる学力、論理力を醸成します。

2　科目の概要　この科目では、テキスト『日本文芸研究特講・現代』（田中和生、沼田真里編）をもとに、日本現代文学について学び、
作家・作品に対する理解を深めます。また、二度の設題によるリポート制作により、論文作成の基礎的な力を身につけます。
試験については、日本現代文学史の知識と共に、テキストに出てくる作家・作品についての理解を問います。
リポートにおいては、作品を鑑賞するだけではなく、論じること（テーマを設定し結論を導き出すこと）を求めます。

3　成績評価基準　・リポート評価
テキストを熟読したうえで、個々の作家・作品に対し、自分の論やテーマをもって論じられているかどうかを評価します。また、他の文学史や作家研究、作品研究も幅広く参考にした上で、論文の基本的な構造・形式を備え、ふさわしい文章（文体）であるか否かも評価します。
・単位修得試験
テキストや参考書の丸暗記ではなく、リポート作成やテキストの精読を通してえた現代文学の知識が、作家・作品や文学研究に対する総合的理解にまで至っているかを評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本文芸研究特講・現代』第 2 版、田中和生・沼田真里（編）、2020 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずはテキストの概論で、日本の〈現代文学〉の全体像をつかみましょう。さらに、各章を読み、各執筆者の作家紹介や作品分析を熟読することで、日本現代文学研究の基礎的知識を吸収すると共に、論じ方のスタイルや、多種多様な研究手法を参考にしてください。

その後、各章で取り上げられている文学作品を読み、自分の観点や疑問を探りながら、他の参考文献も広くあたってください。そして最終的に、自分なりの観点やテーマを絞りこみ、文章の形式・構成を整えながら、リポートをまとめましょう。日本近現代文学の研究論文の書き方や、それにふさわしい文体や論文の構造も、確認しながら書いてください。
本講座のリポート作成時にしばしば学生さんが陥る難点に、リポートが文学作品のあらすじのまとめや感想文、先行研究の解説となってしまうケースがあげられます。まず自分の独自の観点や読みを設定した上で、論証の手順を検討した設計図（下書き）を作ると良いでしょう。その上で、リポートの執筆に着手することをおすすめします

参考文献を引用する際は、引用先の考えと、自分の考え・論とを明確に分け、引用文献の出典情報を明記してください。リポート作成の際には、「設題総覧」の注意事項をよく読んで臨んでください。

【参考文献】
『日本文学史　近代から現代へ』中公新書、奥野健男、2002 年、￥ 740
『書く前に読もう超明解文学史』集英社文庫、三田誠広、2005 年、￥ 514
『ハンドブック　日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、日本近代文学会、￥2680

Outline and objectives　日本文学科のディプロマポリシーである「1. 日本の文学・言語・芸能の歴史と現状についての基本的な知識を身につけている。」「3. 自ら問題を発見し、その問題について考察を深められる思考力を有している」「4. 自らの研究や発想の成果を的確に伝えられる日本語の表現力を有している」に沿った能力の習得を目的とする。

● The aim of this course
This course deals with the basic knowledge of Japanese contemporary literature research, with work analysis and writing reports. It also enhances the development of students'skill in understanding and analyzing Japanese writers and works of contemporary literature from various perspectives; literary thought in contemporary Japanese literature, a mainstream discussion in literature research and historical context.

● The contents of this course
1.Introduction: What is Japanese contemporary literature?
2.DAZAI Osamu “Otogizoshi: The Fairy Tale Book of Dazai Osamu”
3.HANIYA Yutaka “Shirei”
4.OOKA Shohei “Fires on the Plain”
5.TAMURA Ryuichi “Four thousand of the day and night”
6.ETO Jun “NATSUME Soseki
7.YASUOKA Shotaro “A view by the sea”
8.OE Kenzaburo “Silent Cry”
9.Oba Minako “Three crabs”
10.GOTO Meisei “Shot by Both Sides”
11.KARATANI Kojin “The origin of modern Japanese literature”
12.NAKAGAMI Kenji “Thousand years of pleasure”
13.TSUSHIMA Yuko “Woman Running in the Mountains”
14.TAWARA Machi “Salad Anniversary
15.MURAKAMI Haruki “The Wind-up Bird Chronicle”
16.YAMADA Eimi “Fumizekka”
17.YOSHIDA Shuichi ”Villain”
All chapters are listed in the textbook, and commentary is attached. Students write a report with reference to the content of this textbook.

● Grading
Grading will be decided based on two reports and an examination to take credit.

LIN200TC

日本文芸研究特講・言語

教科担当責任者：**間宮　厚司**

担当者：**阿部 美菜子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　1000 年以上前に書かれた『万葉集』の短歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学習します。まずは、テキストを入手して、「まえがき」と「Ⅰ『万葉集』の基礎知識」を読みましょう。次に「Ⅱ万葉異説―訓読の再検討と類歌の表現比較」を第 1 話から順々に読み進めて下さい。そこから、具体的な研究方法（問題点の発見・論証の仕方・論の展開・結論の出し方）を学びます。学習の到達目標は、テキストに書かれている内容を十分に理解し、人に説明出来るようになることです。

2　科目の概要　本科目では、万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を通して、上代日本語の表記・文法・表現などについての理解を深めます。

3　成績評価基準　テキスト中の「第 1 話～第 10 話、第 12 話～第 13 話、第 16 話～第 19 話」の中から、指定された 2 話を各 1200 字程度で要約するリポート（20 %）、そして、テキスト「第 1 話～第 10 話、第 12 話～第 13 話、第 16 話～第 19 話」に書かれている内容を十分に理解しているか否かを確認する単位修得試験（80 %）の出来をみて、総合的に評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『万葉異説－ 歌ことばへの誘い』、森話社、間宮厚司著、2011 年、￥ 1,900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストの内容を十分に理解できるまで、熟読しましょう。また『万葉集』に関する注釈書の中で比較的入手しやすいものをテキストの 144 頁に一覧しましたので、図書館などを活用し、自ら積極的に勉強して下さい。

Outline and objectives　This course deals with the Japanese notation, grammar, expression in ancient times through the "Manyoshu".

LIT200TC

中国文芸史

教科担当責任者：**遠藤　星希**

担当者：**大西 陽子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　本科目は中国の文芸（主に詩文・戯曲・小説などの中国古典文学全般を指します）についての基礎的知識を習得し、かつ正確に理解し自ら探求する能力を向上させることを到達目標とします。本科目の到達目標を以下に列挙します。
①中国の古典作品（詩文）を原文（書き下し文や翻訳本などを参考にして理解することも可）で読むための基礎的な読解能力を習得する。
②中国独自の文芸の成立と展開について、その歴史的背景を踏まえて理解し、基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景）などについて的確に説明できる。
③作品分析を通して、中国の文芸の特徴や独自性などについて的確な解釈や論理的分析をすることができる。

2　科目の概要　本科目で扱う中国文芸とは、主に詩文・戯曲・小説などの古典文学を指しますが、文学と深く関連する書・絵画・音楽などの芸術全般についても視野を広げて考察の対象とします。時代的には清朝末までの作品が対象となります。中国の古典文学および芸術は、各時代の社会思潮や文化と深く関連しながら形成・発展を遂げてきました。本科目では中国文芸の通史的理解や基本的知識を習得した上で、中国独自の文芸の特徴や中国人の思考様式を、作品分析を通して考察していくことを主眼とします。まずは中国文芸の歴史の流れを知るためにも、中国文化史（文学史）関連の書籍を最低でも 1 冊は通読してください。その上で、具体的に作品を分析考察して中国古典文学作品への理解を深め、中国文芸の奥深さや面白さを自分なりに発見していただきたいと考えています。リポート執筆にあたってはテキストだけでは不充分ですので、設題に附記する参考文献を参照してテーマに沿った考察をしてください。

3　成績評価基準　[リポートの主な評価基準]
・リポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自な観点により考察・評論がなされているか。
・リポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章が書けているか。
[単位修得試験の主な評価基準]
・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・明確で論理的な文章で論述されているか。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　『中国文芸史』第 1 版・安藤信廣著・1992 年
※【申告制】テキスト
　テキストの内容は、上古（殷王朝）から近世（清朝末）までの中国文学の展開の道筋を、古代、中世、近世と三期に大別したうえで、歴史の流れに沿って概説されています。ただし、一般的な中国文学史と異なり、どの時代にどのような作者や作品が流行したかという概説ではなく、それぞれの時代や作者を紹介するにあたって具体的作品の用例を提示し、作品論を通じて展開された文学史となっています。さらに文学の背景となる社会的情況についても端的に特徴づけて、文学と時代の相互関連性を明確に位置づけながら論述されています。いわゆる文学だけでなく、広く芸能や演芸などについても言及されており、時代

の特徴だけでなくテーマやジャンルから調べようとする場合にも参照しやすく、かつ大変わかりやすいテキストですので、熟読して大いに活用してください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート課題および単位修得試験の設題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視角から考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不充分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にリポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについては各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。
またリポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。
①　リポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のリポート独自の題をつけて提出してください。
② リポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
③　参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
④　Web や他人の論文などから文章の引き写しはしないでください。
⑤　作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかがわかるように、訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
⑥　孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives　The purpose of this course is to help students master the basic comprehension ability to read a Chinese classical work.

LIN200TC

日本言語史

教科担当責任者：**間宮　厚司**

担当者：**松永 明**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（通教テキスト → 指定市販本）変更

1　学習の到達目標　①未だ定説が存在しない日本語の系統と、日本言語史上の時代区分法を把握する。
②上代から近・現代までの各時代における音韻・文法・語彙それぞれの特徴を把握する。
③日本語に大きな変化をもたらした言語史上重要な言語現象を把握する。

2　科目の概要　現在我々が日常使用している日本語は、いつ、どのように始まったと考えられているのか、またどのような変遷過程を経て、現在のような状況に至ったのか、日本語の音韻・文法・語彙は各時代を通じてどのように変化してきたのか、などを学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）
　リポートは下記の項目ごとにそれぞれ基準を設定し評価する。
①設題・テキスト・参考文献・学術用語の理解度（設題やテキスト、参考文献の対応箇所、学術用語などを正確に理解できているかどうか）
②構成力と論述展開の妥当性（論の構成と論旨の展開が無理なく、また緊密であるかどうか）
③設題に応じた内容の充実度（内容が設題に正対し、充実しているかどうか）
④文章表現力（正確で理解しやすい文章として表現されているか。誤字・脱字などの表記を含む）
⑤リポート執筆上の規則遵守（参考文献一覧の有無・長さ・引用と意見の明確なかき分けなど、執筆上の規則が遵守されているかどうか）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト:『日本語の歴史〔新訂〕』近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己著（放送大学教育振興会発行）￥2,400(税別)
【参考文献】
『国語学大辞典』国語学会編（東京堂出版）1980 年、19,950 円
『日本言語史要説』渡辺実著（岩波書店）1997 年、￥2,200
『日本語百科大事典』金田一春彦他編（大修館）1988 年、16,800 円
『日本語史要説』渡辺　実著（岩波書店）1997 年、2,310 円
『よくわかる日本語史』真田信治著（アルク）1999 年、2,100 円
『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書）2006 年、￥820
『日本語学研究辞典』飛田良文他著（明治書院）2007 年、16,800 円
『はじめて読む日本語の歴史』沖森卓也著（ベレ出版）2010 年、￥2,130
『国語史を学ぶ人のために』木田章義編、世界思想社、2013 年、￥2,900

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。①テキストの『日本言語史』に基づいてすべての課題は設定される。従って日本言史の概説書として本書を徹底的に熟読することが必須である。
②上述の文献以外にも積極的に資料を探し活用することが高評価には重要である。

LIN200TC

日本文法論

教科担当責任者：**尾谷　昌則**

担当者：**村島 祥子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本語文法の入門書を読むことを通じて、日本語学及び日本語文法の基礎的知識を身につけることを目指します。

2　科目の概要　日本文法における様々なテーマについて、その基本的な定義や分類をおさえ、実際の用例を観察しながら日本語についての理解を深めていきます。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します（ただしリポート学習もしっかりと行うこと）。試験は教科書から出題しますので、必ず指定教科書を読んでから試験に臨んでください。リポートもまず教科書をよく読み、その後参考文献と比較し、用例を挙げながら自分の考えを述べてください。

4　テキスト名および詳細　【指定市販本】『ここから始まる日本語文法』ひつじ書房　森山卓郎　2002 年　￥1,800+税
【参考文献】
『改訂版　日本語要説』工藤浩ほか　ひつじ書房　2009 年
『現代日本語文法　1～7』日本語記述文法研究会　くろしお出版　2010 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。日本文法について、大学にふさわしいレベルの回答を要求します。高校生向けの教科書や辞書、大学受験用の参考書の内容をそのまま書き写すことはしないでください。英文法との安易な比較や、自らの日常会話の感覚を独断的に回答するようなことも好ましくありません。まずは指定教科書を熟読し、基本的な辞書や入門書等を読み比べ、その他色々な考えと比較しながら自分なりの結論をまとめていきましょう。結論を導くための用例をなるだけ多く挙げること。

Outline and objectives　We aim at acquiring basic knowledge of Japanese linguistics and grammar. We will also deal with various grammatical themes, checking their basic difinitions and classifications and verifying(or examining) practical examples.

ART200TC

日本芸能史

教科担当責任者：**伊海　孝充**

担当者：**本塚 亘**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　多様な展開を見せた日本芸能の歴史の概略を理解することが目標である。日本の芸能は、宗教的儀礼・宮中行事・各地の民俗・各時代の「観客」の要請など、その背景にある要素が多様であり、そのすべてを一度に理解することは困難である。本科目では、どの時代にどのような芸能が生まれ、各芸能がどのような影響関係にあるのかを中心に、日本芸能史の展開を理解していく。

2　科目の概要　指定テキストに従って、雅楽・寺社芸能・芸能民・能楽・歌舞伎・浄瑠璃・舞踊・曲舞・大衆芸能・沖縄芸能の 10 のテーマ別に学習する。まずは、各芸能の成り立ちと展開をよく理解し、その上で他芸能との影響関係をしっかり理解できるようにしたい。そのため、リポート・単位修得試験ともに、この２点に焦点を当てて出題をする。また、テキストはあくまでも日本芸能史の概説である。今後の研究のためには、テキスト以上の知識を必要とする場合が多い。テキストに挙がっている参考文献、教員が指示した書籍などを積極的に活用し、そうした学習の成果をリポートに発揮してほしい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。
【リポート】
内容面は、まずテキストに書かれている芸能の基本的知識を理解することが必要である。その上で、自分自身で考究した結果をリポートに盛り込んでほしい。また、技術面では、大学生としてふさわしい文章力が身についていることが必要である。そのため、内容だけでなく、文意が他者に伝わる文章になっているか否かも重要な採点基準とする。さらに、『日本文学科のしおり』などをよく読み、リポート・論文を書く上での正しい書式もしっかり理解しておくこと。特に、引用・参考文献に関する記述の方法については、十分確認しておくこと。
【単位修得試験】
試験は、テキストに書かれている内容から出題する。すなわち、基本的な知識問題が中心となる。設題になっている芸能がどのような芸能なのか、また、それに関わる重要人物は誰かなどをしっかり説明できるよう学習し、試験に臨むこと。
【代替リポート】（＊新型コロナウイルス感染症拡大の影響により単位修得試験を中止する場合）
上記【単位修得試験】の内容をリポート形式で行う。ただし、テキストを含め、資料、web サイトなどを引用、参照する場合は、執筆者名、論文名、掲載資料名、出版者名、出版年、頁数、URL、閲覧日等を明記すること。また、リポートのどこに引用・参照されているのか注記などで明示すること。典拠不明の記述については評価対象としない。また、引用方法が不適切な場合は問答無用で不合格となる。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　『日本の伝統芸能講座　舞踊・演劇』、淡交社、服部幸雄監修、2009 年、￥ 3,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・この科目は、日本芸能の概論である。ここで出会った芸能を自分の興味にそって、さらに深く学ぶことが重要である。この授業で学んだことが、他の履修科目、自宅学習、卒業論文と有機的に繋がることを期待したい。
・この科目は、芸能文化コースで卒業論文を執筆する学生には、

必修科目となる。将来、芸能で論文を書く予定の者は、必ず履修すること。また、現段階で他コースに進む予定の者も履修しておくことを勧める。
・この科目での学習を契機として、実際に現在行われている伝統芸能に触れる機会をもってほしい。座学では実感できないようなことも、具体的な体験によって理解を深めることができる。また、実見によって得た着想を、リポートや単位修得試験、卒業論文のテーマ決定等に役立ててほしい。

Outline and objectives The goal of this course is to understand the history of the Japanese performing arts, which have developed in various ways. The background of Japanese performing arts is diverse, including religious rituals, court ceremonies, local customs, and the needs of the people in each period. This course aims to understand the development of the history of the Japanese performing arts, focusing on when and how the performing arts were born and how they influenced each other.

ART300TC

日本美術史

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**萩原 哉**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①飛鳥時代から江戸時代までの日本美術史の大きな流れを理解する。
②各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品に認められる様式的・技法的な特色を理解する。
③日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

2　科目の概要　日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来文化の影響を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。本科目では、飛鳥時代から江戸時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。
なお、リポート、単位修得試験は、以下の３点を基準として採点をおこなう。
①飛鳥時代から江戸時代までの日本美術史の大きな流れを理解していること。
②各時代の代表的な作品について、それぞれの様式的・技法的な特色を的確に理解していること。
③それぞれの作品が生み出された時代背景を理解していること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『カラー版　日本美術史』増補新装版、美術出版社、辻　惟雄監修、2003 年、¥1,900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずテキストを熟読し、日本美術史の大きな流れを把握すること。各時代の代表的な作品については、テキストとともに美術全集等の図版解説や事典類を参照し、基礎データ（名称、作者、制作年代、材質、寸法、所蔵者）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色、そこに認められる外来文化の影響などを明確に整理し、理解すること。また、それぞれの作品については、必ず美術全集等の大型図版を参照し、具体的なかたちのイメージ（主題、表現、造形的・技法的特徴など）の把握につとめるとともに、自らの視点により作品の比較・分析を試みること。
　なお、美術史を学ぶ上で、実際に作品を鑑賞することが何よりも重要である。受講者は、美術作品を所蔵する社寺や博物館等に積極的に足を運び、作品を鑑賞する機会を得るよう心がけて欲しい。

Outline and objectives In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Edo era.
Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

ART300TC

西洋美術史

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**濱西 雅子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　西洋美術の名作について、図像（主題、内容）、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深めることを目指す。

2　科目の概要　美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。本科目では、西欧古典古代から、中世ロマネスク・ゴシック、近世ルネサンス、近代 19 世紀の時代にかけて、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる美術作品を考察の対象とする。課題のなかから各自作例を選択し、具体的に美術史的なアプローチを行うことにより、様々な側面からの理解を深めることを目指す。また文化交流という視点も併せて考えたい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　下記のいずれか一冊で可

●指定市販本　高階秀爾監修、『カラー版 西洋美術史』〔増補新装版〕、美術出版社、2002 年、￥1,900+税

本書は古代から 20 世紀末までの西洋美術の歴史を、340 点の豊富なカラー図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸各分野にわたりわかりやすく概観するものである。2002 年刊行の増補新装版には、1990 年刊行の旧版に、最終章と簡単な用語解説等が加えられている。本文のコラムとともに、こうした巻末の用語解説、新たな美術史年表も学習の手引きとされたい。

●指定市販本　H．W．ジャンソン、A．F．ジャンソン著、木村重信、藤田治彦訳、『西洋美術の歴史』、創元社、2001 年、￥3,400+税

本書は古代から 20 世紀までの西洋美術の歴史を、カラー 219 点、白黒 300 点の豊富な図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸等各分野にわたりわかりやすく概観するものである。巻末に加えられている、地図・用語解説・年表等も学習の手引きとされたい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずテキストを通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。

その上で各自リポート課題に沿った専門文献にあたり理解を深めることが望まれる。すなわち、入門書・通史概説書以外にも、個別の課題に沿った美術史の専門文献を広く参照する必要がある。

そして選択した作品の基本データ（制作年代・規模等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、造形的表現の特質、美術史上の意義等について考察して欲しい。西洋美術史の専門文献で得た知識を基に、与えられたテーマについて自ら論ずる力をみる。

なお美術史の専門文献を三点以上参照し、実際に用いた文献データ（参照ページも忘れずに）をリポート末に明記すること。

＜参考文献表の注意点＞

書籍の場合は、著者名（ないし編者名）、二重鍵括弧（『　』）の中に書名、出版社、発行年、参照ページの順で記載する。専門誌掲載論文の場合は、著者名、論文のタイトル（一重鍵括弧「　」で囲む）、掲載誌名（二重鍵括弧『　』で囲む）、号数、発行年、参照ページの順で記載する。例：

法政信子編『ラファエロ画集』講談社　2016 年　pp. 114-120

法大通教著「ミケランジェロ《ピエタ》を巡る一考察」『市ヶ谷大学 文学部紀要』 第 21 号　2012 年　pp. 7-18

＜図書館利用時の注意点＞

図書館を利用する際は、送付サービスの利用、近隣の図書館に行く、事前の OPAC 検索や取寄せ、滞在時間の短縮化に努める等、十分に安全管理に留意すること。

＜インターネット検索時の注意点＞

●検索対象：

図書館の利用も厳しい状況のため、美術史専門文献の参照も困難と思われる。その代替措置として、インターネットによる、専門家の情報の検索が求められる。ただしインターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物（Wikipedia、個人の Blog や HP 等）を参照することは厳禁とする（部分的にも利用した場合は、評価の対象外）。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式 HP の専門家による解説等を参照すること（他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること）。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史 (ないし建築史) の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

●検索先：

1. IRDB（学術機関リポジトリデータベース） IRDB 検索画面 ： https://irdb.nii.ac.jp/（「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し，電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なお IRDB 検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。）
2. CiNii（サイニー、サイニィ、サイニイ）国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面： https://ci.nii.ac.jp/ja
3. Googl 等での検索（論文でないものも検出されるので要注意。）

●検索キーワード：

1.「画家名」 2.「作品名」3.「論文」4. その他「美術」といった分野名等各自様々に工夫をこらし検索をかける。

Outline and objectives　Art history is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture.　In this course, from Western European classical ancient, medieval Romanesque / Gothic, early modern Renaissance, modern 19th century era, art works taking a variety of expression forms such as architecture, sculpture, painting, crafts etc. are considered. By choosing each example from among the subjects and conducting a specific artistic approach in concrete terms, we aim to deepen understanding from various aspects. Also think about the perspective of cultural exchange.

PHL300TC

社会思想史

教科担当責任者：**伊海　孝充**

担当者：**伊藤 直樹**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　古代から 20 世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2　科目の概要　社会思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかに生きている。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17 世紀において、また 19 世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会思想「史」であるとは、社会についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

3　成績評価基準　・リポート評価

ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。

次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。

また、学ぶ内容は、過去の思想である。したがって、けっして自分の思い込みでリポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。

・筆記試験

リポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうかが、評価の基準となる。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『社会思想史』第２版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、2010 年

まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。

上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったリポートを書くべきかが、見えてくるはずである。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、リポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたリポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわない、ただ難しいだけのものになってしまっている。これでは、学びとは言えない。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

LIT300TC

世界文芸思潮

教科担当責任者：**伊海　孝充**

担当者：**伊海 孝充**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年度で廃止（リポート再提出・単位修得試験再受験のみ 2023 年 3 月まで経過措置）

1　学習の到達目標　あなたが日本文学を専攻したのは「日本文学」が好きだからですか？ それとも「文学」が好きだからですか？
選択基準のなかに、「文学」を本当に味わいたい、もっと知って、もっと感動したいという気持ちがあるならば、ぜひこの機会に、西洋文学の世界も覗いてみてください。西洋文学のあたえる感動を体験したあとの、日本文学を見つめるあなたの眼は、今まで以上に研ぎ澄まされたものになっているはずです。これが到達目標です。

2　科目の概要　この科目は、西洋文学の大きな思潮を代表的作品に触れながら説明するものです。西洋文学は、古代ギリシア・ローマの文化と、キリスト教という共通の源をもっています。同じ源をもつ西洋文学を、国民文学史としてとらえることは出来ません。地域性を超えた大きな流れとして、ひとつの全体としてとらえることによって、初めて理解、感動することが出来る世界なのです。文学以外の芸術や時代精神も視野に入れながら考えてゆきます。また映画化された作品も多く出てきます。大いに参考にしてください。

3　成績評価基準　設題に答えるリポートと筆記試験による総合評価。
リポート：作品を読み、自分の考えをきちんとまとめてから書いてください。テキスト、参考文献等も活用してください。
筆記試験：教科書から出題します。教科書を理解してから試験に臨んでください。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『世界文芸思潮』第２版（渡辺廣士、長谷俊雄編著、2010 年）
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの中で気に入った作品に出会ったとき、その作品を直接読むようにしてください。名作は歴史を生き抜き、私たちの手もとに残されたものです。かならず何かを語ってくれます。
　テキストに出てくる作品はいずれも、文庫本等で容易に入手できるものばかりです。

Outline and objectives　Is the reason you majored in Japanese literature that you like "Japanese literature"? Or that you like "literature"?If you really want to know "literature" and be impressed by the selection criteria, please take this opportunity to take a look at the world of Western literature. After experiencing the emotions of Western literature, your eyes on Japanese literature should be sharper than ever. This is the goal.

LIT300TC

比較文学

教科担当責任者：**遠藤　星希**

担当者：**吉井 涼子**
単位数：**4 単位**
※ 2021 年 4 月より新規開設

1　学習の到達目標　『古事記』を主として日本神話を、『史記』などから中国の神話的部分を学ぶ。
・日本の神話・伝説と、古代日本に大きく影響を与えた中国の神話・伝説を知ることにより、古代の日本・中国に関する知識を身に付け、教養を培う。
・自分の出身地の旧国名などを知らない人も多いが、日本の神話中の故地や地名由来譚をとおして、旧国名や地理、土地土地の伝承を学ぶ。

2　科目の概要　部分的に知っている人の多い日本の神話と、日本では一般的ではない中国の神話を合わせて読むことで、共通点や相反する点学び、理解を深め、学問的視野を広げる。
日本の神話の代表的な書物は『古事記』『日本書紀』『風土記』などがすぐ挙げられるが、一方で中国では「神話」として体系的に纏められた一次資料がない。日本の場合も「歴史書」として編纂されたわけではあるので、編纂当時から「神話」として見なされたわけではないが、中国の方は正史の初めである『史記』の本紀の最初の部分に「歴史の一部」として記録されているものや、百科事典的性格の強い『淮南子』或いはその他の書物（諸子百家の記した書籍）などに、「神話的な部分」が散見されているような状態である。そのような成立過程への違いも、内容とともに理解する。

3　成績評価基準　提出のリポートと、単位修得試験によって評価する。
リポート２回をそれぞれ３割、単位修得試験を４割の比で算出する予定なので、それぞれにきちんと取り組むこと。
【レポート】
・どんなに優れた内容でも、課されたテーマと異なるものは評価できないので、テーマや体裁および字数などをよく確認して書くこと。
・書く際には、そのテーマに沿った上で、自分の述べたいことを伝えるにはどのような構成が良いかなど、わかりやすい文章を心がけること。
・引用がある場合は、必要最少限にすること（過度な引用は減点とする）
・引用がある場合は、その部分が引用なのかをわかるようにした上で、必ず引用元を明記すること。
・誤字脱字に注意すること。
・この他、基本的な文章の書き方に準拠すること。
【単位修得試験】
・論述式である。
・誤字脱字に注意すること。
・自身が学んできたことを、よく復習しておくこと。
【共通】
・テキストは勿論、参考文献などから得た知識以外も、大いに活用すること。

4　テキスト名および詳細　【テキスト】
・『古事記』（角川ソフィア文庫ビギナーズクラシック）角川書店編、2002 年、￥720
・『史記〈1〉本紀』（ちくま学芸文庫）小竹文夫ら翻訳、ちくま書房、1995 年、￥1,400

【参考図書】
・吉田賢抗 新釈漢文大系『史記』一 本紀上 明治書院 1973 年
・伊藤清司『日本神話と中国神話』学生社　1979 年
・倉野憲司 岩波文庫『古事記』岩波書店 1963 年
・大野晋ら校注 岩波文庫『日本書紀』岩波書店 1994 年
・大林太良 講談社学術文庫『神話の話』講談社 1979 年
・この他、テキストの参考文献など。
テキストは一次資料の訳本・訳注などである。これのみで比較をするのは難しいことと思うので、参考図書などを適宜参照するとこ。参考図書としている書籍は高額、あるいは入手困難なもののため、テキストには指定しないが、可能であれば図書館などを活用して一読すること。また、特に研究所は、筆者によって述べていることが異なる場合やかなり独特の学説の場合があるが、神話研究は特に諸説ある分野であるので、一つの説に拘らずに、様々な説に触れること。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。神話・伝説は、往々にして辻褄が合わなかったり、矛盾したり、登場人物の行動が不可解であったりするものである。特にそのような部分は、なぜなぜそうなったのかなどに想像を膨らませながら、テキストの解説や註釈および参考図書の先行研究を読み、理解を深めること。

ART300TC

書道史

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**山口 恭子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項の習得を目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三蹟」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解することが重要です。

2　科目の概要　中国、および日本における書の史的展開について学びます。上記のように、主な書道史的事項、書家や作品、そしてその史的意義といった、基本的なことがらの理解を目指していますが、そうした学習を通して、広い視野で書芸術の多様な世界を眺め味わうということも試みてゆきましょう。そのためにも、図書館等で、『書道全集』（平凡社、1974 年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996 年）といった全集、図版類を見たり、博物館に足を運ぶなどもして、色々な作品に触れて下さい。

3　成績評価基準　単位修得試験では、書道史の基礎的ことがらを把握しているかどうかを評価基準とします。とくに、テキストに取り上げられている事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義についての理解を重視します。
リポートでは、書道史について学習を深めることができているかどうかを評価基準とします。各自の考察のありようを重視しますので、テキストや参考文献に書かれていることを単になぞるのではなく、設問に応じた検討を行うようにしてください。

4　テキスト名および詳細　・指定市販本『書道テキスト＜第２巻＞中国書道史』、二玄社、大東文化大学書道研究所編、2011 年、￥1,600+税
・指定市販本『書道テキスト＜第３巻＞日本書道史』、二玄社、大東文化大学書道研究所編、2010 年、￥1,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの学習にあたっては、まず、時代の様相やおおまかな史的展開を把握し、そのうえで細やかな事項の理解に努めてください。
なお、テキストに書かれていることがらは、非常に多岐にわたります。他の書道史に関する文献も必ず参考にし、「何が書道史のポイントであるのか」をきちんとつかみながら学習を進めることが重要です。

Outline and objectives　This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIT300TC

書道実技

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**井澤 秀彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①中学校国語科書写の指導者として、楷書および行書の特徴や用筆・運筆を正しく理解し（知識）、基本点画の習得と表現力を身につける（技能）。
②用具・用材【筆墨硯紙】の特徴を理解し（知識）、正しい扱い方ができるようになる（技能）。
③書写の授業者として教壇に立つ際に、生徒に対する全体指導と個別指導が行えるようになる（態度）。
④生徒が学習した内容を、実生活に役立てる書写指導ができるようになる（態度）。

2　科目の概要　中学校国語科書写の指導では、目的や必要に応じて、文字を正しく整えて速く調和よく書く能力を身に付けさせるとともに、生活に役立てる態度を育てることを目標としている。
　中学校段階で学習する楷書および行書と、それぞれに調和する仮名の理解と技能の習得、また、正しい姿勢や執筆法、用具・用材の基本的な扱い方など、指導者としての基礎的な知識・技能・態度の育成を目標とする。

3　成績評価基準　〇楷書　楷書の基本点画と正しい用筆・運筆、文字の組み立て方の理解。半紙に対する適切な文字の大きさの理解。氏名の位置と大きさ。
〇行書　行書の基本点画と正しい用筆・運筆、文字の組み立て方の理解。行書の特徴（変化・連続・省略など）と筆脈。半紙に対する適切な文字の大きさの理解。氏名の位置と大きさ。
〇漢字と仮名の調和　漢字と仮名の大きさの違いと全体の調和。書式（行書き・散らし書き）の理解。

4　テキスト名および詳細　・通教テキスト『書道教本』（第１版）、井澤秀彦、2010 年　※【申告制】テキスト
・指定市販本『国語科書写の理論と実践』全国大学書写書道教育学会、萱原書房、2020 年、￥ 1,000+税
※『国語科書写の理論と実践』の代替として、指定市販本『明解書写教育（増補新訂版）』も使用可。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。最初に『国語科書写の理論と実践』をよく読み、書写とは何かということと、基本的な用語や姿勢・執筆法、用具・用材の扱い方、楷書および行書の基本点画と用筆・運筆、文字の組み立て方などを正しく理解をすること。
筆…使用する筆は中鋒・兼毫が望ましい。氏名および細字には小筆を使用すること。
墨…固形墨を磨墨する。極端な濃淡に注意し、適切な濃度・美しい墨色を出せるよう努力すること。墨汁（墨液）は使用不可。
硯…石製の硯を使用すること。プラスチック製やセラミック製の硯は使用不可。
紙…提出用の半紙は指定半紙が望ましい。指定半紙以外では、色のついた半紙や表面のツルツルしている加工紙等は使わず、多少滲むくらいのものを使用すること。
※上記の用具・用材は一般的に安価なものは扱いにくいものが多い。ある程度しっかりした良いものを使用すること。
【リポート作成上の諸注意】
教本をよく観察し、基本点画や用筆・運筆、文字の組み立て方をしっかり学ぶこと。我流にならずに、まずは細部まで教本と同じように書けることが必要である（教本の敷き写しは厳禁）。

HIS100TD

日本史概説

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**川上 真理**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（通教テキスト → 指定市販本）変更

1　学習の到達目標　・日本史の個々の史実を、通史的・概説的に理解する。
・史実を列島社会に固有の文化的伝統との関連のなかで解釈する方法を身につける。
・日本人のアイデンティティの確立にとって、日本史上の個々の史実は如何なる意味を持っていたのかについての見通しを得る。

2　科目の概要　原始、古代、中世、近世、近代の通説的な時代区分にそって、政治の展開と社会経済の動きを、日本文化の発展との関係において理解する。

3　成績評価基準　・最終成績は単位修得試験により評価するが、リポート学習もしっかりと行うこと。
・リポート作成では、まず個々の事象についての通説を正確に理解し、それぞれの事項がどのような事実であるか、それらが各時代でどのような意義を持つものであるかに留意すること。また、同時代の他の事象との相互連関や、前後の時代との関連にまで視野を広げて考察すること。
・構成・引用・参考文献などリポートの体裁が整っていることは必須である。また、教養本・ハウツー本ではなく、専門性のある文献を参照すること。
・試験は、歴史用語を正しく理解していること、歴史的事象を時系列で整理し、事実に基づく解釈を行っていることを重視する。

4　テキスト名および詳細　佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000 年、￥1,900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。歴史的な用語については『国史大辞典』を、具体的な史実に関してはテキスト以外の専門的な書物を、それぞれ参照して理解を深めること。
参考文献として、若干紹介しておく。
〇朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000 年、￥2,800+税
〇尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、￥700+税
〇網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、￥2,200+税
〇大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史』全 22 巻、岩波書店、2013 年～2016 年、￥3,200+税

Outline and objectives　・To understand the individual historical fact of Japanese history in a historical and out-of-the-way way way.
・Learn how to interpret historical fact in connection with cultural traditions inherent in archipelago society.
・To obtain a view on what the individual historical fact in the history of Japan had in the establishment of the identity of the Japanese.

HIS200TD

史学概論

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**秋山 千恵**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目標とします。

2　科目の概要　指定市販テキストにもとづいて、歴史学とは何か、史料とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。また、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、現在、歴史学はいかなる問題に直面しているのかを把握していきます。

3　成績評価基準　指定のテキストをよく読み込んで、内容を理解し、自分なりにまとめているかどうかを評価します。構成、引用、参考文献などリポートの体裁を整えているかどうかも重視します。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する場合があります。単位修得試験はテキストである指定市販本の内容に沿って出題しますので、試験を受ける前に、各章ごとに要点をまとめて全体を見通しておくとよいでしょう。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『岩波テキストブックス α 歴史学入門 新版』岩波書店、福井憲彦、2019 年、￥2000+税
　歴史学とは何かという問題を、現在直面している諸状況のもとで、研究事例を挙げながら丁寧かつわかりやすく論じています。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストの各章で何が論じられているのかを考えながら読んでください。また、テキストとあわせて、以下の文献も参考にしてください。
リュシアン・フェーブル著長谷川輝夫訳『歴史のための戦い』平凡社ライブラリー 1995 年
マルク・ブロック著松村剛訳『新版 歴史のための弁明―歴史家の仕事』岩波書店 2004 年
二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波現代文庫 2016 年
さらに、参考文献として以下をおすすめします。
E. H. カー著・清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書、1962 年、￥820+税
現在は絶版となっていますが、図書館などで閲覧できるならば、
小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP 新書、2004 年
渓内　謙『現代史を学ぶ』岩波新書、1995 年　も参考にしてください。
さらに、以下を紹介します。
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010 年、￥6,800+税

Outline and objectives　This course introduces the foundation of science of history to students taking this course.

HIS200TD

西洋史概説

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**赤松 道子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　西洋の歴史について、時代の特徴、歴史用語、歴史の流れ、諸事象の意味について理解し、説明できるようにする。

2　科目の概要　指定テキスト（指定市販本）を自主学習し、リポートを作成することによって西洋史について理解する。
　指定テキストの学習によって、歴史用語、重要な事象の意味、時代や地域の特徴を理解することが重要です。学習の理解度を示す試験を実施します。特定のテーマについてのリポートを作成します。リポート作成に際しては、指定教材だけではなく、独自に文献を調べて、よく読み、設題に関連する時代の特徴、制度、歴史用語などについての理解を深め、文章に表現します。適確な表現を模索する姿勢が大切です。

3　成績評価基準　単位修得試験は指定市販本から出題します。重要な歴史事象について、原因と結果を論理的に説明し、展開できるように、内容把握に努めましょう。リポートについては、歴史用語や時代、事象について理解しているかどうかを評価します。
　まず、指定市販本以外に積極的に参考文献を探し、調べること。一つの歴史事象について複数の文献にあたり、調べた内容を掘り下げ、時系列的に具体的に説明します。多様な見解があることを理解しましょう。リポート作成の原則に従い、リポートをまとめます。

4　テキスト名および詳細　『西洋の歴史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房、山本茂他、1988 年、￥2400+税。『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、大下尚一他、1998 年、￥2400+税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート作成にあたっては、「設題回答にあたっての解説・注意等」をよく読むこと。各時代の特徴を時系列的に具体的に考えてみます。制度、文化、対外関係などに注目しながら、全体の流れを整理してみましょう。リポートを書いたら、必ず読み直してください。意味がわかりにくいところは必ず訂正し、自分の文章を練り上げていきましょう。

Outline and objectives　The aim of this course is deepening your understanding of the History of the Western countries through learning the required texts independently and writing the papers.
It's important to know and realize the meaning of the historical words, the historical phenomena and the characters of the Times and the areas.
We ask you the tests for estimating the level of your understanding.
You write the papers of the specified theme.
For writing the papers you investigate the literature related to the theme besides the required texts, read them in detail, grasp deeply the character of the system and the Times and represent them into the paper using the proper expressions.

HIS200TD

東洋史概説

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**宇都宮 美生**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　東洋史の中軸をなす中国史について、時代の特徴、時代の流れ、史実について学習し、史料、学説に基づいて説明できるようにする。

2　科目の概要　通教テキストに基づき、各王朝の特徴と史実を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してリポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、充分に準備して試験に臨む。

3　成績評価基準　リポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などリポートの体裁を整える（2000 字程度:40 字 ×50 行前後、もしくは 20 字 ×100 行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

4　テキスト名および詳細　『概説　中国史（上）』冨谷　至・森田　憲司編、昭和堂、2016 年、￥2,300+税
『概説　中国史（下）』冨谷　至・森田　憲司編、昭和堂、2016 年、￥2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたり、各時代の特徴として、政治、法制、軍制、財政（税・貨幣）、農業、文化、対外政策に分けて考察するとわかりやすい。まず、経緯、社会情勢、発生の条件、内容、結果、影響などに着目して史実をみていく。さらに、前王朝の特徴が次王朝へどのように継承されているか、どのような影響を与えているか、あるいは何が否定されているか、理解しながら中国史をみていくと全体の流れが把握できる。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。リポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

【参考文献】
平勢隆郎他『中国の歴史』全 12 巻、講談社、1974 年～1975 年、2004 年～2005 年
愛宕元・冨谷至・森田憲司編『中国の歴史』上下、昭和堂、2005 年
譚其驤主編『中国歴史地図集』全 8 巻、中国地図出版社、1982 年
【論文検索】
CiNii Articles（http://ci.nii.ac.jp/）

Outline and objectives　This course introduces an understanding of Chinese history in respect to international relations with other countries.　The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

ART300TC

日本美術史

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**萩原 哉**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①飛鳥時代から江戸時代までの日本美術史の大きな流れを理解する。
②各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品に認められる様式的・技法的な特色を理解する。
③日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

2　科目の概要　日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来文化の影響を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。本科目では、飛鳥時代から江戸時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。
なお、リポート、単位修得試験は、以下の３点を基準として採点をおこなう。
①飛鳥時代から江戸時代までの日本美術史の大きな流れを理解していること。
②各時代の代表的な作品について、それぞれの様式的・技法的な特色を的確に理解していること。
③それぞれの作品が生み出された時代背景を理解していること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『カラー版　日本美術史』増補新装版、美術出版社、辻　惟雄監修、2003 年、￥1,900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずテキストを熟読し、日本美術史の大きな流れを把握すること。各時代の代表的な作品については、テキストとともに美術全集等の図版解説や事典類を参照し、基礎データ（名称、作者、制作年代、材質、寸法、所蔵者）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色、そこに認められる外来文化の影響などを明確に整理し、理解すること。また、それぞれの作品については、必ず美術全集等の大型図版を参照し、具体的なかたちのイメージ（主題、表現、造形的・技法的特徴など）の把握につとめるとともに、自らの視点により作品の比較・分析を試みること。
　なお、美術史を学ぶ上で、実際に作品を鑑賞することが何よりも重要である。受講者は、美術作品を所蔵する社寺や博物館等に積極的に足を運び、作品を鑑賞する機会を得るよう心がけて欲しい。

Outline and objectives　In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Edo era.
Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

HIS300TD

日本近代史

教科担当責任者：**長井　純市**

担当者：**柏木 一朗、狩野 雄一、長井 純市**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月より通教テキスト改訂

1　学習の到達目標　本科目の目標は、ペリー来航から今日に至る歴史について、封建制の幕藩体制から主権在君の立憲君主制国家へ、そして敗戦を経て主権在民の立憲君主制国家へと変化したことを鳥瞰しつつ、中央集権的国民国家の形成・展開に関わる諸事象および欧米列強を中心とする国際社会の情勢に関わる諸事象を理解し、自分のことばで説明できるようになること。

2　科目の概要　テキストに基づいて、ペリー来航から明治時代の終わりまでを、政治・経済・文化など多様な視点から学び、理解する科目である。日本近代史を、幕藩体制の崩壊、中央集権国家の形成・展開、欧米列強や近隣諸国との関係、対外戦争、経済・産業の発展、文化・生活の変化・向上という視点から捉え、それらを理解するのに必要な諸事象を学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績評価は単位修得試験によって下す。

〇リポート
上記「科目の概要」に記された諸事象および事象相互の関係が正しく理解され、習得されているかが問われる。テキストや参考文献によって得られた理解をもとに、自分のことばで正確に記述し、また矛盾や一面的な見方・解釈を含まない論理展開となっているかどうかを評価基準とする。参考文献の引き写しであってはならない。必要と考えれば出典註記を行うこと。

〇単位修得試験
リポートにおける学習到達度をふまえ、個々の事象の理解・習得をふまえた一定の歴史叙述（すなわち、より幅広い、そしてより深い歴史事象の説明）が課題となり、受講生の歴史認識の正確性や論理的整合性、さらに幅広い視点を有しているかどうか、自分のことばで叙述されているかどうかを評価基準とする。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本近代史』第4版、安岡昭男、2020 年
ペリー来航から明治時代の終わりまでの時期を、正確な史実理解をねらいとして、政治・外交・軍事・経済・産業・文化・生活など多様な視点から構成したものである。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　学習開始時に、テキストのはしがきを読み、日本近代史全体の捉え方や学習の目安について理解すること。次に、目次を読み、日本近代史を通観するのに必要な諸事象を、たとえば大項目・中項目・小項目というように構造的に整理し、理解すること。さらに、本文を読み、諸事象の因果関係や時間の経過に伴う変化、あとの時代への影響を理解すること。最後に、一定の事象を想定し、それを説明するのに必要と思われる個々の事象を想起し、当該事象の理解が定着したかどうかを確認すること。

Outline and objectives　This subject has four main points. The first point is that the period covers from the Perry's arrival in 1853 to today of the 21st century. In that period Japan experienced two significant changes. The first change is to make herself a modern state as a constitutional monarchy from a feudal state. The second one is to make herself again a democratic state of the sovereignty of the people. The second point is that students study basic facts as to the changes above focusing on the Japanese domestic affairs. The third one is students study the affairs on the international relations which promoted those Japan's changes above. And the fourth is that each of the students gets his/her own viewpoint and narrative as to the Japan's modernization.

HIS300TD

日本近世史

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**安田 寛子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　史学科の学生は卒業までに必ず卒論を書かなければならず、そのことは常に念頭に置いて学習していかなければならない。日々の学習は、そのための知識や技術を習得するためのものだともいえる。しかし、これは直接的な到達目標ではあるが、決して学ぶことの最終目標ではない。真に求められるのは、学びを通して物事の本質を見抜く眼を養い、考え、判断する力を身につけていくことである。

2　科目の概要　日本近世史が対象とする時代の始まりと終わりについては、議論を要するところであるが、中心となるのは徳川幕府が政権を担っていた時期、すなわち江戸時代である。江戸時代は幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260 年余りも平和が続いた時代である。このような長期政権をどのようにして持続することができたのか、その中で人々はどのように生活していたのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのか。これらについて考えていくことが、この時代の特質を明らかにしていくことになる。

3　成績評価基準　通信課程の場合、スクーリング受講とともに、リポートを提出して単位修得試験を受けることが学習の重要な柱となる。特にリポートは試験を受けるための単なる手段ではなく、学び、考え、表現する貴重な場であり、何より卒論を書くための実践的な訓練の場である。
そのためには、単に持論を展開するのではなく、設題に関する史料や論文を探索し、研究史を整理し、よく考え、理解し、自分の言葉で書くということが重要である。それらが十分になされているかどうかが評価の基準となる。

4　テキスト名および詳細　①指定市販本『江戸時代（日本の歴史６）』（岩波ジュニア新書 336、深谷克己著、岩波書店、2000 年、￥880+税）②史料『新版　史料による日本の歩み（近世編）』（児玉幸多・佐々木潤之介編、吉川弘文館、1996 年、￥3,800+税）
①は江戸幕府の成立からペリー来航に至るまでを、多岐にわたってわかりやすく書かれており、その記述に対応する史料を②から探しながら読み進めることで、さらに理解を深めることができる。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストはあくまでも入り口であり、その他にどれだけ関連する史料や学術論文、研究書などの参考文献を探し出せるかが重要である。そのためには、実際に図書館や文書館に足を運ぶのはもちろんであるが、あらかじめ当該機関のサイトにアクセスして必要な史・資料を探索しておくのも有効である。
ただし、インターネットの利用には十分な注意が必要である。出所不明な情報を安易に信用したり、無批判に引用したりすることのないようにしなければならない。まして、参考文献やインターネットの記述をそのまま転載するなどの行為は厳禁である。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the ability to cultivate, think and judge the eyes that see the essence of things.

HIS300TD

日本古代史

教科担当責任者：**小口　雅史**

担当者：**菊地 照夫**
単位数：**4 単位**
※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更
※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　3 世紀から 12 世紀までの日本古代史の通史的展開を理解し、日本列島における古代国家の形成と展開や社会の様相を説明することができること、また日本古代史研究における主要な論点や課題についてその研究状況を把握することを到達目標とする。学習を通して日本古代史に関心をもち、自ら進んで史跡や博物館を訪れ、主体的に歴史を学んでいく姿勢が身につくことを期待したい。

2　科目の概要　テキストにもとづいて日本列島における古代国家の成立と展開にかかわる諸問題を学習する。この時代の歴史像は、近年の古代史研究の進展により大きく変容している。その背景には考古学の発掘成果の増大、木簡等出土文字史料の増加、日本という一国史の枠組みを超えたグローバルな視点の導入、国文学・仏教史・美術史・建築史などとの学問の枠組みを超えた連携などの要因があるが、ここではそうした新しい研究動向を踏まえた日本古代史研究の最新の成果を学んでいく。

3　成績評価基準　リポートの評価は設題が求めているテーマについて的確に答えられていることが最も重要な基準となる。テキストをしっかりと読み込んでおり、基本的な用語が理解できているか、今日の研究状況が掌握できているかという点も重視する。単位修得試験では、テキストに提示されている主要な論点についての理解、認識を問う問題を出題する。出題されたテーマについて理解、認識の度合いをチェックするとともに、通史の中にそれが正しく位置づけられているかどうかも重視する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 佐藤信監修、新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史〈政治・外交編〉』吉川弘文館、2020 年、￥1,900 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。まずはテキストを熟読する。あわせて最近刊行されている日本古代史の概説書（岩波新書『シリーズ日本の古代史』全 6 巻、吉川弘文館の『日本古代の歴史』全 6 巻、小学館の『全集日本の歴史』第２～４巻など）を読み、日本古代史の全般的な流れを理解していただきたい。またテキストの姉妹編『テーマで学ぶ日本古代史〈社会・史料編〉』（吉川弘文館）にも目を通し、テキストがカバーしきれていないテーマを学んでほしい。それとともに博物館や史跡を積極的に見学し、その成果がリポートや単位修得試験に反映されることを期待する。

Outline and objectives　We will learn the latest results of Japanese ancient history research on the problems related to the formation and development of ancient nations in the Japanese archipelago.

HIS300TD

日本中世史

教科担当責任者：**大塚　紀弘**

担当者：**仁平 義孝**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本中世史に関する基礎的な知識を習得し、具体的な事象に対する解説、評価を自分の言葉で示すことができるようになることを目標とする。

2　科目の概要　テキストをもとにして、院政時代から室町・戦国時代までの政治史、社会経済史、文化史を学習し、日本中世史の基礎的な知識を習得する。その上でリポートの設題に取り組む。リポート作成にあたっては、自分自身で設題に関連する史料や論文などを検討し、その成果を十分に反映するように心がけてほしい。単位修得試験は、テキストに書かれている内容について問う。

3　成績評価基準　リポートは、①設題の意図をよく理解し、テキスト以外に関連する史料や論文、専門書等に広くあたって作成する、②テキスト等から引き写すのではなく、設題に関して勉強したことをまとめて自分の言葉で表現する、この２点が評価の基準となる。誤字・脱字のないように注意し、設題総覧にある書式を厳守すること。
単位修得試験では、テキストに書かれている歴史事象、歴史的語句などについて出題するので、テキストをよく読んでおくこと。ある事象の具体的内容を正しく理解しているか、その事象の歴史的位置付けができているかなどを基準として評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　五味文彦編『大学の日本史２　中世』（山川出版社、2016 年、￥1,800+税）
※【スタディガイド（学習指導書）】あり
日本中世の政治、社会経済、文化について全 20 章で概観する。放送大学のテキストをもとにしたもので、4 名の研究者が分担執筆している。一つひとつの歴史事象について詳細に論じるのではなく、その時代の論点となる事柄を中心に叙述されている。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストをしっかり読み込んだ上で、設題総覧に挙げる概説書や講座論文を読んで勉強してほしい。なかでも 2016 年に完結した『岩波講座日本歴史』に収められた諸論文は、その時点での学界の到達点を示すものの一つなので、じっくり取り組んでもらいたい。

Outline and objectives　The purpose of this course is to study Japanese medieval history.

HIS300TD

日本法制史

教科担当責任者：**川口　由彦**

担当者：**宇野 文重**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数が異なることはよくあるからである。
なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの科目の目標である。

2　科目の概要　人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。
法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにいたった社会である。
しかし、そうはいっても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。
この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。
この科目では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。
現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治 29 年（1896 年）となっていて 19 世紀の産物であることがわかる。商法も明治 32 年（1899 年）と 19 世紀の産物である。刑法は、明治 40 年（1907 年）制定だから、何とか 20 世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治 13 年（1880 年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。
このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領主支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。
この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。
しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」とのみは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。
この科目では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

3　成績評価基準　論述式筆記試験によって単位を認定する。その際、テキストで触れられた重要法令の特徴を正確に理解しているかいないかを重視する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　川口由彦『日本近代法制史』第２版、2014 年、新世社、￥3,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書、参考書（「設題総覧」に記載）を読んで学習すること。

Outline and objectives　The aim of this course is to analyze the structure of modern Japanese law using method of the legal history study.

HIS300TD

日本史特講（地方史学）

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**中山 学**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年度で廃止（2023 年 3 月まで経過措置）
※ 2021 年度以降入学者は履修不可

1　学習の到達目標　①地方史研究が成立するまでの戦前の歴史学の歩み（日本近代歴史学の成立と発展の過程）に関する知識を前提に、戦後、戦前の歴史学への反省から地方史研究にどのような役割が期待されることとなったのかを説明することができる。
② 1960 年代末頃に「地域史」が提唱され始めた理由（歴史研究の基本的立場が「地域史」を重視するようになった理由）と共に、「地域史」の意義、歴史研究全般に対する影響力について説明することができる。

2　科目の概要　1945 年の敗戦を契機とする日本歴史学の転回の中に成立したのが、民衆を歴史発展の主体と位置づける地方史研究であった。当科目では、まず、この地方史研究が成立するまでの戦前の日本歴史学の歩み（日本近代歴史学の成立と発展の過程）を知るとともに、戦後、戦前の歴史学への反省から地方史研究にどのような役割が期待されることとなったのかを理解する。ただし、現在の歴史学には「地方史」のみならず「地域史」という新たな立場が加わるに至っており、近年ではむしろ後者への傾向がほぼ確実のものとなりつつある。そこで、当科目では 1960 年代末頃以降の「地域史」の提唱についても学習を促し、歴史研究が「地域史」を重視するようになった理由とともに、「地域史」の意義についても理解するよう求める。この点に関して、受講者においては、「地域史」が「地方史」とどのような点で相違するのかについて理解することが最も重要な課題となる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。ただし評価基準は以下の通りである。
・リポート；　テキストおよび参考文献の内容を踏まえ、設題に適切に答えているか否か。
・単位修得試験；　問題を正しく理解し、その問いに適切に答えているか否か。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本史特講（地方史学)』第１版、村上　直、馬場憲一、1985 年
（※ 前・通教テキスト『地方史学』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・「国史」とは何か、「郷土史」とは何かということを、それぞれの成立経緯も含めて整理しておくこと。
・「国史」と「郷土史」との関係性に着目し、戦前の日本近代歴史学がはらんだ問題性を整理しておくこと。
・戦後の上原専禄および西嶋定生の業績について知り、地方史研究が世界史とのかかわりを重視することとなった背景を整理すること。
・地方史研究が何を目的としてきたのか、そしてその意義はどのようなところにあると考えられてきたのかを理解すること。
・地方史研究と密接な関わりをもつ史料保存や文化財保存が抱える課題などについて理解を深めること。
・戦前の郷土史と戦後成立の地方史研究と、歴史把握の方法をめぐる両者の同質性を理解すること。
・通教テキスト『日本史特講（地方史学)』に十分な解説はないが、下記参考書を頼りに「地域史」という新たな歴史把握の方法

が導入されていることについても学習すること。特に導入の事情、歴史把握の方法（「郷土史」や「地方史」とは異なる）、「地域史」の意義等について十分に整理すること。

●塚本学（1976）「地域史研究の課題」『岩波講座 日本歴史　25・別巻２』（岩波書店）
●村上直（1989）『日本近世史研究事典』初版（東京堂）
●朝尾直弘ほか共編（1994）『岩波講座日本通史　別巻２』「地域史研究の現状と課題」（岩波書店）
●濱下武志ほか共編（1997）『地域の世界史１ 地域史とは何か』（山川出版社）
●李成市（2000）『世界史リブレット 東アジア文化圏の形成』（山川出版社）
●大津透ほか共編（2014）『岩波講座日本歴史』第 20 巻「地域論（テーマ巻１）」（岩波書店）
※学習指導の場面で、適宜、適切と考えられる参考文献を紹介する場合がある。

Outline and objectives　① To be able to explain the significance of local history research established in Japan in the 1950s.
② To be able to explain the significance of "regional history" and its influence on historical research in general, as well as the reason why "regional history" began to be advocated in the late 1960s.

HIS300TD

日本史特講（地域社会史）

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**中山 学**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月より新規開設

1　学習の到達目標　①江戸時代を通じての村社会の段階的な変容の過程を一般論として説明することができる。
②江戸時代の村と百姓との関係がどのようであったのかを、その時代固有の社会的観念に基づいて説明することができる。

2　科目の概要　日本に伝来した古文書や古記録を用いた歴史研究を通じて、日本の現在の地域社会の淵源は、おおむね江戸時代に求めることができると考えられています。これを言い換えれば、江戸時代の地域社会は、現代日本の地域社会の歴史的出発点であり、そこからどのような過程を経て現在があるのかということを考えるうえで重要な起点的位置にあります。また、現在の地域社会がそこからの様々な変容の帰結である以上、江戸時代の地域社会のあり方は、当然、現在のそれとはかなり異質なものであることが予想されます。したがって、江戸時代の地域社会の成り立ちを知ることを通じて、私たちは自分たちが属する現代社会のあり方を批判的に見つめ直すことができるとも期待されます。こうしたことから、この科目では、特に江戸時代の地域社会の基礎を成した村に注目し、村とそこに暮らした住人の具体像を通じて、当該社会を成り立たせていた仕組みや観念、あるいは常識がどのようであったのか、理解を深めます。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。ただし評価基準は以下の通りである。
・リポート；　テキスト内容を踏まえ、設題に適切に答えているか否か。
・単位修得試験；　問題を正しく理解し、その問いに適切に答えているか否か。

4　テキスト名および詳細　渡辺尚志『近世百姓の底力　村からみた江戸時代』敬文社、2013 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。・テキストを読解するにあたっては、その「はじめに」に示された「本書の概要」をよく読み、著者が採る説明方法をしっかり理解すること。

Outline and objectives　This subject focuses on the villages that formed the backbone of the community during the Edo period. Then, through the concrete image of the village and the inhabitants who lived there, we will deepen our understanding of what the mechanism, ideas, and common sense that made up the society were.

HIS300TD

日本史特講（日本思想史）

教科担当責任者：**長井　純市**

担当者：**岡野 浩二**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本の古代から近現代に至るまでの思想について、時代・カテゴリーを意識しながら学習し、「日本」がどのように自覚されてきたのか、その歴史をアジア・世界の中の「日本」という国際性を意識しながら説明できるようにする。

2　科目の概要　指定市販教科書と巻末の年表を活用して、古代・中世・近世・近現代の思想の大きな流れと時代ごとの特色を理解する。リポートの第１回の設題では、日本の古代国家形成に強い影響を与えた外来思想（仏教・儒教・道教など）を理解し、その受容と日本における変容、特に「日本」国号や「天皇」号、記紀神話の成立などについて考察する。第２回の設題では、神道・仏教・儒教の関係に留意して中世以降の日本思想の展開を理解し、神道思想の形成など、「日本」がどう自覚されてきたかを考察する。さらに、近代における神仏分離から国家神道の形成、西洋思想の受容などについてもまとめて、それぞれの時代に外来思想がどのように受容され、「日本」についての思想がどのように展開したかを整理して、単位修得試験に臨む。

3　成績評価基準　・リポート評価

テキストだけでなく、参考書などをひろく読み、それぞれの課題に対する問題点を整理し、しっかりとした論点を持ってリポートを作成する。決して辞書的な項目ごとのまとめにしない。重要な文献は書名だけでなく内容を把握する。その上で内容・構成を考え、註や参考文献を明記した学術リポートとしての体裁を整えること。ワープロ使用の場合は字数を明記すること。

・単位修得試験

上記リポートと指定市販教科書のすべてを試験範囲として出題する。日本思想史の流れを理解し、古代・中世・近世・近現代という時代ごとの相違が論じられること。日本思想の形成に影響を与えた外来思想と、神道思想など「日本」を自覚したものを整理するだけでなく、両者の関係を歴史的に考察する。関連する書目・思想家が正しく認識されているか、日本思想の特色がまとめられているかも重要な評価の対象である。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『概説日本思想史』（増補版）ミネルヴァ書房、佐藤弘夫編、2020 年、￥3,500+税
※初版（2005 年）も使用可

知的文化財産としての日本思想に関する基礎知識を、歴史学・文学・仏教学・民俗学などの周辺領域にも細かに目配りしながら、正確にわかりやすく記述している。日本思想史の全体像をイメージしやすく設計され、Ⅰ「古代の思想」、Ⅱ「中世の思想」、Ⅲ「近世の思想」、Ⅳ「近現代の思想」それぞれの冒頭に付けられている概説では、思想史の大きな流れが把握でき、各章では、より専門的な視点から各時代の思想を詳しく考察できる。所々に挿入されているコラムでも、簡潔ながら重要な指摘がなされている。巻末の年表と索引は総復習に、参考文献は更に深く勉強するために役立つ。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポート作成には、テキストの「古代の思想」「中世の思想」「近世の思想」全体を良く読み、その中から重要なポイントに絞って歴史的変遷を考察すること。単位修得試験には、リポートに対するコメントを参照しながら復習し、さらに「近現代の思想」についても同様の勉強をして臨むこと。巻末（293～297 頁）の参考文献や『日本思想史講座』全５巻（ぺりかん社）も参照すること。

試験は論述式である。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を１文字あけること。（１）段落が構成されていない、（２）改行の代わりに１行を空白にしている、（３）段落冒頭を１文字あけていない、そのような答案は減点の対象となる。

Outline and objectives　I overview the history of thought in Japan from ancient times to modern times.In particular, emphasize the following items.(1) The formation of ancient nations and the influence of outpatient thought.(2) Relationship between Shintoism, Buddhism and Confucianism in the Middle Ages and Early Modern Age.

HIS300TD

日本史特講（日本仏教史）

教科担当責任者：**大塚　紀弘**

担当者：**岡野 浩二**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本の古代から近現代に至るまでの仏教について、僧尼の学と行という観点から理解するとともに、世俗世界からの視点にも留意して、多様な諸相を把握する。また各時代の仏教の特色・特質を説明できるようになる。

2　科目の概要　仏教伝来から現代までの仏教を概観します。そのさい、僧侶を主語に据えて、その「学」（頭脳を使う学問仏教）と「行」（心や体を使う修行）の変遷を説明したテキストを用います。また為政者による仏教政策など、テキストが省略した事項を、スタディガイドが補足しています。それらをもとに、日本仏教の変遷を理解してください。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験によって評価します。テキストとスタディガイドの内容を全体にわたって理解したうえで受験してください。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『日本仏教史』蓑輪顕量、春秋社、2015 年、￥2,400+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートは、テキストとスタディガイドだけでなく、参考文献を利用して、特定の人物・集団の活動を理解し、自身の文章でその内容をまとめてください。また同時代の他の僧・宗派との比較など、全体像をつかむ視点を盛り込んだ記述にしてください。単位修得試験は、テキストとスタディガイドの内容を理解したうえで受けてください。段落を構成し、５Ｗ１Ｈの必要事項を盛り込んだ自分の文章であることが求められます。

試験は論述式です。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を１文字あけてください。（１）段落が構成されていない、（２）改行の代わりに１行を空白にしている、（３）段落冒頭を１文字あけていない、そのような答案は減点の対象となります。

Outline and objectives　An overview of Buddhist history from ancient times to modern times in Japan.　In particular, emphasize the following items.　In other words, it is a viewpoint of Buddhism, academic Buddism, Buddhism of practice.

HIS300TD

日本古文書学

教科担当責任者：**大塚　紀弘**

担当者：**大塚 紀弘、和氣 俊行**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本古代史・中世史の基本史料である古文書について、その文体や語彙になじんで古代・中世の時代の文章を読解する力を培い、また、文書の形態や様式、機能などを知って史料として文書を活用する力を身につけることにより、日本古代史・中世史をより深く学ぶことができるようになる。

2　科目の概要　日本には古代・中世の時代の古文書が多数伝存しており、歴史学の重要な史料となっているが、これを史料として活用するためには、まず、古文書の文章を読み解き、その内容を理解する力が必要であり、また、文書それぞれの独特の様式や作られ方、使われ方についての知識が必要となる。この科目は、古代・中世古文書の代表的な様式とその機能の概要を学ぶとともに、古文書の多くの実例に即して実際の読み方を学び、内容を具体的に捉える訓練を積み重ねる学習を通じて、古文書の読解力が高まることを目指す。

3　成績評価基準　リポートは、古文書の主要な様式の種類と特徴、機能、および時代的な変化を十分に理解したかどうかを確かめる。リポートとしての体裁や構成、日本語としての正しい表現に注意すること。

単位修得試験は、様式の知識とともに、文書を正確に読むことができるかどうか、内容を的確に理解できるかどうかを特に重視する。

最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、リポートの学習もしっかり行うこと）。

4　テキスト名および詳細　『新版　古文書学入門』佐藤進一、法政大学出版局、2003 年、￥3,300

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　教科書を徹底的に学習することが大切である。特に教科書に載っている文書の一つ一つを丁寧に学習すること。その際、文書を大きな声で読むのがよい。古い時代の言葉や言い回しを繰り返し耳から聞いて、そのリズム感を身体で覚えるのがきわめて効果的である。

同時に、返り点の打ち方を習得すること。教科書で文書に返り点が打たれているものにその打ち方を学び、読下し文を参考にして、漢字だけの原文に返り点を打つ練習をしてほしい。これを習得すれば、どのような文書も自力で読めるようになる。

学習には大きな辞書を活用すること。『日本国語大辞典』（小学館）、『新大字典』（講談社）、『新漢和大字典』（学研）、『国史大辞典』（吉川弘文館）など。

Outline and objectives　Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

HIS300TD

日本史特講（日本科学史）

教科担当責任者：**長井　純市**

担当者：**長井 純市**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年度で廃止（2023 年 3 月まで経過措置）
※ 2021 年度以降入学者は履修不可

1　学習の到達目標　本科目の目標は、第一に、キリスト教が初めて伝来したとされる 16 世紀半ばから近世末の 19 世紀後半までの間、西洋科学（南蛮科学、蘭学、洋学）が日本においてどのような文化を培ったのかについて、和算の展開と合わせて、基礎的な知識を得ることである。第二に、その上で、近代以降の科学・技術の発達について、さらに先端科学技術国の一つとなった日本の現状と未来について考える手がかりを得ることである。

2　科目の概要　第一に、いわゆるキリシタンの時代における南蛮科学の受容に関わる種々相（人物や分野、業績、展開など）について知識を得る。第二に、いわゆる鎖国期に西洋世界の中で唯一交流のあったオランダがもたらした科学の受容に関わる種々相（人物や分野、業績、展開など）について知識を得る。第三に、ペリー艦隊来航を機とする開国がもたらした新たな西洋科学の受容に関わる種々相（人物や分野、業績、展開など）について知識を得る。第四に、日本独自の和算や中国から長期にわたって受容してきた天文・暦学、医薬学などの諸科学の種々相（人物や分野、業績、展開など）について知識を得る。第五、当該期の日本科学史の全体像について概略的な理解を得る。

3　成績評価基準　最終的な成績評価は単位修得試験によって下す。
【リポートの評価基準】リポートの課題と共に、教科書で得られた知識・見解を正しく理解し、自分なりに整理して整合的に、且つ十分な分量をさいて書いているかどうか。教科書に加えて参考文献を利用し、自主的・自発的な学習の成果を適切に反映しているかどうか。全体の記述において矛盾や不整合、贅文がなく、不適切な記述を含んでいないかどうか。
【単位修得試験の評価基準】問題を正しく理解し、問題に対応する適切な解答となっているかどうか。解答において示された知識が正確なものであるかどうか。全体の記述において一貫性と論理的整合性を有しているかどうか。矛盾や不整合、贅文がなく、不適切な記述がないかどうか。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト 『日本史特講（日本科学史）』第 1 版、大森實、1996 年
（※前・通教テキスト『日本科学史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第一、テキストの目次を良く読み、全体の構成を理解すること。大項目（章）・中項目（節）は何かを、また全体がどのように構成されているのかを頭に入れる。第二、各節に記述された人物・事項とその解説を理解し、またそれらがテキスト全体の中でどのような位置付けとなるかを頭に入れる。第三、時代の進展に伴うさまざまな変化をテキストの記述から理解する。第四、教科書から得られた知識・見解を深める参考文献を選び、読み、理解をいっそう深いものにする。
　以下の参考文献の利用を勧める。　教科書にあるもののほか、『洋学関係研究要覧（1868～1982）』（日蘭学会編、1984 年 4 月、日外アソシエーツ）や『日蘭学会会誌』に掲載されている「洋学関係研究文献目録」にある文献、さらには『史学雑誌』などの学術刊行物。

Outline and objectives　The goal of this subject is for students to obtain a basic knowledge on the Japanese history of science and have clues for thinking from the scientific viewpoint about current affairs and the future of Japan as one of the most advanced countries of scientific technology. The period of this subject is from the days of the first introduction of Christianity in the middle of the 16th century to the ones of the collapse of the Edo Bakufu in the late 19th century. During that period some of Japanese people studied Western science as Nanban Kagaku(Southern Barbarian Science), and after the seclusion policy by the Edo Bakufu, which began in the early 17th century, some of Japanese people studied the Western science as Rangaku(the Dutch Learning) through Netherlands, for instance astronomy, medicine and so on. Among Western countries Netherland is only one that had commercial relations with Japan. At the same time during that period some of Japanese people developed their original arithmetic as Wasan. Through this subject students are expected to actively study more for deeper or wider understanding on this field and take a step toward other fields of history.

ART300TD

東洋美術史

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**蘇 哲、高瀬 奈津子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　東アジアを中心に、周辺地域との交流を視野に入れながら、東洋美術の流れを把握することを目標にする。さらに彫刻（仏教彫刻・陵墓石造物・俑・画像石）・絵画（帛画・墳墓壁画・石窟壁画）・工芸（青銅器・漆器・陶磁器・金銀器）などの分野に関する基本的な知識を身につけることも求められている。

2　科目の概要　指定教科書（林良一『東洋美術史』）にもとづき、殷周時代から隋唐時代にかけての中国美術を主軸として、東アジア美術の発展に大きな影響を与えたスキタイ美術・インド及び中央アジアの仏教美術、ペルシアの金属工芸も学習の内容として取り上げる。単位修得試験を実施するから、十分な準備をして臨みなさい。また、課題リポートの提出も求められる。課題の意図を把握するうえで、自ら資料の収集、選択、分析を行い、これまでの先行研究を批判的に検討し、最新の研究動向も視野に入れ、自分なりの視点をもって課題を考察することを期待している。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。

・リポート評価の基準

自分なりの考え方が書かれているかどうかということは、リポート審査のもっとも重要なポイントとなる。そのほか、リポートは論理的に展開されているか、論拠としたデータの信頼性は吟味されているか、引用した資料や使用した専門用語の意味について正確に理解しているか、引用した文献の著者名・書名・出版社名を明示しているか、なども評価の項目となる。

・単位修得試験

教科書の内容から出題するので、時代や民族・地域・社会などの歴史的背景を十分に理解したうえで、東アジア（中国・朝鮮半島・日本）美術の発展に大きな影響を与えた王朝・民族・地域の美術の特徴や歴史的意義を暗記する必要がある。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋美術史』第１版、林　良一、1975 年

※【申告制】テキスト

【主な参考文献】

・『世界美術大全集　東洋編』１－４・10・13・15・16 巻、小学館、1997～2001 年

・前田耕作、前田龍彦ほか『増補新装カラー版東洋美術史』美術出版社、2012 年 03 月、￥2,625+税

・竹内順一（監修）『すぐわかる東洋の美術―絵画・仏像・やきもの&アジアの暮らしと美術』改訂版、東京美術、2012 年 11 月、￥2,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

日本には、中国・朝鮮半島・西アジアの美術品を所蔵する美術館が多く、各地で催されている特別展で美術品を鑑賞する機会にも恵まれている。皆さんが積極的に博物館や美術館に行って、実作品を見るよう努めて下さい。

また、地元の図書館を利用して参考文献などを調べてください。

Outline and objectives　We aim to grasp the flow of oriental art with a focus on interactions within the surrounding areas centering on East Asia. In addition, we seek to acquire basic knowledge on fields such as sculpture (Buddhist sculpture, Mausoleum stone carving, pottery figure, stone relief), Paintings (Silk painting, Tomb mural, Buddhist cave art),and Crafts (Bronze ware, Lacquerware, Ceramic, Gold and Silver Ware).

HIS300TD

東洋史特講（中国経済史）

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**塩沢裕仁、江川 式部**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　東アジア世界の基盤を築いた中国唐～宋時代について、とくに社会・経済の面から理解を深める。

①これまでの研究概要や近年の研究動向を把握・理解すること、②歴史研究の方法を習得すること、③当該時代史における具体的な研究課題を、自身の関心と先行研究から得た知識に基づき、自ら導き出せる力を養成すること、の３つを到達目標とする。

2　科目の概要　唐宋時代をひとつの画期とする中国経済史に関する諸問題について学習する。基本的な研究概要と研究動向を把握し、それに基づく個別の課題についてリポートを提出、単位修得試験を受験する。

はじめにテキスト及び当該時代史の概説書を読み、唐宋時代の基本事項を押さえる。次に『中国史研究入門　上』（山川出版社）・『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会）・『中国経済史』（名古屋大学出版会）・『史学雑誌』の回顧と展望を通読し、先行研究のなかでこれまで何が問題とされてきたのかを把握・整理する。

リポート執筆に際しては、参考文献の内容を抜き書きするのではなく、自分の言葉で文章を組み立てること。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。もちろん、リポート学習もしっかり行うこと。

・リポート評価

先行研究ならびに近年の情報については、単に論文名を列記するのではなく、取り上げた論文・文献に目を通すこと。評価にあたっては構成・内容も重視するが、学術リポートとしての体裁や、末尾に参考文献が列記されているかなど、基本的な点にも比重をおく。

・単位修得試験

教科書の内容に基づいて筆記試験を実施するので、十分な準備をして臨むこと。特に設題に関連した問題点には注意を払っておくとよい。リポートの執筆がしっかりとできていれば、それは当然試験の答案にも反映されることになる。問題の本質を理解し歴史的な意義が論述されているかに比重をおいて評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋史特講（中国経済史）』第１版、河上光一、1978 年
※【申告制】テキスト
（※前・通教テキスト『中国経済史』）
【参考文献】「設題総覧」に記載するので参考のこと。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　漢字の表記、国語文法には特に注意を払うこと。主語・述語が不明確なために、文意が理解できないものもあります。リポートは他者に自分の見解を説明するものであることを心にとめて執筆するようにしてください。なおリポートに、用語・漢字の変換ミスが 5 か所以上あった場合は、内容の如何にかかわらず再提出とします。

LIT300TC

日本文芸研究特講・漢文

教科担当責任者：**遠藤　星希**

担当者：**大西 陽子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　漢文（本科目では中国古典文学を指す）についての基礎知識および評論する能力を習得目標とします。本科目における学習の到達目標は以下の通りです。
①漢文を読むための基礎的な読解能力を習得する。
②漢文における基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景）などについて理解し説明できる。
③作品分析を通して、中国古典文学の特徴や独自性などについて的確な解釈や論理的分析をすることができる。

2　科目の概要　本科目では漢文全般にわたる基本的な知識、および具体的作品を読解する基礎的能力を習得することを主眼とします。学習するにあたって中国古典文学の流れを時系列的に把握するだけではなく、中国特有の文学ジャンルや表現方法がどのような時代背景の下でどのような経過によって発展・盛行したのかという点にも着目しながら幅広い視野の下で多くの作品に接してもらいたいと考えています。そのためにも、各時代を代表する文学ジャンルや作者についての理解を深め、実際に作品を数多く読む必要があります。中国文学史関連の書籍を最低でも１冊は通読して文学史の流れを把握し、その上で原文（原文が掲載してある翻訳でも可）で具体的に作品にふれ、中国文学の奥深さ面白さを自分なりに発見していただきたいと考えています。リポート執筆にあたっては指定テキストだけでは不充分ですので、設題に附記する参考文献などを参照してテーマに沿った考察をしてください。

3　成績評価基準　[リポートの主な評価基準]
・リポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自な観点により考察・評論がなされているか。
・リポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章で論述されているか。
[単位修得試験の主な評価基準]
・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
・明確で論理的な文章で論述されているか。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　松原朗 佐藤浩一 児島 弘一郎 著『教養のための中国古典文学史』研文出版、2009 年、￥1,600+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり
本テキストは中国文学あるいは文芸を理解するうえで重要だと考えられる人物、作品、ジャンルなどを、テーマごとに各項目が全て２ページの見開きで収まるように書かれた解説書の形式になっています。それぞれの項目が簡潔で読みやすい文章なので、自分の興味のある箇所から読み始めることができます。また全体を通読することによって中国古典文学の流れを通史的に理解できるような構成になっています。
文末には詳細な参考文献目録、中国文学関連年表、索引などが付録されており、テキストだけでは不充分な項目や更に発展的に学びたい人への手引きとしての便を図っています。是非熟読して大いに活用してください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート課題および単位修得試験の設

題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視野で考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不充分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にリポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについて各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。
またリポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。
① リポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のリポート独自の題をつけて提出してください。
② リポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
③ 参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
④ Web や他人の論文などから文章の引き写しはしないでください。
⑤ 作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかがわかるように、必要に応じて訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
⑥ 孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and basic knowledge about Chinese classic literature.

HIS300TD

東洋史特講（中国思想史）

教科担当責任者：**齋藤　勝**

担当者：**小寺 敦**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　今日の中国中核地域における思想に関する基礎的事項を、その歴史的な展開過程に即して把握する。

2　科目の概要　テキストや指定の参考文献を利用しながら、殷代にはじまり、清代に至る思想のおおまかな流れを、その思想の背景となる社会とも関連づけながら学んでいく。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。
リポート：課題につき、テキスト・参考文献の内容が咀嚼されているか（当然ながら、参考文献丸写しは不可）。また、論点につき、提出者独自の見解が示されていればなおよい（但し、エッセイ調・時評風のものは不可）。
単位修得試験：通信教育部規定の評点を取得すること。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋史特講（中国思想史）』第 1 版、小倉芳彦、1958 年（※前・通教テキスト『中国思想史』）
内容：殷代から清代までの中国思想史の要点が、簡潔に記されている。社会経済史的な視点が入るように編集されているのが特徴である。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートについて。わずか 1 つ 2 つの参考文献のみを参照し、かつその内容を丸写しすることはしてはならない。参考文献の内容をよく咀嚼し、自分の言葉でまとめなおして記述すること。また、これはエッセイや読書感想文ではないので、その種の文章にみられる感想の類を書くことは不要。
　単位修得試験について。テキストの内容をしっかりマスターしておけば、合格可能な問題となっている。ただし、テキストを丸暗記する必要はなく、その項目ごとにポイントとなる事項を押さえておけばよい。人物名や文献の名称については最低限覚えねばならないところがあるけれども、それ以上に、思想の歴史的・社会的背景、思想相互の影響関係、思想を構成する諸要素の連関といった、思想の構成やそれが形成されるメカニズムを把握することが重要である。テキストにおいても、そういったところに注意が向くよう書かれている。

Outline and objectives This lesson deals with the history of Chinese thought from Yin period to Qing dynasty, using the textbook and reference books, and connecting with the Chinese society, politics, economy, religion, and so on of which is the ideological background. This lesson evaluate students' grade by the test of credits(Students must diligently work on papers on the history of Chinese thought).

HIS300TD

東洋史特講（中国近世史）

教科担当責任者：**齋藤　勝**

担当者：**芦沢 知絵**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　文献（教科書）を正確に読めること、一つの時代を多角的に捉え時代像を把握できること、それらを自分の言葉で的確にまとめられること、以上の三点を学習の到達目標とする。

2　科目の概要　明という時代は、異民族支配を乗り越えて久々に誕生した漢人の統一王朝であり、最後の漢人王朝でもある。そのため、そこで育まれた文化・社会構造・世界像は、中国の「伝統」において大きな部分を占めている。これらを多角的に捉え、明の以前・以後とで何が断絶し、何が継承されているのか、そしてその背後にある中国を取り巻く世界と中国社会の変化を知り、中国という世界への理解を深めていきたい。

リポート・筆記試験は以上のような認識の下で課題を設定していくので、広く且つ深く教科書を読み込み、まずは自分なりの整理をしてもらいたい。その上で課題をこなすことで、理解はより深まるものと思われる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

リポート・筆記試験ともに、与えられた課題を正確に理解していること、教科書に基づいて適切且つ過不足の無い説明を行っていることを評価の基準とする。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋史特講（中国近世史）』第 1 版、佐久間重男、1983 年
（※前・通教テキスト『中国近世史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポート・単位修得試験については、指定教科書に基づくことが大前提となるが、より理解を深めるために教科書以外の諸文献（とくに明に関する概説書）を読んでも問題とはしない。ただ、参照した文献について明示することが条件となる。また、あくまでも評価基準が指定教科書にあることは忘れないでもらいたい。

知識を得るとともに、読解力、要点整理力、文章力を培っていくことも目的の一つである。よって大切なのは、教科書としっかり向き合い、自分の力で成果を残すことである。他人やインターネットに頼ることがあってはならない。また、きちんとした文章で書くことを求めるので、箇条書きによる整理などは出来るだけ避けてもらいたい。

Outline and objectives　Outline:Surveying the history of the Ming dynasty
Objectives:Undestanding how traditions of China had changed and been formed in this era

HIS300TD

東洋史特講（東南アジア史）

教科担当責任者：**齋藤　勝**

担当者：**澁谷 由紀**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　この授業では、大陸部東南アジア地域（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー）の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、それを基盤として、当該地域に関する様々な問題を論理的に理解し、自ら探求する力を養うことを目的とします。

2　科目の概要　大陸部東南アジア地域は、カンボジアの和平と復興が確実なものとなり、ミャンマーの民主化が進行しようとしている昨今、政治的・経済的分野で、この地域は国際的に注目されています。本科目は、この地域の先史時代から近代までの歴史を体系的に学ぶための通信学習の科目です。基礎的な知識を習得し、それにもとづいて関心をもった個別の問題についてリポートを提出したのち、単位修得試験を受験することになります。
第一に、テキストおよび参考書をよく読み、基本的な事実を把握します。その上で、『史学雑誌』の「回顧と展望」、『東南アジア 歴史と文化』、『東南アジア研究』、『南方文化』など専門学術雑誌の最新号から、現在どのようなことが議論されているかを捉えていくことが期待されます。
リポート執筆に際しては、参考文献の文章をそのまま引き写すのではなく、自分自身の言葉で文章を組み立てることが必要です。そのために参考にした文献をしっかりと読み込み、正確に理解することが要求されます。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。ただし、リポート学習もしっかりと行ってください。
リポート評価に関しては、構成や内容も重視しますが、学術的なリポートとして体裁が整っていることを基本とし、末尾にきちんと参考文献リストが挙がっているかという点も確認します。なお参考文献等は単に論文名を列記するのではなく、必ず目を通しておかなければなりません。
単位修得試験は教科書の内容にもとづいて実施するので、充分な準備をして臨んでください。問題の本質や歴史的な意義を正確に理解し、論理的に作文できているかに比重をおいて評価します。

4　テキスト名および詳細　石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社、￥3,700+税
※指定市販本（各自購入）
【参考書】
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 1 原史東南アジア世界』2001 年、岩波書店
石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史 2 東南アジア古代国家の成立と展開』2001 年、岩波書店
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史 3 東南アジア近世の成立』2001 年、岩波書店
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 4 東南アジア近世国家群の展開』2001 年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史 5 東南アジア世界の再編』2001 年、岩波書店

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストに掲載された地図を確認しながら学習を進めてください。

Outline and objectives Outline:Surveying the history of Southeast Asia
Objectives:Learning basic knowledge and understanding problems about the history of Southeast Asia

HIS300TD

東洋史特講（中国現代史）

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**竹茂 敦**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(1) 辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期の中国への理解を深めること、(2) 中国近現代史に関する先行研究や史料を収集・読解・整理するために必要な能力を養うこと。

2　科目の概要　辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期を対象とする。受講者には導入としてテキストを熟読してもらった上で、「設題総覧」の課題に従ってリポートを作成し、単位修得試験を受験してもらう。リポートについては、自らテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（書籍、論文等）や史料を収集・整理し検討を加えて執筆してもらう。単位修得試験については、テキストで扱っているテーマから出題する。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。
〔リポート〕主に以下の点を総合的に勘案して評価する：①テーマ＝2,000～3,000 字という限られた紙幅に適当で、独自性のあるテーマを設定できているか、②参考文献・史料＝自ら定めたテーマに適した先行研究（書籍、論文等）や史料を探し出すことができているか、③記述内容＝歴史展開がきちんと整理できているか▽参考文献や史料に基づいた実証的な考察（根拠を示した論証）ができているか▽テキスト・参考文献からの抜き書きではなく、自らの言葉で叙述できているか、④体裁・構成＝大学生のリポートとしての体裁や構成が整っているか▽とりわけ、「はじめに」でリポートのテーマについての説明（目的、意義など）が、「おわりに」で結論がそれぞれ提示され、「参考文献一覧」「注」が付いているか。
〔単位修得試験〕歴史的な事項・人物について、時系列的な展開、時代的な背景や歴史的な意義などを理解した上で、整理した記述ができているかを評価基準とする。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋史特講（中国現代史)』第 1 版、栃木利夫、1982 年（※前・通教テキスト『中国現代史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
〔リポート〕2,000 字から 3,000 字という字数制限を考慮して、リポートのテーマは焦点をよく絞り込むこと。概説書ばかりに頼るのではなく、図書館の蔵書目録（OPAC）や各文献の「参考文献一覧」などを活用して、テーマについてできるだけ詳しく言及している書籍・論文や関連する史料を探し出し、それらをよく読み比べること。執筆に際しては、先行研究や史料に基づいた実証的な「考察」に重点をおくこと（テキスト・参考文献の文章の継ぎ接ぎや、歴史的な事件・人物に対する「漠然とした指摘・感想文」にならないように注意されたい)。
〔単位修得試験〕テキストで扱っているテーマから出題する。テキストを熟読し、「設題総覧」で挙げている参考文献なども適宜参照して、基本事項の理解を深めておくこと。

Outline and objectives This course introduces the history of modern China, a period between the outbreak of the 1911 Revolution (also called Xinhai Revolution) and the establishment of the People's Republic of China.
The main aims of this course are: (1) to help students

acquire knowledge about China's modern era; (2) to help students learn methods of historical research, such as evaluating major previous studies, critical analysis of historical materials, etc.
Grading will be based on reports and examination.

ECN300TD

経済史 A

教科担当責任者：**杉浦　未樹**

担当者：**杉浦 未樹**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれには様々な類型があったことを理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、その成立以来２００年以上に及ぶ市場経済の歴史を概観することによって、経済社会の仕組みを理解するとともに経済学の考え方を身に付けることにある。中でも国際的連関のなかから経済の成り立ちを理解することを目指す。経済史である以上、生産・流通・金融・財政の各方面の動きを追っていくが、企業経営の歴史にも留意する。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史　グローバル経済史入門』（第 2 版）名古屋大学出版会、2020 年、￥ 2,700+税
※初版（2010 年）も使用可
参考図書
奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010 年、￥ 2,500+税
飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社、2005 年、￥ 2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

ECN300TD

経済史 B

教科担当責任者：**牧野　文夫**

担当者：**牧野 文夫**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012 年、2,700 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives　Understanding Japanese economic developement in historical perspective.

HIS300TD

西洋史特講（西洋哲学史）

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**白根 裕里枝**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　古代ギリシアに始まる古代哲学、その後のキリスト教哲学を中心にした中世哲学、それに続く近・現代哲学へと至る西洋哲学史の基礎知識を、通教テキストを通して把握することで、それぞれの時代にどのような問題が問われてきたのか、その思想は後の時代にどのような影響を与えたのか、そしてまた、それらは今日の我々にとってどのような意味を持つのかといった点の理解を深め、西洋哲学への歴史的視野の形成を図ることを全体として目指す。

2　科目の概要　哲学は古代ギリシアで誕生した。まずは、古代哲学の流れに沿って、イオニア・イタリアでの自然哲学や、アテナイにおけるソフィストとソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学、さらにはヘレニズム期・ローマ期の哲学を学ぶ。次に、中世哲学の流れに沿って教父哲学・スコラ哲学・普遍論争を学んだ上で、さらに、近世・近代哲学の流れに沿ってルネサンス哲学・大陸合理論哲学・イギリス経験論哲学・ドイツ観念論哲学を学ぶ。最後に、現代哲学の流れに沿って生命の哲学・分析哲学・現象学を、通教テキストを拠りどころにして学ぶ。以上のことに併せてその時代思潮についても考察し、その影響を理解する。哲学者たちは、それぞれの時代に、世界について、国家や人間について、いかに考えたのか。その思想は歴史の流れの中で生まれ、引き継がれ、影響を与えあいながら、発展していった。哲学史の流れに沿って、それら真理追究の足跡を辿ってゆく。

3　成績評価基準　・リポート評価基準
リポートについては、まず通教テキストをしっかり読んで理解した上で、設問に十分適切に答えているかどうかを判定基準とする。難しいと思われた箇所も、テキストをよく読んで、理解を深めるように努めること。その上で課題の箇所を丁寧に要領良くまとめること。必要な場合のみ、参考書を用いて補うように。まずはテキストをよく読んで自分の理解を深めてから記述すること。テキストや参考書の丸写しでは十分な理解に達しているとは見做されない。また、リポート書式の形式（①段落分けの適切性　②文頭と文末の対応が取れているか　③誤字、脱字の有無　④注は適切か　⑤引用の仕方は適切か　⑥引用した文献の提示の有無など）にも注意すること。自分の言葉で適切に表現できるよう、まずは自分でその思想内容に興味を持って、深く理解するように努めることが重要となる。
・単位修得試験
単位修得試験では、通教テキストの全体の内容から出題する。そこでテキスト全体をよく読んで理解しておくことが大事である。特にレポートの課題箇所について、念入りに勉強しておくことが必要とされる。評価基準は、上記のリポート評価基準と同様の基準を適用し、哲学史についての習熟度に応じて成績を評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（西洋哲学史）』（第 1 版）、鶴岡　健、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まず何よりも通教テキストをよく読んで理解した上で、リポートの設題の意図、試験の出題の意図をよく考えて、必要かつ十分な解答をするよう努めること。答案は、しっかり構想を練った上で、筋道を立てて論述すること。

作成した答案を最後によく読み返して、時間の許す限り、必ず推敲を行うこと。テキストやネットからの丸写しは当然ながら、解答とは見做されない。必要な場合のみ、参考文献を用いて補うように。他の文献を参考にした場合には、文献名及びページ数を必ず明記すること。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire a basic understanding of the history of Western philosophy.
By the end of the course students should be able to grasp the outline of Western philosophy from its development among the ancient Greeks to the present.

ART300TC

西洋美術史

教科担当責任者：**小秋元　段**

担当者：**濱西 雅子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　西洋美術の名作について、図像（主題、内容）、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深めることを目指す。

2　科目の概要　美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。本科目では、西欧古典古代から、中世ロマネスク・ゴシック、近世ルネサンス、近代 19 世紀の時代にかけて、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる美術作品を考察の対象とする。課題のなかから各自作例を選択し、具体的に美術史的なアプローチを行うことにより、様々な側面からの理解を深めることを目指す。また文化交流という視点も併せて考えたい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　下記のいずれか一冊で可
●指定市販本　高階秀爾監修、『カラー版 西洋美術史』〔増補新装版〕、美術出版社、2002 年、￥1,900+税
　本書は古代から 20 世紀末までの西洋美術の歴史を、340 点の豊富なカラー図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸各分野にわたりわかりやすく概観するものである。2002 年刊行の増補新装版には、1990 年刊行の旧版に、最終章と簡単な用語解説等が加えられている。本文のコラムとともに、こうした巻末の用語解説、新たな美術史年表も学習の手引きとされたい。
●指定市販本　Ｈ．Ｗ．ジャンソン、Ａ．Ｆ．ジャンソン著、木村重信、藤田治彦訳、『西洋美術の歴史』、創元社、2001 年、￥3,400+税
　本書は古代から 20 世紀までの西洋美術の歴史を、カラー 219 点、白黒 300 点の豊富な図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸等各分野にわたりわかりやすく概観するものである。巻末に加えられている、地図・用語解説・年表等も学習の手引きとされたい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まずテキストを通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。
　その上で各自リポート課題に沿った専門文献にあたり理解を深めることが望まれる。すなわち、入門書・通史概説書以外にも、個別の課題に沿った美術史の専門文献を広く参照する必要がある。
　そして選択した作品の基本データ（制作年代・規模等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、造形的表現の特質、美術史上の意義等について考察して欲しい。西洋美術史の専門文献で得た知識を基に、与えられたテーマについて自ら論ずる力をみる。
　なお美術史の専門文献を三点以上参照し、実際に用いた文献データ（参照ページも忘れずに）をリポート末に明記すること。
＜参考文献表の注意点＞
　書籍の場合は、著者名（ないし編者名）、二重鍵括弧（『　』）の中に書名、出版社、発行年、参照ページの順で記載する。専門誌掲載論文の場合は、著者名、論文のタイトル（一重鍵括弧「　」で囲む）、掲載誌名（二重鍵括弧『　』で囲む）、号数、発

行年、参照ページの順で記載する。例：
法政信子編『ラファエロ画集』講談社　2016 年　pp. 114-120
法大通教著「ミケランジェロ《ピエタ》を巡る一考察」『市ヶ谷大学 文学部紀要』 第 21 号　2012 年　pp. 7-18
＜図書館利用時の注意点＞
図書館を利用する際は、送付サービスの利用、近隣の図書館に行く、事前の OPAC 検索や取寄せ、滞在時間の短縮化に努める等、十分に安全管理に留意すること。
＜インターネット検索時の注意点＞
●検索対象：
図書館の利用も厳しい状況のため、美術史専門文献の参照も困難と思われる。その代替措置として、インターネットによる、専門家の情報の検索が求められる。ただしインターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物（Wikipedia、個人の Blog や HP 等）を参照することは厳禁とする（部分的にも利用した場合は、評価の対象外）。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式 HP の専門家による解説等を参照すること（他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること）。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史 (ないし建築史) の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。
●検索先：
1. IRDB（学術機関リポジトリデータベース） IRDB 検索画面：https://irdb.nii.ac.jp/（「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し，電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なお IRDB 検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。）
2. CiNii（サイニー、サイニィ、サイニイ）国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面： https://ci.nii.ac.jp/ja
3. Googl 等での検索（論文でないものも検出されるので要注意。）
●検索キーワード：
1.「画家名」 2.「作品名」3.「論文」4. その他「美術」といった分野名等各自様々に工夫をこらし検索をかける。

Outline and objectives Art history is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In this course, from Western European classical ancient, medieval Romanesque / Gothic, early modern Renaissance, modern 19th century era, art works taking a variety of expression forms such as architecture, sculpture, painting, crafts etc. are considered. By choosing each example from among the subjects and conducting a specific artistic approach in concrete terms, we aim to deepen understanding from various aspects. Also think about the perspective of cultural exchange.

HIS300TD

西洋史特講（キリスト教史）

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**山野 貴彦**
単位数：**4 単位**
※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標 (1) 旧新約聖書の分析を通して、ユダヤ教およびキリスト教の成立史を理解する。
(2) 聖書の著者および編者たちの多様な思想を各々の社会背景をふまえて理解する。
(3) 聖書の主要な登場人物たちに帰される各々の思想をその社会背景をふまえて理解する。
(4) キリスト教がユダヤ教から分離・独立してゆく過程を思想面および政治面の双方から理解する。

2　科目の概要 旧新約聖書の分析を大きな歴史的枠組みから行うことにより、以下のような問いに対する理解を深めることが求められる：
・古代イスラエルの宗教からどのようにユダヤ教が形成されてゆくことになったか
・イエスが生きた時代のユダヤ教にはどのような特徴があり、それとイエスの活動や思想はどのようにかかわっていたか
・イエスの死後どのようにキリスト信仰というものが生まれたのか、また、パウロを通してそれはどのように展開されていったか
・キリスト教はなぜユダヤ教から分離することになったか
・ユダヤ教およびキリスト教はなぜ正典として聖書を持つに至ったか
これらの問いは古代史の一断面として興味深い課題であるだけでなく、後の歴史にも大きな影響を与える 2 つの宗教の出発点の理解という意味でも重要である。
分析に際しては、聖書に書かれている内容そのものを知るに留まらず、それらが書かれた時代について、またそれらとの関連において著者・編者が残した記述の意図を読み取る分析的な視点が必要となる。
この課題に関して、以下の参考文献を精読し、旧約新約聖書時代の歴史の全体像をおさえるとともに、聖書の各著者・編者、主要な登場人物の思想を理解されたい。参考文献を読むに際しては、必ずそこに言及されている聖書箇所を自ら読み、なぜそのように解釈できるのかを把握することが必須となる。
歴史の全体像及び主要な登場人物の思想については、上村静『宗教の倒錯』（岩波書店、2008 年）
聖書各書（著者・編者）については上村静『旧約聖書と新約聖書』（新教出版社、2011 年）
を使用されたい（図書館等を利用して入手）。
聖書にはいくつかの版があり、基本的にはどれを利用してもよいが、日本聖書協会発行の『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』が推奨される。リポート及び試験は聖書及び上記の参考文献から出題される。
リポートについてはその他の参考文献も利用してよいが、注に必ず出典を明記すること。
リポート課題は、旧約聖書および古代ユダヤ史から 2 問、新約聖書および初期キリスト教史から 2 問の計 4 問が出題される（2 単位の受講生は、それぞれから各 1 問）。試験問題も、旧約聖書（ユダヤ教）および新約聖書（キリスト教）それぞれから各 1 問ずつ出題される。

3　成績評価基準 最終成績は単位修得試験およびリポートの内容を総合的に評価する。

リポートについては、聖書と参考文献を照らし合わせながら精読し、理解した事柄を課題に即して、参考文献の要約にならないようにしつつ聖書テキストを根拠に示し、自分の言葉で適切に表現できているかどうかということを評価する。
単位習得試験については、テキスト及び参考文献の内容を適切に理解できているかどうかということを評価する。

4　テキスト名および詳細　【テキスト】指定市販本『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』日本聖書協会
（その他の訳、版でも構わないが、旧約と新約の両方が必要）
　標準サイズ（小型）の『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』は￥3,600+税、ハンディタイプは￥3,100+税
【参考文献】
上村静『宗教の倒錯――ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店、2008 年、￥2,800+税
上村静『旧約聖書と新約聖書――「聖書」とはなにか』新教出版社、2011 年、￥2,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。(1) リポート作成に当たっては、設題に関係する聖書箇所および参考文献を精読し、根拠を示しつつ論ずること。他の文献を参照・引用してもよいが、インターネットからコピーしないこと。著者の解釈に疑問や異論がある場合には、根拠を記して反論すること。
(2) 参考文献はメモを取りながら（ページ数を付して）読み、章ごと、節ごとにまとめておくとリポートおよび試験に対応しやすい。
(3) 引用文には、著者、書名、ページ数を付すこと。
(4) 聖書および参考文献からの引用は必要最小限にとどめること。
(5) 聖書の各文書と箇所は、略記してよい（例：マタイによる福音書 20 章 1-16 節＝マタ 20:1-16、ローマの信徒への手紙 7 章 1-20 節＝ロマ 7:1-20、コリントの信徒への手紙一　15 章 3-5 節＝Ｉコリ 15:3-5 等。各文書の略記の仕方については、テキストとして指定されている聖書の目次にある略語も参照）。

HIS300TD

西洋史特講（ロシア史Ｉ）

教科担当責任者：**高澤　紀恵**

担当者：**草野 佳矢子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　17 世紀初頭までのロシアの歴史について、時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2　科目の概要　教科書およびその他の参考文献の自主学習と、リポートの作成により、古代から 17 世紀初頭までのロシア史について理解するための科目です。
教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。
リポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

3　成績評価基準　単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。
リポートについては、設問に対応したリポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行い、それが文章で表現されているかを評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ｉ）』第１版、加藤一郎、1997 年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ｉ（ロシア古代中世史）』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポート作成にあたっては、「リポートの書き方」、「設題解答にあたっての解説・注意等」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その結果をよく整理し、考察して、具体的に説明すること。学説にも注意しながら書くこと。教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら、必ず読み直し、誤字脱字、主語と述語の不対応などがないか、確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from ancient times to the early seventeenth century. Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

HIS300TD

西洋史特講（ロシア史Ⅱ）

教科担当責任者：**高澤　紀恵**

担当者：**草野 佳矢子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　17 世紀初頭から 1960 年代のロシア・ソ連の歴史について、時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2　科目の概要　教科書およびその他の参考文献の自主学習と、リポートの作成により、17 世紀初頭から 1960 年代までのロシア・ソ連史について理解するための科目です。
教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。
リポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

3　成績評価基準　単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。
リポートについては、設問に対応したリポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行い、それが文章で表現されているかを評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ⅱ）』第 1 版、倉持俊一、1980 年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ⅱ（ロシア近代史）』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポート作成にあたっては、「リポートの書き方」、「設題解答にあたっての解説・注意等」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その結果をよく整理し、考察して、具体的に説明すること。学説にも注意しながら書くこと。教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら、必ず読み直し、誤字脱字、主語と述語の不対応などがないか、確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from the early seventeenth century to 1960's.
Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

HIS300TD

西洋史特講（アメリカ史）

教科担当責任者：**高澤　紀恵**

担当者：**岩﨑 佳孝**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　アメリカ合衆国は、政治、経済、社会、文化など多くの面において、日本との関わりが非常に長く深い国である。ここでは合衆国の歴史を様々な局面から学ぶことによって、合衆国の国内外の様々な問題への対処の性質とその意味について、歴史的に理解できるようになることを目標とする。

2　科目の概要　アメリカ合衆国の歴史についての理解を深める。まずは通信教育部指定テキストで、さらに参考文献を読み込むことによって知識と理解を深め、そこからまとめたリポートを提出し、最後に単位修得試験を受験する。

3　成績評価基準　最終成績は、リポート提出に伴う学習をしっかりと行った上で、最後に単位修得試験によって評価する。
・リポート評価
　設題に対し正確な知識を得た上で、構成を検討し、まとめる必要がある。その際には、答えるべき重要な論点を適切にまとめ、それを指定テキストや参考文献の丸写しではない、自分の言葉で書き表すことが重要である。
　単なるまとめに終わらず、そこに自身の「考察」がなされていれば、さらに望ましい。
　参考文献から引用した場合、それを明らかにするため、使用した参考文献を必ずリポートの末尾に列記すること。
　文章は、日本語の文章としておかしい点がないか、具体的には主語と述語が一致しているか、コンマや段落で適切に区切られているか、誤字、脱字がないか等について、十分に注意すること。
・単位修得試験
　単位修得試験には、リポート設題の復習や、指定テキストや参考文献の熟読などによって十分に準備して臨むこと。文章の正確さは勿論のこと、問われている歴史的事象の具体的内容や時系列の理解、専門用語の理解、歴史的意義についての解釈の理解がどの程度なされているかを評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（アメリカ史）』第 1 版、清水 博、1976 年
（※ 前・通教テキスト『アメリカ史』）
【主要参考文献】
阿部 珠里編著『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年、￥2,000
有賀 貞・大下 尚一・志邨 晃佑・平野 孝『アメリカ史〈1〉 17 世紀～1877 年 』山川出版社、1994 年、￥5,343
有賀 貞・大下 尚一・志邨 晃佑『アメリカ史〈2〉 1877 年～1992 年 』山川出版社、1994 年、￥5,343
岩崎 佳孝『アメリカ先住民ネーションの形成』ナカニシヤ出版、2016 年、￥3,500
日本カナダ学会『資料が語るカナダ　新版― 16 世紀の探検時代から 21 世紀の多元国家まで　1535-2007』有斐閣、2008 年、￥3,132

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。本科目の指定テキストの熟読を中心に、さらには指定された参考文献も参照しつつ、十分に学ぶこと。リポートによっては、指定された参考文献以外からも積極的に学

ぶことが望ましい。その他、設題総覧も参照し「特記事項」に留意すること。

Outline and objectives This course aims to promote better understandings of American history.
After developing their understandings of American history through the prescribed textbook and references, the participants are expected to submit reports and then take a unit test.

HIS200TD

日本考古学

教科担当責任者：**小倉　淳一**

担当者：**板倉 歓之、小倉 淳一**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本考古学の概要と方法を学び、考古学によって検討されてきた日本列島を中心とする歴史過程について、物質資料にもとづいて理解するとともに、自らの力によって具体的な遺跡や考古学的事象、学説、研究方法などを提示・解説することができるようになる。

2　科目の概要　指定市販教科書（テキスト）によって、考古学の概要と方法、それにもとづく成果を十分に理解するための通信学習科目とする。考古学の方法と資料をもとに、それらから再構成することのできる歴史過程や社会の姿を学び、それを基礎にリポートを提出し、単位修得試験を受験することとする。リポートにおいては、日本考古学に関する特定のテーマをもとにした課題を設定する。これは単に教科書の内容を焼き直すものではなく、自ら資料を探索し、それらを提示するとともに、解釈・要約して独自の検討を加えて立論するべきものである。よって、大学生としてオリジナリティーのあるリポートを作成することを求める。また、筆記試験においてはテキストの内容をもとに出題するので、十分な準備をして臨むことを期待している。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかり行うこと。）
・リポート評価
　学術リポートとしての体裁を整えるとともに、独自の内容をもつことがリポート成立の第一条件である。表題や章立てを工夫するとともに参考書等にひろくあたること。特に実際の遺跡に関しては発掘調査報告書等を参照すること。それらを利用できる公立図書館等の活用も望ましい。物質文化を扱うリポートであるから、必要に応じて図表や写真を添付し、解説の水準を高めること。また、註や参考文献を付して引用を明らかにした上で、リポートとしての体裁を整えること。評価にあたっては構成・内容も重視する。
・筆記試験
　テキストの内容をもとに出題するので、内容を十分に理解しておくこと。一般的に、歴史学系の試験においては、学術分野の考え方や方法をふまえているか、専門用語等の正しい理解がなされているか、歴史事象の時系列上の整理ができているか、事実（資料）をもとにした歴史解釈が正しくなされているか等が評価基準となる。本科目においても上記の基準をもとにして、物質資料を扱う分野としてふさわしい立論がなされているか、物質文化にもとづいた検討結果をふまえた答案が書かれているかどうかを重視する。なお、単位修得試験がリポートに変更された場合は、学術リポートとしての体裁を整え、引用を明らかにすることが必須となるので注意すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『はじめて学ぶ考古学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、佐々木憲一・小杉康・菱田哲郎・朽木量・若狭徹、2011 年、￥2,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストは「考古学の考え方と方法」「考古学からみた日本列島の人類史」の二部構成になっている。初学者のためにわかりやすくまとめられているので、まずは全体を読み通し、内容を十分に理解した上で学習を進めてほしい。筆記試験はテキストの内容から出題するので、テキストを深く

読み込むことが重要である。

なお、本テキストは平易な入門書の体裁をとっているため「です・ます」体によって全体の記述が統一されているが、試験・リポートでは学術文献を意識して「である」体で記述すること。

Outline and objectives The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS300TD

日本史特講（対外関係史）

教科担当責任者：**大塚　紀弘**

担当者：**宇都宮 美生**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標 四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさけばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、諸外国からみた日本との交流について理解を深めていく。

2　科目の概要 指定テキストに基づき、日本の交流史を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してリポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、充分に準備して試験に臨む。

3　成績評価基準 リポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などリポートの体裁を整える（2000 字程度:40 字 ×50 行前後、もしくは 20 字 ×100 行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

4　テキスト名および詳細 村井章介監修/海津一朗・稲生淳編著『MINERVA 歴史・文化ライブラリー：世界史とつながる日本史―紀伊半島からの視座』ミネルヴァ書房、2018 年、3,800 円+税

5　学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたり、テキストの論考を理解していく。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。リポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

【参考文献】

●鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017 年、3800 円+税

●村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013 年、1200 円+税

●中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979 年、2500 円＋税

●簑原俊洋,・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016 年、3000 円+税

●田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987 年、13000 円＋税

＊このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してください。

【論文検索】

CiNii Articles（http://ci.nii.ac.jp/）

Outline and objectives This course introduces an understanding of Japanese history in respect to international relations with other Asian countries. The aim of this course

is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS300TD

日本史特講（海外交渉史）

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**松本 剣志郎**
単位数：**4 単位**
※ 2020 年度で廃止（2023 年 3 月まで経過措置）
※ 2021 年度以降入学者は履修不可

1　学習の到達目標　本科目は、日本が他国ないし他地域との関係をいかに構築してきたかを考えようとするものである。具体的には、１７世紀を主に取り上げ、徳川政治体制が確立していく過程での対外的な関係を考察する。東アジアないしヨーロッパの動きに注意しながら、近世と呼ばれる時代の理解を深めていくことを目標としたい。

2　科目の概要　いわゆる「鎖国」に至るまでの過程を中心にたどりつつ、東アジアないし東南アジアとの関係にも目配りしながらテキストは執筆されている。もとより対外的な関係は、国内情勢と密接に絡んで展開してゆく。大きな歴史の流れのなかに、諸事象を理解できるよう意図されている。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験による。
リポートは、教科書の内容を正確に理解しているか、論理の説明がなされているか、文章表現ないし形式に問題はないか、という点を中心に添削する。教科書や参考文献等の単なる引用であってはならない。必要であれば註を付すこと。
単位修得試験は、リポート学習を踏まえて、より広い視野から総合的に叙述されているかという点を中心に採点する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　『日本史特講（海外交渉史）』第１版、永積洋子、1995 年
（※前・通教テキスト『海外交渉史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。まずはテキストを熟読することからはじめましょう。そのうえで、以下の参考文献を読んでみると理解が深まるものと思います。
・岸本美緒『東アジアの「近世」〈世界史リブレット 13〉』（山川出版社、1998 年）
・荒野泰典「江戸幕府と東アジア」（同編『江戸幕府と東アジア〈日本の時代史 14〉』吉川弘文館、2003 年）
・鶴田啓『対馬からみた日朝関係〈日本史リブレット 41〉』（山川出版社、2006 年）
・高埜利彦『天下泰平の時代〈シリーズ日本近世史 3〉』（岩波新書、2015 年）
さらに深く調べたくなれば、こうした本の参考文献をたどっていきましょう。
なおリポート作成あるいは卒論執筆に向けて、文章指南の本、例えば
・清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書、1958 年）
などの一読をすすめます。

Outline and objectives　This course introduces history of relations between Japan and other country or region to students taking this course. Specifically about Japan in the 17th century. At the end of the course, participants are expected to understand and explain background and reason to "sakoku(national isolation)".

HUG300TD

文化地理学

教科担当責任者：**中俣　均**

担当者：**中俣 均**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　文化地理学は、幅広い内容を有するがゆえに、アメリカなどでは時に「人文地理学」とほぼ同内容の学問分野であると考えられているほどである。したがって、本科目の履修後は、単に「文化地理学」とくにアメリカで C. Sauer によって構想されたものの基本的な考え方を了解し、同時に「人文地理学」全般に通底する思想・考え方を学ぶことを目標とする。

2　科目の概要　20 世紀に確立された古典的な「文化地理学」、すなわちアメリカの地理学者・C. Sauer とその衣鉢を継ぐ Berkeley 学派の文化地理学の基本について、その精神を理解しながら学ぶ。キーワードは、「文化景観」。それを通じて地理学的なものの見方・考え方を身に着けることを目指す。

3　成績評価基準　・リポート評価

設題をしっかり読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。自分勝手な自己流の解釈ではいけない。また、長々と書かれたリポートは、えてして出来のよくないものになることが多い。必然性のない部分は思い切って削る勇気をもつこと。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をリポート全体の 2 割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること

4　テキスト名および詳細　指定市販本　高橋伸夫・田林明・小野寺淳・中川正著『文化地理学入門』、1995 年、東洋書林、￥2,500+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは本来、教室で教員が中身について詳しく解説しながら理解を進めていくように作られている。したがって学習者は、テキストの中身をザッと読んだだけでは理解が十分には出来ない恐れがある。それを克服するには、各章末にある具体的な参考文献をできるだけ数多く読みながら、自分でテキストに示された骨格に肉付けしてゆく努力が必要である。具体的にはまず、第 1 章を読んでこの学問分野の概要をつかむこと。次に、第 2 章は飛ばして第 3 章から読み進め、第 9 章まで読み終わったら、最後に第 2 章に戻ってこの分野の学説史を頭の中で整理するとよい。『スタディガイド（学習指導書）』をよく参照することが大切である。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic and contemporary Cultural Geography

HUG300TD

経済地理学

教科担当責任者：**伊藤　達也**

担当者：**伊藤 達也、南 春英**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2　科目の概要　経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

3　成績評価基準　成績評価は設題に対するリポートと単位修得試験による。

リポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年、￥3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準に書いた通り。リポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのリポートは引用によって成り立つものであるので、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかり理解した上で臨むこと。

Outline and objectives　Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

HUG100TE

人文地理学概論(1)

教科担当責任者：**中俣　均**

担当者：**中俣 均**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　人文地理学の全体像を大づかみに把握し、それが形成されてきた時代的背景（学説史）などにも目を配りながら、同時に学習者各自の興味関心をその文脈の中に位置づけること。

2　科目の概要　本科目のテキストは、「人文地理学とは世界の多様さを知りその依って立つ基盤を考える学問分野である」と措定している。そして、多様さの実相をできるだけ身近な材料の中から学び取り、地理学的思考を日常生活の場から鍛えることを促す内容になっている。このテキストにしたがって、地理学にとって非常に重要な分布図（主題図）の読解を中心におきながら、地理学的な発想および思考を身につけることに努める。

3　成績評価基準　・リポート評価

設題をしっかり読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。自分勝手な自己流の解釈ではいけない。また、長々と書かれたリポートは、えてして出来のよくないものになることが多い。必然性のない部分は思い切って削る勇気をもつこと。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をリポート全体の 2 割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること。なお、最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際には先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『人文地理学概論(1)(2)』第 1 版、中俣均・近藤章夫・片岡義晴・小原丈明・伊藤達也・米家志乃布著、2014 年刊行　の第 1 部「人文地理学概説」の部分

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。本テキストは、上記「科目の概要」に記されているような観点から書かれているが、しかしこれが人文地理学とは何かという問いへの唯一の解答だというわけではない。できれば人文地理学を概説した市販の教科書をいくつか参照しながら、その内容を本テキストと比較してほしい。また、自分の普段の暮らしの中で接する様々な情報（たとえば新聞記事など）の中に、分布図（主題図）がどれだけ活用されているかを注意深く意識してほしい。分布図をたくさん「読む」ことは、地理学的発想を身に着けるのに非常に有効な手段だからである。

Outline and objectives　This course deals with the fundamental thinking about Human Geography, especially on thematic maps.

GEO100TE

自然地理学概論(1)

教科担当責任者：**小寺　浩二**

担当者：**小寺 浩二**
単位数：**2 単位**

※ 2020 年 4 月より通教テキスト改訂

1　学習の到達目標　地理学の重要な一分野である自然地理学を総合的に学習する。人間活動の主要な舞台である地球表面の自然環境を総合的に理解することで、地域の特徴が理解できるようにする。また、様々な人為が自然環境に与える影響についても、日本の様々な地域での具体的な事例をもとに学習する。

2　科目の概要　自然地理学の基礎となる「気候学」、「地形学」、「水文学・陸水学」について基礎的な知識を学び、日本国内の様々な地域での「人為の影響による自然環境変化」について具体的な調査結果のデータから学ぶことで、総合的な力の育成をはかる。

リポート設題での具体的なデータをもとにした解析・考察でさらに理解を深め、単位修得試験に向けた教科書の再学習で知識の定着をはかる。

3　成績評価基準　教科書の学習を踏まえたリポート設題で、具体的な課題に取り組む能力の育成をはかり、そのステップを踏んだ上での単位修得試験の結果で成績を評価する。

インターネットで集めた情報や、参考書類などからの内容をそのまま要約して転記するような姿勢ではなく、自身が当事者になった場合を想定し、具体的な議論をできるかどうかが重要である。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『自然地理学概論（1）』第２版、小寺浩二、2020 年
（※ 前・通教テキスト『地理学概論』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

教科書では、日本国内の具体的な課題についての調査結果を中心に示しているが、それらの正しい理解のためには、基本的な自然地理学に関する知識が必要なので、テキストに示された参考文献などを中心に、自然地理学全般に関する知識を補う学習をする必要がある。

リポート設題も、単位修得試験も、そうした総合的な学習を前提として問題が出されているので、テキストの学習だけでは不十分であると考えて頂きたい。なお、リポート回答時に「設題解答にあたっての解説・注意」をよく吟味すること。

総合的な学習を進めた上で、しっかり時間をかけて具体的な資料・データを収集しリポート課題に取り組み、添削指導結果を踏まえて再学習した上で、単位修得試験に臨むことを期待する。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study natural geography comprehensively , which is an important area of geography.
By comprehensively understanding the natural environment on the surface of the earth, which is the main place of human activity , we will be able to understand the characteristics of many region. In addition , we will learn about the influence that various human behavior has on the natural environment based on specific examples in various areas of Japan.

HUG100TE

地理調査法（人文編）

教科担当責任者：**小原　丈明**

担当者：**片岡 義晴、前畑 明美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　人文地理学の卒業論文を作成する上で必要とされる基礎的技術を身につけること，それと同時に人文地理学における論文の形式，人文地理学の論文のまとめ方を学ぶこと，それがこの科目の到達目標です。

2　科目の概要　5 つの設題をこなしていくことによって，人文地理学の卒業論文作成に必要な基礎的技術を身につけていきます。論文を読み読書ノートを作成すること，論理を実証するための図・統計地図を作成すること，研究目的を達成するためのオリジナルな調査票を作成すること，論文の中でもっとも重要な論理，それを示す目次案を作成すること，それらが各設題の意図です。

各課題をこなしていくことによって，卒業論文作成の技術を身に付け，同時に人文地理学の論証方法を学んでいきます。

3　成績評価基準　リポートは設題（1)〜(5) すべてを同時に提出し，それらにすべて合格することによって試験に合格したと見なし，単位が与えられます。リポートそのものが試験なのです。5 設題のうち 1 つでも不合格の場合は，当該設題について再提出を求めます。

設題 (1) は論文を正確に読み，過不足なく適切に要約できているか否か，設題 (2)・(3) は資料（統計等の「原典」）に自らあたり，それをもとに独自に図・統計地図を作成し，それらに基づいて論理展開できているか否かがそれぞれ評価基準です。図の表現方法の適切さも評価基準の 1 つに含まれます。設題 (4) は研究目的が適切に設定され，その目的達成のためにオリジナルな資料（既存の統計等では得られない資料のこと）を得ようとしたとき必要になる「調査票」が適切であるか否か，設題 (5) は研究目的を実証するための論理展開，それが反映されることになる「目次」が明確であるか否か，それらが評価基準です。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『地理調査法（人文編）』第 1 版，山口不二雄，1992 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　どこかの報告書の図表や調査票を転載したり，二次資料を利用することでは，この科目の目的は達成されません。資料や統計等の「原典」にあたり，それを加工，つまり図や表を作成し，それらに基づいて論理展開できるように心掛けて下さい。そのためには，まず最初に論文を正確に読むことから始めなければなりません。論文に示されている図表には，使用した資料名が明記されています（図表の下に「資料」とか「出典」等として明記されています）。それらを参考にして資料や統計の原典（具体的な資料・統計名）を確認し，それらを探すことから始めて下さい。

Outline and objectives　Reading papers, drawing figures, putting results into tables, putting questionnaires, making a table of contents, etc.

GEO100TE

地理調査法（自然編）

教科担当責任者：**山口　隆子**

担当者：**狩野 真規、山口 隆子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　地理学を構成している主要分野である「自然地理学」を学ぶ上で必要とされる基本的な実習作業を適正に学び・習得することに本科目の目標がある。これは卒業要件となっている「卒業論文」の作成に際しての統計処理や図作成作業を習得する基礎的な科目として位置づけている。

2　科目の概要　上記の目標達成のために、自然地理学を構成している地形・地質、気候・気象、水文などの各分野における基礎的な実習作業の狙いとその作業手順を適正に理解・習得するため、分野に偏りなく課題を課して、その作業結果をもとに達成度を相互に認識することを、主目的に実施する。

3　成績評価基準　この科目の性格から、通常の筆記試験での評価は馴染まない。そこで自然地理を構成する各分野の課題に総合的な課題を加えて、通常よりも 1 設題多い、計 5 設題を課して、その設題への作業結果などをもとに評価する。各設題とも 8 割以上の適正な作業結果、および作業の正確度を一つの目安としてチェックした上で、5 設題合計でこの科目の最終評価としている。よってすべての課題の解答が単位認定の基準となる。なお、設題は 5 設題を一括して提出すること。また、紙媒体の「設題総覧」を合わせて読むことを求める。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『地理調査法（自然編）』第 1 版、東郷正美・佐藤典人・井上奉生、1983 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　前項の指定テキストを十分に読み、基本的な作業の狙いと手順を適正に理解した上で、個々の設題に取り組むことが、結果的に時間的にも無駄が少なく、単位修得への近道となる。それゆえ往々にして見られる、設題に関連していそうなページのみをつまみ食い的に読んで対応しているリポートもあるが、結局、不正確な内容が多くて、時間的にはロスとなっている。

Outline and objectives　This course introduces the basic knowledge of practical work required to learn the "Physical geography" to students taking this course.It is positioned as a fundamental subject to master statistical processing and graphic drawing work in preparing "Graduation thesis" which is a requirement for graduation.

HUG100TE

人文地理学概論(2)

教科担当責任者：**中俣　均**

担当者：**中俣 均**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　人文地理学は、いくつかの下位分野（分岐）からなる。本科目では、それら下位分野の内容（対象と方法）をそれぞれ大づかみに把握し、その分野の基本的知識を整理・獲得するとともに、自らの関心分野の方向性について自己確認することが目標である。

2　科目の概要　本科目は、上記のような人文地理学を構成する各下位分野が、どのような対象に対しどういった方法・視点によってそれを分析・考察するものであるかを、できるだけ平易かつ具体的に学ぶものである。必ずしも各下位分野の取り扱う内容や方法の詳細に踏み込むものではない。

3　成績評価基準　・リポート評価
設題をしっかり読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。自分勝手な自己流の解釈ではいけない。また、長々と書かれたリポートは、えてして出来のよくないものになることが多い。必然性のない部分は思い切って削る勇気をもつこと。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をリポート全体の 2 割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。
・単位修得試験
テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『人文地理学概論(1)(2)』第 1 版、中俣均・近藤章夫・片岡義晴・小原丈明・伊藤達也・米家志乃布著、2014 年刊行　の第 2 部～第 4 部の部分。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの各章は、それぞれの分野を専門とする教員の手によって執筆されている。まずはテキスト全体を、細部にあまりこだわらずにざっと読んでその内容をつかみとり、そのうえで自分の興味をひかれた個別の章から、ノートを取りつつ詳細に読み込んでいくとよい。

Outline and objectives　This course deals with knowledge about some subdivisions of Human Geography, including Economic, Social and Historical one.

HUG300TE

経済地理学

教科担当責任者：**伊藤　達也**

担当者：**伊藤 達也、南 春英**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2　科目の概要　経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

3　成績評価基準　成績評価は設題に対するリポートと単位修得試験による。
リポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。
単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年、￥3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
成績評価基準に書いた通り。リポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのリポートは引用によって成り立つものであるので、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。
単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかり理解した上で臨むこと。

Outline and objectives　Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

HUG300TE

人文地理学（都市）

教科担当責任者：**小原　丈明**

担当者：**小原 丈明**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　この科目では，地理学，とりわけ都市地理学の観点から，都市における諸現象を理解することを目標とします。具体的には，都市に関わるさまざまな理論を踏まえつつ，都市における経済，社会，政治，文化などの諸現象について，その要因や影響などを理解できるようになることを目指します。

2　科目の概要　この科目は人文地理学のうち，特に「都市」に関わる地理学を学ぶものです。都市を「点」（研究対象・単位）として，あるいは「面」（研究フィールド）として捉え，それぞれの観点に基づく事象について学んでいきます。具体的には，「点」としての観点では都市システムや都市分類などについて，「面」としての観点では都市化や都市構造，都市圏構造，都市における産業などについて学びます。また，創造都市やコンパクトシティ，多文化共生，都市災害，都市問題など現代に関わる事象についても考えていきます。

3　成績評価基準　主として単位修得試験の結果を成績評価に反映させます。ただし，2 回のリポートの評価も成績評価に加味するので留意してください。

単位修得試験およびリポートの評価は，都市地理学の原理・理論が正しく把握できているのか，都市に関わる諸現象の要因・プロセス・影響などを理解できているのか、空間に則した分析・考察ができているのか，そしてアカデミックな文章作成のルールが守られているのか，などのポイントを総合的にみて判断します。

4　テキスト名および詳細　＜指定市販本＞

藤井　正・神谷浩夫編著（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房，￥2,600+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　この科目では地理学の観点から都市を理解し，分析・考察する力を修得することを目指しますが，都市におけるさまざまな事象を扱う授業の性質上，地理学のみならず，社会学や経済学，行政学，都市計画学など隣接分野の関連文献にも注意を払うことが求められます。

また，リポート作成の際には以下の点に留意してください。

・文献を引用・参照する場合は，必ずルールにしたがって，引用元・参照元を明示するようにし，自身の意見であるのか，あるいは既往文献の見解であるのかの区別がつくように気を付けてください。

・統計など具体的なデータを基に分析し，議論を展開するようにしてください。

・リポートには表題（タイトル）を付けてください。

＜参考文献＞

北川建次編（2004）『現代都市地理学』古今書院，2,600 円+税

高橋伸夫・村山祐司・菅野峰明・伊藤　悟（1997）『新しい都市地理学』東洋書林，2,500 円+税

林　上（2012）『現代都市地理学』原書房，3,800 円+税

Outline and objectives　This course introduces the urban geography to students taking this course.Especially, this course deals with the concepts and the phenomena of urbanization, urban structures, urban industries, creative cities, compact cities, multicultural symbiosis, urban disasters and urban problems.

The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to consider the causes and influences of various phenomena in urban areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG300TE

人文地理学（農業）

教科担当責任者：**小原　丈明**

担当者：**片岡 義晴**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　グローバリゼーションが急速に進展しつつある今日の日本において、農業の現状（現象面）把握と、それに伴う様々な困難（矛盾）からの脱却をこころみようとする日本各地の取り組みを把握すること、それらの相互関係（「相互依存」もあれば「対立」もあり得るでしょう）を把握することによって、日本農業の仕組みと実態を理解できるようになることをめざします。

2　科目の概要　まずは、グローバル化がどのようなかたちをとりつつ農業において進展しているかを把握します。その上で、それらからの脱却、あるいは克服のためのこころみを日本各地の事例に学んでいきます。

3　成績評価基準　テキスト、参考文献の「丸写し」は評価対象外です。参考文献や新聞・雑誌等の記事、それらを「疑い」つつ読む、すなわち「読みこなせているか否か」「整理できているか否か」がレポート評価の基準です。単位修得試験の評価基準は、テキストをきちんと読んでいるか否か、記載されている内容が理解できているか否かです。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グローバル化に対抗する農林水産業』、農林統計出版、高柳長直・川久保篤志・中川秀一・宮地忠幸編著、2010 年、¥ 2,300+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストや参考文献の「丸写し」は進歩につながりません。そこに記載されている「現象」を大きな「仕組み（＝構造）」、たとえば日本の社会・経済、世界の社会・経済の中に位置づけ、その現象は、それらの「何」を反映しているのか考えながらレポートを作成して下さい。

テキストに記載されていることがらも決して「鵜呑み」にせず、「疑い」の目を向けつつ読んでいって下さい。参考文献もまた、同様に「鵜呑み」は厳禁です。

レポート作成に際し、参考・引用した文献がある場合は、それを明記して下さい（著者、タイトル、発行・出版年、雑誌名、発行・出版社、ページ等）。これは地理調査法（人文編）でも学んだことです。

Outline and objectives　Ariclutural problems under Japanese gavernment's policies on agriculture.

HUG300TE

人文地理学特講（地域・産業・生活）

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**高木 正**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(a)　南北問題の認識を深める。南北問題とは、先進地域と発展途上地域の経済格差およびこれを主たる原因として発生する諸問題の総称で、この具体的な事例を学ぶ。
(b)　近代世界における民族ならびに国民国家の問題への知識を深める。

2　科目の概要　(a)　15、16 世紀のスペイン・ポルトガルなどヨーロッパ諸国がヨーロッパの外部にでた大航海時代以降、ヨーロッパ中心の、資本主義世界経済が、如何に形成・拡大してきたかを学ぶ。その中で生じた先進地域と発展途上地域の格差（南北問題）、近年になって拡大してきた発展途上国間の格差（南南問題）、そして新興国の台頭などについて考える。
(b)　近代世界における「民族」の位置づけ、ならびに近代国家の基本制度となっている「国民国家」（nation state）と民族の関係について、世界各地の民族紛争の実情を踏まえて考えていく。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。リポートについては、作成のルールを守っているかどうかを最初にチェックする。その上で設題に対する理解ができているかどうか、論旨の展開（論文構成）がしっかりできているかどうか、文章表現が適切かどうかなどといった点から評価する。

4　テキスト名および詳細　(a)　指定市販本『南北・南南問題』（世界史リブレット 56）、山川出版社、室井義雄、1997 年、¥ 729+税
(b)　指定市販本『民族とネイション』（岩波新書）、岩波書店、塩川伸明、2008 年、¥ 820+税
【参考資料】
この科目には、上記テキストの補足として「テキストガイド」が作成されている。参照方法は次のとおり。
①ウェブ学習サービスにログインし、ページ右側のリンクメニュー【地理学科_学習資料】から参照する。
②「スタディガイド・外国語リポートノート・テキストガイド交付願」で申請する。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポートの作成はあくまで自分自身の文章で書くのが基本である。論文や文献を参考・引用する際は、かならずルールを守って欲しい。

Outline and objectives　Main subjects ： Global and geographical issues in the modern world.

HUG300TD

文化地理学

教科担当責任者：**中俣　均**

担当者：**中俣 均**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　文化地理学は、幅広い内容を有するがゆえに、アメリカなどでは時に「人文地理学」とほぼ同内容の学問分野であると考えられているほどである。したがって、本科目の履修後は、単に「文化地理学」とくにアメリカで C. Sauer によって構想されたものの基本的な考え方を了解し、同時に「人文地理学」全般に通底する思想・考え方を学ぶことを目標とする。

2　科目の概要　20 世紀に確立された古典的な「文化地理学」、すなわちアメリカの地理学者・C. Sauer とその衣鉢を継ぐ Berkeley 学派の文化地理学の基本について、その精神を理解しながら学ぶ。キーワードは、「文化景観」。それを通じて地理学的なものの見方・考え方を身に着けることを目指す。

3　成績評価基準　・リポート評価

設題をしっかり読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。自分勝手な自己流の解釈ではいけない。また、長々と書かれたリポートは、えてして出来のよくないものになることが多い。必然性のない部分は思い切って削る勇気をもつこと。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をリポート全体の 2 割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること

4　テキスト名および詳細　指定市販本　高橋伸夫・田林明・小野寺淳・中川正著『文化地理学入門』、1995 年、東洋書林、￥2,500+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは本来、教室で教員が中身について詳しく解説しながら理解を進めていくように作られている。したがって学習者は、テキストの中身をザッと読んだだけでは理解が十分には出来ない恐れがある。それを克服するには、各章末にある具体的な参考文献をできるだけ数多く読みながら、自分でテキストに示された骨格に肉付けしてゆく努力が必要である。具体的にはまず、第 1 章を読んでこの学問分野の概要をつかむこと。次に、第 2 章は飛ばして第 3 章から読み進め、第 9 章まで読み終わったら、最後に第 2 章に戻ってこの分野の学説史を頭の中で整理するとよい。『スタディガイド（学習指導書）』をよく参照することが大切である。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic and contemporary Cultural Geography

HUG300TE

歴史地理学

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**米家 志乃布**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　歴史地理学は、地理学の一分野として歴史を扱う学問です。幅広い内容をカヴァーしているため、多くの文献や史資料を読みこなす必要があります。本科目では、歴史地理学の基本的な史料である「地図」を用いて、どのように地理学的に歴史を考えることができるのか、その考え方を学ぶことを目標とします。

2　科目の概要　歴史地理学は、過去の地表面に繰り広げられた先人の足跡あるいは思想を明らかにすることを研究目的とします。現在の地形図はもちろん、過去の地図（古地図）や文献史料・考古学的遺物など、様々な史資料を用いて、景観復原を行います。テキストを読み、具体的な研究方法や考え方を学び、関連の参考文献や論文などを読んで、歴史地理学的な考え方を身に付けていきましょう。

3　成績評価基準　レポートでは、テキストを理解し、著者の歴史地理学的な考え方を理解できたのかどうか、そのうえで論評できているかどうか、を基準とします。また、参考文献を利用した場合は、適切に利用しているかどうか、もチェックします。単位修得試験では、テキストに記述されている内容を正しく理解できているかどうか、を基準とします。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　足利健亮『地図から読む歴史』講談社学術文庫、2012 年、1,030 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。本テキストは、著者による大学での講義録がもとであり、歴史地理学初心者にもわかりやすく学問の楽しさを伝える工夫がなされています。テキストの各回のトピックを丹念に読み、理解する必要があります。大学の授業を受けたつもりで、読んでください。また、著者の扱ったトピックを理解するためには、それらの基礎的な知識を勉強する必要もあります。基礎知識が足りない場合は、内容の理解も難しくなるので、地理や日本史の用語辞典や地名事典、概説書なども勉強してください。

Outline and objectives　This course is to explain methodorogy of historical geography thorough old various maps.

GEO100TE

自然地理学概論(2)

教科担当責任者：**小寺　浩二**

担当者：**小寺 浩二、永保 敏伸**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について理解を深める。

2　科目の概要　人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、生物地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。

3　成績評価基準　テキストの学習を踏まえたリポート設題に取り組み、その添削指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で単位修得試験を受け、その結果をもとに成績評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ２）、朝倉書店、高橋日出男・小泉武栄編著、2008 年、￥ 3,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストの内容は多岐にわたるが、15 章全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、リポート設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。
　単位修得試験では、そのステップを踏まえて、総合的な問題が出るので、改めてテキストを学習しなおして受験することを期待する。

Outline and objectives　Learn the fundamentals of natural geography, an important area of geography, grasp the natural environment as a stage of human activities in the area, and deepen their understanding of the interrelationship between human beings and society and the natural environment through analysis.

GEO200TE

地学概論

教科担当責任者：**前杢　英明**

担当者：**越後 智雄**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　地球の現在の姿、地球内部の物質と構造、地球の形成の歴史および地殻変動や火成活動をもたらすプレートテクトニクス等についての基礎的な事項を正しく理解し、知識を習得すること

2　科目の概要　地球史を踏まえて地球の現在の姿を総合的に理解する。とくに固体地球についての理解を深めるために、地球の構成とそれをつくる物質、プレートテクトニクスと地殻変動・火成活動、古生物からみた地球史について詳しく学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかり行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『図説地球科学』杉村　新・中村保夫・井田喜明、岩波書店、1988 年、￥3,800+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。
なお、この指定市販本は版元品切れで，手に入らない場合があります。その場合は以下の市販本を代替テキストといたします。
井田善明著『地球の教科書』岩波書店、2014 年、￥1,800+税
ISBN978-4-00-006251-0

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。まずは指定教科書とスタディガイドを熟読すること。その上で、最新の地球科学の内容を補うため、以下の参考書を読むことを推薦する。わかりやすい映像教材として、NHK が制作した「地球大紀行」「地球大進化」は DVD 製品として販売されており、本科目の導入として見ておくことを推奨する。
・日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』、古今書院、1987 年、￥2,300+税
・酒井治孝著『地球学入門』第 2 版、東海大学出版会、2016 年、￥2,800+税
・川上伸一・東條文治著『図解入門　地球史がよくわかる本』第２版、秀和システム、2009 年、￥1,980+税
・平　朝彦著『地質学１～３』、岩波書店、2001 ～ 2007 年、1: ￥5,000+税，2: ￥6,900+税，3: ￥4,000+税

Outline and objectives　Students should get fundamental knowledge of earth science.

GEO300TE

自然地理学（地形）

教科担当責任者：**前杢　英明**

担当者：**前杢 英明**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　地球表面の形態である地形について、地形を決定する要因（スケール、時間、作用、物質、環境）に関して理解し、基礎的な知識を身に付けることを目標とする。

2　科目の概要　地球システムの中での地形の意味、地形を形成する作用（内作用、外作用）について理解した上で、日本列島の地形の成り立ちを例に、各地形形成作用（重力、河川、海岸、氷河、火山、地殻変動など）、および形成される地形の特徴、形成メカニズムなどについて学習する。また農業的土地利用や自然災害など、人々の生活に関係した事象がどのように地形と結びついているかについても考察する。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010 年、￥4,500+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストおよびスタディガイド（学習指導書）を熟読すること。下記の参考文献は理解を深めるために大変役立ちます。図書館や地理学科事務室などで見られるものもあります。

『写真と図で見る地形学』（復刻版）、太田陽子ほか、東京大学出版会、2007 年（初版は 1985 年）、￥4,800+税
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998 年、￥4,200+税
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011 年、￥1,080+税
『日本の地形 1 ～ 7』米倉伸之ほか編、東京大学出版会、2000 ～ 2006 年、各巻で価格が違います
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977 年、￥800+税

Outline and objectives　Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE

自然地理学（生物・土壌）

教科担当責任者：**前杢　英明**

担当者：**三浦 英樹**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　私達の最も身近にあり，恩恵に浴している土壌や植生に着目し，それらの分布様式のもつ規則性を理解することを目的とする。

2　科目の概要　土壌の定義，土壌の生成作用について述べ，土壌は自然条件によってその特性を異にすることを詳述する。その上で，世界の土壌の分布特性を考察する。特に，気候条件，植生の条件などにより，土壌特性が異なっていることを理解してほしい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが，評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『世界の土壌』，古今書院，EM・ブリッジズ著，2004 年，￥3,600+税
テキストは法政大学生協で購入して下さい。
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。【学習にあたっての注意事項】テキストを十分に読んで理解して下さい。
【参考文献】藤井一至『土　地球最後のナゾ』（光文社新書）、福嶋司『図説 日本の植生（第 2 版）』（朝倉書店）。その他、専門用語がわからない場合は，『地学事典』（平凡社）、『地形の辞典』（朝倉書店）などを活用して下さい。

Outline and objectives　Students should get fundamental knowledge of vegetation and soil science.

GEO300TE

自然地理学（気候・気象）

教科担当責任者：**山口　隆子**

担当者：**山口 隆子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　自然地理学の主要分野の一つである気候・気象学に関して学ぶことが本科目の目的である。昨今の大気環境や地球温暖化の問題が強く叫ばれている関係から、多くの関心を集めている本科目に関わる基礎的な内容を適正に理解することが到達目標である。

2　科目の概要　大気に関して地理学の視点から学ぶことが本科目の根幹的な狙いである。そのためには、大気物理である気象学の必要最低限の知識を踏まえつつ、「気候学」の基礎、すなわち大気現象のスケールに応じて、大気候、総観気候、中気候、小気候、微気候、応用気候の各分野を適正に理解することが肝要なので、履修者にはその点を要請する。

3　成績評価基準　基本的には、通信教育の基礎である設題へのリポート作成を通して、気候学の理解度をチェックし、2設題に合格した後に、単位修得試験 (筆記試験) を課している。

最終的な評価は、筆記試験を基礎にして評価する。ただし、必要に応じて設題へのリポート内容を加味する場合もある。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『自然地理学（気候・気象)』第1版、佐藤典人、2015 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まず指定しているテキストを最初の方から読み、その内容を適正に理解・把握した上で、設題に臨んでください。つぎに各設題では何を求めているのか設題との整合性に十分、留意してください。往々にして的外れ的な内容やテキストの要約のようなリポートを拝見するので、それでは単位修得は望めません。

【参考文献】（※以下の順番は、読んでもらいたい順番になっている）

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』．ベレ出版，261p.
仁科淳司：（2019）：『やさしい気候学』．古今書院，144p.
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』．祥伝社，200p.
マーク・マスソン（森島済監訳）（2016）：『気候』．丸善，198p.
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』．講談社，301p.
小倉義光（2016）：『一般気象学』．東京大学出版会，320p.（こちらはかなり難解なので、気象予報士取得を目指す人のみでよい）

Outline and objectives　This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO300TE

自然地理学（海洋・陸水）

教科担当責任者：**小寺　浩二**

担当者：**小寺 浩二**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　自然地理学を学ぶ上で地理学における重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な「水圏」に関する基礎知識の習得を目指す。

2　科目の概要　基礎水文学として、水収支・水循環の視点から、水の性質が、その場所の環境とどのように反応し、その場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

3　成績評価基準　教科書による学習を踏まえた上で、2つのリポート設題に答え、単位修得試験での3つの問題に適切に回答することが条件である。リポートと試験結果を総合して評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水)』第1版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019 年

5　学習指導、注意点等　水循環・水収支を基礎として、「河川」、「地下水」、「湖沼」、「雪氷」、「海洋」など、総合的な力を修得することを期待する。

また、教科書で示されている各地域での具体的な事例にとどまらず、様々な地域の水環境や水問題についても興味を持って学習を進めてほしい。特に、リポート設題では、具体的な地域を選定して、実際のデータを収集し、図表などを作成した上で、自分なりの解析を行った結果をまとめることを求めているので、そうした総合的な力の育成も平行して求めている。

それらの十分な学習を踏まえた上で、単位修得試験に取り組むことが必要なので、十分な時間をかけて学習して頂きたい。

Outline and objectives　For learning the natural geography, we aim to acquire basic knowledge on systematic "hydrosphere" about "Oceanography　and limnology" field in geography.

GEO200TE

地誌学概論

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**川元 豊和**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　「所かわれば品かわる」といわれるように、各地域で見られる生活様式も多様な様相を呈しています。これらの生活様式の多様性を地理的現象（自然的現象や人文的現象など）の諸要素のかかわりあいから捉える視点を養うことを目標とします。

2　科目の概要　地誌とは、「土地の記述」という意味です。その記述の視点と方法を学ぶのが本科目の主要な目的の１つです。まず、どのような空間スケールで地域を設定するのか、そして、設定された地域の特色（個性）は、どのような地理的現象によって表現されるのか、その際、地域の特色を醸し出す地理的現象を構成するいくつかの「意味ある事象」を見出すことが重要です。それらの事象の関連から地域の特色について記述を加えてほしいところです。なお、現在見られる地域的諸現象は歴史的重層性の上に成立し、変化してきたことも考慮してほしいところです。特に、テキストの「１．地誌学の視点と方法」を熟読して下さい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）リポートおよび単位修得試験の評価は、地誌学的な視点が正しく把握されているのか、対象地域の空間的スケールに即した考察がなされているのか、そして設題内容を正しく理解し、記述されているのか、などです。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『地誌学概論 (第２版)』（地理学基礎シリーズ３）、朝倉書店、矢ケ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著、2020 年、￥ 3,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポート作成の際、テキストや参考文献からのそのままの引用（丸写し）は避けて下さい。リポートの文章のなかで引用部分はカッコで区切り、誰の見解なのかを明確に示して下さい。参考文献からの引用があるときは、必ずその出典（著者名・発行年・文献名・発行所・参考または引用頁など）を明記して下さい。また、具体的な統計資料が必要な場合は、出来るだけ最新のものを示して下さい。多くの国々の統計局が、インターネット上に統計資料を公開しています。インターネットにアクセスできない人は、矢野恒太郎記念会編『世界国勢図会』国勢社や二宮書店編集部編『データブック・オブ・ザ・ワールド』二宮書店などを参考にして下さい。なお、地図帳で対象地域の位置を確認しながら、学習を進めてほしいと思います。

＜参考文献＞

長谷川典夫『地誌学研究―地誌作成法とその実例―』、大明堂、1994 年
矢ケ崎典隆・椿真知子編『世界の国々を調べる―改訂版―』（東京学芸大学地理学会シリーズ４）、古今書院、2012 年

Outline and objectives　This course is to study geographical issues in the world.　Hear say that"Different places have different customs", each place proves various way of life (genre de vie) under geographic interrelationships between physical and human environments. Regional Geography means "description on the land (earth)".　This course introduces some viewpoints and methods on the land to students taking this course.　Hope that students read about Viewpoint and Method of Regional Geography in Chapter 1 on the textbook.

GEO200TE

日本地誌(1)（自然編）

教科担当責任者：**山口　隆子**

担当者：**内藤 次郎、前杢 英明、中山 秀晃、山口 隆子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　地理学を構成している地誌の分野の一つとして本科目は位置づけられている。それゆえ「地誌」的な見方に立脚して、日本の自然地理的な現象の理解を図ることが本科目の狙いである。

2　科目の概要　本科目では、自然地理を構成している地形、気候、水文の各分野の視点から日本の自然地理的事象を地誌的に捉え・理解することを狙いとしている。よってそれらの事象の特性を、地域単位、および日本全体で履修者には適正に理解して欲しい。

3　成績評価基準　本科目は、前項に示したように主に３分野で構成しているので、まず各分野ごとのリポート設題を指示に従って選択して作成することが要求される。それらのリポートに合格した後、単位修得試験 (筆記試験) を受験することを要求している。その筆記試験の結果で最終的な評価をする。ただし、評価に臨んでは、個々の分野を担当する複数の教員の評価を総合して評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『日本地誌Ⅰ（自然編）』第２版、三井嘉都夫、市瀬由自、佐藤典人、1994 年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まず指定のテキストを十分に読むことから学習を始動して欲しい。その上で、各設題を念頭に、個々の設題で何が求められているのか、熟慮し、下書き作成に入ってほしい。この下書きを書いては、修正を入れ、この作業を数回した上で、清書することを要請する。またリポート全体の構成を意識することは言わずもがなである。なお、参考となる書籍を読まれることは自由であるが、出典の文献明記はお忘れなく。

Outline and objectives　This course introduces the basic knowledge of the physical geographical phenomena in Japan to students taking this course.

GEO200TE

日本地誌(2)（人文編）

教科担当責任者：**伊藤　達也**

担当者：**前畑 明美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本は、世界各国の中で面積は決して小さくなく、人口は大変多いという特徴を持っている。さらに地形は南北に長く、地域は多様である。本科目では、こうした地域の特徴や多様性を、特に人文・社会現象に着目して理解することを目標とする。

2　科目の概要　日本各地の地域の特徴、多様性について、地域のユニークな現象としてではなく、日本、そして世界を貫徹するメカニズムの一環として理解することは大変難しい。テキストとして使用する地理教育研究会編『授業のための日本地理［第５版］』は、そうした地域の多様性に貫徹する法則に注意を払いながら記述されたものであり、わが国の地域的多様性の理解において大変優れたテキストである。テキストの各章には、全国各地の代表的なトピックが適切に記述されている。

3　成績評価基準　成績評価は、設題によるリポートと単位修得試験の総合評価による。リポートについては、特に引用文献を適切に提示することに注意すること。丁寧な推敲によってリポートの完成度が高められているか、この点も評価ポイントとしたい。単位修得試験に際しては、必ずテキストをすべて読み、重要な点を理解した上で臨むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　地理教育研究会編『授業のための日本地理［第５版］』古今書院、2010 年、￥3,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　成績評価基準に書いた通り。リポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くの学習リポートは引用によって成り立つものであるので、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。また、一度書き上げてからの推敲も、様々な発見の機会となる。ぜひ大切な学びの時間として捉えていただきたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかり理解した上で臨むこと。

Outline and objectives　Japan is not as small in area as any other country in the world and has a very large population. In addition, the land is long from north to south and is composed of various regions. The objective of this course is to understand the characteristics and diversity of these regions, focusing particularly on the humanities and social phenomena.

GEO300TE

世界地誌(1)（アジア）

教科担当責任者：**小寺　浩二**

担当者：**大八木 英夫、小寺 浩二**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。

2　科目の概要　アジア全域を対象とした地誌から、気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴とアジア各地の違いを理解する。その上で、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

特に、東アジアを中心に詳細に記述された地誌により、日本との比較を行い、日本の地誌についてもアジアにおける位置づけの中で理解を深める。

3　成績評価基準　テキストの学習を踏まえたリポート設題により、理解を深め、テキスト内容に即した単位修得試験の結果により、成績を評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『世界地誌Ⅰ（アジア）』第1版、多田文男、1972年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストは、出版年が古いため、最近の変化についてはふれられていない。テキストの学習によって得られた知識と理解をもとに、様々な文献にあたって、近年の状況についても理解を深める努力をしてほしい。

特に、リポート設題でも単位修得試験でも、現在のアジアの状況を前提とした問題となっているので、注意されたい。

【参考文献】
●倉嶋厚著『モンスーン　季節をはこぶ風』河出書房新社、1972年、￥580+税
●朝倉正他著『新版気象ハンドブック』朝倉書店、1995年、￥28,000+税
●鈴木秀夫著『風土の構造』講談社、1988年、￥800+税
●河野通博編『世界地誌ゼミナールⅠ東アジア』大明堂、1971年、￥1,800+税
●岩田慶治編『世界地誌ゼミナールⅡ南アジア』大明堂、1972年、￥2,175+税
●上野和彦編『世界地誌シリーズ2　中国』朝倉書店、2011年、￥3,400+税
●菊地俊夫・小田宏信編『世界地誌シリーズ7　東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014年、￥3,400+税
●気象庁のWebサイト（『各種データ・資料』のページなど）
●各社地図帳
※現在入手困難な出版物も含まれますので、図書館等も利用してください。
また、複数の会社から出版されているいわゆる「地図帳」（名称は様々）は、毎年更新されており、様々な主題図や最新の情報が開催されていますので、参考にしてください。

Outline and objectives　In geography, along with systematic geography, understand the fundamentals of important "regional geography", in particular, learn Asia's specific geographical region as a target area of world journals and wide-area geographies, Learn about the description method.

GEO300TE

世界地誌(2)（アメリカ・大洋州）

教科担当責任者：**小原　丈明**

担当者：**小原 丈明**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　本科目では，アメリカ・大洋州を対象地域として，地誌学的なモノの見方・考え方を理解し，修得することを目標とします。そして，それを踏まえて，対象地域に関連するあらゆる事象の要因・プロセス・影響・相互関連性などについて分析・考察できるようになることを目指します。

2　科目の概要　地理学には地誌学（特殊地理学）と系統地理学（一般地理学）がありますが，地誌学とは，ある地域の特徴を記述することから，その地域の特徴を浮かび上がらせることを目的としています。

この科目では，世界のなかでも南北アメリカ・大洋州（オセアニア）を対象とし，それぞれの地域の特徴について，主にその地域を構成する国家を中心に，さまざまな参考文献や統計・図表を用いて理解することが求められます。また，リポートや単位修得試験においては，上記の理解の下に，自分なりの視点で設題について論述する必要があります。

3　成績評価基準　主として単位修得試験の結果を成績評価に反映させます。ただし，2 回のリポートの評価も成績評価に加味するので注意してください。

単位修得試験およびリポートの評価は，アメリカおよび大洋州に関わる現象の要因・プロセス・影響などを理解できているのか，地誌学的なモノの見方・考え方（それぞれの事象を有機的に関連させて考える）が正しく把握できているのか，空間に則した分析・考察ができているのか，そしてアカデミックな文章作成のルールが守られているのかなどのポイントを総合的にみて判断します。

4　テキスト名および詳細　＜指定市販本＞

矢ケ﨑典隆・椿真智子編（2012）：『世界の国々を調べる（改訂版）』古今書院，￥2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

地誌学の性質上，対象地域に関わるさまざまな事象を扱います。それゆえ，教科書および下記の参考文献にとどまらず，多くの文献を用いて学習することが望まれます。その際，地誌学や地理学の文献だけでなく，あらゆる学問分野の文献を参照し，その内容を地誌学的なモノの見方・考え方に則して把握することが必要となります。

また，リポート作成の際には以下の点に留意して下さい。

・文献を引用・参照する場合は，必ずルールにしたがって，引用元・参照元を明示するようにし，自身の意見であるのか，あるいは既往文献の見解であるのか区別がつくように気を付けてください。

・統計など具体的なデータに基づいて分析結果などを議論するようにしてください。

・リポートには表題（タイトル）を付けてください。

＜参考文献＞

熊谷圭知・片山一道編（2010）『オセアニア　朝倉世界地理講座 15』朝倉書店，￥19,000+税

小塩和人・岸上伸啓編（2006）『アメリカ・カナダ　朝倉世界地理講座 13』朝倉書店，￥16,000+税

小林　泉・加藤めぐみ・石川栄吉ほか監修（2010）『オセアニアを知る事典（新版）』平凡社，￥5,200+税

坂井正人・鈴木　紀・松本栄次編（2007）『ラテンアメリカ　朝倉世界地理講座 14』朝倉書店，￥18,000+税

ダベーヌ, O.・ルオー, F.（2017）『地図で見る　ラテンアメリカハンドブック』原書房，￥2,800+税

モンテス, C.・ネデレク, P.（2018）『地図で見る　アメリカハンドブック』原書房，￥2,800+税

Outline and objectives　This course introduces the regional geography of the Americas and the Oceania to students taking this course.

The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO300TE

世界地誌(3)（欧・アフリカ）

教科担当責任者：**米家　志乃布**

担当者：**米家 志乃布**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　本科目では，世界の諸地域のなかでも，ヨーロッパ，ロシア，アフリカの国々を自ら調べ，その特徴を理解し，記述することを目標とします。これらの作業を通して，各国についての知識と深い理解を得るとともに，現代世界を自らの眼で考える訓練をすることが本科目の目標です。

2　科目の概要　本科目では，網羅的に薄く学習するのではなく、主にヨーロッパの国々のなかでも，ＥＵの主要な国であるドイツ，歴史的に大きな影響力をもつイギリス，日本と深いかかわりのあったポルトガル，広大な隣国ロシア，アフリカの優等生ケニアに絞って、一般常識的な知識や理解を超えて、より深く学びます。これらの国々を深く学習することから，自分なりに日本と異なる国々の在り方を理解し，それらを通して，世界における日本を相対化し，広い視野を身につけることができると考えます。

3　成績評価基準　最終成績は，単位修得試験で評価します。ただし，リポート学習をしっかり行わなければ試験は難しいと思われます。リポートでは，設題の趣旨に沿って，自分なりに調べたデータで，各国の特徴を理解し，記述できているかどうか，を評価します。試験では，テキストの理解を第一とし，試験問題に対して的確に答えているかどうか，で判断します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　矢ケ﨑典隆・椿真智子編『世界の国々を調べる（改訂版）』古今書院、2012 年、￥2,800+税
上記書籍のロシア，ヨーロッパ，アフリカの部分をテキストとします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
（1）リポート作成について
設題の意図を理解したうえで，参考文献や統計データなどをもとに，自分の言葉で記述してください。
（2）試験について
テキストの記述を十分理解してください。ロシア，ヨーロッパ，アフリカの部分を何度も読んで，それをもとに自分の言葉で書けるようにしてください。

Outline and objectives　This course is study geographies of countries in Europe, Africa and Russia.

GEO300TE

地図学

教科担当責任者：**山口　隆子**

担当者：**羽佐田 紘大**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　１．地図の基本事項・作成技術・歴史・表現の基礎を理解するとともに、適切に地図を使えるようになる。
２．地図作成にかかわる測量の基礎を理解する。
３．地図や測量にかかわる技術の変化と新しい技術を理解する。

2　科目の概要　本科目は、地理学における地図の担う役割とその作成・利用について学習する。関連する分野として、地図や地理に関する歴史、および地図作成にかかわる測量技術、日本における地図にかかわる社会制度についても触れる。さらに、地図にかかわりを持つ最新技術としての空中写真測量やリモートセンシング、GNSS 測量などについての基礎知識も学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮することがある。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『地図学Ⅰ』第１版、清水靖夫、2001 年
通教テキスト『地図学Ⅱ』第１版、金澤　敬、1981 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。本科目を学ぶ上では、地図学と測量学に共通する幅広い分野の理解が必要である。従って地理・歴史はもちろんのこと、その他に美術・印刷・数学・測量・情報などといった多岐にわたる関連分野に興味を持ち、知識を吸収してほしい。また幾何学や三角関数の知識が必要なので、必要に応じて学習すること。

Outline and objectives　1. We will be able to use the map properly while understanding the basics of maps, creation technology, history and expression basis.
2. Understand the basics of surveying involved in map creation.
3. Understand changes in technology related to maps and surveying and new technologies.

HIS300TD

史学概論

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**秋山 千恵**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目標とします。

2　科目の概要　指定市販テキストにもとづいて、歴史学とは何か、史料とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。また、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、現在、歴史学はいかなる問題に直面しているのかを把握していきます。

3　成績評価基準　指定のテキストをよく読み込んで、内容を理解し、自分なりにまとめているかどうかを評価します。構成、引用、参考文献などリポートの体裁を整えているかどうかも重視します。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する場合があります。単位修得試験はテキストである指定市販本の内容に沿って出題しますので、試験を受ける前に、各章ごとに要点をまとめて全体を見通しておくとよいでしょう。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『岩波テキストブックスα 歴史学入門 新版』岩波書店、福井憲彦、2019 年、￥2000+税
　歴史学とは何かという問題を、現在直面している諸状況のもとで、研究事例を挙げながら丁寧かつわかりやすく論じています。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストの各章で何が論じられているのかを考えながら読んでください。また、テキストとあわせて、以下の文献も参考にしてください。
リュシアン・フェーブル著長谷川輝夫訳『歴史のための戦い』平凡社ライブラリー 1995 年
マルク・ブロック著松村剛訳『新版 歴史のための弁明―歴史家の仕事』岩波書店 2004 年
二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波現代文庫 2016 年
さらに、参考文献として以下をおすすめします。
E. H. カー著・清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書、1962 年、￥820+税
現在は絶版となっていますが、図書館などで閲覧できるならば、
小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP 新書、2004 年
渓内　謙『現代史を学ぶ』岩波新書、1995 年　も参考にしてください。
さらに、以下を紹介します。
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010 年、￥6,800+税

Outline and objectives　This course introduces the foundation of science of history to students taking this course.

HIS300TD

日本史概説

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**川上 真理**
単位数：**4 単位**

※ 2021 年 4 月よりテキスト（通教テキスト → 指定市販本）変更

1　学習の到達目標　・日本史の個々の史実を、通史的・概説的に理解する。
・史実を列島社会に固有の文化的伝統との関連のなかで解釈する方法を身につける。
・日本人のアイデンティティの確立にとって、日本史上の個々の史実は如何なる意味を持っていたのかについての見通しを得る。

2　科目の概要　原始、古代、中世、近世、近代の通説的な時代区分にそって、政治の展開と社会経済の動きを、日本文化の発展との関係において理解する。

3　成績評価基準　・最終成績は単位修得試験により評価するが、リポート学習もしっかりと行うこと。
・リポート作成では、まず個々の事象についての通説を正確に理解し、それぞれの事項がどのような事実であるか、それらが各時代でどのような意義を持つものであるかに留意すること。また、同時代の他の事象との相互連関や、前後の時代との関連にまで視野を広げて考察すること。
・構成・引用・参考文献などリポートの体裁が整っていることは必須である。また、教養本・ハウツー本ではなく、専門性のある文献を参照すること。
・試験は、歴史用語を正しく理解していること、歴史的事象を時系列で整理し、事実に基づく解釈を行っていることを重視する。

4　テキスト名および詳細　佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000 年、￥1,900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。歴史的な用語については『国史大辞典』を、具体的な史実に関してはテキスト以外の専門的な書物を、それぞれ参照して理解を深めること。
参考文献として、若干紹介しておく。
○朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000 年、￥2,800+税
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、￥700+税
○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、￥2,200+税
○大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史』全 22 巻、岩波書店、2013 年～2016 年、￥3,200+税

Outline and objectives　・To understand the individual historical fact of Japanese history in a historical and out-of-the-way way way.
・Learn how to interpret historical fact in connection with cultural traditions inherent in archipelago society.
・To obtain a view on what the individual historical fact in the history of Japan had in the establishment of the identity of the Japanese.

HIS300TE

東洋史概説

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**宇都宮 美生**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　東洋史の中軸をなす中国史について、時代の特徴、時代の流れ、史実について学習し、史料、学説に基づいて説明できるようにする。

2　科目の概要　通教テキストに基づき、各王朝の特徴と史実を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してリポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、充分に準備して試験に臨む。

3　成績評価基準　リポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などリポートの体裁を整える（2000 字程度:40 字 ×50 行前後、もしくは 20 字 ×100 行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

4　テキスト名および詳細　『概説　中国史（上）』冨谷　至・森田　憲司編、昭和堂、2016 年、￥2,300+税
『概説　中国史（下）』冨谷　至・森田　憲司編、昭和堂、2016 年、￥2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたり、各時代の特徴として、政治、法制、軍制、財政（税・貨幣）、農業、文化、対外政策に分けて考察するとわかりやすい。まず、経緯、社会情勢、発生の条件、内容、結果、影響などに着目して史実をみていく。さらに、前王朝の特徴が次王朝へどのように継承されているか、どのような影響を与えているか、あるいは何が否定されているか、理解しながら中国史をみていくと全体の流れが把握できる。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。リポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

【参考文献】
平勢隆郎他『中国の歴史』全 12 巻、講談社、1974 年～1975 年、2004 年～2005 年
愛宕元・冨谷至・森田憲司編『中国の歴史』上下、昭和堂、2005 年
譚其驤主編『中国歴史地図集』全 8 巻、中国地図出版社、1982 年
【論文検索】
CiNii Articles（http://ci.nii.ac.jp/）

Outline and objectives　This course introduces an understanding of Chinese history in respect to international relations with other countries.　The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS300TE

西洋史概説

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**赤松 道子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　西洋の歴史について、時代の特徴、歴史用語、歴史の流れ、諸事象の意味について理解し、説明できるようにする。

2　科目の概要　指定テキスト（指定市販本）を自主学習し、リポートを作成することによって西洋史について理解する。

指定テキストの学習によって、歴史用語、重要な事象の意味、時代や地域の特徴を理解することが重要です。学習の理解度を示す試験を実施します。特定のテーマについてのリポートを作成します。リポート作成に際しては、指定教材だけではなく、独自に文献を調べて、よく読み、設題に関連する時代の特徴、制度、歴史用語などについての理解を深め、文章に表現します。適確な表現を模索する姿勢が大切です。

3　成績評価基準　単位修得試験は指定市販本から出題します。重要な歴史事象について、原因と結果を論理的に説明し、展開できるように、内容把握に努めましょう。リポートについては、歴史用語や時代、事象について理解しているかどうかを評価します。

まず、指定市販本以外に積極的に参考文献を探し、調べること。一つの歴史事象について複数の文献にあたり、調べた内容を掘り下げ、時系列的に具体的に説明します。多様な見解があることを理解しましょう。リポート作成の原則に従い、リポートをまとめます。

4　テキスト名および詳細　『西洋の歴史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房、山本茂他、1988 年、￥2400+税。『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、大下尚一他、1998 年、￥2400+税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポート作成にあたっては、「設題回答にあたっての解説・注意等」をよく読むこと。各時代の特徴を時系列的に具体的に考えてみます。制度、文化、対外関係などに注目しながら、全体の流れを整理してみましょう。リポートを書いたら、必ず読み直してください。意味がわかりにくいところは必ず訂正し、自分の文章を練り上げていきましょう。

Outline and objectives　The aim of this course is deepening your understanding of the History of the Western countries through learning the required texts independently and writing the papers.
It's important to know and realize the meaning of the historical words, the historical phenomena and the characters of the Times and the areas.
We ask you the tests for estimating the level of your understanding.
You write the papers of the specified theme.
For writing the papers you investigate the literature related to the theme besides the required texts, read them in detail, grasp deeply the character of the system and the Times and represent them into the paper using the proper expressions.

ECN300TE

社会経済学 A

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって歴史的視点が重要です。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立した資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションのもとでの変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ａでは、価値・商品（市場システム）、資本の生産の基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学』〔新版〕、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに試される場です。日頃から現実に対する問題関心を持ちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識との関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN300TE

社会経済学 B

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって社会経済学の内容を理解するためには歴史的視点が重要になってきます。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立する資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションと福祉国家の変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ｂでは、資本蓄積 (雇用・失業・成長)、社会的再生産、競争と価格、信用、農業、産業循環、福祉国家の危機（新保守主義の登場）などを理解するための基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学〔新版〕』、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識とその関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

HIS300TE

日本史特講（日本仏教史）

教科担当責任者：**大塚　紀弘**

担当者：**岡野 浩二**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本の古代から近現代に至るまでの仏教について、僧尼の学と行という観点から理解するとともに、世俗世界からの視点にも留意して、多様な諸相を把握する。また各時代の仏教の特色・特質を説明できるようになる。

2　科目の概要　仏教伝来から現代までの仏教を概観します。そのさい、僧侶を主語に据えて、その「学」（頭脳を使う学問仏教）と「行」（心や体を使う修行）の変遷を説明したテキストを用います。また為政者による仏教政策など、テキストが省略した事項を、スタディガイドが補足しています。それらをもとに、日本仏教の変遷を理解してください。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験によって評価します。テキストとスタディガイドの内容を全体にわたって理解したうえで受験してください。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『日本仏教史』蓑輪顕量、春秋社、2015 年、￥2,400+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。リポートは、テキストとスタディガイドだけでなく、参考文献を利用して、特定の人物・集団の活動を理解し、自身の文章でその内容をまとめてください。また同時代の他の僧・宗派との比較など、全体像をつかむ視点を盛り込んだ記述にしてください。単位修得試験は、テキストとスタディガイドの内容を理解したうえで受けてください。段落を構成し、５Ｗ１Ｈの必要事項を盛り込んだ自分の文章であることが求められます。

試験は論述式です。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を１文字あけてください。（１）段落が構成されていない、（２）改行の代わりに１行を空白にしている、（３）段落冒頭を１文字あけていない、そのような答案は減点の対象となります。

Outline and objectives　An overview of Buddhist history from ancient times to modern times in Japan.　In particular, emphasize the following items.　In other words, it is a viewpoint of Buddhism, academic Buddism, Buddhism of practice.

HIS300TE

日本史特講（日本思想史）

教科担当責任者：**長井　純市**

担当者：**岡野 浩二**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　日本の古代から近現代に至るまでの思想について、時代・カテゴリーを意識しながら学習し、「日本」がどのように自覚されてきたのか、その歴史をアジア・世界の中の「日本」という国際性を意識しながら説明できるようにする。

2　科目の概要　指定市販教科書と巻末の年表を活用して、古代・中世・近世・近現代の思想の大きな流れと時代ごとの特色を理解する。リポートの第１回の設題では、日本の古代国家形成に強い影響を与えた外来思想（仏教・儒教・道教など）を理解し、その受容と日本における変容、特に「日本」国号や「天皇」号、記紀神話の成立などについて考察する。第２回の設題では、神道・仏教・儒教の関係に留意して中世以降の日本思想の展開を理解し、神道思想の形成など、「日本」がどう自覚されてきたかを考察する。さらに、近代における神仏分離から国家神道の形成、西洋思想の受容などについてもまとめて、それぞれの時代に外来思想がどのように受容され、「日本」についての思想がどのように展開したかを整理して、単位修得試験に臨む。

3　成績評価基準　・リポート評価

テキストだけでなく、参考書などをひろく読み、それぞれの課題に対する問題点を整理し、しっかりとした論点を持ってリポートを作成する。決して辞書的な項目ごとのまとめにしない。重要な文献は書名だけでなく内容を把握する。その上で内容・構成を考え、註や参考文献を明記した学術リポートとしての体裁を整えること。ワープロ使用の場合は字数を明記すること。

・単位修得試験

上記リポートと指定市販教科書のすべてを試験範囲として出題する。日本思想史の流れを理解し、古代・中世・近世・近現代という時代ごとの相違が論じられること。日本思想の形成に影響を与えた外来思想と、神道思想など「日本」を自覚したものを整理するだけでなく、両者の関係を歴史的に考察する。関連する書目・思想家が正しく認識されているか、日本思想の特色がまとめられているかも重要な評価の対象である。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『概説日本思想史』（増補版）ミネルヴァ書房、佐藤弘夫編、2020 年、￥3,500+税
※初版（2005 年）も使用可

知的文化財産としての日本思想に関する基礎知識を、歴史学・文学・仏教学・民俗学などの周辺領域にも細かに目配りしながら、正確にわかりやすく記述している。日本思想史の全体像をイメージしやすく設計され、Ⅰ「古代の思想」、Ⅱ「中世の思想」、Ⅲ「近世の思想」、Ⅳ「近現代の思想」それぞれの冒頭に付けられている概説では、思想史の大きな流れが把握でき、各章では、より専門的な視点から各時代の思想を詳しく考察できる。所々に挿入されているコラムでも、簡潔ながら重要な指摘がなされている。巻末の年表と索引は総復習に、参考文献は更に深く勉強するために役立つ。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポート作成には、テキストの「古代の思想」「中世の思想」「近世の思想」全体を良く読み、その中から重要なポイントに絞って歴史的変遷を考察すること。単位修得試験には、リポートに対するコメントを参照しながら復習し、さらに「近現代の思想」についても同様の勉強をして臨むこと。巻末（293～297 頁）の参考文献や『日本思想史講座』全

５巻（ぺりかん社）も参照すること。

試験は論述式である。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を１文字あけること。（１）段落が構成されていない、（２）改行の代わりに１行を空白にしている、（３）段落冒頭を１文字あけていない、そのような答案は減点の対象となる。

Outline and objectives I overview the history of thought in Japan from ancient times to modern times.In particular, emphasize the following items.(1) The formation of ancient nations and the influence of outpatient thought.(2) Relationship between Shintoism, Buddhism and Confucianism in the Middle Ages and Early Modern Age.

HIS300TE

東洋史特講（中国現代史）

教科担当責任者：**塩沢　裕仁**

担当者：**竹茂 敦**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　(1) 辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期の中国への理解を深めること、(2) 中国近現代史に関する先行研究や史料を収集・読解・整理するために必要な能力を養うこと。

2　科目の概要　辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期を対象とする。受講者には導入としてテキストを熟読してもらった上で、「設題総覧」の課題に従ってリポートを作成し、単位修得試験を受験してもらう。リポートについては、自らテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（書籍、論文等）や史料を収集・整理し検討を加えて執筆してもらう。単位修得試験については、テキストで扱っているテーマから出題する。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。
〔リポート〕主に以下の点を総合的に勘案して評価する：①テーマ＝2,000～3,000 字という限られた紙幅に適当で、独自性のあるテーマを設定できているか、②参考文献・史料＝自ら定めたテーマに適した先行研究（書籍、論文等）や史料を探し出すことができているか、③記述内容＝歴史展開がきちんと整理できているか▽参考文献や史料に基づいた実証的な考察（根拠を示した論証）ができているか▽テキスト・参考文献からの抜き書きではなく、自らの言葉で叙述できているか、④体裁・構成＝大学生のリポートとしての体裁や構成が整っているか▽とりわけ、「はじめに」でリポートのテーマについての説明（目的、意義など）が、「おわりに」で結論がそれぞれ提示され、「参考文献一覧」「注」が付いているか。
〔単位修得試験〕歴史的な事項・人物について、時系列的な展開、時代的な背景や歴史的な意義などを理解した上で、整理した記述ができているかを評価基準とする。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『東洋史特講（中国現代史)』第１版、栃木利夫、1982 年（※前・通教テキスト『中国現代史』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
〔リポート〕2,000 字から 3,000 字という字数制限を考慮して、リポートのテーマは焦点をよく絞り込むこと。概説書ばかりに頼るのではなく、図書館の蔵書目録（OPAC）や各文献の「参考文献一覧」などを活用して、テーマについてできるだけ詳しく言及している書籍・論文や関連する史料を探し出し、それらをよく読み比べること。執筆に際しては、先行研究や史料に基づいた実証的な「考察」に重点をおくこと（テキスト・参考文献の文章の継ぎ接ぎや、歴史的な事件・人物に対する「漠然とした指摘・感想文」にならないように注意されたい)。
〔単位修得試験〕テキストで扱っているテーマから出題する。テキストを熟読し、「設題総覧」で挙げている参考文献なども適宜参照して、基本事項の理解を深めておくこと。

Outline and objectives This course introduces the history of modern China, a period between the outbreak of the 1911 Revolution (also called Xinhai Revolution) and the establishment of the People's Republic of China.
The main aims of this course are: (1) to help students

acquire knowledge about China's modern era; (2) to help students learn methods of historical research, such as evaluating major previous studies, critical analysis of historical materials, etc.
Grading will be based on reports and examination.

HIS300TE

西洋史特講（西洋哲学史）

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**白根 裕里枝**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　古代ギリシアに始まる古代哲学、その後のキリスト教哲学を中心にした中世哲学、それに続く近・現代哲学へと至る西洋哲学史の基礎知識を、通教テキストを通して把握することで、それぞれの時代にどのような問題が問われてきたのか、その思想は後の時代にどのような影響を与えたのか、そしてまた、それらは今日の我々にとってどのような意味を持つのかといった点の理解を深め、西洋哲学への歴史的視野の形成を図ることを全体として目指す。

2　科目の概要　哲学は古代ギリシアで誕生した。まずは、古代哲学の流れに沿って、イオニア・イタリアでの自然哲学や、アテナイにおけるソフィストとソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学、さらにはヘレニズム期・ローマ期の哲学を学ぶ。次に、中世哲学の流れに沿って教父哲学・スコラ哲学・普遍論争を学んだ上で、さらに、近世・近代哲学の流れに沿ってルネサンス哲学・大陸合理論哲学・イギリス経験論哲学・ドイツ観念論哲学を学ぶ。最後に、現代哲学の流れに沿って生命の哲学・分析哲学・現象学を、通教テキストを拠りどころにして学ぶ。以上のことに併せてその時代思潮についても考察し、その影響を理解する。哲学者たちは、それぞれの時代に、世界について、国家や人間について、いかに考えたのか。その思想は歴史の流れの中で生まれ、引き継がれ、影響を与えあいながら、発展していった。哲学史の流れに沿って、それら真理追究の足跡を辿ってゆく。

3　成績評価基準　・リポート評価基準
リポートについては、まず通教テキストをしっかり読んで理解した上で、設問に十分適切に答えているかどうかを判定基準とする。難しいと思われた箇所も、テキストをよく読んで、理解を深めるように努めること。その上で課題の箇所を丁寧に要領良くまとめること。必要な場合のみ、参考書を用いて補うように。まずはテキストをよく読んで自分の理解を深めてから記述すること。テキストや参考書の丸写しでは十分な理解に達しているとは見做されない。また、リポート書式の形式（①段落分けの適切性　②文頭と文末の対応が取れているか　③誤字、脱字の有無　④注は適切か　⑤引用の仕方は適切か　⑥引用した文献の提示の有無など）にも注意すること。自分の言葉で適切に表現できるよう、まずは自分でその思想内容に興味を持って、深く理解するように努めることが重要となる。
・単位修得試験
単位修得試験では、通教テキストの全体の内容から出題する。そこでテキスト全体をよく読んで理解しておくことが大事である。特にレポートの課題箇所について、念入りに勉強しておくことが必要とされる。評価基準は、上記のリポート評価基準と同様の基準を適用し、哲学史についての習熟度に応じて成績を評価する。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（西洋哲学史）』（第１版）、鶴岡　健、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　まず何よりも通教テキストをよく読んで理解した上で、リポートの設題の意図、試験の出題の意図をよく考えて、必要かつ十分な解答をするよう努めること。答案は、しっかり構想を練った上で、筋道を立てて論述すること。

作成した答案を最後によく読み返して、時間の許す限り、必ず推敲を行うこと。テキストやネットからの丸写しは当然ながら、解答とは見做されない。必要な場合のみ、参考文献を用いて補うように。他の文献を参考にした場合には、文献名及びページ数を必ず明記すること。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire a basic understanding of the history of Western philosophy.
By the end of the course students should be able to grasp the outline of Western philosophy from its development among the ancient Greeks to the present.

HIS300TE

西洋史特講（キリスト教史）

教科担当責任者：**後藤　篤子**

担当者：**山野 貴彦**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標 (1) 旧新約聖書の分析を通して、ユダヤ教およびキリスト教の成立史を理解する。
(2) 聖書の著者および編者たちの多様な思想を各々の社会背景をふまえて理解する。
(3) 聖書の主要な登場人物たちに帰される各々の思想をその社会背景をふまえて理解する。
(4) キリスト教がユダヤ教から分離・独立してゆく過程を思想面および政治面の双方から理解する。

2　科目の概要 旧新約聖書の分析を大きな歴史的枠組みから行うことにより、以下のような問いに対する理解を深めることが求められる：
・古代イスラエルの宗教からどのようにユダヤ教が形成されてゆくことになったか
・イエスが生きた時代のユダヤ教にはどのような特徴があり、それとイエスの活動や思想はどのようにかかわっていたか
・イエスの死後どのようにキリスト信仰というものが生まれたのか、また、パウロを通してそれはどのように展開されていったか
・キリスト教はなぜユダヤ教から分離することになったか
・ユダヤ教およびキリスト教はなぜ正典として聖書を持つに至ったか
これらの問いは古代史の一断面として興味深い課題であるだけでなく、後の歴史にも大きな影響を与える 2 つの宗教の出発点の理解という意味でも重要である。
分析に際しては、聖書に書かれている内容そのものを知るに留まらず、それらが書かれた時代について、またそれらとの関連において著者・編者が残した記述の意図を読み取る分析的な視点が必要となる。
この課題に関して、以下の参考文献を精読し、旧約新約聖書時代の歴史の全体像をおさえるとともに、聖書の各著者・編者、主要な登場人物の思想を理解されたい。参考文献を読むに際しては、必ずそこに言及されている聖書箇所を自ら読み、なぜそのように解釈できるのかを把握することが必須となる。
歴史の全体像及び主要な登場人物の思想については、上村静『宗教の倒錯』（岩波書店、2008 年）
聖書各書（著者・編者）については上村静『旧約聖書と新約聖書』（新教出版社、2011 年）
を使用されたい（図書館等を利用して入手）。
聖書にはいくつかの版があり、基本的にはどれを利用してもよいが、日本聖書協会発行の『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』が推奨される。リポート及び試験は聖書及び上記の参考文献から出題される。
リポートについてはその他の参考文献も利用してよいが、注に必ず出典を明記すること。
リポート課題は、旧約聖書および古代ユダヤ史から 2 問、新約聖書および初期キリスト教史から 2 問の計 4 問が出題される（2 単位の受講生は、それぞれから各 1 問）。試験問題も、旧約聖書（ユダヤ教）および新約聖書（キリスト教）それぞれから各 1 問ずつ出題される。

3　成績評価基準 最終成績は単位修得試験およびリポートの内容を総合的に評価する。

リポートについては、聖書と参考文献を照らし合わせながら精読し、理解した事柄を課題に即して、参考文献の要約にならないようにしつつ聖書テキストを根拠に示し、自分の言葉で適切に表現できているかどうかということを評価する。
単位習得試験については、テキスト及び参考文献の内容を適切に理解できているかどうかということを評価する。

4　テキスト名および詳細　【テキスト】指定市販本『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』日本聖書協会
（その他の訳、版でも構わないが、旧約と新約の両方が必要）
　標準サイズ（小型）の『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』は￥3,600+税、ハンディタイプは￥3,100+税
【参考文献】
上村静『宗教の倒錯――ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店、2008 年、￥2,800+税
上村静『旧約聖書と新約聖書――「聖書」とはなにか』新教出版社、2011 年、￥2,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。(1) リポート作成に当たっては、設題に関係する聖書箇所および参考文献を精読し、根拠を示しつつ論ずること。他の文献を参照・引用してもよいが、インターネットからコピーしないこと。著者の解釈に疑問や異論がある場合には、根拠を記して反論すること。
(2) 参考文献はメモを取りながら（ページ数を付して）読み、章ごと、節ごとにまとめておくとリポートおよび試験に対応しやすい。
(3) 引用文には、著者、書名、ページ数を付すこと。
(4) 聖書および参考文献からの引用は必要最小限にとどめること。
(5) 聖書の各文書と箇所は、略記してよい（例：マタイによる福音書 20 章 1-16 節＝マタ 20:1-16、ローマの信徒への手紙 7 章 1-20 節＝ロマ 7:1-20、コリントの信徒への手紙一　15 章 3-5 節＝Ⅰコリ 15:3-5 等。各文書の略記の仕方については、テキストとして指定されている聖書の目次にある略語も参照）。

HIS300TE

西洋史特講（ロシア史Ⅱ）

教科担当責任者：**高澤　紀恵**

担当者：**草野 佳矢子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　17 世紀初頭から 1960 年代のロシア・ソ連の歴史について、時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2　科目の概要　教科書およびその他の参考文献の自主学習と、リポートの作成により、17 世紀初頭から 1960 年代までのロシア・ソ連史について理解するための科目です。
教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。
リポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

3　成績評価基準　単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。
リポートについては、設問に対応したリポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行い、それが文章で表現されているかを評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ⅱ）』第 1 版、倉持俊一、1980 年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ⅱ（ロシア近代史）』）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
リポート作成にあたっては、「リポートの書き方」、「設題解答にあたっての解説・注意等」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その結果をよく整理し、考察して、具体的に説明すること。学説にも注意しながら書くこと。教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら、必ず読み直し、誤字脱字、主語と述語の不対応などがないか、確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from the early seventeenth century to 1960's.
Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

ECN100TF

社会経済学 A

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって歴史的視点が重要です。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立した資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションのもとでの変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ａでは、価値・商品（市場システム）、資本の生産の基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学』〔新版〕、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに試される場です。日頃から現実に対する問題関心を持ちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識との関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN100TF

社会経済学 B

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって社会経済学の内容を理解するためには歴史的視点が重要になってきます。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立する資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションと福祉国家の変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ｂでは、資本蓄積 (雇用・失業・成長)、社会的再生産、競争と価格、信用、農業、産業循環、福祉国家の危機（新保守主義の登場）などを理解するための基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学〔新版〕』、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識とその関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN100TF

統計学 A

教科担当責任者：**菅　幹雄**

担当者：**菅 幹雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．経済統計の仕組みを理解する。
2．記述統計の基礎を理解する。
3．確率の基礎を理解する。

2　科目の概要　経済統計はいま変革期にある。その経済統計がどのような仕組みで作成され、それが今後どのように変わっていくのかを学習する。その上で収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算して分布を明らかし、データの示す傾向や性質を把握する手法（記述統計）を学習する。

3　成績評価基準　成績はリポート、単位修得試験によって評価する。

4　テキスト名および詳細　清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館、2013 年、3500 円+税
福井幸男『統計学の力－ベースボールからベンチャービジネスまで－』共立出版、2009 年、2400 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

ECN100TF

統計学 B

教科担当責任者：**菅　幹雄**

担当者：**菅 幹雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．確率および確率分布とは何かを理解する。
2．標本から母集団を推定する手法を理解する（推測統計）。

2　科目の概要　母集団を全て調べることは時間・労力・お金がかかり、効率が悪い。そこで母集団の一部（標本）を無作為に取り出して調べ、標本のデータに基づいて母集団を推定する。それがなぜ可能なのか、具体的にどのように行うのかを学習する

3　成績評価基準　成績はリポート、単位修得試験によって評価する。

4　テキスト名および詳細　福井幸男『統計学の力－ベースボールからベンチャービジネスまで－』共立出版、2009 年、2400 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書に出てくる数学がよく理解できない場合は、高校の数学の教科書を復習すること。

ECN100TF

経済史 A

教科担当責任者：**杉浦　未樹**

担当者：**杉浦 未樹**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれには様々な類型があったことを理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、その成立以来２００年以上に及ぶ市場経済の歴史を概観することによって、経済社会の仕組みを理解するとともに経済学の考え方を身に付けることにある。中でも国際的連関のなかから経済の成り立ちを理解することを目指す。経済史である以上、生産・流通・金融・財政の各方面の動きを追っていくが、企業経営の歴史にも留意する。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史　グローバル経済史入門』（第 2 版）名古屋大学出版会、2020 年、￥ 2,700+税
※初版（2010 年）も使用可
参考図書
奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010 年、￥ 2,500+税
飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社、2005 年、￥ 2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

ECN100TF

経済史 B

教科担当責任者：**牧野　文夫**

担当者：**牧野 文夫**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012 年、￥ 2,700+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives　Understanding Japanese economic developement in historical perspective.

MAN100TF

簿記Ⅰ

教科担当責任者：**筒井　知彦**

担当者：**筒井 知彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定３級と同じです。したがって、簿記検定３級レベルの理解ができることを目標としています。

2　科目の概要　簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『簿記Ⅰ』第３版、永野則雄、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（１回目）、②１つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（２回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（３回目）、④リポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからリポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives　Accounting is often referred to as the language of business.Bookkeeping in an entry subject of accounting.
In this course you will learn about the recording of business transactions,the ledger system and trial balance,using double entry bookkeeping.

MAN100TF

簿記Ⅱ

教科担当責任者：**筒井　知彦**

担当者：**筒井 知彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定３級と同じです。したがって、簿記検定３級レベルの理解ができることを目標としています。

2　科目の概要　簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『簿記Ⅱ』第３版、永野則雄、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（１回目）、②１つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（２回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（３回目）、④リポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからリポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives　Accounting is often referred to as the language of business.Bookkeeping in an entry subject of accounting.
In this course you will learn about the recording of business transactions,the ledger system and trial balance,using double entry bookkeeping.

ECN200TF

財政学 A

教科担当責任者：**廣川　みどり**

担当者：**島澤 諭、廣川 みどり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日本財政の現状を把握し、今後どうあるべきかについて考えるための基礎的な知識と論理的思考力を身につけることが目標になります。

2　科目の概要　財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。
財政学 A では特に、(1) 経済活動における政府の役割の理解、(2) 日本の財政制度や財政問題の把握、(3) 政府支出や租税の理論の習得、の３点が中心になります。指定テキストの第１章から第５章までが習得範囲ということになります。

3　成績評価基準　単位修得試験の結果が成績になります。(1) 基本用語を把握すること、(2) 論理的な流れを理解すること、(3) 各章末問題を解くこと、(4) 参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5) 自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、図書館やネットを利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

4　テキスト名および詳細　テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：
テキスト：指定市販本　林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース財政学　第 4 版』新世社、2019 年、2,695 円 (本体： 2,450 円＋税)（第 3 版の利用も可としますが、データ等については参考書やネット上の資料を参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）
※【スタディガイド（学習指導書)】あり
参考書：
・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。
・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。
ホームページ上の情報（それぞれ以下の URL より最新版を参照のこと）
・日本の財政関係資料： https://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/index.html
・財政投融資リポート： https://www.mof.go.jp/filp/publication/filp_report/index.html
テキストは 10 章からなります。財政学 A では、その第 1 章から第 5 章までの内容を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習については以下の形で進めて下さい：
(1) ノートを用意してください。
(2) テキストを開く前に、自分がいま「政府の経済活動」についてどのような知識を持っているか、ノートの第一頁に書いて下さい。単語だけ（消費税とか年金など）でもいいし、自分なりの意見でもかまいません。
(3) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞や TV のニュースにも敏感になってください。
(4) 理論的な部分についてはミクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
(5) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
(6) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
(7) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。教科書やネット情報の丸写しでなく、自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives　This course provides students with understanding current status of Japanese national finances, obtaining basic knowledge and thinking logically the role of government in the economy.

ECN200TF

財政学 B

教科担当責任者：**廣川　みどり**

担当者：**島澤 諭、廣川 みどり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　財政学 A の知識を前提としたうえで、税制の問題、社会保障問題、マクロ経済政策、地方財政問題等の、政府が実施している様々な政策を経済学を用いて検証していくことで、現実の経済を見る目を養います。

2　科目の概要　財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。
財政学 B では特に、(1) 日本の税制と税制改革、(2) 社会保障の財政問題、(3) マクロ経済政策、(4) 地方財政の 4 点が中心になります。指定テキストの第 6 章から第 10 章までが習得範囲ということになります。

3　成績評価基準　単位修得試験の結果が成績になります。(1) 基本用語を把握すること、(2) 論理的な流れを理解すること、(3) 各章末問題を解くこと、(4) 参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5) 自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

4　テキスト名および詳細　テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：
テキスト：指定市販本　林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース財政学　第 4 版』新世社、2019 年、2,695 円 (本体： 2,450 円＋税)（第 3 版の利用も可としますが、データ等については参考書やネット上の資料を参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）
※【スタディガイド（学習指導書)】あり
参考書：
・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。
・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。
ホームページ上の情報（それぞれ以下の URL より最新版を参照のこと）
・日本の財政関係資料： https://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/panfindex.html
・財政投融資リポート： https://www.mof.go.jp/filp/publication/filp_report/index.html
テキストは 10 章からなります。財政学 B では、その第 6 章から第 10 章までの内容を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習については以下の形で進めて下さい：
(1) 財政学 A の知識を前提としています。復習を行ってから取り組んで下さい。
(2) ノートを用意してください。
(3) 財政学 B で何を学んだかを考えて、それをノートの第一頁に書いて下さい。
(4) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞や TV のニュースにも敏感になってください。
(5) 理論的な部分についてはミクロ経済学やマクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
(6) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
(7) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。教科書やネット情報の丸写しでなく、自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives　Based on the knowledge of public finance A, this course provides students with understanding the roles of various policies, such as taxation, social security, macroeconomic policy, local government finance.

ECN200TF

金融論 A

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　金融論 A の課題は、現代経済の金融化現象を把握するために金融取引の本質、基礎理論、制度、歴史を理解することである。学習を通じて基本的な金融の考え方を習得できることが期待される。

2　科目の概要　金融取引とは、大きく言えば資金余剰主体から資金不足主体への資金の貸借のことを言うが、金融論はその金融取引の理論、制度、歴史、政策、国際的側面などを扱う。金融論 A では、金融取引の本質から始めて、その基礎理論、制度、歴史などを扱う。テキストでは、第１章から第５章までがその対象となる。とはいえ、金融論 B が扱う分野とも内容が重複する部分もあるので金融論 B もあわせて受講することが望ましい。

3　成績評価基準　単位修得試験で金融論の基礎が理解できていることを評価するが、リポート課題についてもしっかり取り組むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清『金融論をつかむ』有斐閣、2006 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　現代では経済の金融化現象が著しく、日々のニュースでは金融に関わる出来事が多く報道されている。テキストを利用した金融に関わる基礎的な理論や制度の学習を基にニュースでの報道について自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives　The purpose of Financial Theory A is to understand the nature, basic theory, system, and history of financial transactions in order to comprehend the financialization of the modern economy. It is expected that students will be able to acquire basic financial ideas through learning.

ECN200TF

金融論 B

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　金融論 B の課題は、現代経済の金融化現象を把握するために金融論 A で得た金融に関する知識を前提として金融規制、金融政策、金融の国際的側面などを理解することである。学習を通じて金融政策の仕組みや国際金融の考え方などを習得できることが期待される。

2　科目の概要　金融取引とは、大きく言えば資金余剰主体から資金不足主体への資金の貸借のことを言うが、金融論はその金融取引の理論、制度、歴史、政策、国際的側面などを扱う。金融論 B では、金融規制や監督、金融政策、国際金融などを扱う。テキストでは、第６章から第９章までがその対象となる。とはいえ、金融論 A が扱う分野とも内容が重複する部分もあるので金融論 B もあわせて受講することが望ましい。

3　成績評価基準　単位修得試験で金融論の基礎が理解できていることを評価するが、リポート課題についてもしっかり取り組むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清『金融論をつかむ』有斐閣、2006 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　現代では経済の金融化現象が著しく、日々のニュースでは金融に関わる出来事が多く報道されている。テキストを利用した金融に関わる基礎的な理論や制度の学習を基にニュースでの報道について自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives　The purpose of Financial Theory B is to understand financial regulation, monetary policy, international aspects of finance, etc., based on the knowledge of finance obtained in Financial Theory A. This will provide a deeper understanding of the financialization of modern economy. Through learning, it is expected to learn about monetary policy mechanisms and international financial thinking.

ECN300TF

経済政策論 A

教科担当責任者：**小黒　一正**

担当者：**小黒 一正、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアンの理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論Ａ」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房、麻生良文著、2009 年、¥ 3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色彩を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
マンキュー『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社（入門用）
マンキュー『マクロ経済学　I・II』東洋経済新報社（中級）
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ
スティグリッツ『スティグリッツ　マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives　The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.
This will also help you to predict the effects of economic policy at a much deeper level.

ECN300TF

経済政策論 B

教科担当責任者：**濱秋　純哉**

担当者：**濱秋 純哉、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論Ｂ」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林　正義・小川　光・別所俊一郎、2010 年、¥ 2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）
麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）
井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）
井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives　① Understanding the role of government and the role of the market mechanism. ② Understanding the public goods provision and how to solve externalities. ③ Understanding the burden of taxation and public bonds as well as the effect of fiscal policy.

MAN100TF

経営学総論Ⅰ

教科担当責任者：**佐野　哲**

担当者：**佐野 哲**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。
「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2　科目の概要　経営学総論Ⅰでは、①経営戦略（競争優位を築く基本戦略と業界分析手法）、②広告・マーケティング（マーケット及び製品特性の分析と広告・流通戦略）、③ビジネス思考と交渉の理論（ロジカルシンキング及び営業交渉ノウハウの理論と実際）、の３テーマを取り上げます。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グロービスＭＢＡマネジメントブック（改訂３版）』（ダイヤモンド社、2008 年、￥ 2,800+税）の第１部「経営戦略」、第２部「マーケティング」、第７部「ゲーム理論・交渉術」を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives　This is an introductory course to the study of management in firms. The main objectives of the course are:
・understand the fundamentals of strategic management;
・understand the fundamentals of marketing management;
・understand the fundamentals of critical Thinking;

MAN100TF

経営学総論Ⅱ

教科担当責任者：**佐野　哲**

担当者：**佐野 哲**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2　科目の概要　経営学総論Ⅱでは、①会計・アカウンティング（財務諸表の構造と読み方及び経営分析手法）、②投資・ファイナンス（企業の資金調達と投資意思決定に関する理論）、③人材・組織マネジメント（リーダーシップやモチベーションに関する理論と組織設計のあり方）、の３テーマを取り上げます。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グロービスＭＢＡマネジメント・ブック（改訂３版）』（ダイヤモンド社、2008 年、￥2,800+税）の第３部「アカウンティング」、第４部「ファイナンス」、第５部「人・組織」を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives　This is an introductory course to the study of management in firms. The main objectives of the course are:
・understand the fundamentals of accounting management;
・understand the fundamentals of corporate finance;
・understand the fundamentals of human resource management;

MAN200TF

簿記Ⅲ

教科担当責任者：**神谷　健司**

担当者：**神谷 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日商簿記検定試験２級（商業簿記）の範囲についての内容を理解して、実際にさまざまな取引の会計処理等ができるようになることが、この科目の到達目標です。実際に日商簿記２級（商業簿記）の過去問題を解くことによって、この目標が達成されているかどうかわかると思います。

2　科目の概要　日商簿記３級程度の知識がある方を対象に、日商簿記２級（商業簿記）レベルの内容を学習します。
テキストに即して学習を進めますが、テキストは全 15 章から構成されています。主な内容は、財務諸表の作成、特殊商品売買、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、社債の会計、引当金の会計、純資産の会計、本支店会計、特殊仕訳帳等です。１章ずつ学習を進め、各章の学習が終了したら章末問題を解いて、理解度を確かめて下さい。すべての学習が終了したらリポートを作成することになります。リポートはテキストの幅広い範囲に渡って問題が出題されています。なお平成 29 年６月からの日商２級試験範囲に入る「外貨建取引」「リース取引」「課税所得の計算」「圧縮記帳」「連結会計の基礎」についてはテキストでは解説していません。この部分については下記に示した参考書等で補ってください。また為替手形取引が３級の出題範囲から除外され、簿記Ⅰ・簿記Ⅱの通教テキスト改訂時（2017 年）にそれについては削除されました。この部分についてはこちらのテキストでは触れていませんので、別書で補っていただきたいと思います。以上の点については簿記Ⅲのテキストを今後改訂する際に付け加えたいと思います。

3　成績評価基準　最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

4　テキスト名および詳細　テキストは、通教テキスト　神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ』第 1 版、2013 年です。参考書として『検定簿記講義（２級商業簿記)』中央経済社と『合格テキスト（２級商業簿記)』TAC 出版、桑原知之『サクッとうかる日商簿記２級（商業簿記)』、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社をあげておきます。問題集としては各社から出されている過去問の問題集や『合格トレーニング（２級商業簿記)』TAC 出版や『検定簿記２級（商業簿記）トレーニング』中央経済社等が入手容易だと思います。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記の学習は単にテキストを読むだけでなく、実際に記帳したり、問題を解くことが必要です。テキストを順番に読み進め、例題などを実際に解くことが必要です。

MAN200TF

簿記Ⅳ

教科担当責任者：**神谷　健司**

担当者：**市川 佳功、神谷 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日商簿記２級程度の学習を修了された学生を対象に、日商簿記１級（商業簿記）程度の簿記会計処理を習得することがこの科目の到達目標です。

2　科目の概要　すでに日商簿記２級まで学習されている方を対象に、さらに日商簿記１級（商業簿記）レベルの内容をこの科目では学習します。ただし２単位の科目であり、テキストの紙幅の関係上、特殊商品販売については範囲から外し、また連結会計の部分については基本的な事項の説明にとどめております。
　テキストは 15 章構成です。内容は有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、為替予約の会計処理、固定資産の会計、退職給付会計、税効果会計、組織再編の会計等について学習を進めます。2016 年 4 月のテキスト改訂にあたって、連結会計の部分を削除しました。2 単位ということと、テキストのボリュームを考えてのことです。

3　成績評価基準　最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

4　テキスト名および詳細　テキストは通教テキスト　神谷健司・市川佳功『簿記Ⅳ』第 2 版、2016 年です。参考書として、『合格テキスト（１級商業簿記・会計学）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』TAC 出版をあげておきます。具体的会計処理の裏づけとなる会計理論については、桜井久勝『財務会計講義（最新版)』中央経済社、等を参考にしてください。問題集としては日商簿記１級試験の過去問題や各種１級テキストに対応している問題集を利用してください。なお連結会計については、『財務会計講義』の該当箇所で連結会計に基本的な考えを学び、さらに連結会計の基本書、たとえば斎藤真哉編『ニューベーシック連結会計』中央経済社、2013 年のようなものを学ぶことによって連結会計の基本を習得できるかと思います。なお単位修得試験においては連結会計の部分は出題しません。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
簿記の学習はテキストに従って記帳処理の練習をしたり、総合問題を解くことが必要です。数多くの問題を解くことによって理解を深めてください。

ECN300TF

日本経済論 A

教科担当責任者：**長原　豊**

担当者：**長原 豊**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日本経済の「史的展開」とその「理論」的な理解（日本経済論Ｂの基礎理論）

2　科目の概要　1　明治期から戦間期における日本資本主義の形成過程を跡づけることを課題とする。
2　その際、第一に支配的な資本蓄積様式における変化をつねに意識した理解を求める。また第二に、したがって、それぞれの蓄積様式に即した政策展開を具体的に理解できるような視点を確立する。
3　戦前期における蓄積様式と戦後期におけるそれとの連続性と断続性が理解できるような視点を確立する。したがって「現状分析」がつねに意識されている。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価する（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 三和良一『概説　日本経済史　近現代』東京大学出版局、第 3 版、2012 年、2,500 円＋税。
【参考文献】
三橋規宏／内田茂男／池田吉紀『新・日本経済入門』日本経済新聞出版社、1 版 3 刷、2018 年、3,000 円＋税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかり読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記二書から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives　Our class is to aim at historical as well as theoretical understanding of Japanese Economy.

ECN300TF

日本経済論 B

教科担当責任者：**長原　豊**

担当者：**長原 豊**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　戦後日本資本主義の展開を俯瞰的に把握すること。

2　科目の概要　1　敗戦後における経済システムを史的に把握すること。
2　1の過程を政治経済過程として理解する視点を獲得すること。
3　いわゆる「失われた 20 年」に到る過程の必然性を理解すること。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価する（ただし、リポート学習もしっかり行うこと）。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 三橋規宏／内田茂男／池田吉紀『新・日本経済入門』日本経済新聞出版社、1 版 3 刷、2018 年、3,000 円＋税。
【参考文献】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』東京大学出版局、第 3 版、2012 年、2,500 円＋税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかり読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記二書から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives　Our class is to aim at grasping the development of the postwar Japanese Economy.

MAN300TF

財務会計論Ⅰ

教科担当責任者：**川島　健司**

担当者：**川島 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に収めながら、体系的に学習することを目標とします。

2　科目の概要　財務会計論では会計基準について学習します。会計ビッグバン以降、企業の実態をよりいっそう的確に描写した透明度の高い財務諸表の作成と公表を促進するため、会計基準が続々と新設・改訂されてきています。この会計基準の改定作業は、国際会計基準とのコンバージェンスを進める過程で加速されてきました。
本科目では、既存の会計基準とともに、新設・改訂されてきた会計基準についても学習することにより、現段階における日本の会計基準を包括的に理解することを目標としています。
財務会計論Ⅰでは財務会計の概念や構造を学び、基礎固めをしたうえで、いわゆる各論を学習します。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『財務会計講義』桜井久勝, 中央経済社, 2021 年 4 月時点の最新版。毎年 3 月には改訂版が出版されており、2021 年 3 月に改訂版が出版される可能性があります。最新版を入手してください。財務会計論Ⅰの範囲はテキストの第 1 章「財務会計の機能と制度」から第 9 章「無形固定資産と繰延資産」までとなります。
財務会計論Ⅰでは全体の範囲をテキストをほぼ二分したうちの前半となります。財務会計の機能と制度を概観したうえで、利益計算の仕組みについて簿記の構造を含めて学習します。つづいて企業会計原則の全体について俯瞰し、利益計算と資産評価の概念について学びます。それを踏まえて各論に移ります。有価証券の評価、デリバティブ、キャッシュフロー計算書、収益認識基準、棚卸資産の原価配分、固定資産の減価償却および減損、リース会計、無形固定資産、繰延資産までが財務会計論Ⅰで取り上げるトピックとなります。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは財務会計の教科書として定評のあるベストセラーであり、大学学部はもとより資格試験やビジネスマンにも多く利用されています。テキストは平易な文章で記述され、必要十分な設例がもうけられており、通信教育課程の自習書として最適であると思います。本文で 400 ページ強ありますが、分量としては標準的であり、これよりページ数を減らすと、必要な記述がカットされてしまいます。このテキストを財務会計論ⅠとⅡで学習することになりますので、それぞれ 200 ページ強となります。
　リポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、御自身の意見を述べてください。参考文献やインターネットで「正解」に近いものを探すのはやめてください。

MAN300TF

財務会計論Ⅱ

教科担当責任者：**川島　健司**

担当者：**川島 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に収めながら、体系的に学習することを目標とします。

2　科目の概要　財務会計論では会計基準について学習します。企業の実態を的確に描写した透明度の高い財務諸表の作成と公表を促進するため、会計基準は常に新設・改訂されています。この会計基準の改定作業は、国際財務報告基準とのコンバージェンスを進める過程で加速されてきました。本科目では、既存の会計基準とともに、新設・改訂されてきた会計基準についても学習することにより、現段階における日本の会計基準を包括的に理解することを目標としています。
財務会計論Ⅱでは、負債の会計、資本および純資産の会計、財務諸表の作成と公開、連結財務諸表の作成、外貨建取引の会計など、財務会計の各論を学習します。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『財務会計講義』桜井久勝, 中央経済社, 2021 年 4 月時点の最新版。毎年 3 月には改訂版が出版されており、2021 年 3 月に改訂版が出版される可能性があります。最新版を入手してください。
財務会計論Ⅱでは全体の範囲をテキストをほぼ二分したうちの後半となります。第 10 章「負債」では引当金、税効果会計、退職給付会計、資産除去債務、第 11 章「株主資本と純資産」では、純資産の構成、資本剰余金、合併、株式交換と株式移転、会社の分割、配当制限、第 12 章「財務諸表の作成と公開」では、包括利益、注記（継続企業の前提に関する注記など）、四半期財務諸表、第 13 章「連結財務諸表」では、連結の範囲、連結貸借対照表の作成手続、連結損益計算書の作成手続、連結株主資本等変動計算書、持分法、連結キャッシュフロー計算書、セグメント情報、第 14 章「外貨建取引等の換算」では、換算方法、外貨建取引の換算、為替予約などを学習します。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは平易な文章で記述され、必要十分な設例がもうけられており、通信教育課程の自習書として最適であると思います。本文で 400 ページ強ありますが、分量としては標準的であり、これよりページ数を減らすと、必要な記述がカットされてしまいます。このテキストを財務会計論ⅠとⅡで学習することになりますので、それぞれ 200 ページ強となります。リポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、ご自身の意見を述べてください。

MAN300TF

原価計算論Ⅰ

教科担当責任者：**福田　淳児**

担当者：**福田 淳児**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要となる基礎的な諸概念および幾つかの重要な専門用語を理解し，自分なりの言葉で簡潔に説明できることを目標とします。さらに，この授業では，原価計算の一連の手続き（費目別原価計算，部門別原価計算，製品別原価計算）を理解し、基本的な計算プロセスが説明できること、さらに原価計算プロセスに関する基本的な計算問題を自分で解けることを目標としています。

2　科目の概要　原価計算論Ⅰでは、テキストならびに参考文献を利用し、原価計算論の学習を進めていく上で必要とされる基本的な概念及び重要な専門用語の解説を行ないます。今後，原価計算の学習を進めて行く上で頻繁に皆さんが利用する用語や概念ですので，しっかりと理解してください。その上で、原価計算の一連の計算手続きについて、費目別原価計算，部門別原価計算および製品別原価計算（個別原価計算・総合原価計算）の順でそのメカニズムの説明および手続きの理論的な根拠についての解説を行っています。テキストで示したような一連の手続きの意味またそれらの手続きがなぜ必要となるのかについてもじっくりと考えながら読み進めるようにしてください。特に、一つの手続きに対して，いくつかの処理方法が選択可能なケースがあります。その場合には、それぞれの選択肢のメリットとデメリットを説明していきます。原価計算論Ⅰでは、主に以下の項目について学習します。

１. 原価計算の意義と目的：原価計算を行う意義および『原価計算基準』に基づいて原価計算の５つの目的について学習します。
２. 原価の本質と分類：原価とは何か，また原価を形態別，製品との関連性および操業度との関連性で分類した場合のそれぞれの原価の特徴について学習します。
３. 原価計算の手続と種類：原価計算の一連の手順である費目別原価計算，部門別原価計算，製品別原価計算について簡単に紹介します。また，原価計算の種類についても簡単に説明します。
４. 費目別原価計算：直接材料費、直接労務費、直接経費および製造間接費についてそれぞれの具体的な分類とその特徴及びその計算方法について学習します。
５. 部門別原価計算：原価の部門別計算が行われる理由およびその計算手続きについて学習します。部門の設定方法，さらに補助部門費の製造部門への配賦に関わる複数の計算方法についても学習します。
６. 製品別原価計算（個別原価計算）：受注生産形態の工場で利用される個別原価計算についてその特徴および計算手続きについて学習します。
７. 製品別原価計算（総合原価計算）：見込み生産形態の工場で利用される総合原価計算についてその特徴，種類ならびに計算手続きについて学習します。個別原価計算との対比でも理解するようにしてください。また，計算問題もしっかりと解けるようにしてください。

受講者は、各項目について、テキストや参考文献の説明を単に読むだけではなく、それらの文献に示されている例題を必ず解いて理解を確認しながら学習を進めていってください。

3　成績評価基準　原価計算論Ⅰの学習範囲から出題された単位修得試験に基づいて評価を行ないます。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ　原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、￥2,400+税）の第 1 章から第 11 章まで。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの指定範囲の全部，また指定された参考文献については必ず熟読してください。さらに、各章の例題を自分で解いてみてください。例題が解けない場合には、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組んでみると良いと思います。原価計算の役立ち及びその計算プロセスを理解するために、ひとつひとつの内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、リポートの作成にあたっては、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉を使ってまとめてください。その際に，なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを考え，リポートに明示してください。引用を行う場合には，必要最低限度の分量にとどめ，きちんと引用箇所を明記してください。引用の前後を「」でくくり，どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも，自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述をする場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはリポートの末尾に必ずつけて下さい。

講評に基づいて、リポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを補足・修正するのではなく、もう一度全体の文章もきちんと見直し、全体として意味の通るリポートにしてください。

Outline and objectives　The learning objectives of this module are to let students understand the basic concepts and some important terms and they can explain these by yourself.　It also includes enhancement of your understandings on a series of procedures of cost accounting (cost-type accounting, cost center accounting, product cost accounting) and helps students to explain the basic calculation processes of cost accounting. In addition to this, it enhances the development of students' skill to solve basic numerical calculations.

MAN300TF

原価計算論Ⅱ

教科担当責任者：**福田　淳児**

担当者：**福田 淳児**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　原価計算論Ⅱでは，原価管理や短期利益計画の設定といった経営管理目的のために原価計算システムが提供する会計情報がどのように役立つのかを理解することを目標とします。具体的には、標準原価による狭義の原価管理目的への役立ち，また短期利益計画に対する直接原価計算や CVP 分析の役立ちについて理解することを目標としています。

さらに、原価計算論Ⅱでは，新しい製造間接費の配賦方法として提唱された Activity-Based Costing(活動基準原価計算，ABC)についても学習をします。伝統的な製造間接費の配賦方法の問題点がなぜ今日の製造環境のもとで顕在化したのか，それに対して新たに提唱された ABC の内容を、伝統的な製造間接費の配賦との対比で明確に説明できることを目標とします。

2　科目の概要　原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが提供する原価情報が経営管理目的にどのように役に立っているのかを学習します。さらに，近年における原価計算の発展、およびその背後にある企業を取り巻く製造環境の変化についても学習します。具体的には以下の項目について学習します。

1．標準原価計算：標準原価計算の意義及びその目的を明らかにした後，原価標準の設定方法ならびに標準原価と実際発生原価との差異の認識及びその分析方法について学習します。製造間接費の差異分析方法についてはいくつかの方法が提唱されていますので，それぞれを理解するようにしてください。また，現在の製造環境のもとでの標準原価の原価管理目的へ役立ちについても検討します。

2．直接原価計算：直接原価計算の意義を明らかにした後に，全部原価計算との対比で直接原価計算の特徴を説明します。その後，両者の方式で作成した損益計算書での営業利益にどのような差異が見られるか，またその差異がどのような状況で，またなぜ生じるのかについて詳しく検討します。さらに，それらが経営上の意思決定にどのような効果をもたらす可能性があるかについても検討します。

3.CVP 分析：短期利益計画を設定する上で有用な情報を提供する技法として，原価，営業量，利益の関係を分析する CVP 分析を学習します。損益分岐点での売上高，またある一定の目標営業利益（率）を達成するために必要とされる売上高の大きさなどを計算できるようにします。

4.Activity-Based Costing（活動原価計算）：1980 年代における企業を取り巻く製造環境の変化が製造原価の構成や製造間接費の中身に大きな変化をもたらしたこと，それによって伝統的な製造間接費の配賦方法がその時代に許容できなくなってきたことから ABC がアメリカの研究者による実務の観察を通じて紹介されたことを明らかにします。その後，ABC の具体的な計算手続きを伝統的な製造間接費の配賦方法との比較によって明らかにするとともに，近年 ABC に対する批判に応えるために提唱された TDABC を紹介します。

経営管理目的に有用な原価計算について、それぞれの原価計算手法の持つ意味、またその役立ちについてしっかりと理解してください。さらに、そのような原価手法がどのような製造環境の求めに応じて登場し普及したのか，さらに製造環境の変化のもとでどのような影響を受けてきたかも理解できるようにしてください。

3　成績評価基準　原価計算論Ⅱの範囲から出題された単位修得試験の結果に基づいて評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ　原価計算を学ぶ』中央経済社（2016 年、￥2,400+税）の第 12 章から第 15 章まで。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの指定範囲の全部，また指定された参考文献については必ず熟読してください。さらに、各章の例題を自分なりに解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組んでみてください。原価計算の役立ちを理解するために、ひとつひとつの内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、リポートの作成にあたっては、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉を使ってまとめてみてください。その際に，なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを考え，リポートに明示してください。引用を行う場合には，必要最低限度にとどめ，きちんと引用箇所を明記してください。引用の前後を「」でくくり，どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも，自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述をする場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはリポートの末尾に必ずつけて下さい。

講評に基づいて、リポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを補足・修正するのではなく、もう一度全体の文章もきちんと見直し、全体として意味の通るリポートにしてください。

Outline and objectives　The purposes of this module are to develop students' understanding on what roles cost information provided through a cost accounting system play in implementing cost control and short-term profit planning in an organization.It also explain the way activity-based costing, proposed in 1980s based on the observation of practices in the U.S.A, allocated indirect cost to products and the effects of ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

MAN300TF

管理会計論Ⅰ

教科担当責任者：**北田　皓嗣**

担当者：**北田 智久**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2　科目の概要　会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

3　成績評価基準　管理会計論Ⅰ／Ⅱでは記述を中心としたリポート課題と、計算問題の２つの課題を出題しています。両方の課題が合格水準に達することが求められます。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『管理会計論』第２版、佐藤康男、2003 年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。
　リポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。リポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。

Outline and objectives　Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

MAN300TF

管理会計論Ⅱ

教科担当責任者：**北田　皓嗣**

担当者：**北田 智久**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2　科目の概要　会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

3　成績評価基準　管理会計論Ⅰ／Ⅱでは記述を中心としたリポート課題と、計算問題の２つの課題を出題しています。両方の課題が合格水準に達することが求められます。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『管理会計論』第２版、佐藤康男、2003 年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。
　リポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。リポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。

Outline and objectives　Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

ECN300TF

国際金融論Ⅰ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本 → 通教テキスト）変更

1　学習の到達目標　国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象をとらえるための基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。まず、外国為替、外国為替相場、国際収支など国際金融の基礎概念を修得し、次に外国為替相場の決定理論と国際収支の決定理論、デリバティブなどについて理解を進める。こうした概念と理論の修得を通じて、現在進行している金融グローバル化現象の背後にある基本的なメカニズムの理解を目標とする。

2　科目の概要　国際金融論が扱う外国為替相場や国際収支の問題は、日々のニュースで頻繁に伝えられ、議論されている。そして、その意味するところを知ることなしには今日のグローバル化した社会を理解することは出来ないと言ってよいほどである。しかし、国際金融現象は年々複雑化してきている。国際金融論Ⅰでは、現代の国際金融の問題を考えるにあたって、その概念と基礎理論を学ぶことによって現実の問題を深く理解しようとするものである。具体的には、外国為替の概念、外国為替相場、外国為替市場、国際収支の概念を理解し、それを前提として外国為替相場や国際収支の決定に関する理論を学ぶ。テキストでは主に第１章～第７章がこの分野に相当する。ただし、テキストはあくまで入門レベルのものであるので、設題に対する解答などより深く国際金融を理解するためには参考文献を利用した学習が不可欠となる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　横内正雄『国際金融論Ⅰ』第 1 版、2020 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　国際金融論Ⅰにおける基礎的な理論の修得には金融論の理解が不可欠である。また、マクロ経済的な知識や国際経済に関する知識も同様に必要とされる。そのため、国際金融に関する理論のみの修得を目指すのではなく、広くマクロ経済、金融、国際経済の理論の修得もあわせて行うことが望ましい。他の社会科学と同様に国際金融論でも論理的な思考が不可欠である。経済現象には理論によって説明される論理必然的な因果関係が存在すると言ってもよい。例えば、金利の上昇がなぜ円高をもたらすのかと考えるとき、その背後における理論から導き出される論理的な帰結を考える必要がある。このような理論的な連鎖の関係を理解することが重要であり、学習する上で常に論理的に考えることが求められる。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

ECN300TF

国際金融論Ⅱ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　国際金融論Ⅱは、国際金融論Ⅰで修得した基礎的な概念と理論を前提として、現実の国際金融に関わる現象を解読していくことを課題とする。まず、国際金融の歴史をたどり、国際通貨体制や国際通貨がいかに変遷してきたのかを学ぶ。次に、国際金融の場面で現実に生じつつある金融危機、通貨危機、通貨統合などの問題を考察する。こうした作業を通じて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することを目標とする。

2　科目の概要　国際金融論が扱う国際通貨体制や通貨金融危機の問題は、日々のニュースで頻繁に伝えられ、議論されている。そして、その意味するところを知ることなしには今日のグローバル化した社会を理解することは出来ないと言ってよいほどである。しかし、国際金融現象は年々複雑化してきている。国際金融論Ⅱでは、現代の国際金融の問題を考えるにあたって、その歴史から掘り起こし、大きな流れの中で国際金融の問題がいかに変遷してきたのかを捉えることによって、現実の問題を深く理解しようとするものである。具体的には、第一次大戦前の国際金本位制、第二次大戦後のブレトンウッズ体制、EU 通貨統合、円の国際化、通貨金融危機、グローバルインバランスなどの問題を扱う。テキストでは、主に第８章以降がこの分野に相当する。ただし、テキストはあくまで入門レベルのものであるので、設題に対する解答などより深く国際金融を理解するためには参考文献を利用した学習が不可欠となる。また、日々の国際金融に関するニュースとその解説に関心を持つことも、最新の国際金融の問題を理解する上で欠かせないものである。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『国際金融のしくみ』第４版（有斐閣アルマ）、有斐閣、秦　忠夫・本田敬吉・西村陽造著、2012 年、￥ 2,000 ＋税
上記のテキストが入手できない場合は、以下のテキストを代替テキストとする。
『新・国際金融のしくみ』（有斐閣アルマ）西村陽造・佐久間浩司著、有斐閣、2020 年、￥2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰにおける基礎的な理論が修得できていることが必要となる。また、マクロ経済的な知識や国際経済に関する知識も同様に必要とされる。そのため、国際金融の歴史や制度に関する知識の習得に専念するのではなく、幅広く国際金融の現象を考えることが肝要である。また、他の社会科学と同様に国際金融論でも論理的な思考が不可欠である。経済現象には理論によって説明される論理必然的な因果関係が存在すると言ってもよい。例えば、金利の上昇がなぜ円高をもたらすのかと考えるとき、その背後における理論から導き出される論理的な帰結を考える必要がある。このような理論的な連鎖の関係を理解することが重要であり、学習する上で常に論理的に考えることが求められる。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to understand the actual events related to international finance based on the basic concepts and theories acquired

in International Finance I. First, we follow the history of international finance and learn about the transition of the international monetary system. Next, we consider issues such as financial crises, currency crises, and currency integration etc.

LAW300TF

憲法

教科担当責任者：**建石　真公子**

担当者：**建石 真公子、土屋 仁美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特色を理解する
日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する
日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する

2　科目の概要　この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約 190 カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　・指定市販本『現代日本の憲法［第 2 版］』、法律文化社、元山　健・建石真公子編、2016 年、￥2,800+税
※初版（2009 年）も使用可
【参考文献】
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第 7 版』有斐閣、2019 年
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第 7 版』有斐閣、2019 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解する、というのが基本である。

まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。
憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives　Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution.
Understand the definition of human rights protected by the

Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection.
Understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution

LAW300TF

民法一部（総則・物権法）

教科担当責任者：**大澤　彩**

担当者：**大久保 慎太郎、大澤 彩**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　契約、物、家族といった私達の生活の基本的なルールを定めている民法のうち、民法全体に共通するルールからなる「民法総則」部分、および、物についての規範である「物権」部分を中心に、基本的な内容を理解することを目標とする。

2　科目の概要　民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられている。経済活動のあり方を考える上では、法律による取引活動の規律がいかなるものであるかを学ぶ必要があるが、その際に民法を学ぶことは非常に重要である。本科目では民法のうち、民法全体に共通する規範である「民法総則」および物権に関する規範である「物権法」を学習する。具体的には、民法総則では、通則、権利の主体・客体、法律行為、時効制度などについて、物権では、所有権等の各種物権や担保物権などについての理解を深める。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　『リーガルベイシス民法入門』第 3 版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2019 年、￥ 4,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。民法を勉強する上で、とりわけ民法全体に共通するルールである民法総則の知識は不可欠であるが、民法総則の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（総則・物権）』『民法判例百選』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。また、判例の原文も読むこと（最高裁判所ＨＰや本学図書館ＨＰに掲載されている法律情報データベースでアクセスできる）。
　なお、総則の一部は改正がなされた。審議経過や改正法等につき、法務省の HP で確認すること。また、改正法に関する主な書籍として以下のものがある（いずれも改訂される可能性があることから、新学期時点での最新版を参照すること）。
潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017 年、￥ 3,200 ＋税
山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017 年、￥ 1,200 ＋税
大村敦志・道垣内弘人編『解説　民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017 年、￥ 3,200 ＋税
潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正』弘文堂、2017 年、

￥ 3,300 ＋税
潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018 年、￥ 6,500 ＋税

Outline and objectives We learn Civil law, especially this general rule et the rule of the property.

LAW300TF

民法二部（債権法）

教科担当責任者：**大澤　彩**

担当者：**明石 真昭、大澤 彩**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分について、基本的な内容を理解することを目標とする。

2　科目の概要　民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられているが、本科目では民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分を学習する。具体的には、債権の目的、効力、譲渡、消滅、さらには多数当事者の債権・債務について定める債権総論部分についてはもちろん、債権の発生原因として重要な契約、事務管理、不当利得、不法行為について学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『スタートライン債権法』（第 7 版）日本評論社、池田真朗著、2020 年、￥ 2,400+税
なお、上記指定市販本が新学期開始前に改訂された場合には、新学期開始時点での最新版を購入し、学習に用いること。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。しかし、民法の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（債権各論）』『民法判例集（債権総論・担保物権）』、『民法判例百選（債権）』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。判例は原文にあたること。最高裁判所の HP や本学図書館 HP から閲覧できる法律情報データベースからアクセスできる。

また、債権総論部分の条文には、債務不履行、相殺、債権譲渡など、直ちにはイメージがわかず、とっつきにくいものが多いので、まずは日常生活に身近であり、債権の発生原因として重要な契約、不法行為を最初に勉強することをおすすめする。

さらに、債権法については改正がなされた。審議経過や改正法など、法務省の HP を見て確認すること。また、改正に関する主な書籍には以下のものがある（いずれも今後改訂される可能性があることから、新学期開始時点での最新版を参考にすること）。

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017 年、￥ 3,200 ＋税
山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017 年、￥ 1,200 ＋税
大村敦志・道垣内弘人編『解説　民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017 年、￥ 3,200 ＋税
潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正』弘文堂、2017 年、￥ 3,300 ＋税
潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018 年、￥6,500 ＋税

Outline and objectives We learn the rule of the obligation and the contract in Civil law.

LAW300TF

商法総則・商行為法

教科担当責任者：**椽川　泰史**

担当者：**松谷 秀祐**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　企業組織・企業取引に関してわが国ではどのようなルール・仕組みが用意されているかについて基本的な知識を修得しており、それらルール・仕組みの概要を説明することができる。

2　科目の概要　本科目は、商法（明治 32 年法律 48 号）のうち、第 1 編総則（第 1 条から第 31 条）、第 2 編商行為（第 501 条から第 617 条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成 17 年法律第 86 号）第 1 編総則（第 1 条から第 24 条）のうち、商法第 1 編と同様の規定が置かれている部分についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記 3 編における重要な規定、および関連する重要判例について出題を行います。

3　成績評価基準　リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019 年、￥1900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　本科目の学習に際しては、以下の５点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

⑴　概念や法技術の「つながり」を意識しながら学習を進める。

商法は他の法分野と比較して、なじみが浅く興味が持ちにくいと考えられがちです。確かに、商法の中には、特有な意味を有する特殊な概念や法技術が多く用いられています。しかし、それらの概念や法技術は、当然、一定の目的を達成するために、商法の中に用いられているのです。そこで、テキストを通読する際には、商法上の概念や法技術はそれぞれどのような目的や狙いを持っているのか、それぞれの概念や法技術は相互にどのような関連性を有しているのかという点に留意しながら読み進めていってください。そうすれば学習を進めていくにつれて、理解も深まり、商法の学習に興味が持てるようになるでしょう。

⑵　テキストを自分だけの本に加工する。

ただ、漫然とテキストを読んでいるだけでは、情報が右から入って左から出ていくだけです。そこで、テキストを通読する際には、必ずペンなど筆記用具を持ちながら、読み進めていってください。

その際、たとえば、条文の内容など、重要そうな概念を説明した箇所には赤のアンダーラインを引く、条文の文言が曖昧なために、判例・学説上争いがある箇所（このような箇所を「論点」とも言います。）には青のアンダーラインを引く、一読して意味がよくわからなかった箇所には「？」マークを余白に鉛筆で書く、というように、テキストを自分だけの本に加工していってください。最初は「？」マークだらけ、あるいは１ページ読み進めるのに１日かかることもあるでしょうが（私も法律の勉強を始めたころにはそうでした。）、着実に一歩一歩、歩みを進めていってください。

⑶　常に傍らに六法、法律学小事典などを置いてテキストを通読する。

テキストを読み進める際に、条文が出てきたら六法で該当条文を調べる、また、意味がわからない用語が出てきたら、『法律

学小辞典』（有斐閣）などの法律学辞典を調べるというくせをつけるようにして下さい。ごくまれに、テキストに書いてある文章を丸写しして、該当条文も調べていない、自身で意味がよくわかっていない用語も調べていないリポートに出会いますが、そのような「手抜き」リポートは見た瞬間にわかります。一語一語、調べながら読み進めることは一見すると遠回りのようですが、実は、リポート合格、単位修得試験合格への一番の近道であるのです。

⑷　当事者の関係図などをメモにとりながらテキストを読み進める。

テキストを読んでいると、多数の当事者が出てくる事例にも遭遇します。たとえば、次のような事例があります。「X は A 会社に対する貸金債権の担保のため A 会社からアンゴラ毛糸を譲渡担保にとっていた。A 会社の倒産後、X はこれを換価処分しようとしたが、X は金融業者であり、自ら買主を探すことはできなかったので、A 会社の代表に毛糸の売却を依頼し、B はこれを Y に売却した。B は毛糸の売買の際、X のためにすることを示さず、また、Y 会社はその毛糸が A 会社より X に譲渡担保に供されていたことを知らなかった。X が Y 会社に代金を請求したところ、Y 会社は A 会社に対する反対債権と売買代金債務を相殺したと主張した（指定市販本 111 ページ以下）。」どうでしょうか。一読して、当事者関係および事案の流れを明確に把握できたでしょうか。テキストではこのような複雑な事例が多く出てきますので、そのような事例に遭遇した際には、頭の中だけで悩むのではなく、実際に当事者関係の図（例： X→A 会社代表 B→Y）や、時系列の図（例：譲渡担保 → 倒産 → 代理行為）を付箋やノートに書きながら読みすすめていってください。

⑸　商法総則・商行為法はそれ自体で完結した科目ではないことに注意する。

シラバス冒頭で商法総則・商行為法は企業の組織及および取引に関する科目であると説明しましたが、企業の組織および取引に関する規定の全てが商法・会社法に定められているわけではありません。

そのため、テキストを読み進める際、また、リポート作成の際、あるいは単位修得試験の対策の際には、他分野、特に、私人間の関係について広く一般的に規定した民法に関する知識が必要不可欠になります。

通学部あるいは通信教育部を問わず、受講生から、商法総則・商行為法の内容が難しい、理解できないという質問をよく受けるのですが、実はその悩みの主たる原因は、基本となる民法の知識及び思考方法が身についていないことである場合が多いと感じています。ですから、遠回りのように感じるかもしれませんが、まずは民法各科目のテキストあるいは、たとえば、野村豊弘『民事法入門〔第 8 版〕』（有斐閣、2019 年）などを通読し、民法の規定についてひととおり学習（復習）した上で、本科目の学習を始めると理解度が全く異なったものになるでしょう。

Outline and objectives　1．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生

2．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TF

会社法

教科担当責任者：**柴田　和史**

担当者：**笹久保 徹**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。

①　株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。

②　上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2　科目の概要　株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005 年（平成 17 年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899 年（明治 32 年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法○○条ではなく、商法○○条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行なわなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るところの金銭を「配当」という。わが国には、約 250 万社の株式会社が存在し、その中の約 4000 社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律ということができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

3　成績評価基準　最終評価は単位修得試験で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『会社法詳解〔第 3 版〕』柴田和史、商事法務、2021 年（予定）

※第 2 版（2015 年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史著『会社法詳解』（商事法務））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法 (日経文庫)』（日本経済新聞出版社）を見てほしい。

①　会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶに際しては、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。
②　会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。
③　会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で 979 条もあり、そのうえ、各条文が長いため、六法のページ数を比較すれば、民法典の約 2.5 倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。
④　会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することよりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト (柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021 年）以外にも以下の図書が参考となる。

1. 柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法〔第 2 版〕(日経文庫)』（日本経済新聞出版社、2021 年）、￥1,000（税抜）
2. 柴田和史著『類型別　中小企業のための会社法〔第 2 版〕』（三省堂、2015 年）、￥2,800（税抜）
3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第 4 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥2,900（税抜）
4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第 2 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥3,800（税抜）
5. 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』(別冊ジュリスト 229 号)（有斐閣、2016 年）、￥2,400（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives　The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TF

手形法・小切手法

教科担当責任者：**椽川　泰史**

担当者：**金尾 悠香、清水 真人**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきている道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2　科目の概要　手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。

手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第５版（有斐閣Ｓシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林竣・福瀧博之著、2018 年、￥ 2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives　１．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生
２．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TF

労働法

教科担当責任者：**沼田　雅之**

担当者：**沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　**（労働法総論・労働契約法）**労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。
（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。
（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2　科目の概要　労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。
　なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることがのぞましい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020 年、￥2,300 ＋税
※上記が入手できない場合の代替テキスト（2 冊使用します）
①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第 4 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦・高野　敏春著、エイデル研究所、2018 年、￥2,381 ＋税
②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集団的労働関係法・社会保障法』（第 2 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦編、エイデル研究所、2016 年、￥2,300 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　労働法は憲法 25 条の生存権保障理念の実現を労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27 条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28 条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法 27 条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法 28 条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。
　そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、「特定の労働者に向けたルール」として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、リポートを作成してほしい。

Outline and objectives　"General Labor Law and Labor Contracts Law"
The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.
"Labor Standards Law"
The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.
"Labor Union Act"
The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

ECN300TF

社会経済思想史

教科担当責任者：**後藤　浩子**

担当者：**伊藤 直樹、 後藤 浩子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　古代から 20 世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会経済思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2　科目の概要　社会経済思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかに生きている。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17 世紀において、また 19 世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会経済思想「史」であるとは、社会経済についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

3　成績評価基準　・リポート評価

ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。

次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。

また、学ぶ内容は、過去の思想である。したがって、けっして自分の思い込みでリポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。

・筆記試験

リポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうかが、評価の基準となる。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『社会思想史』第２版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、2010 年

まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。

上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったリポートを書くべきかが、見えてくるはずである。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、リポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたリポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわず、ただ難しい言葉の羅列になってしまう。これでは、学びとは言えない。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

ECN300TF

経済地理

教科担当責任者：**伊藤　達也**

担当者：**伊藤 達也、南 春英**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2　科目の概要　経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

3　成績評価基準　成績評価は設題に対するリポートと単位修得試験による。

リポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年、￥3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準に書いた通り。リポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのリポートは引用によって成り立つものであるので、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかり理解した上で臨むこと。

Outline and objectives　Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

MAN100TG

簿記Ⅰ

教科担当責任者：**筒井　知彦**

担当者：**筒井 知彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定３級と同じです。したがって、簿記検定３級レベルの理解ができることを目標としています。

2　科目の概要　簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『簿記Ⅰ』第３版、永野則雄、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（１回目）、②１つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（２回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（３回目）、④リポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かかるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからリポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives　Accounting is often referred to as the language of business.Bookkeeping in an entry subject of accounting.
In this course you will learn about the recording of business transactions,the ledger system and trial balance,using double entry bookkeeping.

MAN100TG

簿記Ⅱ

教科担当責任者：**筒井　知彦**

担当者：**筒井 知彦**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定３級と同じです。したがって、簿記検定３級レベルの理解ができることを目標としています。

2　科目の概要　簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『簿記Ⅱ』第３版、永野則雄、2017 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（１回目）、②１つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（２回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（３回目）、④リポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからリポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives　Accounting is often referred to as the language of business.Bookkeeping in an entry subject of accounting.
In this course you will learn about the recording of business transactions,the ledger system and trial balance,using double entry bookkeeping.

MAN100TG

経営学総論Ⅰ

教科担当責任者：**佐野　哲**

担当者：**佐野 哲**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。
「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2　科目の概要　経営学総論Ⅰでは、①経営戦略（競争優位を築く基本戦略と業界分析手法）、②広告・マーケティング（マーケット及び製品特性の分析と広告・流通戦略）、③ビジネス思考と交渉の理論（ロジカルシンキング及び営業交渉ノウハウの理論と実際）、の３テーマを取り上げます。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グロービスＭＢＡマネジメントブック（改訂 3 版）』（ダイヤモンド社、2008 年、￥ 2,800+税）の第１部「経営戦略」、第２部「マーケティング」、第７部「ゲーム理論・交渉術」を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives　This is an introductory course to the study of management in firms. The main objectives of the course are:
・understand the fundamentals of strategic management;
・understand the fundamentals of marketing management;
・understand the fundamentals of critical Thinking;

MAN100TG

経営学総論Ⅱ

教科担当責任者：**佐野　哲**

担当者：**佐野 哲**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2　科目の概要　経営学総論Ⅱでは、①会計・アカウンティング（財務諸表の構造と読み方及び経営分析手法）、②投資・ファイナンス（企業の資金調達と投資意思決定に関する理論）、③人材・組織マネジメント（リーダーシップやモチベーションに関する理論と組織設計のあり方）、の３テーマを取り上げます。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『グロービスＭＢＡマネジメント・ブック（改訂３版）』（ダイヤモンド社、2008 年、￥2,800+税）の第３部「アカウンティング」、第４部「ファイナンス」、第５部「人・組織」を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives　This is an introductory course to the study of management in firms. The main objectives of the course are:
・understand the fundamentals of accounting management;
・understand the fundamentals of corporate finance;
・understand the fundamentals of human resource management;

MAN200TG

経営管理論Ⅰ

教科担当責任者：**稲垣　保弘**

担当者：**稲垣 保弘**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営管理（マネジメント）の基本的な知識を習得して、組織で現実に行われている活動について理解を深め、現実の組織活動にも生かせるようにする。またリポート作成面では形式と内容に気をつけて、構成と論理の展開のしっかりしたリポートを書けるようにする。

2　科目の概要　組織と経営管理の基本的な理論について検討し、経営管理についての理解を深める。経営管理（マネジメント）については、組織の階層的関係の中で効率性を追求する活動という捉え方から、全体と部分の効果的なバランスを追求し、効率性のほかに創造性の確保も目指す活動として理解する方向に変容してきている。この流れの中で重要な理論を検討する。

3　成績評価基準　リポートの内容と試験の結果で総合的に評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『組織の解釈学』、稲垣保弘、白桃書房、2002 年、￥ 3,200+税
経営管理の内容とその基本的な理論が示されている。主としてその第１章から第６章までと第 11 章を範囲とする。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストの内容をよく理解し、テーマに合った内容をリポート全体の構成に気を付けながらまとめること。

Outline and objectives　This course provides an introduction to organization and management theories.On the basis of these theories,students will get a total sketch of basic organizational activities and management.

MAN200TG

経営管理論Ⅱ

教科担当責任者：**稲垣　保弘**

担当者：**稲垣 保弘**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　マネジメントについての重要だがやや応用的な理論について、現実への適用可能性を検討しながら理解する。論理的な思考の反映されたリポートを作成する。

2　科目の概要　マネジメントについてのやや応用的な理論について検討する。経営管理論Ⅰでは、効率性の追求を目指す合理的な理論（サイエンス的）の検討が中心だったが、Ⅱでは効率性のほかに創造性（アート的）も視野に入れた理論を中心に検討する。

3　成績評価基準　リポートの内容と試験の点数によって総合的に評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『組織の解釈学』、稲垣保弘、白桃書房、2002 年、￥ 3,200+税
(第６～１０、１２章)
マネジメントの重要なテーマについての理解には、稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房、2013 年、が参考になる。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。いくつかの重要な理論の検討によって、マネジメントについての思考には論理の連鎖（サイエンス面）と論理の飛躍（アート面）の二面性のあることを理解すること。経営管理論Ⅱでは、アート面の重要性がポイントになる。

Outline and objectives　This course deals with relatively complicated theories of organizing and management. Students will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organizations by reviewing these theories.

ECN200TG

金融論Ⅰ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　金融論Ⅰの課題は、現代経済の金融化現象を把握するために金融取引の本質、基礎理論、制度、歴史を理解することである。学習を通じて基本的な金融の考え方を習得できることが期待される。

2　科目の概要　金融取引とは、大きく言えば資金余剰主体から資金不足主体への資金の貸借のことを言うが、金融論はその金融取引の理論、制度、歴史、政策、国際的側面などを扱う。金融論Ⅰでは、金融取引の本質から始めて、その基礎理論、制度、歴史などを扱う。テキストでは、第１章から第５章までがその対象となる。とはいえ、金融論Ⅱが扱う分野とも内容が重複する部分もあるので金融論Ⅱもあわせて受講することが望ましい。

3　成績評価基準　単位修得試験で金融論の基礎が理解できていることを評価するが、リポート課題についてもしっかり取り組むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清『金融論をつかむ』有斐閣、2006 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　現代では経済の金融化現象が著しく、日々のニュースでは金融に関わる出来事が多く報道されている。テキストを利用した金融に関わる基礎的な理論や制度の学習を基にニュースでの報道について自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives　The purpose of Financial Theory Ⅰ is to understand the nature, basic theory, system, and history of financial transactions in order to comprehend the financialization of the modern economy. It is expected that students will be able to acquire basic financial ideas through learning.

ECN200TG

金融論Ⅱ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　金融論Ⅱの課題は、現代経済の金融化現象を把握するために金融論Ⅰで得た金融に関する知識を前提として金融規制、金融政策、金融の国際的側面などを理解することである。学習を通じて金融政策の仕組みや国際金融の考え方などを習得できることが期待される。

2　科目の概要　金融取引とは、大きく言えば資金余剰主体から資金不足主体への資金の貸借のことを言うが、金融論はその金融取引の理論、制度、歴史、政策、国際的側面などを扱う。金融論Ⅱでは、金融規制や監督、金融政策、国際金融などを扱う。テキストでは、第６章から第９章までがその対象となる。とはいえ、金融論Ⅰが扱う分野とも内容が重複する部分もあるので金融論Ⅰもあわせて受講することが望ましい。

3　成績評価基準　単位修得試験で金融論の基礎が理解できていることを評価するが、リポート課題についてもしっかり取り組むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清『金融論をつかむ』有斐閣、2006 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　現代では経済の金融化現象が著しく、日々のニュースでは金融に関わる出来事が多く報道されている。テキストを利用した金融に関わる基礎的な理論や制度の学習を基にニュースでの報道について自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives　The purpose of Financial Theory II is to understand financial regulation, monetary policy, international aspects of finance, etc., based on the knowledge of finance obtained in Financial Theory I. This will provide a deeper understanding of the financialization of modern economy. Through learning, it is expected to learn about monetary policy mechanisms and international financial thinking.

MAN200TG

簿記Ⅲ

教科担当責任者：**神谷　健司**

担当者：**神谷 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日商簿記検定試験２級（商業簿記）の範囲についての内容を理解して、実際にさまざまな取引の会計処理等ができるようになることが、この科目の到達目標です。実際に日商簿記２級（商業簿記）の過去問題を解くことによって、この目標が達成されているかどうかわかると思います。

2　科目の概要　日商簿記３級程度の知識がある方を対象に、日商簿記２級（商業簿記）レベルの内容を学習します。
テキストに即して学習を進めますが、テキストは全 15 章から構成されています。主な内容は、財務諸表の作成、特殊商品売買、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、社債の会計、引当金の会計、純資産の会計、本支店会計、特殊仕訳帳等です。１章ずつ学習を進め、各章の学習が終了したら章末問題を解いて、理解度を確かめて下さい。すべての学習が終了したらリポートを作成することになります。リポートはテキストの幅広い範囲に渡って問題が出題されています。なお平成 29 年６月からの日商２級試験範囲に入る「外貨建取引」「リース取引」「課税所得の計算」「圧縮記帳」「連結会計の基礎」についてはテキストでは解説していません。この部分については下記に示した参考書等で補ってください。また為替手形取引が３級の出題範囲から除外され、簿記Ⅰ・簿記Ⅱの通教テキスト改訂時（2017 年）にそれについては削除されました。この部分についてはこちらのテキストでは触れていませんので、別書で補っていただきたいと思います。以上の点については簿記Ⅲのテキストを今後改訂する際に付け加えたいと思います。

3　成績評価基準　最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

4　テキスト名および詳細　テキストは、通教テキスト神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ』第１版、2013 年です。参考書として『検定簿記講義（２級商業簿記）』中央経済社と『合格テキスト（２級商業簿記）』TAC 出版、桑原知之『サクッとうかる日商簿記２級（商業簿記）』、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社をあげておきます。問題集としては各社から出されている過去問の問題集や『合格トレーニング（２級商業簿記）』TAC 出版や『検定簿記２級（商業簿記）トレーニング』中央経済社等が入手容易だと思います。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　簿記の学習は単にテキストを読むだけでなく、実際に記帳したり、問題を解くことが必要です。テキストを順番に読み進め、例題などを実際に解くことが必要です。

MAN200TG

簿記Ⅳ

教科担当責任者：**神谷　健司**

担当者：**市川 佳功、神谷 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日商簿記２級程度の学習を修了された学生を対象に、日商簿記１級（商業簿記）程度の簿記会計処理を習得することがこの科目の到達目標です。

2　科目の概要　すでに日商簿記２級まで学習されている方を対象に、さらに日商簿記１級（商業簿記）レベルの内容をこの科目では学習します。ただし２単位の科目であり、テキストの紙幅の関係上、特殊商品販売については範囲から外し、また連結会計の部分については基本的な事項の説明にとどめております。

テキストは 15 章構成です。内容は有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、為替予約の会計処理、固定資産の会計、退職給付会計、税効果会計、組織再編の会計等について学習を進めます。2016 年 4 月のテキスト改訂にあたって、連結会計の部分を削除しました。2 単位ということと、テキストのボリュームを考えてのことです。

3　成績評価基準　最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

4　テキスト名および詳細　テキストは通教テキスト　神谷健司・市川佳功『簿記Ⅳ』第 2 版、2016 年です。参考書として、『合格テキスト（１級商業簿記・会計学）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』TAC 出版をあげておきます。具体的会計処理の裏づけとなる会計理論については、桜井久勝『財務会計講義（最新版)』中央経済社、等を参考にしてください。問題集としては日商簿記１級試験の過去問題や各種１級テキストに対応している問題集を利用してください。なお連結会計については、『財務会計講義』の該当箇所で連結会計に基本的な考えを学び、さらに連結会計の基本書、たとえば斎藤真哉編『ニューベーシック連結会計』中央経済社、2013 年のようなものを学ぶことによって連結会計の基本を習得できるかと思います。なお単位修得試験においては連結会計の部分は出題しません。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
簿記の学習はテキストに従って記帳処理の練習をしたり、総合問題を解くことが必要です。数多くの問題を解くことによって理解を深めてください。

MAN300TG

人的資源管理論Ⅰ

教科担当責任者：**佐野　嘉秀**

担当者：**山口 曌**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論Ⅰでは、以下の①②③を設定しました。
①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
②人的資源管理にかかわる論点を知る。
③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

2　科目の概要　人的資源管理 (Human Resource Management) は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を扱う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理の基礎を学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度や慣行の内容や理由について、理解を深めることができます。

3　成績評価基準　リポート及び単位修得試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解・習得しているかだけでなく、②課題・設問の趣旨を的確に理解し、それに対応する記述となっているか、③論拠を示しつつ論理的な記述がなされているか、④事実と意見が明確に区別されているかを重要な評価基準とします。

4　テキスト名および詳細　指定市販本：『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012 年、￥2,600+税
テキストのタイトルに「人的資源管理」の文字はないですが、テキストの内容の多くは、人的資源管理に関するものです。
とくに 3 章「企業内キャリアと人事管理」(教科担当責任者が執筆) は人的資源管理の基礎に当たります。まずは、3 章の内容を理解しましょう。さらに、リポート課題や関心に応じ、他の章も読み進めてください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。人的資源管理の分野の学術論文としては、労働政策研究・研修機構が発行している『日本労働研究雑誌』が参考になります。同雑誌のバックナンバーは、ホームページ（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）にも掲載されており便利です。

Outline and objectives　The aim of this course is to help students acquire the basic concepts and principles of human resource management.
At the end of the course, participants are expected to understand the basic concepts of, and issues related to human resource management.

MAN300TG

人的資源管理論Ⅱ

教科担当責任者：**佐野　嘉秀**

担当者：**山口 曌**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　人的資源管理の基礎を踏まえ、日本企業が直面する人的資源管理にかかわる諸課題について深く理解することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論Ⅱでは、以下の①②を設定しました。
①日本企業が直面する人的資源管理上の諸課題について理解する。
②人的資源管理の課題に対して、企業がどのようにすべきかについて、説得的で建設的な提案ができるようになる。

2　科目の概要　人的資源管理 (Human Resource Management) は、ヒトの管理についての実践的学問です。本科目では、①日本企業が直面する人的資源管理上の諸課題について理解し、②そうした課題を解決するうえで、企業がどのようにすべきかを学びます。雇用や仕事に関する報道や記事の情報のほか、身近な会社や職場での人事管理について考えてみることも、科目の理解につながります。

3　成績評価基準　リポート及び単位修得試験では、①人的資源管理の考え方や論点を理解しているかだけでなく、②課題・設問の趣旨を的確に理解し、それに対応する記述となっているか、③論拠を示しつつ論理的な記述がなされているか、④事実と意見が明確に区別されているかを重要な評価基準とします。

4　テキスト名および詳細　指定市販本：『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012 年、￥2,600+税
テキストのタイトルに「人的資源管理」の文字はないですが、テキストの内容の多くは、人的資源管理に関するものです。
とくに 3 章「企業内キャリアと人事管理」(教科担当責任者が執筆) は人的資源管理の基礎に当たります。まずは、3 章の内容を理解しましょう。さらに、リポート課題や関心に応じ、他の章も読み進めてください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。人的資源管理の分野の学術論文としては、労働政策研究・研修機構が発行している『日本労働研究雑誌』が参考になります。同雑誌のバックナンバーは、ホームページ（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）にも掲載されており便利です。

Outline and objectives　This course deals with the key challenges of human resource management which Japanese companies face.
At the end of the course, participants are expected to
・understand the key challenges of human resource management among Japanese companies.
・adequately discuss the approaches which Japanese companies should adopt to cope with the challenges.

MAN300TG

財務会計論Ⅰ

教科担当責任者：**川島　健司**

担当者：**川島 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に収めながら、体系的に学習することを目標とします。

2　科目の概要　財務会計論では会計基準について学習します。会計ビッグバン以降、企業の実態をよりいっそう的確に描写した透明度の高い財務諸表の作成と公表を促進するため、会計基準が続々と新設・改訂されてきています。この会計基準の改定作業は、国際会計基準とのコンバージェンスを進める過程で加速されてきました。
本科目では、既存の会計基準とともに、新設・改訂されてきた会計基準についても学習することにより、現段階における日本の会計基準を包括的に理解することを目標としています。
財務会計論Ⅰでは財務会計の概念や構造を学び、基礎固めをしたうえで、いわゆる各論を学習します。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『財務会計講義』桜井久勝, 中央経済社, 2021 年 4 月時点の最新版。毎年 3 月には改訂版が出版されており、2021 年 3 月に改訂版が出版される可能性があります。最新版を入手してください。財務会計論Ⅰの範囲はテキストの第 1 章「財務会計の機能と制度」から第 9 章「無形固定資産と繰延資産」までとなります。
財務会計論Ⅰでは全体の範囲をテキストをほぼ二分したうちの前半となります。財務会計の機能と制度を概観したうえで、利益計算の仕組みについて簿記の構造を含めて学習します。つづいて企業会計原則の全体について俯瞰し、利益計算と資産評価の概念について学びます。それを踏まえて各論に移ります。有価証券の評価、デリバティブ、キャッシュフロー計算書、収益認識基準、棚卸資産の原価配分、固定資産の減価償却および減損、リース会計、無形固定資産、繰延資産までが財務会計論Ⅰで取り上げるトピックとなります。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは財務会計の教科書として定評のあるベストセラーであり、大学学部はもとより資格試験やビジネスマンにも多く利用されています。テキストは平易な文章で記述され、必要十分な設例がもうけられており、通信教育課程の自習書として最適であると思います。本文で 400 ページ強ありますが、分量としては標準的であり、これよりページ数を減らすと、必要な記述がカットされてしまいます。このテキストを財務会計論ⅠとⅡで学習することになりますので、それぞれ 200 ページ強となります。
　リポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、御自身の意見を述べてください。参考文献やインターネットで「正解」に近いものを探すのはやめてください。

MAN300TG

財務会計論Ⅱ

教科担当責任者：**川島　健司**

担当者：**川島 健司**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に収めながら、体系的に学習することを目標とします。

2　科目の概要　財務会計論では会計基準について学習します。企業の実態を的確に描写した透明度の高い財務諸表の作成と公表を促進するため、会計基準は常に新設・改訂されています。この会計基準の改定作業は、国際財務報告基準とのコンバージェンスを進める過程で加速されてきました。本科目では、既存の会計基準とともに、新設・改訂されてきた会計基準についても学習することにより、現段階における日本の会計基準を包括的に理解することを目標としています。
財務会計論Ⅱでは、負債の会計、資本および純資産の会計、財務諸表の作成と公開、連結財務諸表の作成、外貨建取引の会計など、財務会計の各論を学習します。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『財務会計講義』桜井久勝, 中央経済社, 2021 年 4 月時点の最新版。毎年 3 月には改訂版が出版されており、2021 年 3 月に改訂版が出版される可能性があります。最新版を入手してください。
財務会計論Ⅱでは全体の範囲をテキストをほぼ二分したうちの後半となります。第 10 章「負債」では引当金、税効果会計、退職給付会計、資産除去債務、第 11 章「株主資本と純資産」では、純資産の構成、資本剰余金、合併、株式交換と株式移転、会社の分割、配当制限、第 12 章「財務諸表の作成と公開」では、包括利益、注記（継続企業の前提に関する注記など）、四半期財務諸表、第 13 章「連結財務諸表」では、連結の範囲、連結貸借対照表の作成手続、連結損益計算書の作成手続、連結株主資本等変動計算書、持分法、連結キャッシュフロー計算書、セグメント情報、第 14 章「外貨建取引等の換算」では、換算方法、外貨建取引の換算、為替予約などを学習します。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
本テキストは平易な文章で記述され、必要十分な設例がもうけられており、通信教育課程の自習書として最適であると思います。本文で 400 ページ強ありますが、分量としては標準的であり、これよりページ数を減らすと、必要な記述がカットされてしまいます。このテキストを財務会計論ⅠとⅡで学習することになりますので、それぞれ 200 ページ強となります。リポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、ご自身の意見を述べてください。

MAN300TG

原価計算論Ⅰ

教科担当責任者：**福田　淳児**

担当者：**福田 淳児**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要となる基礎的な諸概念および幾つかの重要な専門用語を理解し，自分なりの言葉で簡潔に説明できることを目標とします。さらに，この授業では，原価計算の一連の手続き（費目別原価計算，部門別原価計算，製品別原価計算）を理解し、基本的な計算プロセスが説明できること、さらに原価計算プロセスに関する基本的な計算問題を自分で解けることを目標としています。

2　科目の概要　原価計算論Ⅰでは、テキストならびに参考文献を利用し、原価計算論の学習を進めていく上で必要とされる基本的な概念及び重要な専門用語の解説を行ないます。今後，原価計算の学習を進めて行く上で頻繁に皆さんが利用する用語や概念ですので，しっかりと理解してください。その上で、原価計算の一連の計算手続きについて、費目別原価計算，部門別原価計算および製品別原価計算（個別原価計算・総合原価計算）の順でそのメカニズムの説明および手続きの理論的な根拠についての解説を行っています。テキストで示したような一連の手続きの意味またそれらの手続きがなぜ必要となるのかについてもじっくりと考えながら読み進めるようにしてください。特に、一つの手続きに対して，いくつかの処理方法が選択可能なケースがあります。その場合には、それぞれの選択肢のメリットとデメリットを説明していきます。原価計算論Ⅰでは、主に以下の項目について学習します。
1．原価計算の意義と目的：原価計算を行う意義および『原価計算基準』に基づいて原価計算の５つの目的について学習します。
2．原価の本質と分類：原価とは何か，また原価を形態別，製品との関連性および操業度との関連性で分類した場合のそれぞれの原価の特徴について学習します。
3．原価計算の手続と種類：原価計算の一連の手順である費目別原価計算，部門別原価計算，製品別原価計算について簡単に紹介します。また，原価計算の種類についても簡単に説明します。
4．費目別原価計算：直接材料費、直接労務費、直接経費および製造間接費についてそれぞれの具体的な分類とその特徴及びその計算方法について学習します。
5．部門別原価計算：原価の部門別計算が行われる理由およびその計算手続きについて学習します。部門の設定方法，さらに補助部門費の製造部門への配賦に関わる複数の計算方法についても学習します。
6．製品別原価計算（個別原価計算）：受注生産形態の工場で利用される個別原価計算についてその特徴および計算手続きについて学習します。
7．製品別原価計算（総合原価計算）：見込み生産形態の工場で利用される総合原価計算についてその特徴，種類ならびに計算手続きについて学習します。個別原価計算との対比でも理解するようにしてください。また，計算問題もしっかりと解けるようにしてください。
受講者は、各項目について、テキストや参考文献の説明を単に読むだけではなく、それらの文献に示されている例題を必ず解いて理解を確認しながら学習を進めていってください。

3　成績評価基準　原価計算論Ⅰの学習範囲から出題された単位修得試験に基づいて評価を行ないます。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ　原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、￥2,400+税）の第1章から第11章まで。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの指定範囲の全部，また指定された参考文献については必ず熟読してください。さらに、各章の例題を自分で解いてみてください。例題が解けない場合には、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組んでみると良いと思います。原価計算の役立ち及びその計算プロセスを理解するために、ひとつひとつの内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、リポートの作成にあたっては、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉を使ってまとめてください。その際に，なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを考え，リポートに明示してください。引用を行う場合には，必要最低限度の分量にとどめ，きちんと引用箇所を明記してください。引用の前後を「」でくくり，どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも，自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述をする場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはリポートの末尾に必ずつけて下さい。

講評に基づいて、リポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを補足・修正するのではなく、もう一度全体の文章もきちんと見直し、全体として意味の通るリポートにしてください。

Outline and objectives　The learning objectives of this module are to let students understand the basic concepts and some important terms and they can explain these by yourself.　It also includes enhancement of your understandings on a series of procedures of cost accounting (cost-type accounting, cost center accounting, product cost accounting) and helps students to explain the basic calculation processes of cost accounting. In addition to this, it enhances the development of students' skill to solve basic numerical calculations.

MAN300TG

原価計算論Ⅱ

教科担当責任者：**福田　淳児**

担当者：**福田 淳児**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　原価計算論Ⅱでは，原価管理や短期利益計画の設定といった経営管理目的のために原価計算システムが提供する会計情報がどのように役立つのかを理解することを目標とします。具体的には、標準原価による狭義の原価管理目的への役立ち，また短期利益計画に対する直接原価計算やCVP分析の役立ちについて理解することを目標としています。

さらに、原価計算論Ⅱでは，新しい製造間接費の配賦方法として提唱されたActivity-Based Costing(活動基準原価計算，ABC)についても学習をします。伝統的な製造間接費の配賦方法の問題点がなぜ今日の製造環境のもとで顕在化したのか，それに対して新たに提唱されたABCの内容を、伝統的な製造間接費の配賦との対比で明確に説明できることを目標とします。

2　科目の概要　原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが提供する原価情報が経営管理目的にどのように役に立っているのかを学習します。さらに，近年における原価計算の発展、およびその背後にある企業を取り巻く製造環境の変化についても学習します。具体的には以下の項目について学習します。

1．標準原価計算：標準原価計算の意義及びその目的を明らかにした後，原価標準の設定方法ならびに標準原価と実際発生原価との差異の認識及びその分析方法について学習します。製造間接費の差異分析方法についてはいくつかの方法が提唱されていますので，それぞれを理解するようにしてください。また，現在の製造環境のもとでの標準原価の原価管理目的へ役立ちについても検討します。

2．直接原価計算：直接原価計算の意義を明らかにした後に，全部原価計算との対比で直接原価計算の特徴を説明します。その後，両者の方式で作成した損益計算書での営業利益にどのような差異が見られるか，またその差異がどのような状況で，またなぜ生じるのかについて詳しく検討します。さらに，それらが経営上の意思決定にどのような効果をもたらす可能性があるかについても検討します。

3.CVP分析：短期利益計画を設定する上で有用な情報を提供する技法として，原価，営業量，利益の関係を分析するCVP分析を学習します。損益分岐点での売上高，またある一定の目標営業利益（率）を達成するために必要とされる売上高の大きさなどを計算できるようにします。

4.Activity-Based Costing（活動原価計算）：1980年代における企業を取り巻く製造環境の変化が製造原価の構成や製造間接費の中身に大きな変化をもたらしたこと，それによって伝統的な製造間接費の配賦方法がその時代に許容できなくなってきたことからABCがアメリカの研究者による実務の観察を通じて紹介されたことを明らかにします。その後，ABCの具体的な計算手続きを伝統的な製造間接費の配賦方法との比較によって明らかにするとともに，近年ABCに対する批判に応えるために提唱されたTDABCを紹介します。

経営管理目的に有用な原価計算について、それぞれの原価計算手法の持つ意味、またその役立ちについてしっかりと理解してください。さらに、そのような原価手法がどのような製造環境の求めに応じて登場し普及したのか，さらに製造環境の変化のもとでどのような影響を受けてきたかも理解できるようにしてください。

3　成績評価基準　原価計算論Ⅱの範囲から出題された単位修得試験の結果に基づいて評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ　原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、￥2,400+税）の第 12 章から第 15 章まで。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの指定範囲の全部，また指定された参考文献については必ず熟読してください。さらに、各章の例題を自分なりに解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組んでみてください。原価計算の役立ちを理解するために、ひとつひとつの内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、リポートの作成にあたっては、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉を使ってまとめてみてください。その際に，なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを考え，リポートに明示してください。引用を行う場合には，必要最低限度にとどめ，きちんと引用箇所を明記してください。引用の前後を「」でくくり，どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも，自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述をする場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはリポートの末尾に必ずつけて下さい。

講評に基づいて、リポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを補足・修正するのではなく、もう一度全体の文章もきちんと見直し、全体として意味の通るリポートにしてください。

Outline and objectives　The purposes of this module are to develop students' understanding on what roles cost information provided through a cost accounting system play in implementing cost control and short-term profit planning in an organization.It also explain the way activity-based costing, proposed in 1980s based on the observation of practices in the U.S.A, allocated indirect cost to products and the effects of ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

MAN300TG

管理会計論Ⅰ

教科担当責任者：**北田　皓嗣**

担当者：**北田 智久**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2　科目の概要　会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

3　成績評価基準　管理会計論Ⅰ／Ⅱでは記述を中心としたリポート課題と、計算問題の２つの課題を出題しています。両方の課題が合格水準に達することが求められます。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『管理会計論』第２版、佐藤康男、2003 年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

リポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。リポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。

Outline and objectives　Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

MAN300TF

管理会計論Ⅱ

教科担当責任者：**北田　皓嗣**

担当者：**北田 智久**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2　科目の概要　会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

3　成績評価基準　管理会計論Ⅰ／Ⅱでは記述を中心としたリポート課題と、計算問題の２つの課題を出題しています。両方の課題が合格水準に達することが求められます。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『管理会計論』第２版、佐藤康男、2003 年
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

リポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。リポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。

Outline and objectives　Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

MAN300TG

監査論Ⅰ

教科担当責任者：**坂上　学**

担当者：**坂上 学**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを到達目標としている。

2　科目の概要　株式会社の監査制度の基礎知識を、体系的に理解することを課題としている。株式会社監査の基礎概念の理解に始まり、監査の担い手である監査人（公認会計士や監査法人）の制度、監査意見形成のプロセスについて学習する。

3　成績評価基準　リポートの内容が単によくまとまっているかだけでなく、以下の点についても、条件を満たしているかどうかをチェックし、成績評価の重要な要素とするので、必ず守ること。
(1) 参考にした文献や Web ページについて、引用箇所を文中に明示しているか。（引用がまったく示されていない場合は即再提出となる）
(2) 参考文献、参考 URL の一覧を最後に明記しているか。（無い場合は即再提出となる）
(3) 与えられた字数を十分に用いているか（2,000 字）。（多過ぎる場合も減点対象とする）
(4) リポートの構成がしっかりとしているか。（構成がわかるように、適宜見出しなどを付けるとよい）

上記の項目のうち複数が満たされていない場合は、再提出の対象となるので注意されたい。なお、最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　【指定市販本】伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏著『ベーシック監査論〔八訂版〕』同文舘、2020 年。以下の章が学習範囲である。
第１章「監査のフレームワーク」
第２章「監査制度のフレームワーク」
第３章「監査規範の意義とわが国の監査基準」
第４章「監査意見形成のプロセス」
※旧版から内容に大きな変更があるので、必ず八訂版を使用すること。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準にも書いたが、ただ調べたものを書き連ねるだけでなく、問題の意図を正しく理解し、構成をしっかりたて、リポートを作成して欲しい。その際、参考にした文献や Web ページなどは、必ず引用箇所を明記するとともに、最後に参考文献・参考 URL の一覧を付すこと。

リポートの書き方については、『学習支援ハンドブック』（http://www.hoseikyoiku.jp/fd/handbook/）を参考にするとよい。

近年気になるのは、安易に Web ページの記述をコピー＆ペーストしただけのもの、関係のない事項について多くの字数を割いているもの、引用箇所が明記されていないもの、等々が多く見られるようになったことである。多くの文献や Web ページを参考にすることは良いことであるが、自分なりに咀嚼し、自分の言葉でリポートを書くようにして欲しい。

Outline and objectives　This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals.

The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

MAN300TG

監査論Ⅱ

教科担当責任者：**坂上　学**

担当者：**坂上 学**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを到達目標としている。

2　科目の概要　株式会社の監査制度の基本的な知識について、体系的に理解することを課題としている。監査のうち、リスク・アプローチに基づく監査の計画と実施のプロセス、監査報告書と情報提供機能等について学習する。

3　成績評価基準　リポートの内容が単によくまとまっているかだけでなく、以下の点についても、条件を満たしているかどうかをチェックし、成績評価の重要な要素とするので、必ず守ること。
(1) 参考にした文献や Web ページについて、引用箇所を文中に明示しているか。（引用がまったく示されていない場合は即再提出となる）
(2) 参考文献、参考 URL の一覧を最後に明記しているか。（無い場合は即再提出となる）
(3) 与えられた字数を十分に用いているか（2,000 字）。（多過ぎる場合も減点対象とする）
(4) リポートの構成がしっかりとしているか。（構成がわかるように、適宜見出しなどを付けるとよい）
　上記の項目のうち複数が満たされていない場合は、再提出の対象となるので注意されたい。なお、最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　【指定市販本】伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏著『ベーシック監査論〔八訂版〕』同文舘、2020 年。以下の章が学習範囲である。
第５章「リスク・アプローチと監査戦略」
第６章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」
第７章「監査報告書と情報提供機能」
第８章「開示情報の多様化と保障機能」
※旧版から内容に大きな変更があるので、必ず八訂版を使用すること。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準にも書いたが、ただ調べたものを書き連ねるだけでなく、問題の意図を正しく理解し、構成をしっかりたて、リポートを作成して欲しい。その際、参考にした文献や Web ページなどは、必ず引用箇所を明記するとともに、最後に参考文献・参考 URL の一覧を付すこと。
　リポートの書き方については、『学習支援ハンドブック』（http://www.hoseikyoiku.jp/fd/handbook/）を参考にするとよい。
　近年気になるのは、安易に Web ページの記述をコピー＆ペーストしただけのもの、関係のない事項について多くの字数を割いているもの、引用箇所が明記されていないもの、等々が多く見られるようになったことである。多くの文献や Web ページを参考にすることは良いことであるが、自分なりに咀嚼し、自分の言葉でリポートを書くようにして欲しい。

Outline and objectives　This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals.

The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

MAN300TG

税務会計Ⅰ

教科担当責任者：**大下　勇二**

担当者：**大下 勇二**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスの基礎的考え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係および違いを理解することを目指します。

2　科目の概要　法人税法の課税所得計算の基礎、益金計算および原価配分領域を中心とした損金の計算について、次の項目を学習します。法人税の基礎 (1)・(2)、課税所得計算の基礎 (1)・(2)、売買損益等の計算、その他の収益の計算、売上原価の計算と棚卸資産の期末評価、有価証券の譲渡原価と期末評価、固定資産の減価償却 (1)、繰延資産の償却

3　成績評価基準　単位修得試験の結果により評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』2019 年新版
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。税法の条文には可能な限り目を通して下さい。また、テキストはこれを単に読むだけでなく、例題の付いているところはその例題を自分で解いてみることが重要です。税法条文の意味やテキストの説明の内容がより具体的に理解できるようになります。

Outline and objectives　The objective of Tax Accounting Ⅰ is to understand the bases of corporate tax accounting in Japan.

MAN300TG

税務会計Ⅱ

教科担当責任者：**大下　勇二**

担当者：**大下 勇二**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　「税務会計Ⅰ」において法人税の課税所得計算の基礎的な内容を理解した上で、「税務会計Ⅱ」では法人税課税の応用的な個別問題領域を学習し、現代社会において、法人税課税上いかなる問題が生じているのかを深く理解することを目指します。

2　科目の概要　次の項目を中心に学習します。事業形態の多様化と課税問題、企業の社会的責任と寄附金・交際費課税、給与の支給形態の多様化と課税問題、不良債権の償却の課税問題、固定資産の減価償却 (2)、企業活動の集団化と課税問題 (1)・(2)、企業活動の国際化と課税問題 (1)・(2)・(3)

3　成績評価基準　単位修得試験の結果により評価します。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』2019 年新版
※【申告制】テキスト

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。「税務会計Ⅱ」は応用的な個別問題領域を中心に学習しますので、必ず「税務会計Ⅰ」を学習した上で、履修して下さい。

Outline and objectives　The objective of Tax Accounting Ⅱ is to understand the problems of corporate income taxation in Japan.

MAN300TG

経営分析論Ⅰ

教科担当責任者：**福多　裕志**

担当者：**福多 裕志**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営分析論Ⅰ（ここでは「経営分析」を「財務諸表分析」と同義として使用）では、企業の財務体質を判断するために、主として定量的財務諸表分析を学習します。あわせて教科書内に説明されている経営分析関連の専門用語（概念）の理解を深めることを目指します。企業が開示する会計情報に基づいて財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定を促す手法を理解することが当該科目の目標です。指定教科書の学習を一通り終えれば、現代経営分析の諸技能を獲得することができるでしょう。

2　科目の概要　経営分析は、「比較に始まり、比較に終わる」といってもよいほど、比較・検討することが要請されます。効率的な経営管理と経済合理的な意思決定を追求するために、同業他社や同一産業内最良企業と比較し、業界（産業）平均と比較し、そして過去と比較するという手続きを通して、どのような要因から差が生じたのか、あるいは生じなかったのかを突き止めるべく検討を行います。そのためには、受講者自らがインターネット上より企業の有価証券報告書を入手し、PC や電卓を駆使して企業の財務体質を示す各種比率・指標等を算出し、その差異を比較・検討し、自らの解釈を加えることが重要になります。経営分析論Ⅰでは指定教科書の、「第 1 部　経営分析の基礎」（第 1 章～第 4 章）および「第 2 部　収益性の分析」（第 5 章～第 10 章）までを試験範囲とします。

3　成績評価基準　筆記試験において 60 点以上を合格とします。S:100～90 点、A+：89～87 点、A：86～83 点、A-：82～80 点、B+：79～77 点、B：76～73 点、B-：72～70 点、C+：69～67 点、C：66～63 点、C-：62～60 点、D：59 点以下

4　テキスト名および詳細　指定市販本：青木茂男編著『要説　経営分析〔五訂版〕』森山書店、2016 年、￥4,400+税.

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。受講者には初級程度（日商簿記検定 3 級程度）の簿記知識が必要となりますので、会計関連科目を学習したことの無い方は、事前に「簿記」、「財務会計」等の基礎を学習されることを強くお勧めします。
学習の分量が多くなりますので、継続的、計画的に学習を進め最終試験を突破してください。

Outline and objectives　Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

MAN300TG

経営分析論Ⅱ

教科担当責任者：**福多　裕志**

担当者：**福多 裕志**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　経営分析論Ⅱ（ここでは「経営分析」を「財務諸表分析」と同義として使用）では、経営分析論Ⅰと同様、企業の財務体質を判断するために、引き続き主として定量的財務諸表分析を学習します。あわせて教科書内に説明されている経営分析関連の専門用語（概念）の理解を深めていくことが重要となります。企業が開示する会計情報に基づいて財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定を促す手法を理解することが当該科目の目標です。指定教科書の学習を一通り終えれば、現代経営分析の諸技能を獲得することができるでしょう。

2　科目の概要　経営分析は、「比較に始まり、比較に終わる」といってもよいほど、比較・検討することが要請されます。効率的な経営管理と経済合理的な意思決定を追求するために、同業他社や同一産業内最良企業と比較し、業界（産業）平均と比較し、そして過去と比較するという手続きを通して、どのような要因から差が生じたのか、あるいは生じなかったのかを突き止めるべく検討を行います。そのためには、受講者自らがインターネット上より企業の有価証券報告書を入手し、PC や電卓を駆使して企業の財務体質を示す各種比率・指標等を算出し、その差異を比較・検討し、自らの解釈を加えることが重要になります。経営分析Ⅱでは指定教科書の、「第 3 部　流動性の分析」（第 11 章～第 13 章）から「第 4 部　経営分析の展開」（第 14 章～第 15 章）までを試験範囲とします。**ただし、第 4 部の第 16 章は試験範囲に含めませんのでご注意ください。**

3　成績評価基準　筆記試験において 60 点以上を合格とします。S:100～90 点、A+：89～87 点、A：86～83 点、A-：82～80 点、B+：79～77 点、B：76～73 点、B-：72～70 点、C+：69～67 点、C：66～63 点、C-：62～60 点、D：59 点以下

4　テキスト名および詳細　指定市販本: 青木茂男編著『要説　経営分析　五訂版』森山書店、2016 年、￥4,400+税.

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。受講者には初級程度（日商簿記検定 3 級程度）の簿記力および経営分析Ⅰ程度の知識、技術が必要となりますので、「簿記」、「財務会計」、「経営分析Ⅰ」等の内容を確認されることを強くお勧めします。
学習の分量が多くなりますので、継続的、計画的に学習を進め最終試験を突破してください。

Outline and objectives　Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅱ' we focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

ECN300TG

国際金融論Ⅰ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本 → 通教テキスト）変更

1　学習の到達目標　国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象をとらえるための基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。まず、外国為替、外国為替相場、国際収支など国際金融の基礎概念を修得し、次に外国為替相場の決定理論と国際収支の決定理論、デリバティブなどについて理解を進める。こうした概念と理論の修得を通じて、現在進行している金融グローバル化現象の背後にある基本的なメカニズムの理解を目標とする。

2　科目の概要　国際金融論が扱う外国為替相場や国際収支の問題は、日々のニュースで頻繁に伝えられ、議論されている。そして、その意味するところを知ることなしには今日のグローバル化した社会を理解することは出来ないと言ってよいほどである。しかし、国際金融現象は年々複雑化してきている。国際金融論Ⅰでは、現代の国際金融の問題を考えるにあたって、その概念と基礎理論を学ぶことによって現実の問題を深く理解しようとするものである。具体的には、外国為替の概念、外国為替相場、外国為替市場、国際収支の概念を理解し、それを前提として外国為替相場や国際収支の決定に関する理論を学ぶ。テキストでは主に第 1 章～第 7 章がこの分野に相当する。ただし、テキストはあくまで入門レベルのものであるので、設題に対する解答などより深く国際金融を理解するためには参考文献を利用した学習が不可欠となる。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　通教テキスト　横内正雄『国際金融論Ⅰ』第 1 版、2020 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　国際金融論Ⅰにおける基礎的な理論の修得には金融論の理解が不可欠である。また、マクロ経済的な知識や国際経済に関する知識も同様に必要とされる。そのため、国際金融に関する理論のみの修得を目指すのではなく、広くマクロ経済、金融、国際経済の理論の修得もあわせて行うことが望ましい。他の社会科学と同様に国際金融論でも論理的な思考が不可欠である。経済現象には理論によって説明される論理必然的な因果関係が存在すると言ってもよい。例えば、金利の上昇がなぜ円高をもたらすのかと考えるとき、その背後における理論から導き出される論理的な帰結を考える必要がある。このような理論的な連鎖の関係を理解することが重要であり、学習する上で常に論理的に考えることが求められる。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

ECN300TG

国際金融論Ⅱ

教科担当責任者：**横内　正雄**

担当者：**横内 正雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　国際金融論Ⅱは、国際金融論Ⅰで修得した基礎的な概念と理論を前提として、現実の国際金融に関わる現象を解読していくことを課題とする。まず、国際金融の歴史をたどり、国際通貨体制や国際通貨がいかに変遷してきたのかを学ぶ。次に、国際金融の場面で現実に生じつつある金融危機、通貨危機、通貨統合などの問題を考察する。こうした作業を通じて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することを目標とする。

2　科目の概要　国際金融論が扱う国際通貨体制や通貨金融危機の問題は、日々のニュースで頻繁に伝えられ、議論されている。そして、その意味するところを知ることなしには今日のグローバル化した社会を理解することは出来ないと言ってよいほどである。しかし、国際金融現象は年々複雑化してきている。国際金融論Ⅱでは、現代の国際金融の問題を考えるにあたって、その歴史から掘り起こし、大きな流れの中で国際金融の問題がいかに変遷してきたのかを捉えることによって、現実の問題を深く理解しようとするものである。具体的には、第一次大戦前の国際金本位制、第二次大戦後のブレトンウッズ体制、EU 通貨統合、円の国際化、通貨金融危機、グローバルインバランスなどの問題を扱う。テキストでは、主に第８章以降がこの分野に相当する。ただし、テキストはあくまで入門レベルのものであるので、設題に対する解答などより深く国際金融を理解するためには参考文献を利用した学習が不可欠となる。また、日々の国際金融に関するニュースとその解説に関心を持つことも、最新の国際金融の問題を理解する上で欠かせないものである。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本『国際金融のしくみ』第４版（有斐閣アルマ）、有斐閣、秦　忠夫・本田敬吉・西村陽造著、2012 年、￥ 2,000 ＋税
上記のテキストが入手できない場合は、以下のテキストを代替テキストとする。
『新・国際金融のしくみ』（有斐閣アルマ）西村陽造・佐久間浩司著、有斐閣、2020 年、￥2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰにおける基礎的な理論が修得できていることが必要となる。また、マクロ経済的な知識や国際経済に関する知識も同様に必要とされる。そのため、国際金融の歴史や制度に関する知識の習得に専念するのではなく、幅広く国際金融の現象を考えることが肝要である。また、他の社会科学と同様に国際金融論でも論理的な思考が不可欠である。経済現象には理論によって説明される論理必然的な因果関係が存在すると言ってもよい。例えば、金利の上昇がなぜ円高をもたらすのかと考えるとき、その背後における理論から導き出される論理的な帰結を考える必要がある。このような理論的な連鎖の関係を理解することが重要であり、学習する上で常に論理的に考えることが求められる。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to understand the actual events related to international finance based on the basic concepts and theories acquired in International Finance I. First, we follow the history of international finance and learn about the transition of the international monetary system. Next, we consider issues such as financial crises, currency crises, and currency integration etc.

ECN300TG

社会経済学Ⅰ

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって歴史的視点が重要です。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立した資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションのもとでの変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ⅰでは、価値・商品（市場システム）、資本の生産の基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学』〔新版〕、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに試される場です。日頃から現実に対する問題関心を持ちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識との関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN300TG

社会経済学Ⅱ

教科担当責任者：**原　伸子**

担当者：**相沢 裕紀、原 伸子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．資本主義経済システムの歴史的性格を理解すること。
2．現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2　科目の概要　社会経済学の対象は歴史的に存在し発展する資本主義社会の経済システムです。したがって社会経済学の内容を理解するためには歴史的視点が重要になってきます。歴史的視点とは、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することです。すなわち、18 世紀末から 19 世紀初頭の産業革命によって成立する資本主義社会、20 世紀初頭の独占資本の成立と国家の介入、戦後の福祉国家体制、グローバリゼーションと福祉国家の変容などを理解するための理論体系を学びます。社会経済学Ⅱでは、資本蓄積 (雇用・失業・成長)、社会的再生産、競争と価格、信用、農業、産業循環、福祉国家の危機（新保守主義の登場）などを理解するための基礎理論に重点をおきます。

3　成績評価基準　成績は規定にもとづいて、リポートと試験で評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『現代経済と経済学〔新版〕』、有斐閣、増田壽男・沢田幸治編、2007 年、￥ 2,800+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になりますが、それとともに、現実に対する自らの問題意識とその関連性が問われる場でもあります。質問も含めて積極的な取り組みに努めてください。

Outline and objectives　The purpose of this lecture is to study the general theory of the political economy. It particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

ECN300TG

経済史Ⅰ

教科担当責任者：**杉浦　未樹**

担当者：**杉浦 未樹**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれには様々な類型があったことを理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、その成立以来２００年以上に及ぶ市場経済の歴史を概観することによって、経済社会の仕組みを理解するとともに経済学の考え方を身に付けることにある。中でも国際的連関のなかから経済の成り立ちを理解することを目指す。経済史である以上、生産・流通・金融・財政の各方面の動きを追っていくが、企業経営の歴史にも留意する。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史　グローバル経済史入門』（第 2 版）名古屋大学出版会、2020 年、￥ 2,700+税
※初版（2010 年）も使用可
参考図書
奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010 年、￥ 2,500+税
飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社、2005 年、￥ 2,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

ECN300TG

経済史Ⅱ

教科担当責任者：**牧野　文夫**

担当者：**牧野 文夫**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1）日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3）論理的な文章が書けるようになること。

2　科目の概要　本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

3　成績評価基準　リポート評価に当たっては、下記を重視する。
1）教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
2）リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
3）誤字、脱字に注意すること。
4）字数の標準を遵守すること。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012 年、￥ 2,700+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives　Understanding Japanese economic developement in historical perspective.

ECN300TG

統計学Ⅰ

教科担当責任者：**菅　幹雄**

担当者：**菅 幹雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．経済統計の仕組みを理解する。
2．記述統計の基礎を理解する。
3．確率の基礎を理解する。

2　科目の概要　経済統計はいま変革期にある。その経済統計がどのような仕組みで作成され、それが今後どのように変わっていくのかを学習する。その上で収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算して分布を明らかし、データの示す傾向や性質を把握する手法（記述統計）を学習する。

3　成績評価基準　成績はリポート、単位修得試験によって評価する。

4　テキスト名および詳細　清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館、2013 年、3500 円+税
福井幸男『統計学の力－ベースボールからベンチャービジネスまで－』共立出版、2009 年、2400 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

ECN300TG

統計学Ⅱ

教科担当責任者：**菅　幹雄**

担当者：**菅 幹雄**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　1．確率および確率分布とは何かを理解する。
2．標本から母集団を推定する手法を理解する（推測統計）。

2　科目の概要　母集団を全て調べることは時間・労力・お金がかかり、効率が悪い。そこで母集団の一部（標本）を無作為に取り出して調べ、標本のデータに基づいて母集団を推定する。 それがなぜ可能なのか、具体的にどのように行うのかを学習する。

3　成績評価基準　成績はリポート、単位修得試験によって評価する。

4　テキスト名および詳細　福井幸男『統計学の力－ベースボールからベンチャービジネスまで－』共立出版、2009 年、2400 円+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。教科書に出てくる数学がよく理解 できない場合は、高校の数学の教科書を復習すること。

ECN300TG

財政学 I

教科担当責任者：**廣川　みどり**

担当者：**島澤 諭、廣川 みどり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日本財政の現状を把握し、今後どうあるべきかについて考えるための基礎的な知識と論理的思考力を身につけることが目標になります。

2　科目の概要　財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。
財政学 I では特に、(1) 経済活動における政府の役割の理解、(2) 日本の財政制度や財政問題の把握、(3) 政府支出や租税の理論の習得、の３点が中心になります。指定テキストの第１章から第５章までが習得範囲ということになります。

3　成績評価基準　単位修得試験の結果が成績になります。(1) 基本用語を把握すること、(2) 論理的な流れを理解すること、(3) 各章末問題を解くこと、(4) 参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5) 自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

4　テキスト名および詳細　テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：
テキスト：指定市販本　林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース財政学　第 4 版』新世社、2019 年、2,695 円 (本体： 2,450 円＋税)（第 3 版の利用も可としますが、データ等については参考書やネット上の資料を参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）
※【スタディガイド（学習指導書)】あり
参考書：
・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。
・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。
ホームページ上の情報（それぞれ以下の URL より最新版を参照のこと）
・日本の財政関係資料： https://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/panfindex.html
・財政投融資リポート： https://www.mof.go.jp/filp/publication/filp_report/index.html
テキストは 10 章からなります。財政学 I では、その第 1 章から第 5 章までの内容を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習については以下の形で進めて下さい：
(1) ノートを用意してください。
(2) テキストを開く前に、自分がいま「政府の経済活動」についてどのような知識を持っているか、ノートの第一頁に書いて下さい。単語だけ（消費税とか年金など）でもいいし、自分なりの意見でもかまいません。
(3) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞や TV のニュースにも敏感になってください。
(4) 理論的な部分についてはミクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
(5) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
(6) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
(7) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。教科書やネット情報の丸写しでなく、自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives　This course provides students with understanding current status of Japanese national finances, obtaining basic knowledge and thinking logically the role of government in the economy.

ECN300TG

財政学Ⅱ

教科担当責任者：**廣川　みどり**

担当者：**島澤 諭、廣川 みどり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　財政学Ⅰの知識を前提としたうえで、税制の問題、社会保障問題、マクロ経済政策、地方財政問題等の、政府が実施している様々な政策を経済学を用いて検証していくことで、現実の経済を見る目を養います。

2　科目の概要　財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。
財政学 II では特に、(1) 日本の税制と税制改革、(2) 社会保障の財政問題、(3) マクロ経済政策、(4) 地方財政の 4 点が中心になります。指定テキストの第 6 章から第 10 章までが習得範囲ということになります。

3　成績評価基準　単位修得試験の結果が成績になります。(1) 基本用語を把握すること、(2) 論理的な流れを理解すること、(3) 各章末問題を解くこと、(4) 参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5) 自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

4　テキスト名および詳細　テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：
テキスト：指定市販本　林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース財政学　第 4 版』新世社、2019 年、2,695 円 (本体： 2,450 円＋税)（第 3 版の利用も可としますが、データ等については参考書やネット上の資料を参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）
※【スタディガイド（学習指導書)】あり
参考書：
・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。
・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。
ホームページ上の情報（それぞれ以下の URL より最新版を参照のこと）
・日本の財政関係資料： https://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/panfindex.html
・財政投融資リポート： https://www.mof.go.jp/filp/publication/filp_report/index.html
テキストは 10 章からなります。財政学Ⅱでは、その第 6 章から第 10 章までの内容を範囲とします。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。学習については以下の形で進めて下さい：
(1) 財政学Ⅰの知識を前提としています。復習を行ってから取り組んで下さい。
(2) ノートを用意してください。
(3) 財政学 II で何を学んだかを考えて、それをノートの第一頁に書いて下さい。
(4) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞や TV のニュースにも敏感になってください。
(5) 理論的な部分についてはミクロ経済学やマクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
(6) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
(7) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。教科書やネット情報の丸写しでなく、自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives　Based on the knowledge of public finance I, this course provides students with understanding the roles of various policies, such as taxation, social security, macroeconomic policy, local government finance.

ECN300TG

経済政策論Ⅰ

教科担当責任者：**小黒　一正**

担当者：**小黒 一正、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアンの理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論Ⅰ」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房、麻生良文著、2009 年、¥ 3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色彩を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
マンキュー『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社（入門用）
マンキュー『マクロ経済学　I・II』東洋経済新報社（中級）
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ
スティグリッツ『スティグリッツ　マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives　The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.
This will also help you to predict the effects of economic policy at a much deeper level.

ECN300TG

経済政策論Ⅱ

教科担当責任者：**濱秋　純哉**

担当者：**濱秋 純哉、持元 江津子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2　科目の概要　経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論 II」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

3　成績評価基準　成績評価は 100 %「単位修得試験」による。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林　正義・小川　光・別所俊一郎、2010 年、¥ 2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010 年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。
なお、以下の書籍も有益である。
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）
麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）
井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）
井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives　① Understanding the role of government and the role of the market mechanism. ② Understanding the public goods provision and how to solve externalities. ③ Understanding the burden of taxation and public bonds as well as the effect of fiscal policy.

ECN300TG

日本経済論Ⅰ

教科担当責任者：**長原　豊**

担当者：**長原 豊**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　日本経済の「史的展開」とその「理論」的な理解（日本経済論Ⅱの基礎理論）

2　科目の概要　1　明治期から戦間期における日本資本主義の形成過程を跡づけることを課題とする。
2　その際、第一に支配的な資本蓄積様式における変化をつねに意識した理解を求める。また第二に、したがって、それぞれの蓄積様式に即した政策展開を具体的に理解できるような視点を確立する。
3　戦前期における蓄積様式と戦後期におけるそれとの連続性と断続性が理解できるような視点を確立する。したがって「現状分析」がつねに意識されている。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価する（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと）。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 三和良一『概説　日本経済史　近現代』東京大学出版局、第 3 版、2012 年、2,500 円＋税。
【参考文献】
三橋規宏／内田茂男／池田吉紀『新・日本経済入門』日本経済新聞出版社、1 版 3 刷、2018 年、3,000 円＋税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかり読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献もテキスト、参考文献から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives　Our class is to aim at historical as well as theoretical understanding of Japanese Economy.

ECN300TG

日本経済論Ⅱ

教科担当責任者：**長原　豊**

担当者：**長原 豊**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　戦後日本資本主義の展開を俯瞰的に把握すること。

2　科目の概要　1　敗戦後における経済システムを史的に把握すること。
2　1の過程を政治経済過程として理解する視点を獲得すること。
3　いわゆる「失われた 20 年」に到る過程の必然性を理解すること。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価する（ただし、リポート学習もしっかり行うこと）。

4　テキスト名および詳細　指定市販本 三橋規宏／内田茂男／池田吉紀『新・日本経済入門』日本経済新聞出版社、1 版 3 刷、2018 年、3,000 円＋税。
【参考文献】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』東京大学出版局、第 3 版、2012 年、2,500 円＋税。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかり読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献もテキスト、参考文献から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives　Our class is to aim at grasping the development of the postwar Japanese Economy.

LAW300TG

憲法

教科担当責任者：**建石　真公子**

担当者：**建石 真公子、土屋 仁美**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特色を理解する
日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する
日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する

2　科目の概要　この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約 190 カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　・指定市販本『現代日本の憲法［第 2 版］』、法律文化社、元山　健・建石真公子編、2016 年、￥2,800+税
※初版（2009 年）も使用可
【参考文献】
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第 7 版』有斐閣、2019 年
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第 7 版』有斐閣、2019 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解する、というのが基本である。

まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。
憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives　Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution.
Understand the definition of human rights protected by the Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection.
Understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution

LAW300TG

民法一部（総則・物権法）

教科担当責任者：**大澤　彩**

担当者：**大久保 慎太郎、大澤 彩**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　契約、物、家族といった私達の生活の基本的なルールを定めている民法のうち、民法全体に共通するルールからなる「民法総則」部分、および、物についての規範である「物権」部分を中心に、基本的な内容を理解することを目標とする。

2　科目の概要　民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられている。経済活動のあり方を考える上では、法律による取引活動の規律がいかなるものであるかを学ぶ必要があるが、その際に民法を学ぶことは非常に重要である。本科目では民法のうち、民法全体に共通する規範である「民法総則」および物権に関する規範である「物権法」を学習する。具体的には、民法総則では、通則、権利の主体・客体、法律行為、時効制度などについて、物権では、所有権等の各種物権や担保物権などについての理解を深める。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容を考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　『リーガルベイシス民法入門』第 3 版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2019 年、￥ 4,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。民法を勉強する上で、とりわけ民法全体に共通するルールである民法総則の知識は不可欠であるが、民法総則の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（総則・物権）』『民法判例百選』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。また、判例の原文も読むこと（最高裁判所ＨＰや本学図書館ＨＰに掲載されている法律情報データベースでアクセスできる）。
　なお、総則の一部は改正がなされた。審議経過や改正法等につき、法務省の HP で確認すること。また、改正法に関する主な書籍として以下のものがある（いずれも改訂される可能性があることから、新学期時点での最新版を参照すること）。
潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017 年、￥ 3,200 ＋税
山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017 年、￥ 1,200 ＋税
大村敦志・道垣内弘人編『解説　民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017 年、￥ 3,200 ＋税
潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正』弘文堂、2017 年、￥ 3,300 ＋税
潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018 年、￥ 6,500 ＋税

Outline and objectives　We learn Civil law, especially this general rule et the rule of the property.

LAW300TG

民法二部（債権法）

教科担当責任者：**大澤　彩**

担当者：**明石 真昭、大澤 彩**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分について、基本的な内容を理解することを目標とする。

2　科目の概要　民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられているが、本科目では民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分を学習する。具体的には、債権の目的、効力、譲渡、消滅、さらには多数当事者の債権・債務について定める債権総論部分についてはもちろん、債権の発生原因として重要な契約、事務管理、不当利得、不法行為について学ぶ。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『スタートライン債権法』（第 7 版）日本評論社、池田真朗著、2020 年、￥ 2,400+税
なお、上記指定市販本が新学期開始前に改訂された場合には、新学期開始時点での最新版を購入し、学習に用いること。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。しかし、民法の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（債権各論）』『民法判例集（債権総論・担保物権）』、『民法判例百選（債権）』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。判例は原文にあたること。最高裁判所の HP や本学図書館 HP から閲覧できる法律情報データベースからアクセスできる。

また、債権総論部分の条文には、債務不履行、相殺、債権譲渡など、直ちにはイメージがわかず、とっつきにくいものが多いので、まずは日常生活に身近であり、債権の発生原因として重要な契約、不法行為を最初に勉強することをおすすめする。

さらに、債権法については改正がなされた。審議経過や改正法など、法務省の HP を見て確認すること。また、改正に関する主な書籍には以下のものがある（いずれも今後改訂される可能性があることから、新学期開始時点での最新版を参考にすること）。

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017 年、￥ 3,200 ＋税
山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017 年、￥ 1,200 ＋税
大村敦志・道垣内弘人編『解説　民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017 年、￥ 3,200 ＋税
潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正』弘文堂、2017 年、￥ 3,300 ＋税
潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018 年、￥6,500 ＋税

Outline and objectives　We learn the rule of the obligation and the contract in Civil law.

LAW300TG

商法総則・商行為法

教科担当責任者：**椽川　泰史**

担当者：**松谷 秀祐**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　企業組織・企業取引に関してわが国ではどのようなルール・仕組みが用意されているかについて基本的な知識を修得しており、それらルール・仕組みの概要を説明することができる。

2　科目の概要　本科目は、商法（明治 32 年法律 48 号）のうち、第 1 編総則（第 1 条から第 31 条）、第 2 編商行為（第 501 条から第 617 条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成 17 年法律第 86 号）第 1 編総則（第 1 条から第 24 条）のうち、商法第 1 編と同様の規定が置かれている部分についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記 3 編における重要な規定、および関連する重要判例について出題を行います。

3　成績評価基準　リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019 年、￥1900+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　本科目の学習に際しては、以下の５点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

⑴　概念や法技術の「つながり」を意識しながら学習を進める。

商法は他の法分野と比較して、なじみが浅く興味が持ちにくいと考えられがちです。確かに、商法の中には、特有な意味を有する特殊な概念や法技術が多く用いられています。しかし、それらの概念や法技術は、当然、一定の目的を達成するために、商法の中に用いられているのです。そこで、テキストを通読する際には、商法上の概念や法技術はそれぞれどのような目的や狙いを持っているのか、それぞれの概念や法技術は相互にどのような関連性を有しているのかという点に留意しながら読み進めていってください。そうすれば学習を進めていくにつれて、理解も深まり、商法の学習に興味が持てるようになるでしょう。

⑵　テキストを自分だけの本に加工する。

ただ、漫然とテキストを読んでいるだけでは、情報が右から入って左から出ていくだけです。そこで、テキストを通読する際には、必ずペンなど筆記用具を持ちながら、読み進めていってください。

その際、たとえば、条文の内容など、重要そうな概念を説明した箇所には赤のアンダーラインを引く、条文の文言が曖昧なために、判例・学説上争いがある箇所（このような箇所を「論点」とも言います。）には青のアンダーラインを引く、一読して意味がよくわからなかった箇所には「？」マークを余白に鉛筆で書く、というように、テキストを自分だけの本に加工していってください。最初は「？」マークだらけ、あるいは１ページ読み進めるのに１日かかることもあるでしょうが（私も法律の勉強を始めたころにはそうでした。）、着実に一歩一歩、歩みを進めていってください。

⑶　常に傍らに六法、法律学小事典などを置いてテキストを通読する。

テキストを読み進める際に、条文が出てきたら六法で該当条文を調べる、また、意味がわからない用語が出てきたら、『法律学小辞典』（有斐閣）などの法律学辞典を調べるというくせをつけるようにして下さい。ごくまれに、テキストに書いてある文章を丸写しして、該当条文も調べていない、自身で意味がよくわかっていない用語も調べていないリポートに出会いますが、そのような「手抜き」リポートは見た瞬間にわかります。一語一語、調べながら読み進めることは一見すると遠回りのようですが、実は、リポート合格、単位修得試験合格への一番の近道であるのです。

⑷　当事者の関係図などをメモにとりながらテキストを読み進める。

テキストを読んでいると、多数の当事者が出てくる事例にも遭遇します。たとえば、次のような事例があります。「X は A 会社に対する貸金債権の担保のため A 会社からアンゴラ毛糸を譲渡担保にとっていた。A 会社の倒産後、X はこれを換価処分しようとしたが、X は金融業者であり、自ら買主を探すことはできなかったので、A 会社の代表に毛糸の売却を依頼し、B はこれを Y に売却した。B は毛糸の売買の際、X のためにすることを示さず、また、Y 会社はその毛糸が A 会社より X に譲渡担保に供されていたことを知らなかった。X が Y 会社に代金を請求したところ、Y 会社は A 会社に対する反対債権と売買代金債務を相殺したと主張した（指定市販本 111 ページ以下）。」どうでしょうか。一読して、当事者関係および事案の流れを明確に把握できたでしょうか。テキストではこのような複雑な事例が多く出てきますので、そのような事例に遭遇した際には、頭の中だけで悩むのではなく、実際に当事者関係の図（例：X→A 会社代表 B→Y）や、時系列の図（例：譲渡担保 → 倒産 → 代理行為）を付箋やノートに書きながら読みすすめていってください。

⑸　商法総則・商行為法はそれ自体で完結した科目ではないことに注意する。

シラバス冒頭で商法総則・商行為法は企業の組織及および取引に関する科目であると説明しましたが、企業の組織および取引に関する規定の全てが商法・会社法に定められているわけではありません。

そのため、テキストを読み進める際、また、リポート作成の際、あるいは単位修得試験の対策の際には、他分野、特に、私人間の関係について広く一般的に規定した民法に関する知識が必要不可欠になります。

通学部あるいは通信教育部を問わず、受講生から、商法総則・商行為法の内容が難しい、理解できないという質問をよく受けるのですが、実はその悩みの主たる原因は、基本となる民法の知識及び思考方法が身についていないことである場合が多いと感じています。ですから、遠回りのように感じるかもしれませんが、まずは民法各科目のテキストあるいは、たとえば、野村豊弘『民事法入門〔第 8 版〕』（有斐閣、2019 年）などを通読し、民法の規定についてひととおり学習（復習）した上で、本科目の学習を始めると理解度が全く異なったものになるでしょう。

Outline and objectives　１．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生
２．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TG

会社法

教科担当責任者：**柴田　和史**

担当者：**笹久保 徹**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。
①　株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。
②　上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2　科目の概要　株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005 年（平成 17 年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899 年（明治 32 年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法〇〇条ではなく、商法〇〇条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行なわなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るところの金銭を「配当」という。わが国には、約 250 万社の株式会社が存在し、その中の約 4000 社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律ということができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

3　成績評価基準　最終評価は単位修得試験で評価する。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『会社法詳解〔第 3 版〕』柴田和史、商事法務、2021 年（予定）
※第 2 版（2015 年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史著『会社法詳解』（商事法務））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法 (日経文庫)』（日本経済新聞出版社）を見てほしい。

①　会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶに際しては、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。
②　会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。
③　会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で 979 条もあり、そのうえ、各条文が長いため、六法のページ数を比較すれば、民法典の約 2.5 倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。
④　会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することよりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト (柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021 年）以外にも以下の図書が参考となる。
1. 柴田和史著『ビジュアル　図でわかる会社法〔第 2 版〕(日経文庫)』（日本経済新聞出版社、2021 年）、￥1,000（税抜）
2. 柴田和史著『類型別　中小企業のための会社法〔第 2 版〕』（三省堂、2015 年）、￥2,800（税抜）
3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第 4 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥2,900（税抜）
4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第 2 版〕』（有斐閣、2015 年）、￥3,800（税抜）
5. 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』(別冊ジュリスト 229 号)（有斐閣、2016 年）、￥2,400（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives　The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TG

手形法・小切手法

教科担当責任者：**椽川　泰史**

担当者：**金尾 悠香、清水 真人**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきている道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2　科目の概要　手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。
　手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験により評価します。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第５版（有斐閣Ｓシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林竧・福瀧博之著、2018 年、￥ 2,300+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
　民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives　１．条文の解釈や判例の読み方といった法技術的な知識を身につけた学生
２．基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学の体系的・専門的な知識を身につけた学生

LAW300TG

労働法

教科担当責任者：**沼田　雅之**

担当者：**沼田 雅之、藤木 貴史、山本 圭子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　**（労働法総論・労働契約法）**労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。
（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。
（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2　科目の概要　労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。
　なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることがのぞましい。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020 年、￥2,300 ＋税
※上記が入手できない場合の代替テキスト（2 冊使用します）
①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第 4 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦・高野　敏春著、エイデル研究所、2018 年、￥2,381 ＋税
②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集団的労働関係法・社会保障法』（第 2 版）金子　征史・藤本　茂・大場　敏彦編、エイデル研究所、2016 年、￥2,300 ＋税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　労働法は憲法 25 条の生存権保障理念の実現を労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27 条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28 条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法 27 条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法 28 条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。

そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、「特定の労働者に向けたルール」として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、リポートを作成してほしい。

Outline and objectives "General Labor Law and Labor Contracts Law"
The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.
"Labor Standards Law"
The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.
"Labor Union Act"
The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

ECN300TG

社会思想史

教科担当責任者：**伊海　孝充**

担当者：**伊藤 直樹**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　古代から 20 世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2　科目の概要　社会思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかに生きている。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17 世紀において、また 19 世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会思想「史」であるとは、社会についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

3　成績評価基準　・リポート評価
ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。
次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。
また、学ぶ内容は、過去の思想である。したがって、けっして自分の思い込みでリポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。
・筆記試験
リポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうかが、評価の基準となる。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『社会思想史』第２版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、2010 年
まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。
上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったリポートを書くべきかが、見えてくるはずであ

る。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、リポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたリポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわない、ただ難しいだけのものになってしまっている。これでは、学びとは言えない。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

ECN300TG

経済地理

教科担当責任者：**伊藤　達也**

担当者：**伊藤 達也、南 春英**
単位数：**4 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2　科目の概要　経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

3　成績評価基準　成績評価は設題に対するリポートと単位修得試験による。

リポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

4　テキスト名および詳細　指定市販本　伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年、￥3,500+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準に書いた通り。リポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのリポートは引用によって成り立つものであるので、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかり理解した上で臨むこと。

Outline and objectives Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

教職入門

教科担当責任者：**寺崎　里水**

担当者：**遠藤 野ゆり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　教職を将来の選択肢の一つとしてつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

2　科目の概要　本科目では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
・『改訂版教職概論』高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水、協同出版、2017 年、￥ 1,800+税
参考書・参考資料等
・『中学校学習指導要領』最新版、『高等学校学習指導要領』最新版、『生徒指導提要』最新版
※いずれも PDF でダウンロード可能

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：教職の意義：教職のスタートライン（序章）
第２回：教師像の構築―教師という職業世界への接近と大学・教職課程（第 1 章）
第３回：職業としての教師へのハードル―教員免許・養成制度、教員採用（第 1 章第 1～2 節）
第４回：職業としての教師としての成長―研修・免許更新、服務義務（第 1 章第 3～4 節）
第５回：教育指導の本質と意義―教育の専門家としての教師（第 3 章）
第６回：教職の歴史的特質―教職観の変遷と今日の教員の役割（第 4 章）
第７回：教職に関する実務①―学校という組織の運営、公務分掌（第 5 章第 1～2 節）
第８回：教職に関する実務②―教師としてのキャリア（第 5 章第 3 節）
第９回：教育の方法①―学習指導要領の位置づけ（第 5 章第 1～3 節）
第１０回：教育の方法②―能動的な学習への参加、授業のユニバーサルデザイン（第 5 章第 4～5 節）
第１１回：教師の職務実態①―学級経営、多様化する子供たち（第 6 章第 1 節）
第１２回：教師の職務実態②―生徒指導・進路指導（第 6 章第 2～4 節）
第１３回：教職の課題①―子供の貧困、学力格差、力のある学校（第 7 章第 1～2 節）
第１４回：教職の課題②―「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会（第 7 章第 3～4 節）
第１５回：教職の方向性―変わる子供の学び・学び続ける教師（終章）
単位修得試験

Outline and objectives　In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future
issues and so on.

教育原理

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**遠藤 野ゆり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　「子ども、教育、学校とは、どんな存在か」を、歴史と思想の二つのレベルから原理的に考える。目標としては、子ども論、発達論、学校論の基礎知識の習得した上で、自らの子ども時代、成長発達の軌跡、学校体験を省察しながら、日本の子ども、教育、学校のこれからのあり方や課題を考える活用力を養う。

2　科目の概要　まず導入として、教育原理や教職課程における学びのスタイルについて考える。その後、子ども、学校や公教育の歴史を、欧米と日本を素材に概説する。特に、今日の教育や学校の起点となる、近代学校が進化するプロセスに注目する。と同時に、子どもー大人の近代的二分法を検討する。最後に、学校を構成する諸要素（教科指導や生活指導など）を紹介し、他の教職科目への学びの入口にする。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

リポートは、次の二つの基準から評価する。まず、設問にたいして、どれだけ試行錯誤もしながら、的確に事実や論理を駆使して回答しているか。次に、自らの子どもや学校の体験を省察しながら、設題を自らのコトとして受け止めて考え論述しているかである。

4　テキスト名および詳細　指定市販本『教育を原理する』筒井美紀、遠藤野ゆり、法政大学出版局、2013 年、￥2,400+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　テキストを通読するだけでなく、設題に掲げられた参考書を１冊でもよいから読んでほしい。アマゾンなどの書籍販売サイトで検索すれば、さらに最新の書誌情報も得られる。また、インターネットからは、最新の生の情報やデータが入手できるし、子どもや学校などを紹介し論評した新聞記事も手に入るので、これらも積極的に活用してほしい。

なお、ウイキペディアなどの辞典的な記事も入手できるが、これはあくまでも参考に過ぎず、必ず自らの手と頭を使って、テーマ（主題）を咀嚼し、思索を深める学習をしてほしい。文章として形だけ整った論述よりも、どれだけ思索において試行錯誤や省察をしたのか、このことが教師や社会人の資質として問われている。

教育の制度・経営

教科担当責任者：**高野　良一**

担当者：**新井 秀明**
単位数：**2 単位**

※ 2020 年 4 月よりテキスト（指定市販本）変更

1　学習の到達目標　日本の学校教育に関する制度的及び経営的な現状と課題を理解したうえで、各自がテーマを設定して能動的な学習の成果をリポートに結実させる。講義の主題は「法律運用や教育活動の展開（経営）の実態を知り、制度に埋め込まれている公共善とは何か、その実現のためにどうすればよいのか」を考えることである。これには学校と地域との連携、学校安全・危機管理の現状と課題を考えることも含まれる。

2　科目の概要　授業は、二つの部分から構成される。その一つは、公教育の原理・理念を理解したうえで、学校づくりを枠付け、規制し支援する組織環境である学校制度体系、教育行財政の法制度を学ぶことである。もう一つが、今日的焦点となっている制度と経営の課題を学ぶことである。就学前教育や後期中等教育・高等教育、それに生涯学習という領域別に制度と課題を学ぶことである。また、学校安全や地域との連携という課題にも焦点を当てることになる。受講に際しては、指定テキストの各章を読んで基礎知識を得た上で、各章の巻末にある「考えてみよう」というコラムを参考に主体的な各章の理解が求められる。その上で、受講者が興味や関心がある具体的テーマを 1 つ取り上げてリポートして提出することになる。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
・『新・教育の制度と経営 (三訂版)』本図愛実・末冨芳編著、学事出版、2020 年、￥2,100+税
　※新訂版（2017 年）も使用可

参考書・参考資料等
・『学習指導要領』現行学習指導要領及び新学習指導要領（平成 29 年 3 月公示、文部科学省ホームページ掲載）
・文部科学省及び各都道府県・市町村教育委員会のホームページ掲載の各種資料

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

授業計画
第１回：教育制度の原理と目的（第 1 章）
第２回：生涯にわたる学びという原理 (第 2 章)
第３回：教育制度・経営の根本法ー教育基本法（第 1 章 2，第 2 章 1）
第４回：機会均等ー学校教育制度の法原則（第 3 章）
第５回：地方教育行政（第 4 章）
第６回：教育政策の計画化（第 8 章）
第７回：就学前教育の法制度と課題（第 6 章）
第８回：後期中等教育の法制度と課題（第 7 章）
第９回：教職員の法制度（第 5 章）
第１０回：学校経営と教育行政（第 9 章 1、3）
第１１回：開かれた学校と地域連携（第 9 章 2）
第１２回：学級の経営（第 10 章）
第１３回：教育課程の経営（第 11 章）
第１４回：安全確保・防災教育・危機管理（第 9 章 3，第 10 章 3，第 11 章 3）
第１５回：まとめとレポート提出

単位修得試験

Outline and objectives The topics of this class are focused not only on Japanese law and system in educational administration and finance, but also on school organization and management,including risk management,safety measure and cooperation with local community.

教育心理学

教科担当責任者：**田澤　実**

担当者：**田澤 実**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解する。

2　科目の概要　本科目では、以下の 5 つのトピックを扱う。
1.【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第 1 回～第 5 回）
2.【多様な発達】：特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第 6 回）
3.【学習】：幼児、児童及び生徒の学習の過程や指導方法についての理解（第 7 回～第 12 回）
4.【精神的健康】：幼児、児童及び生徒の心身の健康についての知識（第 13 回）
5.【カウンセリングマインド】：幼児、児童及び生徒への心理的課題への援助（第 14 回）
6.【学級集団】：幼児、児童及び生徒の主体的な学習的課題への援助（第 15 回）

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細
テキスト
・『子どもと親と教師をそだてる教育心理学入門』古川聡・福田由紀共著、丸善出版、2006 年、￥ 2,600+税
参考書・参考資料等
・『発達心理学用語集』中島常安・請川滋大・畠山寛・畠山美穂・川田学・河原紀子（編）、同文書院、2006 年

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：こころの理解の発達と子どもをとりまく人間関係（テキスト第 1 章第 1～2 節）
第２回：道徳性の発達：ハヴィガーストの理論を軸にして乳幼児期から青年期における認知を理解する。（テキスト第 1 章第 3 節）
第３回：言葉の発達（テキスト第 1 章第 4 節）
第４回：認知の発達：ピアジェの理論を軸にして乳幼児期から青年期における認知を理解する。（テキスト第 1 章第 5 節）
第５回：記憶の発達：（テキスト第 1 章第 6 節）
第６回：障害とは何か：特別な支援が必要な子どもの特徴と対応、個性として捉えることの意味（テキスト第 2 章第 1～3 節）
第７回：さまざまな学習理論（テキスト第 3 章第 1 節）
第８回：記憶：（テキスト第 3 章第 2 節）
第９回：知能（テキスト第 3 章第 3 節）
第１０回：動機づけ：主体的学習を支える動機づけを紹介する。記憶の構造：記憶を軸にした青年期の認知を理解する。（テキスト第 3 章第 4 節）
第１１回：帰属過程：（テキスト第 3 章第 5 節）
第１２回：学習目標と評価：学習目標、教授法及び学習評価の在り方を理解する。（テキスト第 4 章第 1～3 節）
第１３回：精神的健康と不適応行動。（テキスト第 5 章第 1～8 節）
第１４回：カウンセリングマインド：（テキスト第 6 章第 1～7 節）
第１５回：集団としての学級：（テキスト第 7 章第 1～4 節）

単位修得試験

Outline and objectives This course introduces the characteristics of mental and physical development of children,basic knowledge on
learning and guidance to support learning based on development to students taking this course.

特別な教育的ニーズの理解と支援

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**遠藤 野ゆり**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子供の心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動がカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法とを理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解する。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語以外での学習や貧困の問題等に関して本件に該当する子供たちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

2　科目の概要　現在、各学校種に設置されている「特別支援教室」や「通級」は、特別支援学校教諭の免許状を持たない、教科担当の教員が、指導を担当することが珍しくない。そのため、教員としての専門性を発揮するためには、学習困難にある子供を正しく理解し、支援することが求められている。新法の適用により、この専門性を獲得するために、以下の内容を学ぶ。
通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が授業において学習活動に参加している実感を持ちながら生きる力を身に着けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験

4　テキスト名および詳細　戸田竜也（2015）『学級担任・特別支援教育コーディネーターのための「特別な教育的ニーズ」をもつ子どもの支援ガイド』明治図書出版、￥1,700+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。特別な教育的ニーズをもつ子どもの多くが通常の学校に通ってくるのであり、教師はその子どもたちを指導、支援する専門性が要求されている。その視点にたち、基本的な理念や教育における人権などの概念的な問題と、具体的な支援方法との両方とを学ぶことが期待される。

教育課程論

教科担当責任者：**松尾　知明**

担当者：**飯窪 真也**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

2　科目の概要　カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
・『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる授業デザイン』学文社、松尾知明、2018 年、￥ 2,000+税
参考書・参考資料等
・『学習指導要領』文部科学省　最新版
（※文部科学省のホームページから PDF 形式でダウンロードが可能です）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：コンテンツからコンピテンシーへ（第 1 章）
第２回：カリキュラムとは：学びの経験のデザイン（第 2 章）
第３回：カリキュラムの類型と教育内容の選択：教育の目的（第 3 章）
第４回：授業デザイン：学習理論のパラダイム変換、これからの授業デザイン（第 4 章）
第５回：教育課程の意義と位置づけ：教育の目的と目標、教育課程の編成、学習指導要領、学校レベルの教育課程の開発（第 5 章）
第６回：学習指導要領の変遷と資質・能力目標の展開：歴史的変遷、資質・能力に関わる教育課程の展開（第 6 章）
第７回：学習指導要領改訂のポイント：新学習指導要領の方向性と枠組み（第 7 章）
第８回：カリキュラム・マネジメントとは：新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント（第 8 章）
第９回：カリキュラム・マネジメントの進め方：資質・能力目標の設定、PDCA のプロセス（第 9 章）
第１０回：単元の学習活動の構想：指導計画のデザイン、単元指導計画の作成要領（第 10 章）
第１１回：教育課程と指導計画（１）：学年・学期・単元をまたぐ視点（第 9 章）
第１２回：教育課程と指導計画（２）：教科・領域の横断（第 3 章、第 9 章）
第１３回：学力形成と評価の 4 観点：学力論争、学力形成と評価の 4 観点（第 12 章）
第１４回：教育評価：測定評価観から問題解決評価観へ（第 15 章）
第１５回：カリキュラム評価： PDCA サイクルとカリキュラムの改善（第 15 章）
単位修得試験

Outline and objectives　This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

国語科教育法Ⅰ

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**都築 則幸**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　中等教育における国語科教育の目標、すなわち、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるという目標を的確に理解し、生徒たちの資質・能力の育成をめざす。国語科教育における様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになる。

2　科目の概要　テキストに沿って、国語科教師として必要な教材の研究と授業づくりの方法について習得する。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
テキスト①町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』（学文社）第三版、2019 年、￥2,200+税
※第二版（2016 年）も使用できるが、2017 年告示「中学校学習指導要領」、2018 年告示「高等学校学習指導要領」に関する学習が必須のため第三版を使用することが望ましい。
テキスト②遠藤野ゆり『教職課程における ICT 機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第 1 版、2019 年
参考書・参考資料等　文部科学省「学習指導要領」（中学・高等学校　国語科　最新版）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第 1 回：「国語科教育法」で何を学ぶか（テキスト①序章）
第 2 回：国語科の制度―学習指導要領と教科書（テキスト①第 1 章）
第 3 回：発問・指示、板書・ノート指導・ワークシート（テキスト①第 2・3 章）
第 4 回：「話すこと・聞くことの」の授業（テキスト①第 4 章）
第 5 回：「書くこと」の授業（テキスト①第 5 章）
第 6 回：「読むこと」の授業（テキスト①第 6 章）
第 7 回：韻文教材の授業（テキスト①第 7 章）
第 8 回：古典の授業（テキスト①第 8 章）
第 9 回：効果的な学習指導の進め方―主体的・対話的で深い学びを求めて（テキスト①第 9 章）
第 10 回：国語科の評価（テキスト①第 10 章）
第 11 回：指導計画・学習指導案の作成（テキスト①第 11 章）
第 12 回：模擬授業の意義とその構築（テキスト①第 12 章・テキスト②第 3 章）
第 13 回：知識・技能をいかに活用するか（テキスト①第 13 章）
第 14 回：新しい時代の国語科教育―ヴィジュアル・リテラシーと ICT 教育を考える（テキスト①第 14 章・テキスト②第 1 章）
第 15 回：国語科教育の課題と展望、効果的な教育実習のために（テキスト①第 15 章・終章）
単位修得試験

Outline and objectives　The course of Teaching Method of Japanese Language (Kokugo-ka Kyoiku-ho) is consisted of the two classes,　Teaching Method I and II.
The main objective of Teaching Method I is to understand the educational purpose of teaching Japanese Language that is how to speak and listen correctly. In this course of study, you will skill up your communicating ability, brush up your sense of using Japanese, and understand Japanese Language itself. This course is aimed to develop such capability for students. You will understand the curriculum structure and points to note, learn basic theories of instruction for Japanese Language, and finally you will master how to plan, do and check the class work.

国語科教育法Ⅱ

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**都築 則幸**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　中等教育における国語科教育の目標、すなわち、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるという目標を的確に理解し、生徒たちの資質・能力の育成をめざす。国語科教育における様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになる。

2　科目の概要　テキストに沿って、国語科教師として必要な教材の研究と授業づくりの方法について習得する。国語科教育に関する実践的な知を蓄える。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
テキスト①柴田義松・阿部昇・鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法』（学文社）五訂版、2018 年、￥ 2,100+税
※四訂版（2014 年）も使用できるが、2017 年告示「中学校学習指導要領」、2018 年告示「高等学校学習指導要領」に関する学習が必須のため五訂版を使用することが望ましい。
テキスト②遠藤野ゆり『教職課程における ICT 機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第 1 版、2019 年
参考書・参考資料等　文部科学省「学習指導要領」（中学・高等学校　国語科　最新版）

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第 1 回：国語科教育の目的（ことばを学ぶこと・教えること、国語科教育の目的）（テキスト①第 1 章第 1・2 節）
第 2 回：国語科教育の目的（戦後日本における学習指導要領の変遷と国語科教育の動向、国語学力の基礎・基本）（テキスト①第 1 章第 3・4 節）
第 3 回：国語科教育の内容と方法（音声言語、文学作品、説明的文章）（テキスト①第 2 章第 1～3 節）
第 4 回：国語科教育の内容と方法（作文、言葉の特徴や使い方・情報の扱い方）（テキスト①第 2 章第 4・5 節）
第 5 回：国語科教育の内容と方法（古典、読書指導・読み聞かせ）（テキスト①第 2 章第 6・7 節）
第 6 回：国語科の教材づくりと教材研究（教科内容と教材、教材づくりの発想）（テキスト①第 3 章第 1・2 節）
第 7 回：国語科の教材づくりと教材研究（教材研究の方法）（テキスト①第 3 章第 3 節、テキスト②第 2 章）
第 8 回：国語科の学習指導論（授業の構造と設計、授業の方法と技術）（テキスト①第 4 章第 1・2 節）
第 9 回：国語科の学習指導論（学習集団の指導、国語科教育の評価）（テキスト①第 4 章第 3・4 節）
第 10 回：国語科の学習指導論（「言語活動」の充実と国語科、「主体的・対話的で深い学び」と国語科）（テキスト①第 4 章第 5・6 節）
第 11 回：新しい国語科の授業実践（読書へのアニマシオン、メディアリテラシー育てる授業）（テキスト①第 5 章第 1・2 節）
第 12 回：新しい国語科の授業実践（ディベートの授業、スピーチの授業）（テキスト①第 5 章第 3・4 節）
第 13 回：新しい国語科の授業実践（パブリックコミュニケーションゲーム、PISA「読解力」）（テキスト①第 5 章第 5・6 節）
第 14 回：国語科教育の研究方法（国語科教師の力量形成、国語科教育の研究方法入門、国語科教育の基本文献）（テキスト①第 6 章）
第 15 回： ICT 機器の利用（テキスト②第 1 章）
単位修得試験

Outline and objectives　The objective of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, is to learn both the theories on modern language and literature for students to learn. Through this course, you will skill up to cultivate the learner's abilities of thinking, judging and expressing, and more to analyze the content of teaching and learning materials for Japanese Language. Finally you will master how to plan, do and check the class work through practicing them for yourselves.

社会・地歴科教育法

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**三堀 潔貴、丸山 理**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　授業の到達目標及びテーマ

資質・能力の育成をめざし、社会・地歴科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。中学、高校の社会科の各領域について、指導上の留意点、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計等の学習指導方法を理解するだけでなく、その背景となる専門的な学問を理解し、それをいかに教材研究・教材作りに生かすか、方法を習得する。さらには、発展的な学習内容を探求し、学習指導に位置づけられるようになる。

2　科目の概要　社会・地歴科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成などを行う。各自で模擬授業を実施する。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
テキスト①　栗原久編著『入門　社会・地歴・公民科教育法　確かな実践力を身に付ける』梓出版、2014 年、￥ 2,000+税
テキスト②　文部科学省「学習指導要領・学習指導要領解説」中学・高校社会科（最新版）
テキスト③　遠藤野ゆり『教職課程における ICT 機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第１版、2019 年
参考書・参考資料等
臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。第１回：社会科教育のいま：（テキスト①第 1 章）
第２回：中・高の教育課程と社会科（テキスト①第 2 章）
第３回：社会科の教育目標と教科の変遷（テキスト①第 3 章１～3 節）
第４回：新しい学習指導要領と社会科の授業（テキスト①第 4 章・テキスト②）
第５回：“社会科らしさ” とは何か（テキスト①第 5 章）
第６回：中学・高校生の社会理解の現状（テキスト①第 6 章）
第７回：社会科授業の方法と学習指導案の作成（テキスト①第 7 章）
第８回：中学校「地理的分野」の構成と授業展開（テキスト①第 8 章）
第９回：中学校「歴史分野」の構成と授業展開（テキスト①第 9 章）
第１０回：高等学校地歴科「世界史」の構成と授業展開（テキスト①第 11 章）
第１１回：高等学校地歴科「日本史」の構成と授業展開（テキスト①第 12 章）
第１２回：高等学校地歴科「地理」の構成と授業展開（テキスト①第 13 章）
第１３回：社会科の評価（テキスト①第 17 章）
第１４回：社会の変化と社会科の課題・模擬授業（テキスト①第 18 章、テキスト③第 3 章）
第１５回：教材研究と ICT 機器の活用（テキスト③第 1～2 章）
単位修得試験

Outline and objectives　While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of
study, Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research) Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・公民科教育法

教科担当責任者：**松尾　知明**

担当者：**八木橋 正之**
単位数：**4 単位**

※リポート（第 1 回・第 2 回）一括提出不可

1　学習の到達目標　資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

2　科目の概要　社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例、学習指導案、模擬授業などの検討を行う。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
テキスト①　『入門　社会・地歴・公民科教育法　確かな実践力を身に付ける』梓出版、栗原久編著、2014 年、￥ 2,000+税
テキスト②　文部科学省最新版「中学校・学習指導要領（社会科）」「高等学校・学習指導要領（地理歴史科・公民科）」
テキスト③　遠藤野ゆり『教職課程における ICT 機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第 1 版、2019 年
参考書・参考資料等
『中等社会科ハンドブック』学文社、二谷貞夫他、2013

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。第 1 回：社会科教育のいま（テキスト①第 1 章）
第２回：中・高の教育課程と社会科（テキスト①第 2 章）
第３回：社会科の教育目標と教科の変遷（テキスト①第 3 章 1 ～3 節）
第４回：新しい学習指導要領と社会科の授業（テキスト①第 4 章・テキスト②）
第５回：“社会科らしさ” とは何か（テキスト①第 5 章）
第６回：中学・高校生の社会理解の現状（テキスト①第 6 章）
第７回：社会科授業の方法と学習指導案の作成（テキスト①第 7 章）
第８回：中学校「公民的分野」の構成と授業展開（テキスト①第 10 章）
第９回：高等学校公民科「現代社会」の構成と授業展開（テキスト①第 14 章）
第１０回：高等学校公民科「倫理」の構成と授業展開（テキスト①第 15 章）
第１１回：高等学校公民科「政治・経済」の構成と授業展開（テキスト①第 16 章）
第１２回：社会科の評価（テキスト①第 17 章）
第１３回：社会の変化と社会科の課題（テキスト①第 18 章）
第１４回：教材研究・模擬授業（テキスト③第 1 章・第 3 章）
第１５回： ICT 機器の活用（テキスト③第 2 章）
単位修得試験

Outline and objectives　This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses case studies of teaching practices, developments lesson plans, and reviews simulated lessons with groups and individuals.

商業科教育法

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**木村 良成**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　商業教育、特に高等学校における商業科教育についての正しい認識と理解を得るとともに、当該教科の教育及び特徴についての学習指導能力の基礎を培う。

2　科目の概要　まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか。そしてそれにはどのような効用なり、役割が現代社会に期待されているのかを考えてみる。

当該教科の学習指導の前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の分野、すなわちマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報および分野共通の科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考える。そのうえで、そのような商業教育は、わが国の場合、いつ頃、どのような社会的経済的背景の体制下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

その後、平成３０（２０１８）年に告示された高等学校学習指導要領を用いて令和４（２０２２）年度入学生から施行される高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるため、ここで令和４（２０２２）年度以降の高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
①木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）第１版、2003 年
②文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』最新版
③遠藤野ゆり『教職課程における ICT 機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第１版、2019 年

参考書・参考資料等
・文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』最新版

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第１回：商業教育の意義概念と商業教育・商業の意義概念をめぐる諸問題（テキスト①第 1 章第 1・2 節）
第２回：商業教育の意義と目標（テキスト①第 1 章第 3・4 節）
第３回：商学と商業学の概念と認識（テキスト①第 1 章第 5 節）
第４回：日本の商業教育の歴史①近代商業制度の成立～昭和初期（テキスト①第 2 章第 1～3 節）
第５回：日本の商業教育の歴史②第二次世界大戦前／後の商業教育と学習指導要領（テキスト①第 2 章第 4・5 節）
第６回：学習指導要領とその改定及び教育改革（テキスト①第 2 章第 6 節・テキスト②）
第７回：商業教育と高等教育（発展的学習を含めて）（テキスト①第 2 章第 7 節）
第８回：商業教育の必要性（テキスト①第 3 章）
第９回：高等学校段階における生徒の理解力と教育方法（テキスト①第 4 章第 1 節）
第１０回：学習指導の内容と形態（テキスト①第 4 章第 2 節）
第１１回：学習指導の進め方・学習指導法・情報機器の取り扱い（テキスト①第 4 章第 3・4 節・テキスト③第 1 章）
第１２回：通常の指導計画の概要（テキスト①第 4 章第 5 節）
第１３回：学習指導計画と指導案・教育評価（テキスト①第 5 章第 1・2 節）
第１４回：教材研究・模擬授業と反省（テキスト③第 2・3 章）
第１５回：外国における商業教育・商業教育の実状と問題点及び課題と解決（テキスト①第 6 章・テキスト②）
単位修得試験

Outline and objectives　The goal of this class is to obtain correct recognition and understanding about commercial education in a high school education and to cultivate the foundation of learning and teaching ability on education of the subject. Students consider the nature of commercial education at the high school level, expected utilities and roles.
For that purpose, students are required to learn everything in relation to the concept of learning guidance, nature and target of individual subjects, contents, etc., and to think about suitable learning teaching methods. In addition, they learn with an emphasis on the transition under the educational system after the war.

道徳教育指導論

教科担当責任者：**児美川　孝一郎**

担当者：**廣瀬 仁郎**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

2　科目の概要　本科目は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育の動向をめぐっては、教科外であった「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」として教育課程上新たな枠組で位置づけられ、検定教科書を用いて授業を行うという大きな変革があった。その全面実施３年目を迎え、今なお、その問題点や課題をめぐり様々な議論が行われているところである。こうした転換期にあって、「道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳科の授業は有効なのか？」「そもそも教科書の使用や評価は必要なのか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが質の高い授業を構成していくための知識と技能の修得を目指す。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験

4　テキスト名および詳細
テキスト
①『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』小寺正一他編、世界思想社、2016 年、￥ 1,900+税
②『中学校学習指導要領（平成２９年度告示）解説　特別の教科　道徳編』平成 29 年 7 月　文部科学省　￥ 156+税
　下記の　5　学習指導、注意点等においては、テキスト②は「文科省解説道徳編」と略記して示す。
参考書・参考資料等
　文部科学省ホームページ「道徳教育アーカイブ」

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：道徳と教育：１道徳の本質／２道徳教育／３現代社会と道徳教育／４学校における道徳教育（第１章）
第２回：道徳教育の歴史（1）１戦前の道徳教育／２戦後の道徳教育の変遷（第２章）
第３回：道徳教育の歴史（2）3「改正教育基本法」のもとでの道徳教育／４道徳科（「特別の教科　道徳」）の設置（第２章）／文科省解説道徳編　第１章「総説」
第４回：道徳性の発達（1）１道徳性の意味／２「発達」の意味／３フロイトの道徳性発達理論（第３章）
第５回：道徳性の発達（2）4 ピアジェの道徳性発達理論／５コールバーグの理論／６ブルの道徳性発達理論（第３章）
第６回：道徳教育の授業理論（1）１アメリカの道徳教育（第４章）
第７回：道徳教育の授業理論（2）２日本の道徳教育（第４章）／文科省解説道徳編　第２章「道徳教育の目標」
第８回　道徳科の内容　文科省解説道徳編第３章「道徳科の内容」第１節「内容の基本的性格」第２節「内容項目の指導の観点」
第９回：学校における道徳教育の全体構想　１構想と計画／２全体構想／３全体計画（第５章）
第１０回：道徳科の指導（1）１道徳科の意義と特質／２年間指導計画／３学習指導案（第６章）/文科省解説道徳編第４章第１節「指導計画作成上の配慮事項」第２節「道徳科の指導」
第１１回：道徳科の指導（2）4 教科書／５学習指導の方法（第６章）/文科省解説道徳編第４章第３節「指導の配慮事項」
第１２回：道徳科の指導（3）6 道徳科の教材／７道徳科の評価（第６章）/文科省解説道徳編第４章第４節「道徳科の教材に求められる内容の観点」、第５章「道徳科の評価」
第１３回：道徳科学習指導案の作成と授業研究（演習）〈文科省ホームページ「道徳教育アーカイブ」から「文部科学省作成教材　中学校　私たちの道徳」掲載教材「言葉の向こうに」で学習指導案（略案）を構想し、同アーカイブから授業映像「中２　言葉の向こうに」を視聴し、授業改善の視点について検証する。指導案の形式、構想は同アーカイブの「指導事例（指導案）」を参考とする。　※他の教材でも可〉
第１４回　道徳的実践の指導（1）１道徳的行為の条件（第７章）2 道徳的実践の構造（第７章）
第１５回：道徳的実践の指導（3）3 体罰について（第７章）4 奉仕（ボランティア）の精神について（第７章）
単位修得試験

Outline and objectives　This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

総合的な学習の時間の指導法

教科担当責任者：**遠藤　野ゆり**

担当者：**窪 和広**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の。指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

2　科目の概要　総合的な宅習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。総合的な学習の時間は教科横断型としてすべての教員が指導する可能性があり、教職の専門性として不可欠なスキルを学ぶ。

3　成績評価基準　リポートと単位習得試験

4　テキスト名および詳細　原 清治 (監修), 春日井敏之 (監修), 篠原正典 (監修, 編集), 森田真樹 (監修, 編集)2018『総合的な学習の時間 (新しい教職教育講座 教職教育編)』ミネルヴァ書房、￥2,000+税
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 総合的な探究の時間編』

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。総合的な学習／探求の時間について、取得する免許種に応じて学んでほしい。特に高等学校に関しては、第一指定テキストでは事例がないため、インターネットや他の図書等などで当該の授業情報を積極的に探す等してほしい。

教育方法論

教科担当責任者：**松尾　知明**

担当者：**中園 有希**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

2　科目の概要　教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細
テキスト
　『放送大学叢書 11　教育の方法』佐藤学、左右社、2010 年、￥ 1,524+税
参考書・参考資料等
　中学校・高等学校「学習指導要領」最新版　全編

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：授業と学びの世界へ：児童生徒の学びと学習理論（テキスト：第 1 章）
第２回：変貌する教室：学びのイノベーションの時代（テキスト：第 2 章）
第３回：授業の様式：教育方法の基礎的理論（テキスト：第 3 章）
第４回：授業の歴史①：欧米の授業史（テキスト：第 4 章）
第５回：授業の歴史②：日本の授業史（テキスト：第 5 章）
第６回：学びの創造：学習活動の構想（テキスト：第 6 章）
第７回：協同的な学び：主体的・対話的・深い学び（テキスト：第 7 章）
第８回：教室のジレンマ：個に応じた指導の工夫（テキスト：第 8 章）
第９回：授業のデザイン：主体的・対話的・深い学び（テキスト：第 9 章）
第１０回：授業の計画：学力と評価の４つの観点、情報機器及び教材の活用（テキスト：第 10 章）
第１１回：授業の研究①：授業評価と分析の方法（テキスト：第 11 章）
第１２回：教育の研究②：教室における対話とディスコース（テキスト：第 12 章）
第１３回：カリキュラムと単元の構成：単元設定の理由、単元の目標（テキスト：第 13 章）
第１４回：専門家としての教師：実践的反省家として授業をデザインする教師力（テキスト：
第 14 章）
第１５回：改革の展望：これからの教育のあり方　次期学習指導要領と資質・能力の育成（テキスト：第 15 章）
単位修得試験

Outline and objectives　This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually designs them.

教育相談

教科担当責任者：**田澤　実**

担当者：**池田 華子**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

2　科目の概要　心理学の観点からみた教育の基礎理論を学んだうえで、教育相談に関し以下の 3 つの内容を中心に
学ぶ。
①教育相談の意義及び理論
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
②教育相談の方法
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
③教育相談の展開
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細
【テキスト】
『要説　発達・学習・教育臨床の心理学』内田照彦・増田公男、北大路書房、2000 年、￥ 2,500+税
【参考書・参考資料等】
渡部昌平 (編さん)・柴田健 (著)・田澤 実 (著) 2018 『実践「教育相談」―個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」』川島書店
竹尾和子・井藤元（編）2019『ワークで学ぶ学校カウンセリング』ナカニシヤ出版

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：教育における心理学：心理学はどのように教育において必要なのか（テキスト：序章）
第２回：発達の基本的な概念：発達の概念、発達過程（テキスト：第 1～2 章）
第３回：学習における発達：知能と記憶の発達、パーソナリティの発達、社会性の発達（テキスト：第 3～6 章）
第４回：教育相談の意義と役割：教育相談の意義、役割、教師のカウンセリングマインド（テキスト：第 12 章第 1 節）
第５回：教育相談の組織と方法：教育相談における公務分掌と組織・役割に応じた教育相談の目標と進め方、外部との連携（テキスト第 12 章第 2 節）
第６回：教育相談のための診断と処遇：子どもの不適応行動の心理学的診断、処遇、教師のカウンセリングマインド（受容、傾聴、共感的理解）（テキスト第 12 章第 3 節）
第７回：スクールカウンセラーの必要性、教育臨床の意味、臨床と相談の関係、スクールカウンセラーの専門性（テキスト：第 13 章第 1 節）
第８回：スクールカウンセラーの活動内容：心理・教育アセスメント、児童・生徒への援助、教師、保護者への援助、学校組織への援助（テキスト：第 13 章第 2 節）
第９回：教育臨床の実際：発達段階とスクールカウンセラーの関わり合い、グループを通した不登校への援助（テキスト：第 13 章第 3 節）
第１０回：適応の仕組み：適応の意義、不適応行動の心理的誘引、フラストレーションとコンフリクト、適応規制、適応と心の健康（テキスト：第 14 章第 1 節）
第１１回：適応障害のタイプ：身体的問題、情緒的問題、集団生活への不適応問題、精神障害の問題（テキスト：第 14 章第 2 節）
第１２回：適応障害発現の要因とその対応：適応障害発現の要因、予防的対応、指導・治療的対応（テキスト：第 14 章第 3 節）
第１３回：心身障害と教育：心身障害と教育、身体的な障害、知的・情緒的な障害と言語障害（テキスト：第 15 章）
第１４回：子どもの理解と方法①：いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する相談の進め方（テキスト：別章）
第１５回：子どもの理解と方法②：教育相談の計画作成や校内外の体制整備、地域の医療、福祉及び心理等の専門機関との連携（テキスト：別章）
単位修得試験

Outline and objectives　This course introduces the basic knowledge on educational counseling and development and psychological characteristics of children to students taking this course.

生徒・進路指導論

教科担当責任者：**児美川　孝一郎**

担当者：**岩本 俊一**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的事項を含む）の理論と方法を理解する。

2　科目の概要　生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方，方針や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方，方針や方法を理解できるようにする。

3　成績評価基準　リポートおよび単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
・吉田辰雄『最新　生徒指導・進路指導論　ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』2009 年、図書文化社、￥ 2,000+税
上記テキストが入手できない場合は、以下の本を代替テキストとする。
・横山明子『生徒指導・進路指導・キャリア教育論』2019 年、図書文化社、￥ 2,000+税
参考書・参考資料等
・文部科学省 2010『生徒指導提要』

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
第１回：生徒指導・進路指導の歴史と発展①：ガイダンス・カウンセリングの意義と必要性（テキスト：第 1 章Ⅰ）
第２回：生徒指導・進路指導の歴史と発展②：生徒指導・進路の歴史と発展（テキスト：第 1 章Ⅱ・Ⅲ）
第３回：生徒指導・進路指導の歴史と発展③：最近の学校における生徒指導と進路指導・キャリア教育（テキスト：第 1 章Ⅳ）
第４回：ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論①：人格・発達理論・環境論及びグループガイダンス理論（テキスト：第 2 章Ⅰ・Ⅱ）
第５回：ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論②：カウンセリング理論（テキスト：第 2 章Ⅲ）
第６回：生徒指導・進路指導の理念と性格：生きる力と生徒指導・進路指導の役割（テキスト：第 3 章Ⅰ・Ⅱ）
第７回：児童生徒理解の方法・技術①：児童生徒理解の意義と個人資料の収集・活用（テキスト：第 3 章Ⅲ）
第８回：児童生徒理解の方法・技術②：児童生徒理解における心理検査の活用（テキスト：第 3 章Ⅲ）
第９回：生徒指導・進路指導の組織と運営：生徒指導・進路指導の校内組織と教師の役割（テキスト第 5 章Ⅰ・Ⅱ）
第 10 回：教育相談・進路相談の方法・技術：教育相談の意義と必要性、学校教育相談・学校進路相談の特徴（テキスト第 6 章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
第 11 回：学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践①：中学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践（テキスト：第 7 章Ⅱ）
第 12 回：学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践②：高等学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践（テキスト：第 7 章Ⅲ）
第 13 回：生徒指導・キャリア教育における諸問題：フリーター、ニートとは、ピアカウンセリングとは、職業観・勤労観とは、進路適性とは、危機介入とは、学級崩壊とは、体験学習（職場体験）とは、生徒の懲戒とは（テキスト:コラム）
第 14 回：児童生徒の問題行動：問題行動の理解、少年非行の時代的推移と最近の特徴、不登校・高校中退
第 15 回：生徒指導・進路指導のアセスメント：生徒指導/進路指導の組織・計画・運営のアセスメント（テキスト第 9 章Ⅰ・Ⅱ）単位修得試験

Outline and objectives　This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別活動論

教科担当責任者：**児美川　孝一郎**

担当者：**吉田 昌弘**
単位数：**2 単位**

1　学習の到達目標　特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

2　科目の概要　特別活動の意義、目標及び内容を理解する。学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容、教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、ホームルーム活動の特質、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。また、教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解し、合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

3　成績評価基準　リポートと単位修得試験

4　テキスト名および詳細

テキスト
・『教師教育テキストシリーズ　特別活動』折出健二編、学文社、2008 年、￥1,800+税
・『中学校高等学校学習指導要領』文部科学省　最新版
参考書・参考資料等
　なし

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第１回：特別活動の位置とその教育的意義（テキスト第 1 章、学習指導要領「特別活動」）
第２回：教育実践としての特別活動①：特別活動という教育実践、特別活動における指導のポイント（テキスト第 2 章第 1～2 節）
第３回：教育実践としての特別活動②：子どもの理解と特別活動の指導、つながりと自治の指導（テキスト第 2 章第 3～4 節）
第４回：特別活動における自治と文化①：子ども主体の学校（テキスト第 3 章第 1 節）
第５回：特別活動における自治と文化②：自治を育てる児童会・生徒会活動（テキスト第 3 章第 2 節）
第６回：特別活動における自治と文化③：文化をはぐくむ児童会・生徒会活動（テキスト第 3 章第 3 節）
第７回：特別活動における自治と文化④：子どもが活きる学校行事（テキスト第 3 章第 4 節）
第８回：学級・学年集団の活動と特別活動（テキスト第 4 章）
第９回：学校行事と特別活動（テキスト第 5 章）
第１０回：子どもの学校参加と特別活動（テキスト第 6 章）
第１１回：特別活動における「体験活動」の意義（テキスト：第 7 章）
第１２回：特別活動にふさわしい教育評価（テキスト第 8 章）
第１３回：特別活動と教師の共同性（テキスト第 9 章）
第１４回：実践編①：実践例にならう子どもの参加と自治、合意形成に向けた話し合い活動と意思決定（テキスト補章１）
第１５回：実践編②：実践例にならう生徒の自主性の育成…学校の「内」と「外」とに足をかける（テキスト補章２）
単位修得試験

Outline and objectives　This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students'families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

倫理学

教科担当責任者：**松本　剣志郎**

担当者：**相原 博**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　①倫理学の基本的な問題および歴史を理解する。②倫理学の立場から人間の行為を反省できるようになる。

2　科目の概要　倫理学とは、私たちが何をなすべきか、どのように行為すべきかを明らかにする学問です。私たち人間は、事実の世界だけでなく、規範や価値に基づく世界にも存在しています。というのは、人間の行為や社会について、私たちは「あるべき」や「あるべきでない」といった判断をしているからです。この判断の事実は、私たちがすでに多少なりとも「倫理的」であることを意味しています。そこで倫理学は、私たちの倫理的な判断を、その根拠にまで遡って明らかにするのです。また倫理学は、私たちにとって身近な学問です。というのは、「なぜ嘘をついてはいけないのか」や「善い行為とはどのようなものか」など、私たちの誰もが直面する問いにかかわるからです。もっとも、こうした問いに「真面目に」答えるためには、倫理学の基本的な知識が必要です。したがってこの科目では、私たちの倫理的な判断にかかわる重要な考え方を学んでいきます。また倫理学には長い歴史があるため、過去の哲学者や倫理学者の思想を学ぶことにもなります。

3　成績評価基準　最終成績は単位修得試験によって評価します。ただし、リポート学習もしっかり行う必要があります。

リポートは次の基準で評価します。①通教テキストの内容を正しく理解できているかどうか。②リポートの設題について自分で考えることができているかどうか。③学術リポートの条件を満たし、簡潔にわかりやすく書かれているかどうか。なお通教テキストや参考文献から引用する際は、必ず出典を明記しなければなりません。

単位修得試験は次の基準で評価します。①通教テキストの内容を正しく理解できているかどうか。通教テキストにもとづいて試験を実施するので、十分な準備をして臨む必要があります。出題範囲は公表しています。試験前に確認してください。なお通教テキストの内容を考慮せず、個人的な見解や信条を解答されても評価対象になりません。

4　テキスト名および詳細　通教テキスト『倫理学』第３版、村上恭一・鶴岡健・白根裕里枝、2018 年

通教テキストは、第一編「倫理学の基本問題」と第二編「西洋の倫理思想の歴史」、さらに第三編「生命倫理思想の歴史」から構成されています。まずは全体を精読してください。

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。　リポートを書く際は、『自立学習の手引き』などを参照してください。

まず通教テキストを精読してください。精読とは細かい箇所までよく注意して読むことです。それによって、倫理学の基本的な考え方が理解できるようになるはずです。そして基本的な考え方が理解できれば、どのような内容と構成のリポートを書くべきか、おのずと明らかになるでしょう。なお通教テキストを精読せず、個別の参考文献をもとにリポートを書かれる方がいます。しかし、基本的な考え方が身についていなければ、たんに言葉をつなぎ合わせただけのリポートになることは必然です。

Outline and objectives　In this course we learn basic ideas of western ethics and its history. Then we will be able to reflect on our actions ethically.

As humans, we exist not only in the world of facts but also in the world based on norms and values. Because we make judgments about human acts such as “You should never do that”. The fact of this judgment has already meant that we are somewhat “ethical”. So western ethics investigates grounds of our “ethical” judgments. In this sense, western ethics is the discipline to clarify what we should do and how we should act.

Western ethics is also familiar to us. Because this ethics deals with questions that everyone of us faces such as “why we should not lie ?” and “what is a good life ?”. However, in order to answer these questions “seriously”, basic knowledge of ethics is necessary. Therefore, in this course we will learn important ideas related to our ethical judgments. In addition, since western ethics has a long history, we will learn thoughts of the past philosophers.

職業指導

教科担当責任者：**小川　憲彦**

担当者：**森本 紀子**
単位数：**4 単位**

1　学習の到達目標　職業指導（進路指導）の主要な理論を学びつつ、中学校・高等学校の進路指導の現状をふまえつつ、教師として進路指導を実践していく上で必要不可欠な事項について学び、理解を深めることをねらいとする。また、自己理解、職業観の育成を図ることを目標とする。

2　科目の概要　職業指導とは、児童・生徒が社会の一員として、自己の存在を理解し、社会での職業や勤労、学校での学習や諸活動に積極的に関わる意欲・態度を持つように、指導・援助することである。本科目では、「職業指導」が求められる背景や成立基盤を理解し、学校や行政機関の職業指導の役割や指導内容を学習する。具体的には、職業指導を支える主要な理論（職業選択理論、職業発達理論など）や自己理解、職業理解の促進方法、また、進路相談の具体的な方法を学ぶことにより、生徒の職業・進路指導にどのように活用できるかを学習する。

3　成績評価基準　最終成績は、単位修得試験によって評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

4　テキスト名および詳細　指定市販本：吉田辰雄（2009 年）『最新　生徒指導・進路指導論－ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』（教育課程シリーズ）、図書文化社、￥2,000 ＋税
上記テキストが入手できない場合は、以下の本を代替テキストとする。
横山明子編著（2019 年）『生徒指導・進路指導・キャリア教育論』図書文化社、￥ 2,000+税

5　学習指導、注意点等　通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
　設題への解答にあたっては、テキストや参考文献、インターネットからそのまま写すことはせず、必ず、自分が理解したことを自分の言葉で論じてください。

Outline and objectives　This course introduces the development of vocational and career education and prospects of education in Japanese junior & senior high schools to students taking this course.
　The goals of this course are to
-be able to understand teaching skills, attitudes, and values of junior and senior high school education.
-be able to understand the role of well trained teachers.
-be able to understand the importance of guidance and counseling for junior and senior high school students.

法政大学
HOSEI University